
<第3章 調査の集計結果>

第3章 調査の集計結果

1. 人権問題について

(1)人権の尊重について

問1 今の日本は人権が尊重されている社会であると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

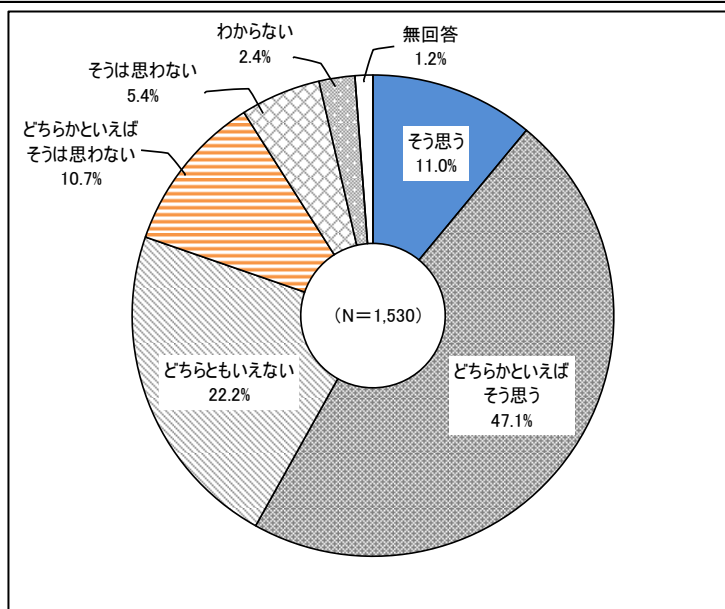
【回答者数=1,530】

1 そう思う	11.0% (11.1%)
2 どちらかといえばそう思う	47.1% (46.6%)
3 どちらともいえない	22.2% (22.3%)
4 どちらかといえばそうは思わない	10.7% (10.8%)
5 そうは思わない	5.4% (5.7%)
6 わからない	2.4% (2.4%)
(無回答)	1.2% (1.1%)

人権の尊重について、「どちらかといえばそう思う」47.1%が最も高く、次いで「どちらともいえない」22.2%、「そう思う」11.0%、「どちらかといえばそうは思わない」10.7%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらかといえばそう思う」46.6%が最も高く、次いで「どちらともいえない」22.3%、「そう思う」11.1%、「どちらかといえばそうは思わない」10.8%となっている。

図表 1-(1)-1 人権の尊重について



人権の尊重について、

性別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の割合は、『男性』64.6%、『女性』52.2%と、いずれも5割を超えている。

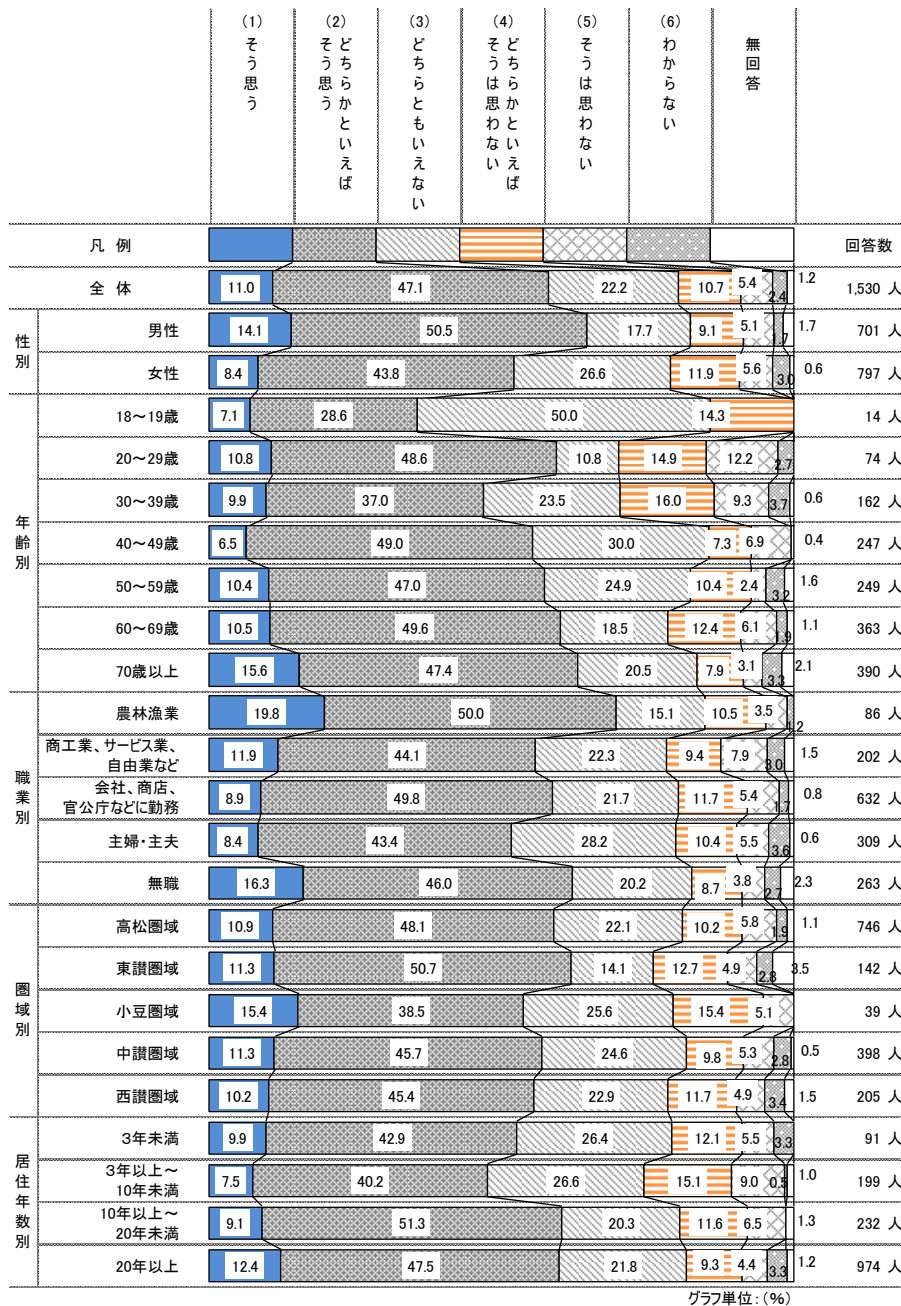
年齢別にみると、【そう思う】の割合は、『18～19歳』、『30～39歳』を除くすべての年齢で5割を超え、『70歳以上』では63.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【そう思う】の割合は、いずれも5割を超え、『農林漁業』では69.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【そう思う】の割合は、いずれも5割を超え、『東讃圏域』では62.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【そう思う】の割合は、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で5割を超え、『10年以上～20年未満』では60.4%と最も高くなっている。

図表 1-(1)-2 【人権の尊重について】



(2)人権侵害について

問2 この5～6年間に、日本で人権が侵害されるようなことが、少なくなってきたと思いますか、多くなってきたと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

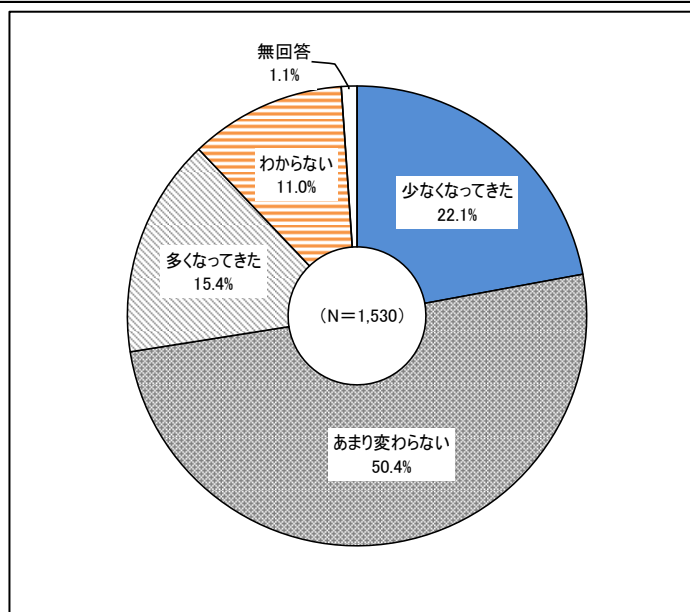
【回答者数=1,530】

1 少なくなってきた	22.1% (21.9%)
2 あまり変わらない	50.4% (50.9%)
3 多くなってきた	15.4% (15.2%)
4 わからない	11.0% (11.0%)
(無回答)	1.1% (1.0%)

人権侵害について、「あまり変わらない」50.4%が最も高く、次いで「少なくなってきた」22.1%、「多くなってきた」15.4%、「わからない」11.0%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「あまり変わらない」50.9%が最も高く、次いで「少なくなってきた」21.9%、「多くなってきた」15.2%、「わからない」11.0%となっている。

図表 1-(2)-1 人権侵害について



人権侵害について、

性別にみると、男女とも「あまり変わらない」が最も高く、『男性』、『女性』ともに同率の50.4%と、5割を超えている。

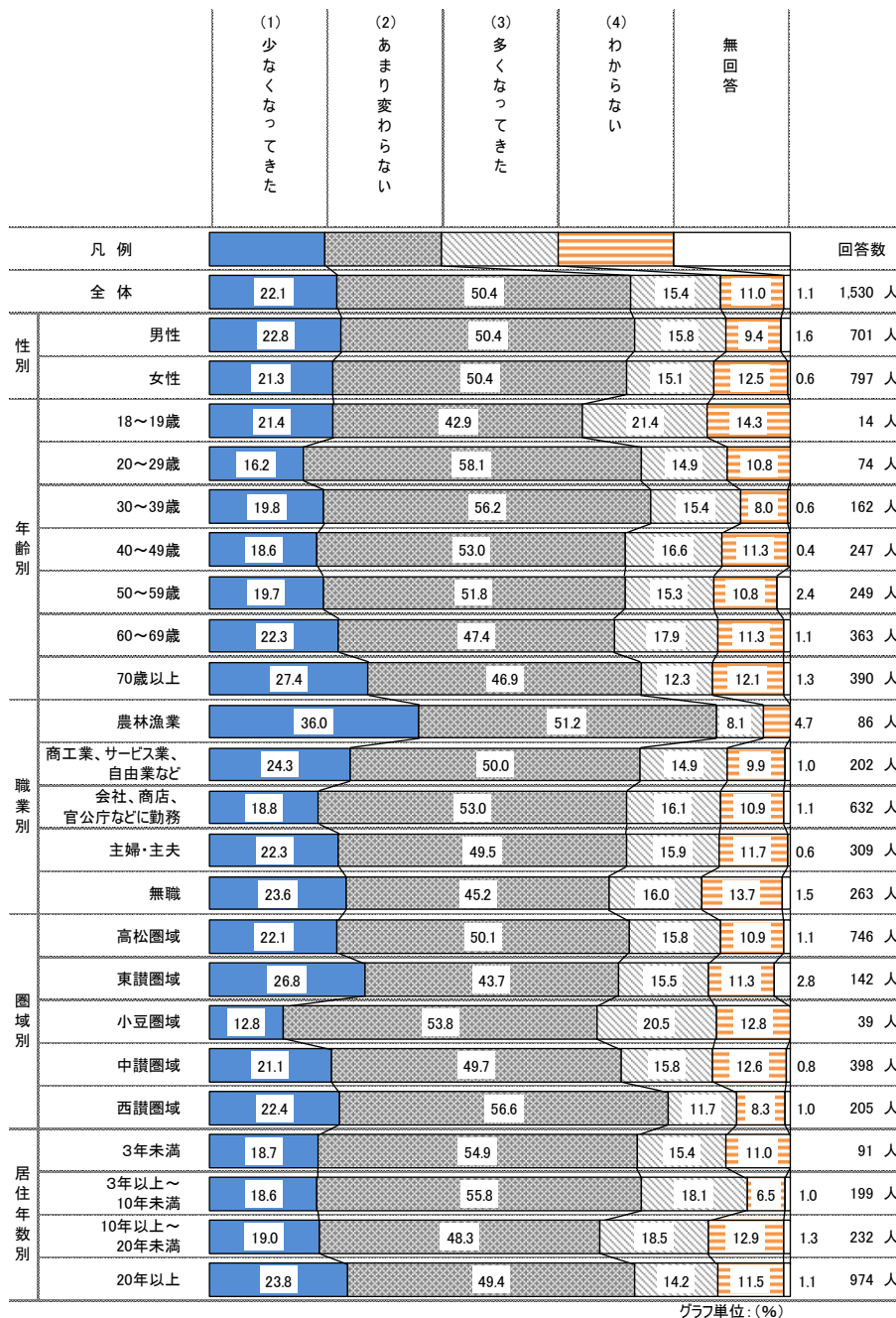
年齢別にみると、すべての年齢で「あまり変わらない」が最も高く、『70歳以上』では「少なくなってきた」27.4%が比較的高くなっている。

職業別にみると、すべての職業で「あまり変わらない」が最も高く、『農林漁業』では「少なくなってきた」36.0%が比較的高くなっている。

圏域別にみると、すべての圏域で「あまり変わらない」が最も高く、『東讃圏域』では「少なくなってきた」26.8%が比較的高くなっている。

居住年数別にみると、すべての居住年数で「あまり変わらない」が最も高く、『20年以上』では「少なくなってきた」23.8%が比較的高くなっている。

図表 1-(2)-2 【人権侵害について】



(3)人権を侵害されたと思ったことについて

問3 あなた、または、あなたの家族が、今までに人権を侵害されたと思ったことがありますか。
どちらか1つだけ選んでください。

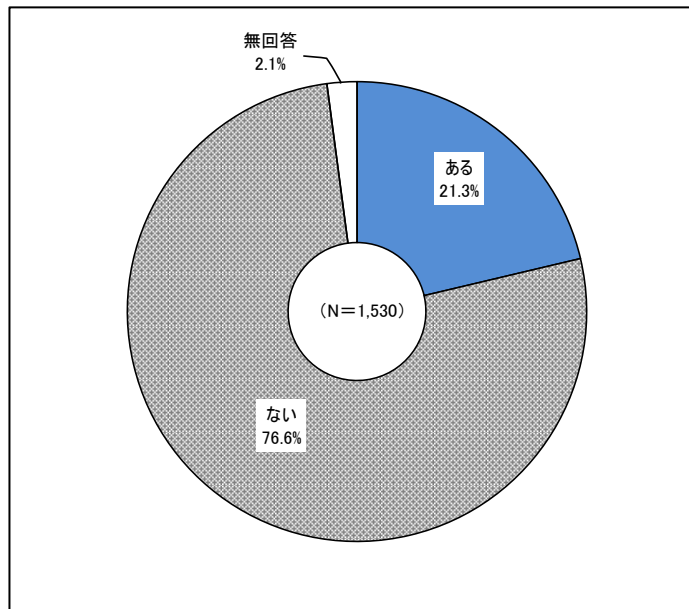
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】

1 ある	21.3% (21.3%)
2 ない	76.6% (76.7%)
(無回答)	2.1% (2.0%)

人権を侵害されたと思ったことについて、「ある」21.3%、「ない」76.6%となっている。
ウェイトバック集計した値をみると、「ある」21.3%、「ない」76.7%となっている。

図表 1-(3)-1 人権を侵害されたと思ったことについて



人権を侵害されたと思ったことについて、

性別にみると、男女とも「ない」が最も高く、『男性』78.3%、『女性』74.9%と、いずれも7割を超えている。

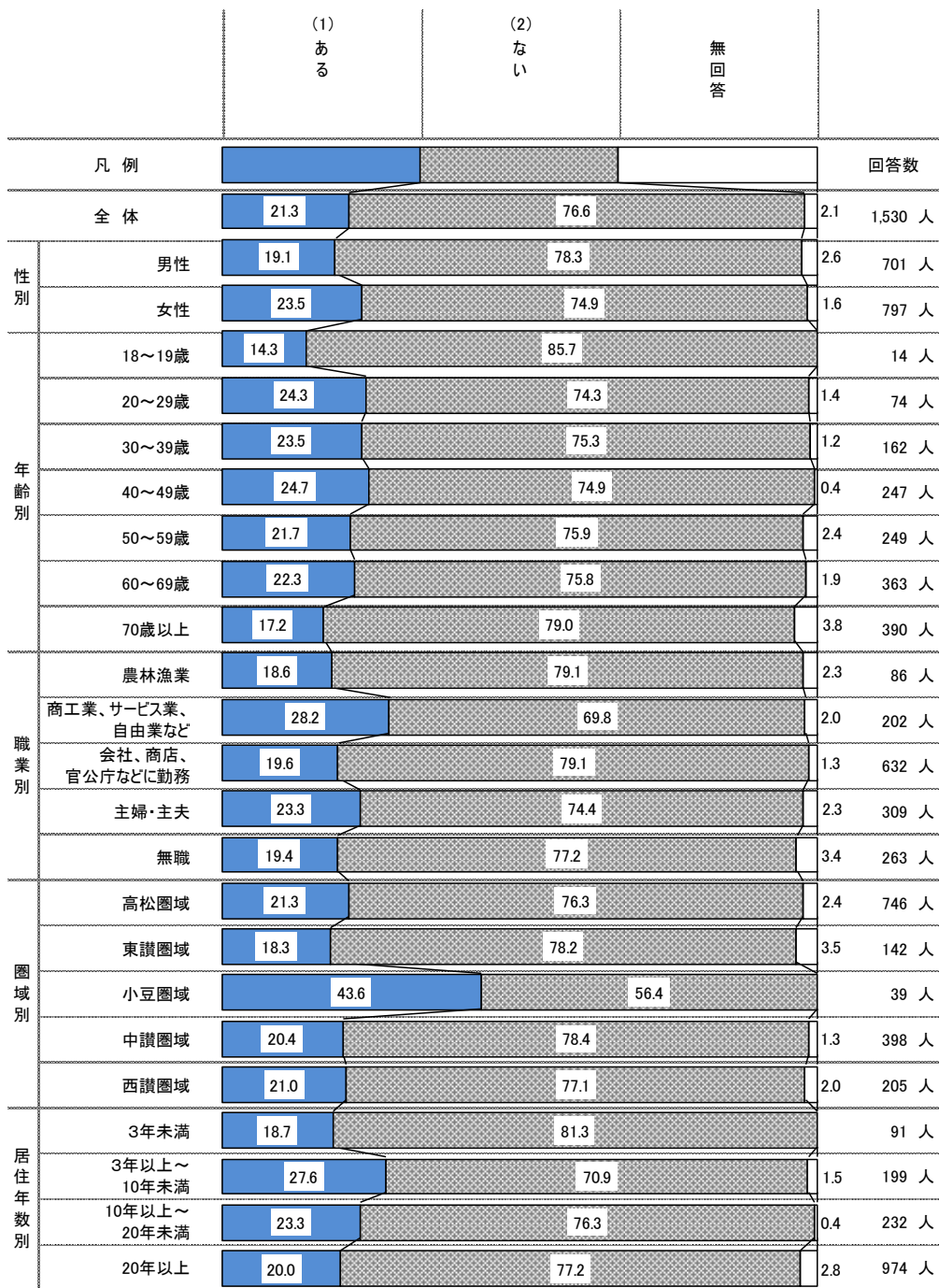
年齢別にみると、すべての年齢で「ない」が最も高く、いずれも7割を超えている。

職業別にみると、すべての職業で「ない」が最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「ある」28.2%が比較的高くなっている。

圏域別にみると、すべての圏域で「ない」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、すべての居住年数で「ない」が最も高く、いずれも7割を超えている。

図表 1-(3)-2 【人権を侵害されたと思ったことについて】



グラフ単位：(%)

(4)人権を侵害されたと思った時期について

問3 それはいつですか。直近の1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

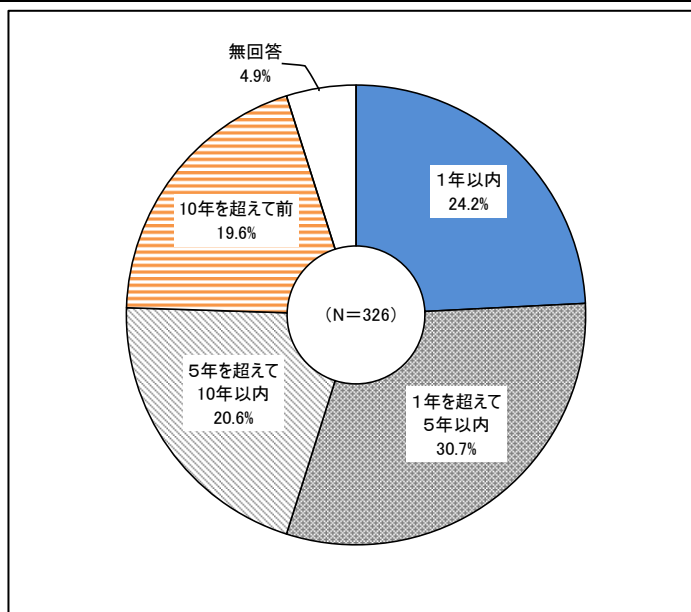
【回答者数=326】

1	1年以内	24.2% (25.7%)
2	1年を超えて5年以内	30.7% (30.8%)
3	5年を超えて10年以内	20.6% (20.9%)
4	10年を超えて前	19.6% (17.8%)
	(無回答)	4.9% (4.8%)

人権を侵害されたと思った時期について、「1年を超えて5年以内」30.7%が最も高く、次いで「1年以内」24.2%、「5年を超えて10年以内」20.6%、「10年を超えて前」19.6%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「1年を超えて5年以内」30.8%が最も高く、次いで「1年以内」25.7%、「5年を超えて10年以内」20.9%、「10年を超えて前」17.8%となっている。

図表 1-(4)-1 人権を侵害されたと思った時期について



人権を侵害されたと思った時期について、

性別にみると、男女とも「1年を超えて5年以内」が最も高く、『男性』30.6%、『女性』30.5%で、これに『男性』では「1年以内」28.4%、『女性』では「1年以内」、「10年を超えて前」が同率の21.9%で続いている。

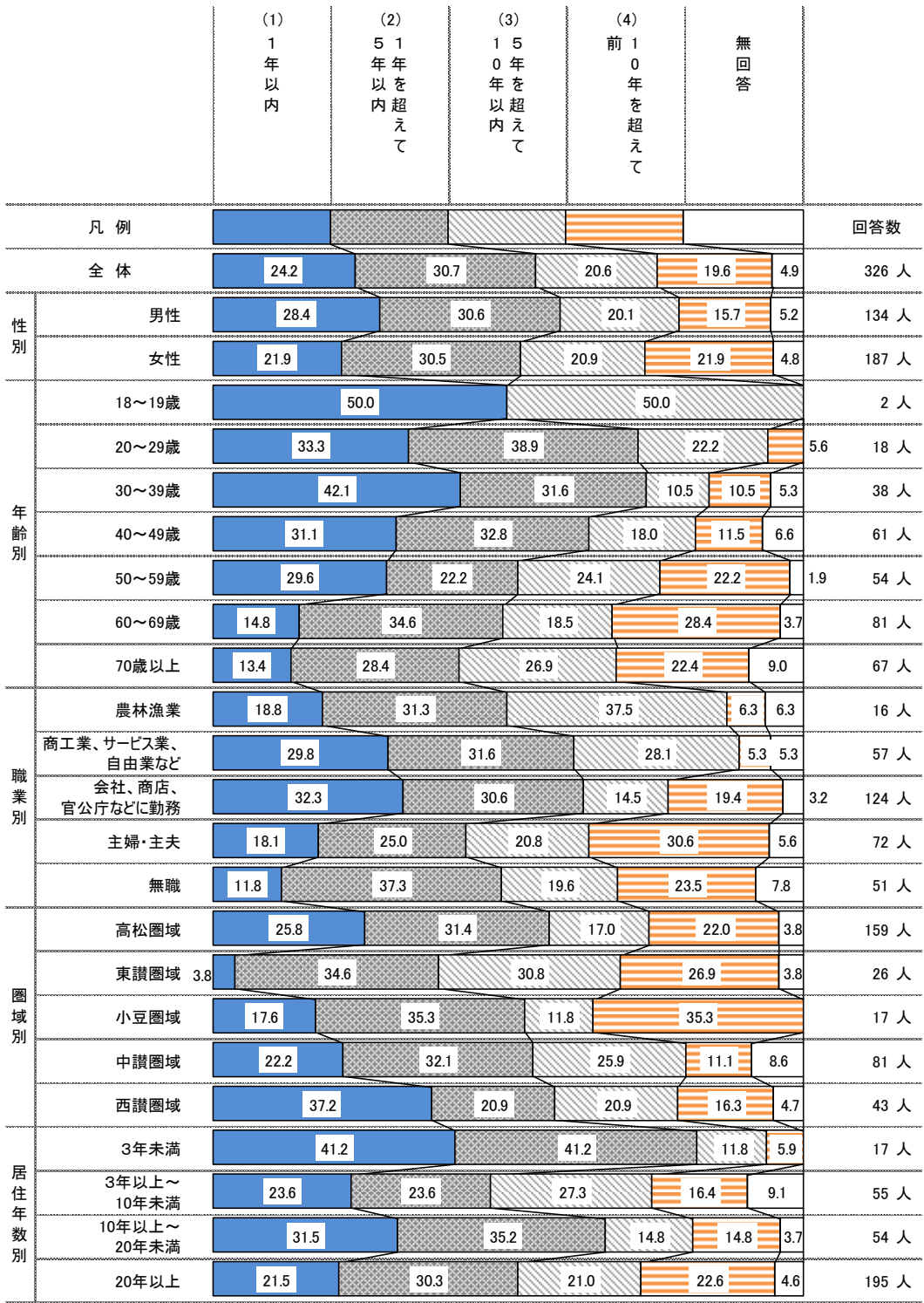
年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「1年を超えて5年以内」が最も高く、『30～39歳』、『50～59歳』では「1年以内」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「5年を超えて10年以内」37.5%が最も高く、『主婦・主夫』では「10年を超えて前」30.6%が最も高く、そのほかの職業では「1年を超えて5年以内」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「1年を超えて5年以内」、「10年を超えて前」が同率の35.3%で高く、『西讃圏域』では「1年以内」37.2%が最も高く、そのほかの圏域では「1年を超えて5年以内」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「1年以内」、「1年を超えて5年以内」が同率の41.2%で高く、『3年以上～10年未満』では「5年を超えて10年以内」27.3%が最も高く、そのほかの居住年数で「1年を超えて5年以内」が最も高くなっている。

図表 1-(4)-2 【人権を侵害されたと思った時期について】



グラフ単位：(%)

(5)人権を侵害された内容について

【問3で「1」と答えた方にお聞きします】

付問1 あなた、または、あなたの家族は、どのようなことで人権が侵害されたと思いますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=326】※回答数の多い順に並び替え

1	あらぬうわさ、悪口、かげ口	43.6% (45.0%)
2	名誉や信用を傷つけられた、侮辱された	32.5% (32.7%)
3	職場での不当な待遇	29.4% (29.4%)
4	なかまはずれ、嫌がらせ	28.5% (29.6%)
5	差別待遇（人種・信条・性別・社会的身分などにより、不平等または不利益な取り扱いをされた）	20.2% (20.3%)
6	プライバシーの侵害	17.2% (17.9%)
7	学校での不当な待遇	11.3% (12.1%)
8	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	4.6% (5.4%)
9	家庭内暴力	4.3% (4.5%)
10	ストーカー行為	3.1% (3.3%)
11	虐待	1.5% (1.6%)
12	その他	5.5% (5.0%)
	(無回答)	1.5% (1.4%)

人権を侵害された内容について、「あらぬうわさ、悪口、かげ口」43.6%が最も高く、次いで「名誉や信用を傷つけられた、侮辱された」32.5%、「職場での不当な待遇」29.4%、「なかまはずれ、嫌がらせ」28.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「あらぬうわさ、悪口、かげ口」45.0%が最も高く、次いで「名誉や信用を傷つけられた、侮辱された」32.7%、「なかまはずれ、嫌がらせ」29.6%、「職場での不当な待遇」29.4%などとなっている。

図表 1-(5)-1 人権を侵害された内容について

		回答数
全体	100.0	326 人
(1) あらぬうわさ、悪口、かげ口	43.6	142 人
(2) 名誉や信用を傷つけられた、侮辱された	32.5	106 人
(3) 職場での不当な待遇	29.4	96 人
(4) なかまはずれ、嫌がらせ	28.5	93 人
(5) 差別待遇(人種・信条・性別・社会的身分などにより、不平等または不利益な取り扱いをされた)	20.2	66 人
(6) プライバシーの侵害	17.2	56 人
(7) 学校での不当な待遇	11.3	37 人
(8) セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	4.6	15 人
(9) 家庭内暴力	4.3	14 人
(10) ストーカー行為	3.1	10 人
(11) 虐待	1.5	5 人
(12) その他	5.5	18 人
無回答	1.5	5 人

グラフ単位：(%)

人権を侵害された内容について、

性別にみると、男女とも「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が最も高く、『男性』42.5%、『女性』43.9%で、これに『男性』では「職場での不当な待遇」35.8%、『女性』では「名誉や信用を傷つけられた、侮辱された」34.8%が続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『60～69歳』を除くすべての年齢で「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が最も高く、『20～29歳』において72.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が4～5割台で最も高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「職場での不当な待遇」36.8%が最も高く、『主婦・主夫』では「名誉や信用を傷つけられた、侮辱された」41.7%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が最も高く、『西讃圏域』において62.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「あらぬうわさ、悪口、かげ口」、「職場での不当な待遇」が同率の47.1%で高く、そのほかの居住年数では「あらぬうわさ、悪口、かげ口」が最も高くなっている。

図表 1-(5)-2 【人権を侵害された内容について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)		
		あらぬうわさ、悪口、かげ口	名誉や信用を傷つけられた、侮辱	職場での不当な待遇	なかまはずれ、嫌がらせ	差別的な取り扱いをされた	差別待遇（人種・信条・性別・社会的身分などにより、不平等または不利益な取り扱いをされた）	プライバシーの侵害	学校での不当な待遇	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	家庭内暴力	ストーーカー行為	虐待	その他	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)		全体（人）													
全体		326	43.6	32.5	29.4	28.5	20.2	17.2	11.3	4.6	4.3	3.1	1.5	5.5	1.5
性別	男性	134	42.5	30.6	35.8	27.6	17.9	20.1	11.2	1.5	0.7	2.2	1.5	6.0	-
	女性	187	43.9	34.8	25.1	28.9	21.9	15.0	11.8	7.0	7.0	3.7	1.6	5.3	2.7
年齢別	18～19歳	2	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	18	72.2	38.9	44.4	38.9	16.7	38.9	27.8	16.7	5.6	5.6	-	-	-
	30～39歳	38	47.4	36.8	34.2	21.1	26.3	15.8	5.3	7.9	10.5	2.6	5.3	2.6	-
	40～49歳	61	41.0	29.5	32.8	37.7	21.3	18.0	14.8	4.9	1.6	8.2	1.6	3.3	1.6
	50～59歳	54	46.3	25.9	27.8	25.9	16.7	13.0	16.7	1.9	3.7	3.7	1.9	5.6	-
	60～69歳	81	38.3	39.5	37.0	23.5	17.3	21.0	7.4	3.7	3.7	1.2	-	7.4	2.5
	70歳以上	67	40.3	29.9	13.4	28.4	23.9	10.4	9.0	3.0	4.5	-	1.5	9.0	3.0
職業別	農林漁業	16	50.0	37.5	18.8	43.8	12.5	18.8	12.5	-	-	-	-	12.5	6.3
	商工業、サービス業、自由業など	57	35.1	31.6	36.8	21.1	24.6	12.3	17.5	7.0	-	5.3	1.8	1.8	1.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	124	45.2	32.3	33.9	25.0	21.0	16.9	9.7	2.4	4.8	4.0	1.6	4.8	0.8
	主婦・主夫	72	33.3	41.7	25.0	30.6	18.1	16.7	6.9	5.6	6.9	-	-	9.7	2.8
	無職	51	58.8	23.5	19.6	37.3	19.6	23.5	15.7	7.8	5.9	3.9	3.9	3.9	-
圏域別	高松圏域	159	37.1	31.4	32.1	27.0	25.2	15.7	9.4	3.8	4.4	3.8	1.3	3.1	1.3
	東讃圏域	26	46.2	38.5	23.1	15.4	19.2	23.1	11.5	-	-	-	3.8	7.7	3.8
	小豆圏域	17	58.8	29.4	29.4	35.3	5.9	5.9	-	5.9	5.9	-	-	5.9	-
	中讃圏域	81	42.0	34.6	29.6	29.6	18.5	18.5	19.8	6.2	7.4	3.7	2.5	11.1	2.5
	西讃圏域	43	62.8	30.2	23.3	37.2	11.6	20.9	7.0	7.0	-	2.3	-	2.3	-
居住年数別	3年未満	17	47.1	35.3	47.1	23.5	23.5	17.6	11.8	-	11.8	-	-	-	-
	3年以上～10年未満	55	40.0	38.2	38.2	34.5	20.0	14.5	18.2	7.3	9.1	7.3	7.3	1.8	-
	10年以上～20年未満	54	42.6	27.8	22.2	24.1	14.8	11.1	16.7	5.6	-	3.7	-	11.1	1.9
	20年以上	195	44.1	32.8	27.7	28.2	21.5	19.5	8.2	4.1	3.6	2.1	0.5	5.6	2.1

(6)人権侵害があった時の対応について

付問2 人権侵害があった時、どのような対応をされましたか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=326】※回答数の多い順に並び替え

1	何もせず、我慢した	51.2% (50.2%)
2	家族・親戚に相談した	32.5% (34.9%)
3	友だち・同僚・職場の上司に相談した	27.0% (28.0%)
4	相手に抗議するなど自分で処理（解決）した	24.2% (25.8%)
5	県庁・市役所・町役場・学校・隣保館に相談した	8.6% (8.3%)
6	警察に相談した	8.0% (8.6%)
7	弁護士に相談した	4.6% (4.7%)
8	地域の自治会長や民生委員・児童委員に相談した	2.1% (2.0%)
9	民間団体などに相談した	1.8% (1.8%)
10	法務局又は人権擁護委員に相談した	1.5% (1.6%)
11	その他	1.5% (1.5%)
	(無回答)	0.9% (0.8%)

人権侵害があった時の対応について、「何もせず、我慢した」51.2%が最も高く、次いで「家族・親戚に相談した」32.5%、「友だち・同僚・職場の上司に相談した」27.0%、「相手に抗議するなど自分で処理（解決）した」24.2%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「何もせず、我慢した」50.2%が最も高く、次いで「家族・親戚に相談した」34.9%、「友だち・同僚・職場の上司に相談した」28.0%、「相手に抗議するなど自分で処理（解決）した」25.8%などとなっている。

図表 1-(6)-1 人権侵害があった時の対応について

		回答数
全体	100.0	326 人
(1) 何もせず、我慢した	51.2	167 人
(2) 家族・親戚に相談した	32.5	106 人
(3) 友だち・同僚・職場の上司に相談した	27.0	88 人
(4) 相手に抗議するなど自分で処理(解決)した	24.2	79 人
(5) 県庁・市役所・町役場・学校・隣保館に相談した	8.6	28 人
(6) 警察に相談した	8.0	26 人
(7) 弁護士に相談した	4.6	15 人
(8) 地域の自治会長や民生委員・児童委員に相談した	2.1	7 人
(9) 民間団体などに相談した	1.8	6 人
(10) 法務局又は人権擁護委員に相談した	1.5	5 人
(11) その他	1.5	5 人
無回答	0.9	3 人

グラフ単位:(%)

人権侵害があった時の対応について、

性別にみると、男女とも「何もせず、我慢した」が最も高く、『男性』54.5%、『女性』48.7%で、これに『男性』では「家族・親戚に相談した」、「友だち・同僚・職場の上司に相談した」が同率の26.1%、『女性』では「家族・親戚に相談した」38.0%で続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』を除いたすべての年齢で「何もせず、我慢した」が最も高く、特に『60～69 歳』では63.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「何もせず、我慢した」、「相手に抗議するなど自分で処理(解決)した」、「友だち・同僚・職場の上司に相談した」が同率の43.8%で高く、そのほかの職業では「何もせず、我慢した」が4～5割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「何もせず、我慢した」が最も高く、『中讃圏域』において55.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「何もせず、我慢した」が最も高く、特に『3 年未満』では64.7%と最も高くなっている。

図表 1-(6)-2 【人権侵害があった時の対応について】

【表の見方】 単位=比率(%)	全体 (人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	無回答	
		何もせず、我慢した	家族・親戚に相談した	司友だち・同僚・職場の上 に相談した	で相手に抗議するなど自分 処理(解決)した	学校・市役所・町役場・ 隣保館に相談した	警察に相談した	弁護士に相談した	地域の自治会長や民生委 員・児童委員に相談した	民間団体などに相談した	に法務局又は人権擁護委員 に相談した	その他		
全体	326	51.2	32.5	27.0	24.2	8.6	8.0	4.6	2.1	1.8	1.5	1.5	0.9	
性別	男性	134	54.5	26.1	26.1	23.9	10.4	7.5	3.7	3.0	2.2	-	2.2	-
	女性	187	48.7	38.0	27.3	24.1	7.5	8.6	5.3	1.6	1.6	2.7	1.1	1.6
年齢別	18~19歳	2	-	100.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-
	20~29歳	18	61.1	55.6	44.4	50.0	-	5.6	5.6	-	-	-	-	-
	30~39歳	38	47.4	42.1	26.3	21.1	5.3	5.3	5.3	-	-	2.6	2.6	2.6
	40~49歳	61	50.8	39.3	31.1	26.2	11.5	6.6	3.3	-	1.6	1.6	-	-
	50~59歳	54	50.0	24.1	27.8	16.7	13.0	7.4	3.7	1.9	1.9	-	5.6	-
	60~69歳	81	63.0	29.6	27.2	21.0	3.7	3.7	3.7	2.5	1.2	-	-	2.5
	70歳以上	67	38.8	25.4	16.4	26.9	13.4	16.4	7.5	6.0	4.5	4.5	1.5	-
職業別	農林漁業	16	43.8	25.0	43.8	43.8	6.3	18.8	6.3	18.8	-	6.3	-	-
	商工業、サービス業、 自由業など	57	47.4	43.9	31.6	24.6	12.3	5.3	7.0	3.5	1.8	-	1.8	-
	会社、商店、官公庁 などに勤務	124	56.5	30.6	28.2	21.0	7.3	4.8	3.2	-	0.8	1.6	1.6	0.8
	主婦・主夫	72	44.4	33.3	20.8	23.6	11.1	8.3	6.9	-	1.4	1.4	-	2.8
無職	51	52.9	29.4	21.6	25.5	5.9	15.7	2.0	3.9	5.9	2.0	3.9	-	
圏域別	高松圏域	159	54.1	28.3	23.3	23.9	5.7	9.4	5.0	3.1	1.3	1.3	0.6	-
	東讃圏域	26	42.3	30.8	30.8	23.1	7.7	3.8	3.8	3.8	-	3.8	-	3.8
	小豆圏域	17	29.4	47.1	47.1	23.5	23.5	11.8	-	-	-	5.9	5.9	-
	中讃圏域	81	55.6	37.0	28.4	21.0	9.9	6.2	6.2	1.2	3.7	1.2	2.5	2.5
	西讃圏域	43	46.5	34.9	27.9	32.6	11.6	7.0	2.3	-	2.3	-	2.3	-
居住年数別	3年未満	17	64.7	58.8	35.3	17.6	5.9	11.8	-	-	-	-	-	-
	3年以上~10年未満	55	47.3	30.9	25.5	30.9	5.5	1.8	7.3	-	1.8	1.8	1.8	1.8
	10年以上~20年未満	54	55.6	31.5	24.1	14.8	16.7	5.6	7.4	1.9	1.9	1.9	1.9	-
	20年以上	195	49.7	31.8	27.2	25.1	7.7	10.3	3.6	3.1	2.1	1.5	1.5	1.0

(7)人権侵害を見聞きした時の対応について

問4 もし職場や地域などで、人権侵害と思われる差別的な言葉や動作を見聞きしたとき、あなたは、どのようにすると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

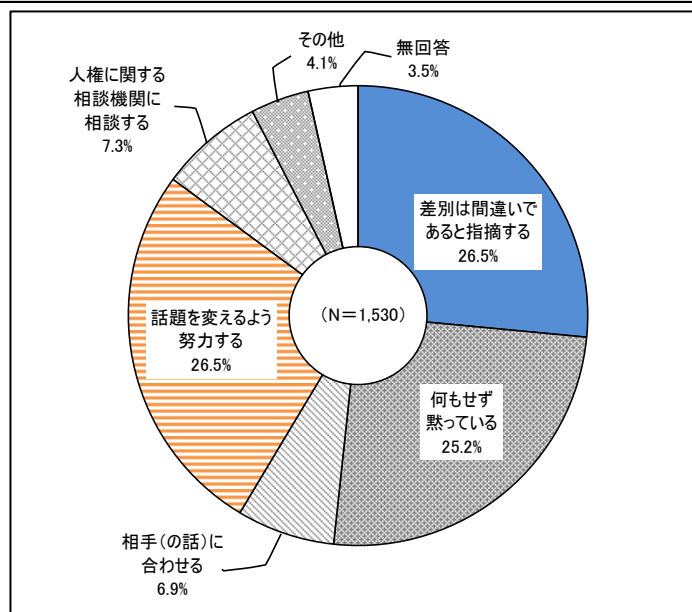
【回答者数=1,530】

1 差別は間違いであると指摘する	26.5% (26.2%)
2 何もせず黙っている	25.2% (24.6%)
3 相手(の話)に合わせる	6.9% (6.8%)
4 話題を変えるよう努力する	26.5% (28.1%)
5 人権に関する相談機関に相談する	7.3% (6.9%)
6 その他	4.1% (4.0%)
(無回答)	3.5% (3.4%)

人権侵害を見聞きした時の対応について、「差別は間違いであると指摘する」、「話題を変えるよう努力する」が同率の26.5%で最も高く、次いで「何もせず黙っている」25.2%、「人権に関する相談機関に相談する」7.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「話題を変えるよう努力する」28.1%が最も高く、次いで「差別は間違いであると指摘する」26.2%、「何もせず黙っている」24.6%などとなっている。

図表 1-(7)-1 人権侵害を見聞きした時の対応について



人権侵害を見聞きした時の対応について、

性別にみると、『男性』では「差別は間違いであると指摘する」33.5%が最も高く、『女性』では「話題を変えるよう努力する」30.5%が最も高くなっている。

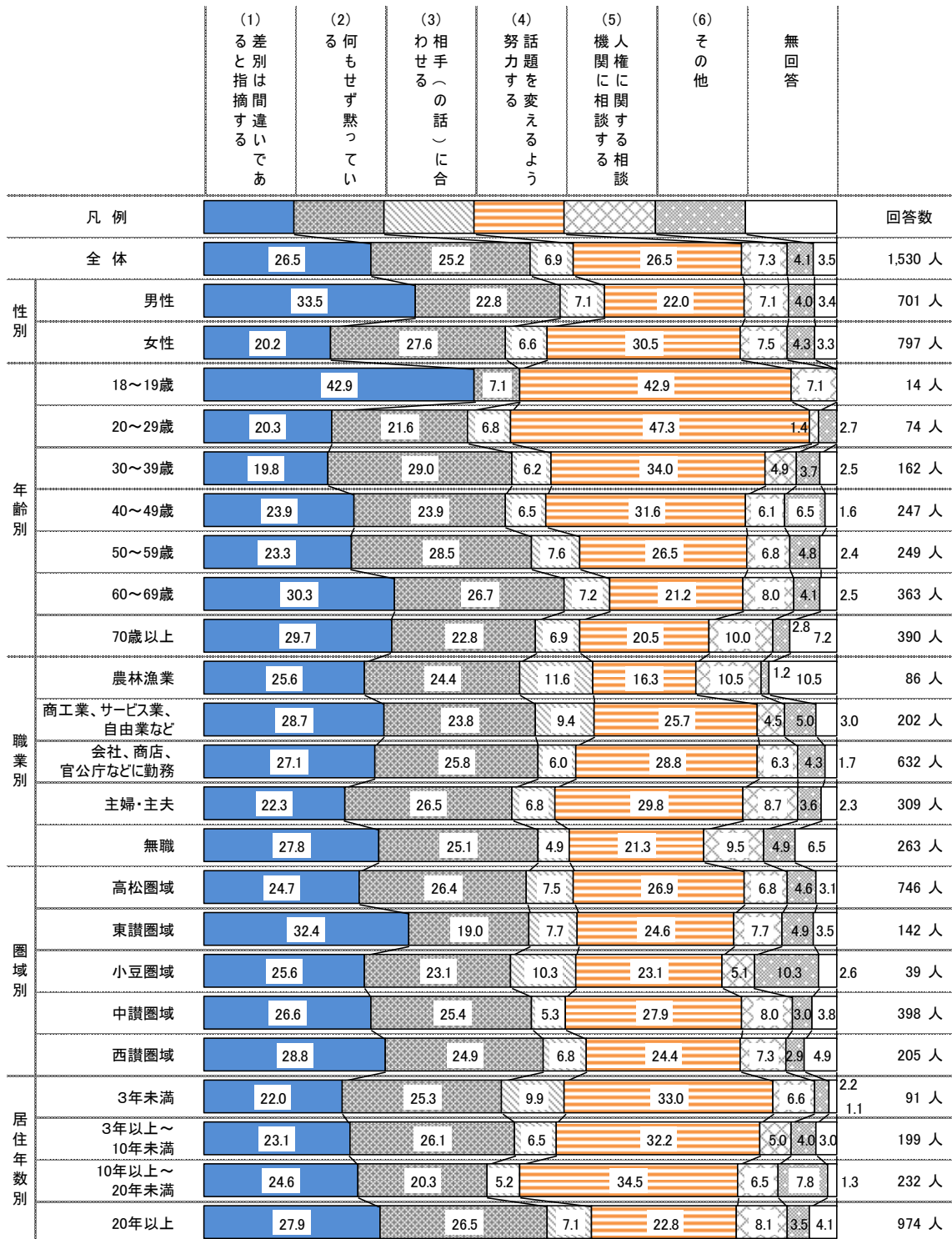
年齢別にみると、『18～19歳』では「差別は間違いであると指摘する」、「話題を変えるよう努力する」が同率の42.9%で高く、『20～49歳以下』では「話題を変えるよう努力する」が最も高く、『50～59歳』では「何もせず黙っている」が最も高く、『60歳以上』では「差別は間違いであると指摘する」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『商工業、サービス業、自由業など』、『無職』では「差別は間違いである」と指摘するが最も高く、『会社、商店、官公庁などに勤務』『主婦・主夫』では「話題を変えるよう努力する」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』では「話題を変えるよう努力する」が最も高く、そのほかの圏域では「差別は間違いである」と指摘するが最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年未満』では「話題を変えるよう努力する」が最も高く、『20年以上』では「差別は間違いである」と指摘するが最も高くなっている。

図表 1-(7)-2 【人権侵害を見聞きした時の対応について】



グラフ単位：(%)

(8)関心のある人権課題について

問5 日本における人権課題について、あなたの関心があるものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1 障害者	54.2% (54.4%)
2 インターネットによる人権侵害	43.5% (43.8%)
3 子ども	39.7% (39.5%)
4 女性	37.7% (38.8%)
5 高齢者	37.5% (36.5%)
6 東日本大震災に伴う放射線被ばくについての風評被害	30.7% (30.1%)
7 同和問題	26.0% (25.1%)
8 北朝鮮当局による拉致問題など	25.8% (24.4%)
9 犯罪被害者など	19.0% (19.2%)
10 性的少数者（同性愛、性同一性障害など）	17.2% (18.4%)
11 ハンセン病回復者、H I V感染者など	15.5% (15.4%)
12 外国人	14.8% (15.5%)
13 刑を終えて出所した人	11.7% (11.4%)
14 ホームレス	9.2% (8.9%)
15 人身取引	9.2% (9.0%)
16 アイヌの人々	4.7% (5.0%)
17 その他	1.7% (1.6%)
18 特にない	5.0% (4.9%)
(無回答)	1.2% (1.1%)

関心のある人権課題について、「障害者」54.2%が最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害」43.5%、「子ども」39.7%、「女性」37.7%、「高齢者」37.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「障害者」54.4%が最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害」43.8%、「子ども」39.5%、「女性」38.8%、「高齢者」36.5%などとなっている。

図表 1-(8)-1 関心のある人権課題について

	回答数
全体	1,530 人
(1) 障害者	830 人
(2) インターネットによる人権侵害	666 人
(3) 子ども	608 人
(4) 女性	577 人
(5) 高齢者	574 人
(6) 東日本大震災に伴う放射線被ばくについての風評被害	469 人
(7) 同和問題	398 人
(8) 北朝鮮当局による拉致問題など	395 人
(9) 犯罪被害者など	290 人
(10) 性的少数者(同性愛、性同一性障害など)	263 人
(11) ハンセン病回復者、HIV感染者など	237 人
(12) 外国人	227 人
(13) 刑を終えて出所した人	179 人
(14) ホームレス	141 人
(15) 人身取引	140 人
(16) アイヌの人々	72 人
(17) その他	26 人
(18) 特にない	76 人
無回答	18 人

グラフ単位: (%)

関心のある人権課題について、

性別にみると、男女とも「障害者」が最も高く、『男性』52.6%、『女性』55.8%で、これに『男性』では「インターネットによる人権侵害」44.8%、『女性』では「女性」45.5%で続いている。

年齢別にみると、『29歳以下』、『60歳以上』では「障害者」が最も高く、『30～39歳』では「子ども」が、『40～59歳』では「インターネットによる人権侵害」が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「障害者」が5割台と最も高く、これに『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「インターネットによる人権侵害」が、そのほかの職業では「高齢者」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』を除くすべての圏域で「障害者」が5～6割台で最も高く、『小豆圏域』では「高齢者」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「子ども」が最も高く、『3年以上～10年未満』では「インターネットによる人権侵害」が、『10年以上』では「障害者」が最も高くなっている。

図表 1-(8)-2 【関心のある人権課題について】

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)			
	全体 (人)	障害者	インターネットによる人権侵害	子ども	女性	高齢者	東日本大震災に伴う放射線被ばく	同和問題	北朝鮮当局による拉致問題	犯罪被害者など	性的少数者(同性愛、性同一性障害など)	感染者など	ハンセン病回復者、HIV	外国人	刑を終えて出所した人	ホームレス	人身取引	アイヌの人々	その他	特になし	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)																					
全体	1,530	54.2	43.5	39.7	37.7	37.5	30.7	26.0	25.8	19.0	17.2	15.5	14.8	11.7	9.2	9.2	4.7	1.7	5.0	1.2	
性別																					
男性	701	52.6	44.8	35.1	29.2	33.7	29.0	28.8	26.4	18.1	15.4	15.1	15.4	12.6	10.4	10.3	5.7	1.9	6.6	1.6	
女性	797	55.8	42.8	43.9	45.5	40.7	31.6	23.3	24.7	20.1	19.2	16.1	14.7	11.0	8.5	8.0	3.9	1.6	3.8	0.9	
年齢別																					
18～19歳	14	85.7	42.9	21.4	57.1	35.7	21.4	21.4	-	21.4	42.9	21.4	14.3	14.3	14.3	7.1	14.3	-	-	-	
20～29歳	74	55.4	52.7	40.5	50.0	27.0	27.0	18.9	12.2	25.7	32.4	14.9	27.0	8.1	5.4	6.8	8.1	1.4	2.7	-	
30～39歳	162	55.6	54.3	56.2	53.7	26.5	23.5	16.7	12.3	24.1	25.3	12.3	23.5	11.1	9.9	9.3	5.6	1.2	3.1	0.6	
40～49歳	247	47.4	53.4	42.5	42.1	28.3	30.4	24.3	15.0	19.4	23.9	17.4	18.2	7.7	9.3	10.1	4.9	2.0	6.5	0.4	
50～59歳	249	49.4	53.0	41.8	39.8	33.3	23.7	28.5	20.9	22.5	20.1	16.1	16.5	8.0	6.8	8.8	5.2	2.4	6.0	0.8	
60～69歳	363	61.4	41.3	40.8	35.3	44.6	35.5	30.9	32.5	19.0	14.0	16.8	13.2	15.2	12.7	9.1	3.9	2.2	2.5	1.1	
70歳以上	390	53.3	27.7	29.5	26.9	45.4	33.8	25.9	37.4	13.6	7.7	14.4	7.9	14.4	8.5	9.0	3.8	1.0	7.4	2.6	
職業別																					
農林漁業	86	53.5	33.7	30.2	25.6	34.9	34.9	25.6	34.9	10.5	12.8	15.1	12.8	10.5	7.0	8.1	3.5	1.2	7.0	4.7	
商工業、サービス業、自由業など	202	57.9	51.0	42.6	33.7	37.1	33.7	36.1	25.7	26.2	19.8	21.3	20.3	13.4	12.9	13.4	6.9	2.5	3.5	1.0	
会社、商店、官公庁などに勤務	632	53.0	49.4	42.2	40.7	30.1	26.1	24.8	18.5	18.5	21.2	14.9	16.6	9.5	8.7	8.5	4.0	1.7	4.4	0.5	
主婦・主夫	309	55.7	37.5	42.7	43.0	46.9	37.5	23.9	32.0	20.7	13.3	13.6	12.0	13.9	8.4	8.4	3.6	2.3	3.9	0.6	
無職	263	54.0	35.7	31.6	32.7	44.9	28.5	22.8	31.6	16.3	12.9	15.6	11.4	13.7	10.3	8.0	6.5	0.8	8.0	2.7	
圏域別																					
高松圏域	746	51.9	46.5	41.8	37.9	36.6	31.2	25.7	27.2	19.7	19.2	17.4	14.9	11.3	9.0	9.8	5.9	1.3	6.0	1.1	
東讃圏域	142	67.6	41.5	35.2	35.9	41.5	34.5	25.4	28.9	19.0	11.3	10.6	15.5	11.3	8.5	12.0	3.5	1.4	3.5	0.7	
小豆圏域	39	53.8	48.7	43.6	43.6	56.4	15.4	30.8	20.5	10.3	17.9	10.3	12.8	10.3	7.7	2.6	2.6	2.6	-	2.6	
中讃圏域	398	55.8	39.9	38.2	38.7	35.9	31.9	25.9	23.4	18.6	15.6	14.8	16.6	12.6	11.3	8.3	4.3	2.3	3.3	1.0	
西讃圏域	205	50.7	40.0	37.6	35.1	37.6	26.3	26.8	24.4	18.5	17.1	14.1	11.2	12.2	6.8	7.8	2.4	2.0	6.3	2.0	
居住年数別																					
3年未満	91	57.1	48.4	58.2	48.4	30.8	31.9	20.9	15.4	26.4	29.7	18.7	24.2	9.9	9.9	11.0	5.5	1.1	4.4	-	
3年以上～10年未満	199	53.8	54.3	51.3	42.2	33.2	29.1	23.1	19.6	22.6	20.6	14.6	19.6	7.0	7.0	7.5	5.5	1.5	4.5	-	
10年以上～20年未満	232	54.3	50.9	42.7	43.1	37.9	28.4	23.7	21.1	23.3	23.7	16.4	17.7	14.7	12.1	10.3	6.9	2.6	3.9	-	
20年以上	974	54.2	39.4	35.0	34.8	38.7	31.0	27.4	28.7	16.8	14.1	15.4	12.6	12.2	9.2	8.9	4.0	1.6	5.5	1.8	

(9)人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち知っている項目について

問6 人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち、あなたが知っている項目はありますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1	世界人権宣言	50.7% (51.6%)
2	人権週間（12月4日～10日）	40.6% (40.4%)
3	部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）	31.4% (31.6%)
4	憲法週間（5月1日～7日）	24.0% (22.8%)
5	同和問題啓発強調月間（8月）	23.3% (21.9%)
6	本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の 推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）	17.6% (17.8%)
7	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	15.3% (15.3%)
8	香川県部落差別事象の発生の防止に関する条例	10.7% (10.3%)
9	香川県人権教育・啓発に関する基本計画	10.0% (9.6%)
10	特になし	23.1% (22.9%)
	（無回答）	4.2% (4.1%)

人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち知っている項目について、「世界人権宣言」50.7%が最も高く、次いで「人権週間（12月4日～10日）」40.6%、「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」31.4%、「憲法週間（5月1日～7日）」24.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「世界人権宣言」51.6%が最も高く、次いで「人権週間（12月4日～10日）」40.4%、「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」31.6%、「特になし」22.9%などとなっている。

図表 1-(9)-1 人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち知っている項目について

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) 世界人権宣言	50.7	775 人
(2) 人権週間(12月4日～10日)	40.6	621 人
(3) 部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)	31.4	481 人
(4) 憲法週間(5月1日～7日)	24.0	367 人
(5) 同和問題啓発強調月間(8月)	23.3	356 人
(6) 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ハイトスピーチ解消法)	17.6	269 人
(7) 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	15.3	234 人
(8) 香川県部落差別事象の発生の防止に関する条例	10.7	164 人
(9) 香川県人権教育・啓発に関する基本計画	10.0	153 人
(10) 特になし	23.1	354 人
無回答	4.2	64 人

グラフ単位:(%)

人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち知っている項目について、

性別にみると、男女とも「世界人権宣言」が最も高く、『男性』53.2%、『女性』48.9%で、これに「人権週間（12月4日～10日）」が『男性』38.8%、『女性』42.8%が続いている。

年齢別にみると、いずれも「世界人権宣言」が最も高く、特に『18～19歳』85.7%、『20～29歳』64.9%で高くなっている。これに『18～19歳』、『70歳以上』では「部落差別の解消の推進に関する法律」が、そのほかの年齢では「人権週間（12月4日～10日）」が続いている。

職業別にみると、いずれも「世界人権宣言」が4～5割台と最も高く、これに『農林漁業』、『無職』では「部落差別の解消の推進に関する法律」が、そのほかの職業では「人権週間（12月4日～10日）」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「世界人権宣言」が4～5割台と最も高く、これに「人権週間（12月4日～10日）」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「世界人権宣言」が4～6割台と最も高く、これに「人権週間（12月4日～10日）」が続いている。

図表 1-(9)-2 【人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち知っている項目について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		世界人権宣言	人権週間（12月4日～10日）	（部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別の解消の推進に関する法律）	憲法週間（5月1日～7日）	同和問題啓発強調月間（8月）	本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ハイトスピーチ解消法）	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	香川県部落差別事象の発生の防止に関する条例	香川県人権教育・啓発に関する基本計画	特になし	無回答	
【表の見方】 単位＝比率(%)													
全体		1,530	50.7	40.6	31.4	24.0	23.3	17.6	15.3	10.7	10.0	23.1	4.2
性別	男性	701	53.2	38.8	33.5	27.0	23.1	21.5	16.8	10.8	10.4	23.8	3.4
	女性	797	48.9	42.8	30.1	21.6	23.7	14.1	13.8	10.4	9.5	22.6	4.4
年齢別	18～19歳	14	85.7	50.0	64.3	14.3	14.3	14.3	35.7	14.3	7.1	7.1	-
	20～29歳	74	64.9	47.3	29.7	13.5	6.8	25.7	12.2	2.7	4.1	20.3	1.4
	30～39歳	162	57.4	40.7	23.5	14.8	17.3	19.8	14.8	7.4	8.6	27.2	1.2
	40～49歳	247	58.7	43.3	27.5	19.4	20.2	19.0	17.0	8.5	7.3	20.2	2.4
	50～59歳	249	55.0	49.4	32.5	25.7	31.3	22.9	19.3	12.0	12.9	22.5	1.6
	60～69歳	363	50.7	44.4	33.3	30.0	25.9	16.5	15.2	11.3	10.2	23.1	3.9
	70歳以上	390	36.9	29.2	34.9	26.7	24.1	11.8	11.5	13.1	11.3	25.1	8.2
職業別	農林漁業	86	41.9	34.9	36.0	31.4	30.2	10.5	19.8	11.6	11.6	20.9	9.3
	商工業、サービス業、自由業など	202	48.5	37.1	24.3	20.8	17.3	19.3	12.9	6.9	7.4	26.2	2.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	58.2	46.5	32.1	21.5	25.5	20.7	17.2	10.4	10.0	21.7	1.9
	主婦・主夫	309	43.4	38.8	30.7	23.6	23.0	11.7	10.7	10.4	10.7	24.6	4.9
	無職	263	47.1	35.0	36.1	30.8	21.7	17.9	16.0	13.7	10.3	22.8	7.2
圏域別	高松圏域	746	50.5	40.3	31.2	25.2	21.7	19.2	15.1	9.0	10.2	25.1	4.2
	東讃圏域	142	55.6	40.1	33.1	25.4	19.0	16.9	19.0	10.6	9.2	22.5	3.5
	小豆圏域	39	48.7	41.0	28.2	25.6	28.2	15.4	17.9	17.9	10.3	23.1	15.4
	中讃圏域	398	52.0	40.5	33.4	22.4	27.4	16.8	15.6	12.3	10.3	19.8	2.5
	西讃圏域	205	45.4	42.0	27.8	21.5	22.9	14.1	12.2	12.7	9.3	22.9	5.9
居住年数別	3年未満	91	57.1	45.1	33.0	19.8	15.4	20.9	9.9	4.4	5.5	29.7	1.1
	3年以上～10年未満	199	60.3	41.2	26.6	17.6	19.1	22.1	16.6	9.5	10.1	21.6	2.0
	10年以上～20年未満	232	62.1	51.7	31.9	26.3	21.1	17.7	19.0	10.3	9.5	16.4	3.4
	20年以上	974	45.7	37.9	32.4	25.3	25.7	16.2	14.6	11.5	10.5	24.5	4.7

(10)「同和問題」、「部落差別」について

問7 多くの人権課題がある中で、日本の社会に「同和問題」、「部落差別」などといわれる問題があることを知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

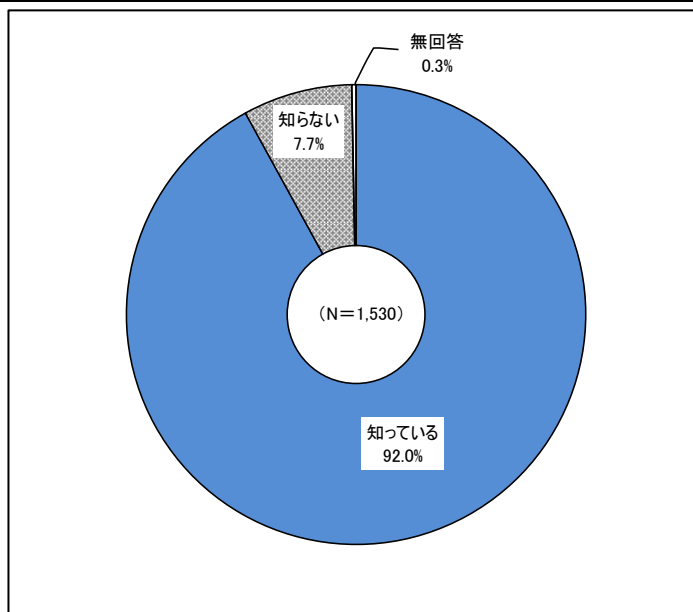
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】

1 知っている	92.0% (91.4%)
2 知らない	7.7% (8.3%)
(無回答)	0.3% (0.3%)

「同和問題」、「部落差別」について、「知っている」92.0%、「知らない」7.7%となっている。ウェイトバック集計した値をみると、「知っている」91.4%、「知らない」8.3%となっている。

図表 1-(10)-1 「同和問題」、「部落差別」について



「同和問題」、「部落差別」について、

性別にみると、男女とも「知っている」が最も高く、『男性』90.9%、『女性』92.7%となっている。

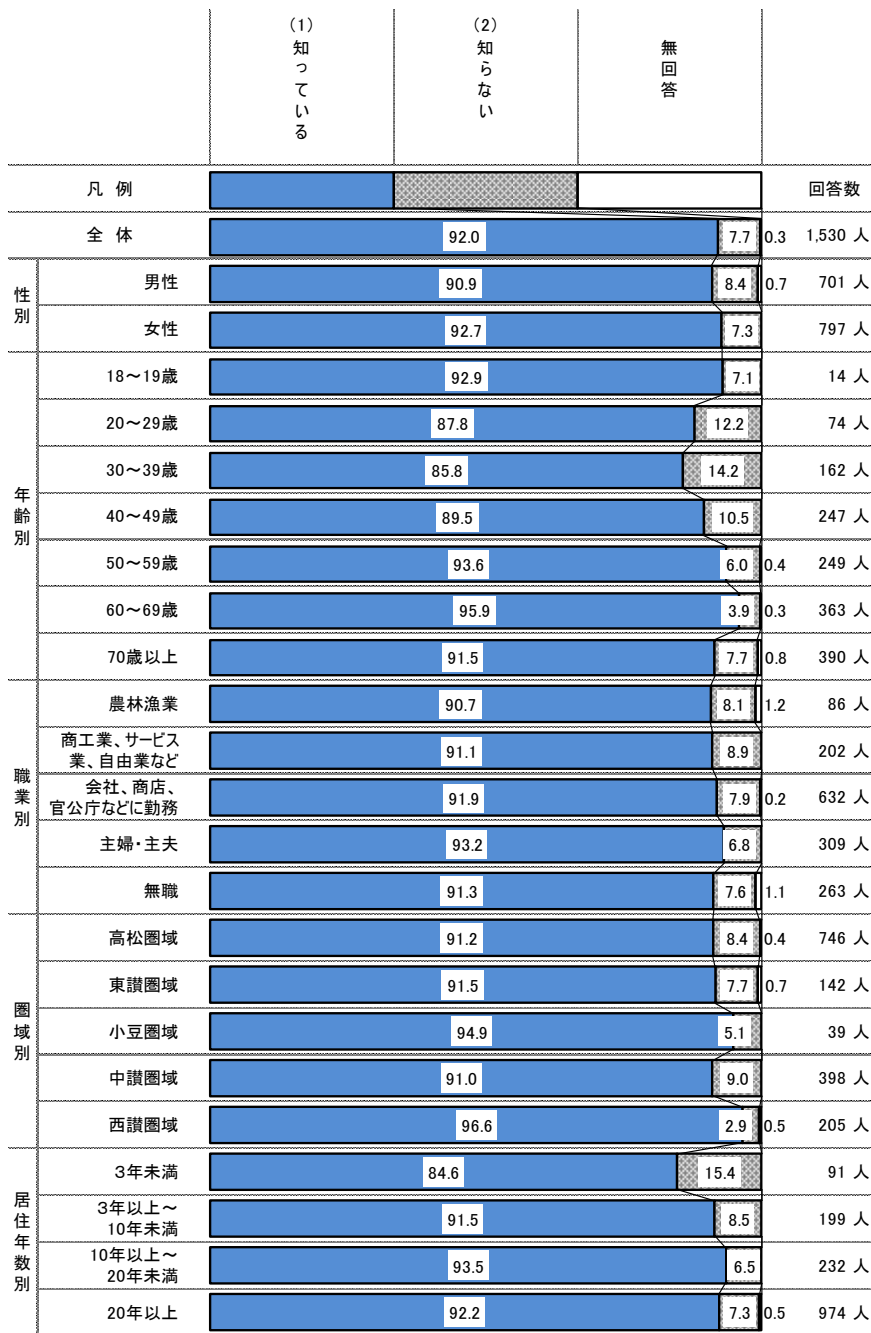
年齢別にみると、いずれも「知っている」が8～9割台と最も高く、「30～39歳」では「知らない」14.2%が比較的高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知っている」が9割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「知っている」が9割台と最も高く、特に『西讃圏域』において96.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「知っている」が8～9割台と最も高く、「3年未満」では「知らない」15.4%が比較的高くなっている。

図表 1-(10)-2 【「同和問題」、「部落差別」について】



グラフ単位：(%)

(11) 同和問題を初めて知ったきっかけについて

【問7で「1」と答えた方にお聞きします】

付問3 同和問題について、あなたが初めて知ったきっかけは何ですか。次の中から1つだけ選んでください。※回答数の多い順に並び替え

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,407】

1 家族から聞いた	38.5% (36.3%)
2 学校の授業	31.6% (35.0%)
3 近所の人から聞いた	7.0% (6.6%)
4 講演会・研修会など	6.8% (6.5%)
5 職場の人から聞いた	5.5% (5.1%)
6 テレビ、新聞、など	5.4% (5.1%)
7 インターネット	0.1% (0.1%)
8 その他	2.2% (2.1%)
9 わからない	1.6% (1.5%)
(無回答)	1.4% (1.4%)

同和問題を初めて知ったきっかけについて、「家族から聞いた」38.5%が最も高く、次いで「学校の授業」31.6%、「近所の人から聞いた」7.0%、「講演会・研修会など」6.8%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「家族から聞いた」36.3%が最も高く、次いで「学校の授業」35.0%、「近所の人から聞いた」6.6%、「講演会・研修会など」6.5%などとなっている。

図表 1-(11)-1 同和問題を初めて知ったきっかけについて

		回答数
全体	100.0	1,407 人
(1) 家族から聞いた	38.5	542 人
(2) 学校の授業	31.6	445 人
(3) 近所の人から聞いた	7.0	98 人
(4) 講演会・研修会など	6.8	95 人
(5) 職場の人から聞いた	5.5	77 人
(6) テレビ、新聞、など	5.4	76 人
(7) インターネット	0.1	1 人
(8) その他	2.2	31 人
(9) わからない	1.6	22 人
無回答	1.4	20 人

グラフ単位: (%)

同和問題を初めて知ったきっかけについて、

性別にみると、男女とも「家族から聞いた」が最も高く、『男性』35.6%、『女性』40.6%で、これに「学校の授業」が『男性』27.9%、『女性』35.5%で続いている。

年齢別にみると、『49歳以下』では「学校の授業」が6～7割台と最も高く、『50歳以上』では「家族から聞いた」が3～5割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「学校の授業」が46.5%と最も高く、そのほかの職業では「家族から聞いた」が3～5割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「家族から聞いた」が3～4割台で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年未満』では「学校の授業」が4～5割台で最も高く、『20年以上』では「家族から聞いた」が42.2%と最も高くなっている。

図表 1-(11)-2 【同和問題を初めて知ったきっかけについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		全体 (人)	家族 から 聞いた	学 校 の 授 業	近 所 の 人 か ら 聞 いた	講 演 会 ・ 研 修 会 な ど	職 場 の 人 か ら 聞 いた	テ レ ビ ジ 、 新 聞 、 な ど	イ ン タ ー ネ ッ ト	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)												
全体		1,407	38.5	31.6	7.0	6.8	5.5	5.4	0.1	2.2	1.6	1.4
性別	男性	637	35.6	27.9	8.2	8.0	6.6	7.7	-	2.4	1.6	2.0
	女性	739	40.6	35.5	5.8	5.7	4.3	3.5	0.1	1.9	1.6	0.9
年齢別	18～19歳	13	15.4	76.9	-	7.7	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	65	20.0	64.6	1.5	4.6	-	3.1	1.5	3.1	-	1.5
	30～39歳	139	26.6	65.5	2.2	2.9	0.7	0.7	-	0.7	-	0.7
	40～49歳	221	24.9	62.4	0.5	3.6	3.2	1.4	-	1.4	1.8	0.9
	50～59歳	233	39.5	37.8	3.0	4.3	5.2	5.2	-	1.7	1.7	1.7
	60～69歳	348	50.3	14.7	8.6	9.5	5.5	6.3	-	3.4	0.9	0.9
	70歳以上	357	42.9	5.6	14.8	9.5	9.8	9.8	-	2.0	3.1	2.5
職業別	農林漁業	78	50.0	11.5	11.5	3.8	9.0	5.1	-	5.1	-	3.8
	商工業、サービス業、 自由業など	184	42.4	31.0	6.0	6.5	4.9	2.2	-	2.7	1.1	3.3
	会社、商店、官公庁 などに勤務	581	31.5	46.5	3.8	5.5	4.3	4.5	-	1.4	1.4	1.2
	主婦・主夫	288	46.2	20.8	8.3	9.4	3.8	6.3	0.3	2.4	2.4	-
	無職	240	38.3	17.1	12.1	7.9	9.2	9.6	-	2.1	2.1	1.7
圏域別	高松圏域	680	38.8	31.8	5.9	7.1	4.9	5.9	-	2.2	1.8	1.8
	東讃圏域	130	47.7	26.9	8.5	4.6	6.2	2.3	-	3.1	0.8	-
	小豆圏域	37	43.2	27.0	8.1	5.4	5.4	2.7	-	5.4	-	2.7
	中讃圏域	362	34.3	32.6	7.2	6.9	7.2	7.2	-	1.7	1.9	1.1
	西讃圏域	198	38.4	33.3	9.1	7.1	4.0	3.0	0.5	2.0	1.0	1.5
居住年数別	3年未満	77	27.3	58.4	2.6	1.3	1.3	3.9	1.3	1.3	1.3	1.3
	3年以上～10年未満	182	33.0	47.3	1.6	5.5	3.3	7.7	-	1.6	-	-
	10年以上～20年未満	217	30.9	45.6	2.8	7.8	4.1	2.8	-	1.8	2.8	1.4
	20年以上	898	42.2	23.2	9.4	7.2	6.5	5.8	-	2.3	1.7	1.8

(12) 同和問題に関して見聞きしたことがある内容について

付問4 同和問題に関して、あなたは、これまで、どのような差別を見聞きしたことがありますか。
次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,407】※回答数の多い順に並び替え

1	結婚問題での周囲の反対	61.5% (59.9%)
2	差別的な言動	42.7% (42.8%)
3	身元調査を実施すること	35.0% (33.2%)
4	地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い	15.4% (15.7%)
5	就職・職場での差別・不利な扱い	14.6% (15.0%)
6	土地差別調査（土地や建物の取引に関連して、同和地区の有無などの差別的な調査をすること）の実施	12.7% (12.2%)
7	インターネットを悪用した差別的な情報の掲載	8.5% (9.7%)
8	差別的な落書き	4.8% (4.7%)
9	その他	1.3% (1.2%)
10	特になし	13.2% (13.4%)
11	わからない	3.4% (3.7%)
	(無回答)	0.9% (1.0%)

同和問題に関して見聞きしたことがある内容について、「結婚問題での周囲の反対」61.5%が最も高く、次いで「差別的な言動」42.7%、「身元調査を実施すること」35.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「結婚問題での周囲の反対」59.9%が最も高く、次いで「差別的な言動」42.8%、「身元調査を実施すること」33.2%などとなっている。

図表 1-(12)-1 同和問題に関して見聞きしたことがある内容について

		回答数
全体	100.0	1,407 人
(1) 結婚問題での周囲の反対	61.5	866 人
(2) 差別的な言動	42.7	601 人
(3) 身元調査を実施すること	35.0	492 人
(4) 地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い	15.4	217 人
(5) 就職・職場での差別・不利な扱い	14.6	205 人
(6) 土地差別調査(土地や建物の取引に関連して、同和地区の有無などの差別的な調査をすること)の実施	12.7	179 人
(7) インターネットを悪用した差別的な情報の掲載	8.5	119 人
(8) 差別的な落書き	4.8	68 人
(9) その他	1.3	18 人
(10) 特にない	13.2	186 人
(11) わからない	3.4	48 人
無回答	0.9	13 人

グラフ単位:(%)

同和問題に関して見聞きしたことがある内容について、

性別にみると、男女とも「結婚問題での周囲の反対」が最も高く、『男性』56.4%、『女性』66.4%で、これに「差別的な言動」が『男性』46.0%、『女性』40.6%で続いている。

年齢別にみると、『20～29 歳』では「差別的な言動」43.1%が最も高く、そのほかの年齢では「結婚問題での周囲の反対」が5～6割台で最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「結婚問題での周囲の反対」が5～7割台と最も高く、これに「差別的な言動」が4割台と続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「結婚問題での周囲の反対」、「差別的な言動」が同率の62.2%と最も高く、そのほかの圏域では「結婚問題での周囲の反対」が5～7割台と最も高く、これに「差別的な言動」が3～4割台と続いている。

居住年数別にみると、いずれも「結婚問題での周囲の反対」が5～6割台と最も高く、これに「差別的な言動」が4～5割台と続いている。

図表 1-(12)-2 【同和問題に関して見聞きしたことがある内容について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
		全体（人）	結婚問題での周囲の反対	差別的な言動	身元調査を実施すること	な地域い の活動や付き合いでの差別・不利	就職・職場での差別・不利な扱い	土地差別調査（土地や建物の取引に関する調査をすること）の実施	インターネットを悪用した差別的な情報掲載	差別的な落書き	その他	特にな	わから	無回答
【表の見方】 単位=比率(%)														
全体		1,407	61.5	42.7	35.0	15.4	14.6	12.7	8.5	4.8	1.3	13.2	3.4	0.9
性別	男性	637	56.4	46.0	33.1	17.9	14.1	11.0	10.4	6.4	0.9	13.2	3.8	0.8
	女性	739	66.4	40.6	36.3	13.8	15.0	13.7	6.9	3.4	1.6	13.0	3.1	1.1
年齢別	18～19歳	13	53.8	46.2	-	30.8	38.5	-	30.8	-	-	7.7	7.7	-
	20～29歳	65	38.5	43.1	26.2	12.3	18.5	4.6	24.6	6.2	-	15.4	7.7	1.5
	30～39歳	139	54.0	50.4	24.5	18.7	12.2	13.7	15.8	5.8	1.4	11.5	5.0	-
	40～49歳	221	53.4	41.6	32.1	17.6	15.8	13.1	12.7	4.5	1.8	14.5	0.5	0.5
	50～59歳	233	60.1	45.9	36.1	14.2	14.6	11.6	7.7	4.7	1.7	11.2	4.3	-
	60～69歳	348	69.0	42.5	44.5	14.1	14.7	12.9	5.7	6.6	0.9	12.1	2.3	0.9
	70歳以上	357	68.6	39.8	33.1	16.0	13.2	13.4	2.5	2.8	1.4	14.8	4.2	2.2
職業別	農林漁業	78	75.6	47.4	34.6	15.4	16.7	7.7	2.6	1.3	-	11.5	2.6	-
	商工業、サービス業、自由業など	184	60.3	44.6	30.4	20.1	13.6	13.6	7.6	2.2	2.7	12.5	3.3	0.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	581	57.1	43.0	33.9	15.5	12.7	11.7	11.9	6.5	0.9	13.8	2.6	0.7
	主婦・主夫	288	69.4	41.7	38.5	14.6	16.3	15.3	5.6	2.4	2.8	11.1	2.8	0.7
	無職	240	60.4	42.9	36.3	14.6	17.1	10.8	6.7	6.3	-	14.6	6.3	2.5
圏域別	高松圏域	680	58.8	42.6	34.3	13.5	15.6	16.0	10.0	4.1	1.2	14.7	3.5	1.3
	東讃圏域	130	74.6	43.8	43.8	16.9	14.6	11.5	6.2	6.2	1.5	5.4	0.8	-
	小豆圏域	37	62.2	62.2	32.4	21.6	16.2	-	-	5.4	2.7	10.8	5.4	-
	中讃圏域	362	60.8	42.8	32.6	18.2	13.8	11.0	7.7	5.2	1.1	13.0	3.3	0.6
	西讃圏域	198	63.6	38.4	36.4	14.6	12.1	7.6	7.6	5.6	1.5	14.1	4.5	1.0
居住年数別	3年未満	77	54.5	50.6	28.6	14.3	14.3	10.4	10.4	3.9	1.3	13.0	6.5	-
	3年以上～10年未満	182	52.2	48.9	24.2	18.1	19.2	11.5	13.2	3.8	2.2	13.7	1.1	-
	10年以上～20年未満	217	60.4	40.6	33.6	15.7	14.3	17.5	8.8	6.5	1.8	12.4	2.8	1.4
	20年以上	898	64.6	42.0	37.8	15.4	13.7	11.5	7.3	4.7	1.0	13.1	3.8	1.1

(13) 同和問題を解決するために必要と思われることについて

付問5 同和問題を解決するために必要と思われることは何ですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,407】 ※回答数の多い順に並び替え

1	人権全般にわたっての意識を高める	48.7% (48.5%)
2	家庭で子どもに差別しないように教える	41.6% (42.3%)
3	えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する	28.6% (27.8%)
4	啓発・広報活動を推進する	26.3% (26.0%)
5	どのようにしても差別はなくなる	20.7% (20.7%)
6	相談活動を充実する	16.7% (16.8%)
7	そっとしておけば差別は自然になくなる	16.2% (15.9%)
8	差別に関わることを見聞きしたときは、その場で注意する	14.4% (15.0%)
9	人権が侵害された被害者の救済制度を充実する	14.1% (15.1%)
10	相互の理解を深める交流会を開催する	12.9% (12.9%)
11	その他	4.4% (4.5%)
12	わからない	6.1% (6.0%)
	(無回答)	1.1% (1.0%)

同和問題を解決するために必要と思われることについて、「人権全般にわたっての意識を高める」48.7%が最も高く、次いで「家庭で子どもに差別しないように教える」41.6%、「えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する」28.6%、「啓発・広報活動を推進する」26.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「人権全般にわたっての意識を高める」48.5%が最も高く、次いで「家庭で子どもに差別しないように教える」42.3%、「えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する」27.8%、「啓発・広報活動を推進する」26.0%などとなっている。

図表 1-(13)-1 同和問題を解決するために必要と思われることについて

		回答数
全体	100.0	1,407 人
(1) 人権全般にわたっての意識を高める	48.7	685 人
(2) 家庭で子どもに差別をしないように教える	41.6	585 人
(3) えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する	28.6	403 人
(4) 啓発・広報活動を推進する	26.3	370 人
(5) どのようにしても差別はなくなる	20.7	291 人
(6) 相談活動を充実する	16.7	235 人
(7) そっとしておけば差別は自然になくなる	16.2	228 人
(8) 差別に関わることを見聞きしたときは、その場で注意する	14.4	203 人
(9) 人権が侵害された被害者の救済制度を充実する	14.1	198 人
(10) 相互の理解を深める交流会を開催する	12.9	182 人
(11) その他	4.4	62 人
(12) わからない	6.1	86 人
無回答	1.1	15 人

グラフ単位：(%)

同和問題を解決するために必要と思われることについて、

性別にみると、男女とも「人権全般にわたっての意識を高める」が最も高く、『男性』49.0%、『女性』48.8%で、これに「家庭で子どもに差別をしないように教える」が『男性』37.7%、『女性』45.5%で続いている。

年齢別にみると、『20～29 歳』では「家庭で子どもに差別をしないように教える」49.2%が最も高く、『30～39 歳』、『70 歳以上』では「人権全般にわたっての意識を高める」、「家庭で子どもに差別をしないように教える」がそれぞれ同率で高く、そのほかの年齢では「人権全般にわたっての意識を高める」が4～6割台で最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「家庭で子どもに差別をしないように教える」46.2%が最も高く、そのほかの職業では「人権全般にわたっての意識を高める」が4～5割台で最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「えせ同和行為（差別を利用した不当要求行為）を排除する」37.8%が最も高く、そのほかの圏域では「人権全般にわたっての意識を高める」が4～5割台で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「家庭で子どもに差別をしないように教える」45.5%が最も高く、そのほかの居住年数では「人権全般にわたっての意識を高める」が4～5割台で最も高くなっている。

図表 1-(13)-2 【同和問題を解決するために必要と思われることについて】

【表の見方】 単位=比率(%)	全体(人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	無回答	
		人権全般にわたっての意識を高める	家庭で子どもに差別をしないように教える	えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する	啓発・広報活動を推進する	どのようなにしても差別はなくなる	相談活動を充実する	そつとしておけば差別は自然になくなる	差別に関わることを見聞きしたときは、その場で注意する	人権が侵害された被害者の救済制度を充実する	相互の理解を深める交流会を開催する	その他	わからない		
全体	1,407	48.7	41.6	28.6	26.3	20.7	16.7	16.2	14.4	14.1	12.9	4.4	6.1	1.1	
性別	男性	637	49.0	37.7	37.4	29.7	19.9	15.5	17.3	14.0	14.8	13.7	4.6	5.0	0.8
	女性	739	48.8	45.5	21.4	23.1	21.1	17.6	14.9	15.0	13.1	12.4	4.5	6.9	1.2
年齢別	18～19歳	13	69.2	46.2	15.4	38.5	7.7	30.8	7.7	23.1	53.8	23.1	-	7.7	-
	20～29歳	65	46.2	49.2	18.5	23.1	26.2	15.4	6.2	21.5	20.0	12.3	4.6	3.1	-
	30～39歳	139	46.0	46.0	36.7	25.2	20.1	18.7	11.5	16.5	18.0	7.9	8.6	5.0	-
	40～49歳	221	46.2	33.9	33.0	19.9	27.6	13.6	14.0	7.2	12.7	13.1	5.4	3.2	0.5
	50～59歳	233	48.5	39.5	33.5	28.8	22.7	20.2	8.2	9.9	10.7	14.2	4.7	7.3	0.4
	60～69歳	348	53.4	39.7	29.6	29.0	19.5	16.1	16.4	15.2	13.2	14.1	3.2	6.0	1.1
	70歳以上	357	47.3	47.3	21.6	26.1	15.4	15.7	25.8	19.0	13.2	12.9	3.6	7.8	2.2
職業別	農林漁業	78	44.9	46.2	29.5	30.8	17.9	12.8	32.1	15.4	11.5	19.2	6.4	5.1	-
	商工業、サービス業、自由業など	184	42.4	40.8	28.8	18.5	22.3	13.0	14.1	10.9	13.6	14.1	3.8	5.4	1.6
	会社、商店、官公庁などに勤務	581	49.6	39.2	36.3	27.2	20.7	17.7	13.3	13.3	13.9	12.4	4.5	4.8	0.3
	主婦・主夫	288	51.4	46.9	16.3	24.3	20.5	17.7	18.1	18.1	11.8	11.8	5.9	6.6	1.7
	無職	240	50.8	41.7	25.4	30.0	19.6	16.7	16.7	15.8	16.7	12.5	2.9	8.8	1.7
圏域別	高松圏域	680	49.0	43.7	30.3	26.0	22.6	16.3	15.0	13.1	15.4	11.3	4.6	6.0	1.3
	東讃圏域	130	48.5	40.8	24.6	26.9	17.7	13.8	23.1	18.5	16.2	15.4	1.5	2.3	-
	小豆圏域	37	32.4	35.1	37.8	24.3	21.6	10.8	2.7	5.4	5.4	18.9	10.8	13.5	2.7
	中讃圏域	362	51.7	39.0	28.5	26.8	19.1	19.9	13.8	14.6	15.2	15.2	3.9	5.5	0.8
	西讃圏域	198	45.5	40.9	24.2	26.3	18.7	15.2	22.7	17.7	7.6	11.6	5.6	8.6	1.0
居住年数別	3年未満	77	44.2	45.5	31.2	32.5	24.7	16.9	16.9	10.4	20.8	10.4	5.2	5.2	-
	3年以上～10年未満	182	48.4	38.5	31.9	24.2	20.3	17.6	11.5	14.8	16.5	13.7	6.6	4.9	0.5
	10年以上～20年未満	217	45.6	40.1	34.6	24.0	20.3	17.5	12.9	10.1	17.1	12.4	5.5	6.5	0.5
	20年以上	898	50.2	42.8	26.6	26.6	20.3	16.3	17.5	15.9	12.0	13.3	3.8	6.2	1.3

(14) 子どもの結婚相手が同和地区出身だった場合の対応について

付問6 あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区の人であるとわかった場合、あなたは
どうすると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

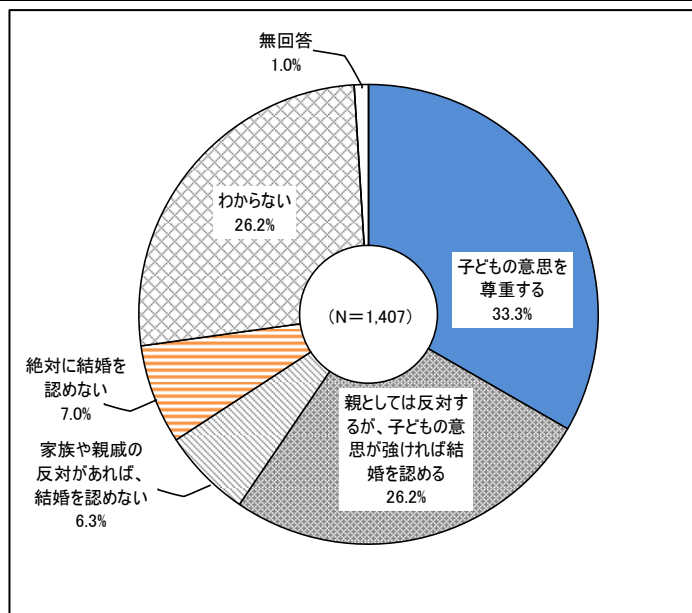
【回答者数=1,407】

1	子どもの意思を尊重する	33.3% (34.6%)
2	親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める	26.2% (25.2%)
3	家族や親戚の反対があれば、結婚を認めない	6.3% (5.8%)
4	絶対に結婚を認めない	7.0% (6.8%)
5	わからない	26.2% (26.6%)
	(無回答)	1.0% (0.9%)

子どもの結婚相手が同和地区出身だった場合の対応について、「子どもの意思を尊重する」33.3%が最も高く、次いで「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める」26.2%、「わからない」26.2%、「絶対に結婚を認めない」7.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「子どもの意思を尊重する」34.6%が最も高く、次いで「わからない」26.6%、「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める」25.2%、「絶対に結婚を認めない」6.8%などとなっている。

図表 1-(14)-1 子どもの結婚相手が同和地区出身だった場合の対応について



子どもの結婚相手が同和地区出身だった場合の対応について、

性別にみると、男女とも「子どもの意思を尊重する」が最も高く、『男性』36.6%、『女性』30.9%で、これに『男性』では「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める」25.3%、『女性』では「わからない」28.1%で続いている。

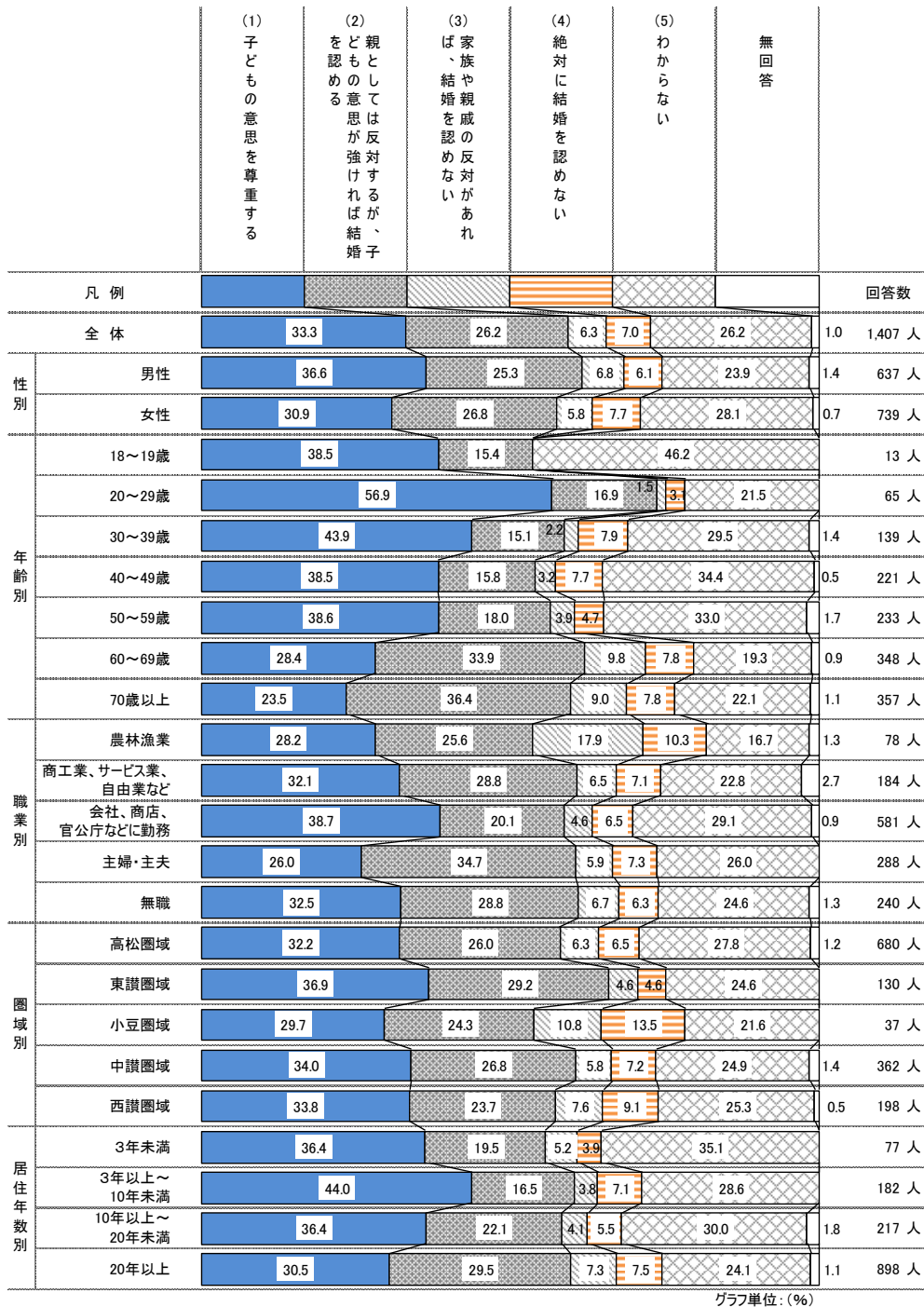
年齢別にみると、『18～19歳』では「わからない」46.2%が最も高く、『20～59歳』では「子どもの意思を尊重する」が3～5割台と最も高く、『60歳以上』では「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める」が3割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』では「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める」34.7%が最も高く、そのほかの職業では「子どもの意思を尊重する」が2～3割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「子どもの意思を尊重する」が2～3割台で最も高く、これに『高松圏域』、『西讃圏域』では「わからない」が、そのほかの圏域では「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「子どもの意思を尊重する」が3～4割台で最も高く、これに、『20年以上』では「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める」が、そのほかの居住年数では「わからない」が続いている。

図表 1-(14)-2 【子どもの結婚相手が同和地区出身だった場合の対応について】



(15)効果的であると思う人権啓発活動について

問8 あなたは、人権啓発を推進するためには、県民に対してどのような啓発広報活動が効果的であると思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1	テレビ・ラジオを活用した啓発	48.4% (49.3%)
2	県・市町の広報誌	36.7% (35.2%)
3	講演会や研修会、座談会	25.4% (24.8%)
4	高齢者・障害者などの擬似体験	22.9% (23.0%)
5	インターネット	22.7% (24.4%)
6	新聞・雑誌・週刊誌	22.5% (22.7%)
7	人権問題をテーマとした行事（じんけんフェスティバル、ポスターパネル展など）	19.3% (19.0%)
8	映画・ビデオを活用した啓発	17.0% (17.5%)
9	相互の理解を深めるための交流会	15.7% (15.3%)
10	パンフレット・ポスター	14.7% (14.9%)
11	その他	4.2% (4.0%)
	(無回答)	7.1% (6.9%)

効果的であると思う人権啓発活動について、「テレビ・ラジオを活用した啓発」48.4%が最も高く、次いで「県・市町の広報誌」36.7%、「講演会や研修会、座談会」25.4%、「高齢者・障害者などの擬似体験」22.9%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「テレビ・ラジオを活用した啓発」49.3%が最も高く、次いで「県・市町の広報誌」35.2%、「講演会や研修会、座談会」24.8%、「インターネット」24.4%などとなっている。

図表 1-(15)-1 効果的であると思う人権啓発活動について

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) テレビ・ラジオを活用した啓発	48.4	741 人
(2) 県・市町の広報誌	36.7	562 人
(3) 講演会や研修会、座談会	25.4	388 人
(4) 高齢者・障害者などの疑似体験	22.9	351 人
(5) インターネット	22.7	348 人
(6) 新聞・雑誌・週刊誌	22.5	344 人
(7) 人権問題をテーマとした行事(じんけんフェスティバル、ポスターパネル展など)	19.3	296 人
(8) 映画・ビデオを活用した啓発	17.0	260 人
(9) 相互の理解を深めるための交流会	15.7	240 人
(10) パンフレット・ポスター	14.7	225 人
(11) その他	4.2	64 人
無回答	7.1	108 人

グラフ単位:(%)

効果的であると思う人権啓発活動について、

性別にみると、男女とも「テレビ・ラジオを活用した啓発」が最も高く、『男性』48.6%、『女性』48.2%で、これに「県・市町の広報誌」が『男性』36.8%、『女性』36.5%で続いている。

年齢別にみると、『70歳以上』では「県・市町の広報誌」46.4%が最も高く、そのほかの年齢では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が4～6割台で最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「テレビ・ラジオを活用した啓発」、「県・市町の広報誌」が同率の43.0%と高く、そのほかの職業では「テレビ・ラジオを活用した啓発」が4～5割台と最も高く、これに「県・市町の広報誌」が3～4割台で続いている。

圏域別にみると、いずれも「テレビ・ラジオを活用した啓発」が4～5割台と最も高く、これに「県・市町の広報誌」が3～4割台で続いている。

居住年数別にみると、いずれも「テレビ・ラジオを活用した啓発」が4～5割台と最も高く、これに、『10年未満』では「インターネット」が3～4割台、『10年以上』では「県・市町の広報誌」が3～4割台が続いている。

図表 1-(15)-2 【効果的であると思う人権啓発活動について】

	全体（人）	(1) テレビ・ラジオを活用した啓発	(2) 県・市町の広報誌	(3) 講演会や研修会、座談会	(4) 高齢者・障害者などの疑似体験	(5) インターネット	(6) 新聞・雑誌・週刊誌	(7) 人権問題をテーマとした行事（パネル展など）	(8) 映画・ビデオを活用した啓発	(9) 相互の理解を深めるための交流会	(10) パンフレット・ポスター	(11) その他	無回答	
【表の見方】 単位=比率(%)														
全体	1,530	48.4	36.7	25.4	22.9	22.7	22.5	19.3	17.0	15.7	14.7	4.2	7.1	
性別	男性	701	48.6	36.8	25.1	19.1	24.7	21.7	17.1	15.7	16.5	14.3	5.3	7.7
	女性	797	48.2	36.5	25.6	26.1	21.0	23.1	21.2	18.4	14.8	15.3	3.4	6.3
年齢別	18～19歳	14	64.3	28.6	28.6	28.6	21.4	28.6	28.6	28.6	7.1	21.4	-	-
	20～29歳	74	62.2	16.2	23.0	23.0	50.0	27.0	17.6	31.1	16.2	18.9	1.4	1.4
	30～39歳	162	55.6	27.2	20.4	27.8	41.4	22.2	21.0	17.3	11.7	19.1	4.9	3.7
	40～49歳	247	47.0	25.9	23.5	27.9	32.0	17.0	19.8	12.6	13.0	9.3	5.7	4.9
	50～59歳	249	54.2	35.3	28.1	25.3	28.9	23.7	20.5	18.1	15.3	16.1	4.0	2.8
	60～69歳	363	46.0	43.0	29.5	22.3	15.2	23.4	24.0	20.4	18.7	15.7	3.9	6.9
	70歳以上	390	41.5	46.4	23.3	16.2	6.9	23.1	13.1	13.3	16.4	13.8	4.4	13.8
職業別	農林漁業	86	43.0	43.0	23.3	20.9	7.0	18.6	16.3	18.6	25.6	15.1	4.7	8.1
	商工業、サービス業、自由業など	202	43.1	32.2	21.8	26.7	26.2	21.8	16.8	16.8	16.8	13.4	4.0	9.4
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	53.0	32.1	26.7	24.1	31.3	21.7	21.2	17.4	14.9	14.7	4.4	3.0
	主婦・主夫	309	47.6	42.4	26.5	23.0	11.7	23.9	20.4	16.5	13.9	14.6	3.9	7.1
無職	263	43.7	42.6	24.0	17.5	17.5	24.3	16.0	17.1	15.2	16.3	4.6	13.3	
圏域別	高松圏域	746	47.1	34.9	23.1	23.2	24.8	23.3	22.5	16.9	15.0	13.8	3.8	7.0
	東讃圏域	142	50.0	32.4	26.8	19.7	17.6	21.8	18.3	18.3	16.9	14.8	6.3	8.5
	小豆圏域	39	46.2	35.9	23.1	30.8	17.9	17.9	20.5	20.5	10.3	10.3	2.6	2.6
	中讃圏域	398	52.5	39.4	29.1	24.6	23.6	21.1	15.6	16.8	18.8	15.6	3.3	6.5
	西讃圏域	205	44.9	41.5	25.9	19.5	18.0	23.4	15.6	16.1	12.2	17.1	6.3	8.3
居住年数別	3年未満	91	56.0	24.2	25.3	31.9	33.0	20.9	23.1	20.9	12.1	15.4	5.5	4.4
	3年以上～10年未満	199	53.8	26.6	24.1	26.1	40.2	20.6	16.1	19.1	18.1	12.6	5.0	4.0
	10年以上～20年未満	232	49.1	35.3	25.4	23.7	27.2	22.0	19.8	16.8	12.9	13.8	4.3	4.3
	20年以上	974	46.4	40.2	25.7	21.0	17.1	23.1	19.5	16.4	16.1	15.4	4.0	8.4

(16)人権啓発活動への印象や感想について

問9 あなたは、過去1年間で、人権に関わる啓発を見聞きしたり参加して、どのような印象や感想を持ちましたか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

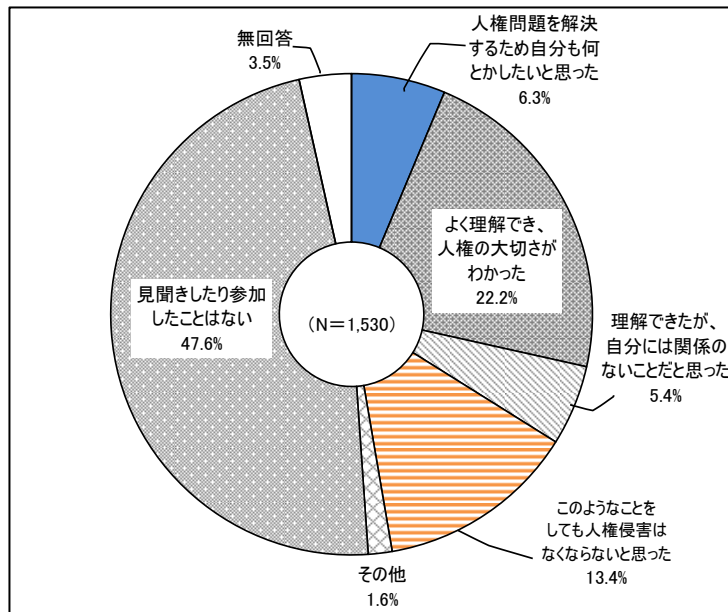
【回答者数=1,530】

1 人権問題を解決するため自分も何とかしたいと思った	6.3% (6.2%)
2 よく理解でき、人権の大切さがわかった	22.2% (22.4%)
3 理解できたが、自分には関係のないことだと思った	5.4% (5.4%)
4 このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った	13.4% (13.2%)
5 その他	1.6% (1.7%)
6 見聞きしたり参加したことはない (無回答)	47.6% (47.7%) 3.5% (3.4%)

人権啓発活動への印象や感想について、「見聞きしたり参加したことはない」47.6%が最も高く、次いで「よく理解でき、人権の大切さがわかった」22.2%、「このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った」13.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「見聞きしたり参加したことはない」47.7%が最も高く、次いで「よく理解でき、人権の大切さがわかった」22.4%、「このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った」13.2%などとなっている。

図表 1-(16)-1 人権啓発活動への印象や感想について



人権啓発活動への印象や感想について、

性別にみると、男女とも「見聞きしたり参加したことはない」が最も高く、『男性』47.4%、『女性』47.7%で、これに「よく理解でき、人権の大切さがわかった」が『男性』22.5%、『女性』22.1%で続いている。

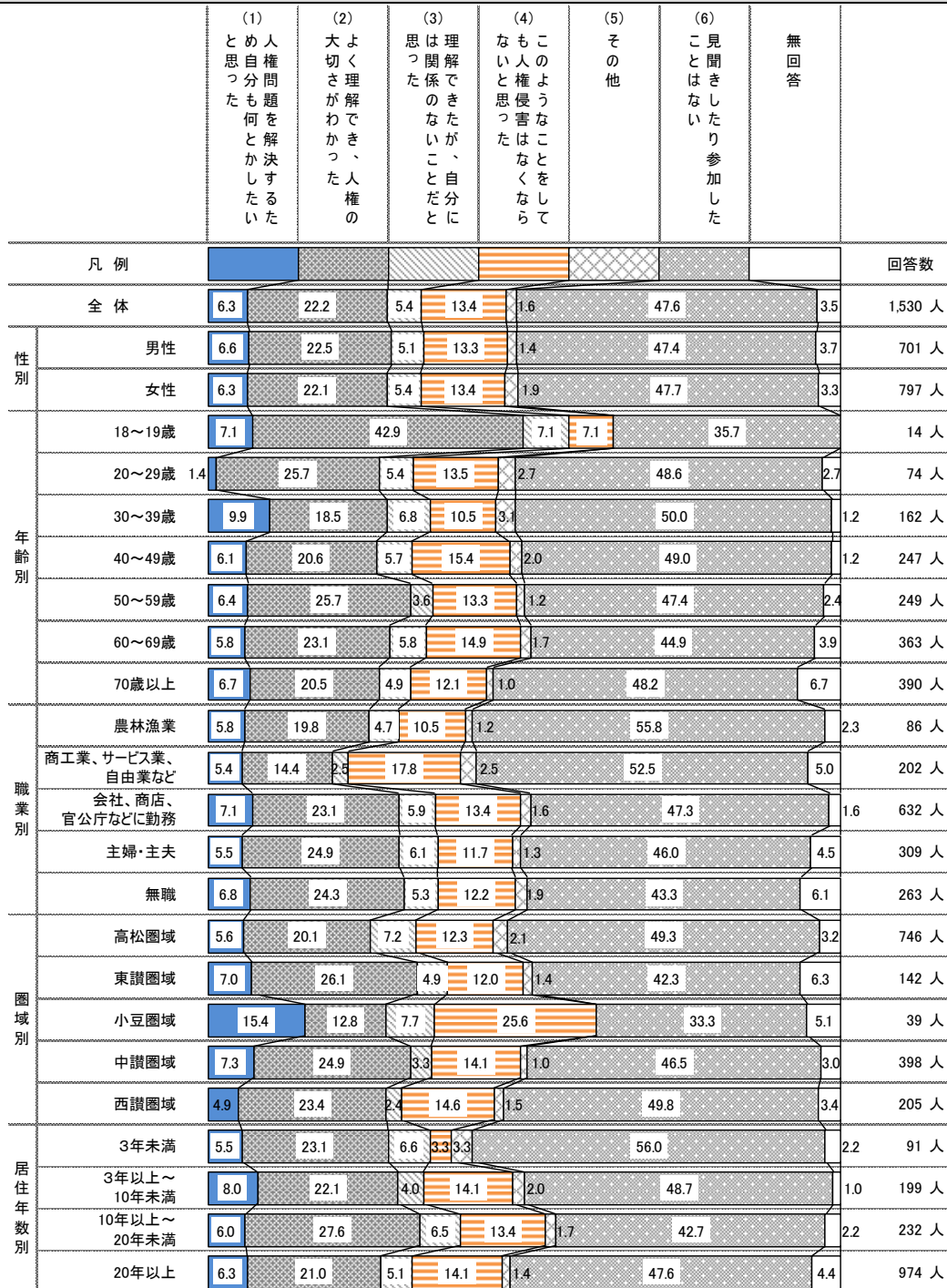
年齢別にみると、『20歳以上』では「見聞きしたり参加したことはない」が4～5割台で最も高く、『18～19歳』では「よく理解でき、人権の大切さがわかった」42.9%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「見聞きしたり参加したことはない」が4～5割台で最も高く、これに『商工業、サービス業、自由業など』では「このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った」が、そのほかの職業では「よく理解でき、人権の大切さがわかった」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「見聞きしたり参加したことはない」が4～5割台で最も高く、これに『小豆圏域』では「このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った」が、そのほかの圏域では「よく理解でき、人権の大切さがわかった」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「見聞きしたり参加したことはない」が4～5割台で最も高く、これに「よく理解でき、人権の大切さがわかった」が続いている。

図表 1-(16)-2 【人権啓発活動への印象や感想について】



グラフ単位：(%)

2. 環境施策について

(1)－1 身のまわりの環境、行政の環境への取り組みの＜現在の満足度＞

問10 あなたの身のまわりの環境、行政の環境への取り組みの、＜現在の満足度＞について、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】

(単位:%)

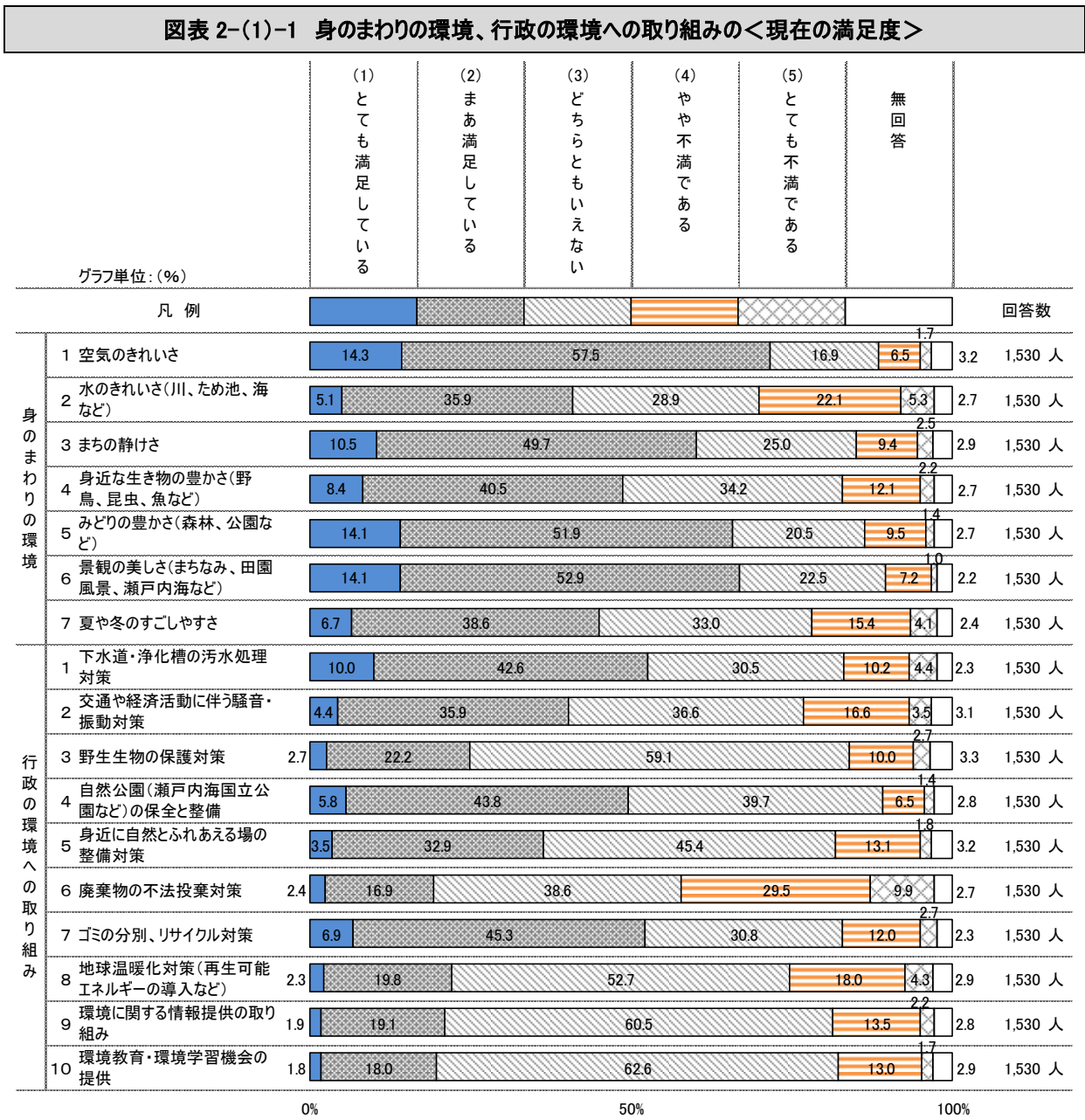
項 目		＜現在の満足度＞					
		①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
身のまわりの環境	1 空気のきれいさ	14.3 (14.2)	57.5 (56.6)	16.9 (17.5)	6.5 (6.4)	1.7 (2.0)	3.2 (3.2)
	2 水のきれいさ (川、ため池、海など)	5.1 (5.1)	35.9 (34.4)	28.9 (29.1)	22.1 (23.1)	5.3 (5.6)	2.7 (2.6)
	3 まちの静けさ	10.5 (10.8)	49.7 (48.5)	25.0 (25.9)	9.4 (9.5)	2.5 (2.4)	2.9 (2.9)
	4 身近な生き物の豊かさ (野鳥、昆虫、魚など)	8.4 (8.6)	40.5 (40.0)	34.2 (34.2)	12.1 (12.3)	2.2 (2.2)	2.7 (2.6)
	5 みどりの豊かさ (森林、公園など)	14.1 (14.2)	51.9 (51.2)	20.5 (20.6)	9.5 (9.9)	1.4 (1.4)	2.7 (2.7)
	6 景観の美しさ (まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)	14.1 (14.2)	52.9 (52.5)	22.5 (23.0)	7.2 (7.2)	1.0 (1.0)	2.2 (2.1)
	7 夏や冬の過ごしやすさ	6.7 (6.7)	38.6 (38.5)	33.0 (32.8)	15.4 (15.4)	4.1 (4.3)	2.4 (2.3)
行政の環境への取り組み	1 下水道・浄化槽の汚水処理対策	10.0 (10.3)	42.6 (42.2)	30.5 (31.1)	10.2 (9.9)	4.4 (4.3)	2.3 (2.3)
	2 交通や経済活動に伴う騒音・振動対策	4.4 (4.7)	35.9 (36.0)	36.6 (36.4)	16.6 (16.5)	3.5 (3.3)	3.1 (3.1)
	3 野生生物の保護対策	2.7 (2.9)	22.2 (21.7)	59.1 (59.5)	10.0 (10.0)	2.7 (2.6)	3.3 (3.2)
	4 自然公園 (瀬戸内海国立公園など)の保全と整備	5.8 (5.8)	43.8 (43.2)	39.7 (40.7)	6.5 (6.4)	1.4 (1.2)	2.8 (2.7)
	5 身近に自然とふれあえる場の整備対策	3.5 (3.8)	32.9 (33.1)	45.4 (45.1)	13.1 (13.0)	1.8 (1.8)	3.2 (3.2)
	6 廃棄物の不法投棄対策	2.4 (2.5)	16.9 (16.9)	38.6 (39.0)	29.5 (29.3)	9.9 (9.8)	2.7 (2.6)
	7 ゴミの分別、リサイクル対策	6.9 (7.3)	45.3 (44.4)	30.8 (31.1)	12.0 (12.1)	2.7 (2.9)	2.3 (2.2)
	8 地球温暖化対策 (再生可能エネルギーの導入など)	2.3 (2.6)	19.8 (19.8)	52.7 (52.5)	18.0 (17.9)	4.3 (4.3)	2.9 (2.9)
	9 環境に関する情報提供の取り組み	1.9 (2.0)	19.1 (19.0)	60.5 (60.5)	13.5 (13.5)	2.2 (2.2)	2.8 (2.8)
	10 環境教育・環境学習機会の提供	1.8 (1.9)	18.0 (18.2)	62.6 (62.3)	13.0 (12.9)	1.7 (1.7)	2.9 (2.9)

身のまわりの環境への取り組みの<現在の満足度>について、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、「空気のきれいさ」71.8%が最も高く、次いで「景観の美しさ」67.0%、「みどりの豊かさ」66.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【満足している】の割合は、「空気のきれいさ」70.8%が最も高く、次いで「景観の美しさ」66.7%、「みどりの豊かさ」65.4%などとなっている。

行政の環境への取り組みの<現在の満足度>について、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、「下水道・浄化槽の汚水処理対策」52.6%が最も高く、次いで「ゴミの分別、リサイクル対策」52.2%、「自然公園の保全と整備」49.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【満足している】の割合は、「下水道・浄化槽の汚水処理対策」52.5%が最も高く、次いで「ゴミの分別、リサイクル対策」51.7%、「自然公園の保全と整備」49.0%などとなっている。



(1)－2 身のまわりの環境、行政の環境への取り組みの＜将来の重要度＞

問10 あなたの身のまわりの環境、行政の環境への取り組みの、＜将来の重要度＞について、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】

(単位:%)

項 目		＜将来の重要度＞					
		①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
身のまわりの環境	1 空気のきれいさ	64.1 (63.7)	20.6 (20.7)	3.1 (3.4)	0.1 (0.1)	0.1 (0.1)	12.0 (11.9)
	2 水のきれいさ (川、ため池、海など)	62.8 (62.8)	22.5 (22.4)	2.5 (2.8)	0.5 (0.5)	0.1 (0.1)	11.6 (11.5)
	3 まちの静けさ	27.8 (27.3)	45.4 (44.3)	13.4 (14.4)	1.6 (2.1)	0.1 (0.1)	11.8 (11.7)
	4 身近な生き物の豊かさ (野鳥、昆虫、魚など)	35.0 (35.2)	38.5 (37.7)	13.1 (13.5)	0.8 (1.0)	0.7 (0.8)	11.9 (11.8)
	5 みどりの豊かさ (森林、公園など)	44.8 (45.2)	36.5 (35.6)	6.2 (6.6)	0.7 (0.8)	0.1 (0.1)	11.8 (11.8)
	6 景観の美しさ (まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)	42.7 (43.3)	36.9 (35.5)	8.5 (9.3)	0.7 (0.8)	0.1 (0.1)	11.1 (11.0)
	7 夏や冬の過ごしやすさ	33.9 (34.7)	38.9 (37.8)	14.7 (15.0)	1.2 (1.3)	0.1 (0.1)	11.2 (11.1)
行政の環境への取り組み	1 下水道・浄化槽の汚水処理対策	48.9 (49.0)	31.6 (30.9)	7.5 (8.0)	0.5 (0.5)	0.1 (0.1)	11.5 (11.6)
	2 交通や経済活動に伴う騒音・振動対策	31.6 (31.4)	41.6 (40.7)	13.5 (14.4)	1.0 (1.2)	0.2 (0.2)	12.1 (12.1)
	3 野生生物の保護対策	24.3 (24.9)	36.0 (35.3)	24.7 (24.7)	2.1 (2.1)	0.7 (0.8)	12.2 (12.1)
	4 自然公園 (瀬戸内海国立公園など)の保全と整備	31.2 (30.9)	39.5 (39.1)	15.9 (16.3)	1.3 (1.4)	0.3 (0.3)	11.9 (11.9)
	5 身近に自然とふれあえる場の整備対策	25.7 (26.4)	41.7 (40.9)	18.2 (18.1)	1.2 (1.3)	0.5 (0.5)	12.8 (12.8)
	6 廃棄物の不法投棄対策	51.3 (51.2)	29.5 (29.2)	6.8 (7.3)	0.3 (0.3)	0.2 (0.2)	11.8 (11.8)
	7 ゴみの分別、リサイクル対策	47.6 (47.9)	32.6 (31.6)	7.1 (7.5)	0.8 (0.9)	0.2 (0.3)	11.7 (11.7)
	8 地球温暖化対策 (再生可能エネルギーの導入など)	48.7 (48.7)	25.9 (25.4)	12.2 (12.5)	0.8 (0.9)	0.4 (0.4)	12.0 (12.0)
	9 環境に関する情報提供の取り組み	28.6 (28.5)	36.5 (36.1)	21.3 (21.7)	1.3 (1.4)	0.3 (0.4)	11.9 (12.0)
	10 環境教育・環境学習機会の提供	27.2 (27.3)	37.3 (37.0)	21.6 (21.7)	1.6 (1.6)	0.4 (0.5)	12.0 (12.0)

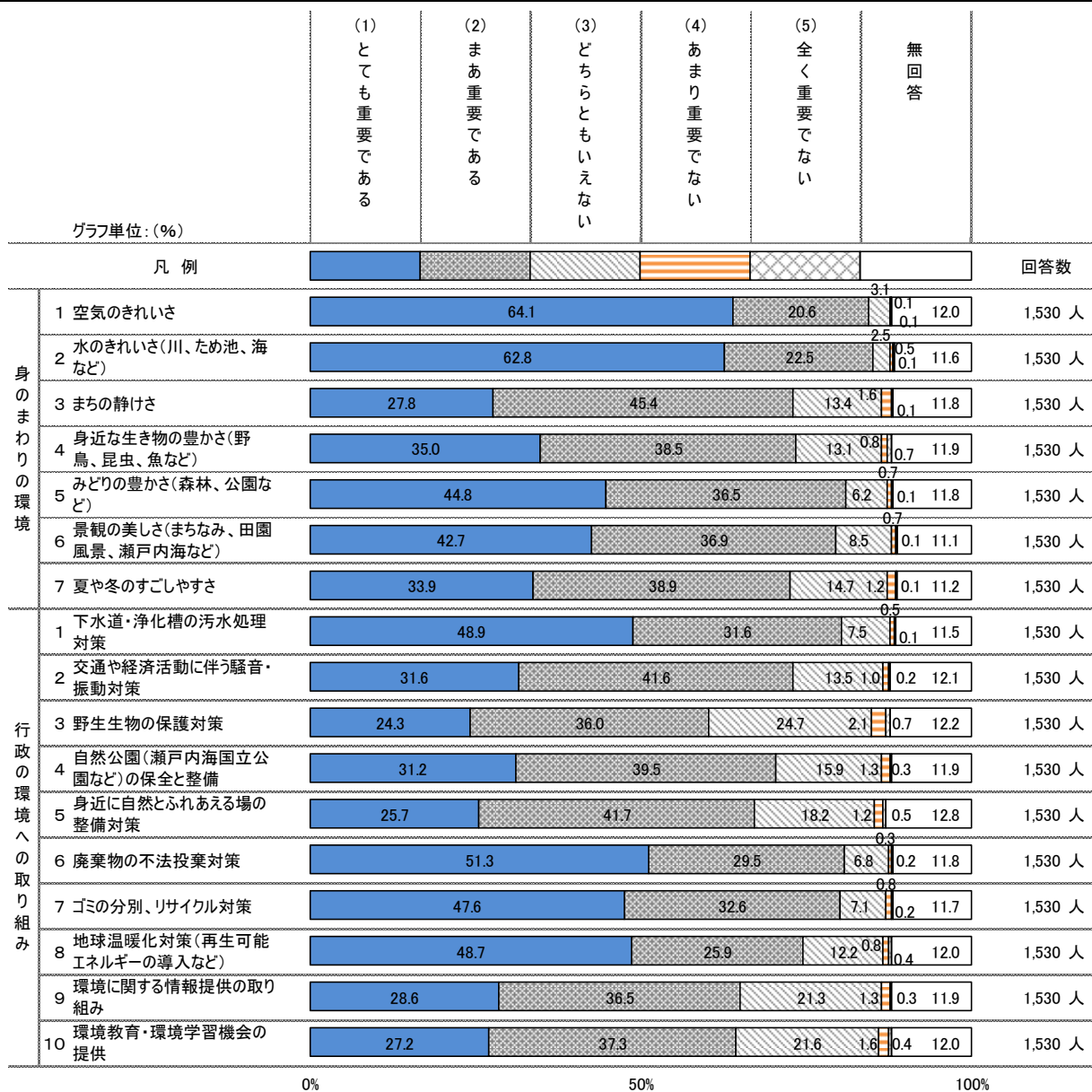
身のまわりの環境への取り組みの<将来の重要度>について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「水のきれいさ」85.3%が最も高く、次いで「空気のきれいさ」84.7%、「みどりの豊かさ」81.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「水のきれいさ」85.2%が最も高く、次いで「空気のきれいさ」84.4%、「みどりの豊かさ」80.8%などとなっている。

行政の環境への取り組みの<将来の重要度>について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「廃棄物の不法投棄対策」80.8%が最も高く、次いで「下水道・浄化槽の汚水処理対策」80.5%、「ゴミの分別、リサイクル対策」80.2%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「廃棄物の不法投棄対策」80.4%が最も高く、次いで「下水道・浄化槽の汚水処理対策」79.9%、「ゴミの分別、リサイクル対策」79.5%などとなっている。

図表 2-(1)-2 身のまわりの環境、行政の環境への取り組みの<将来の重要度>



【空気のきれいさ】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』73.5%、『女性』70.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.5%、『女性』8.8%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『60～69歳』においては【満足している】の割合が77.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『農林漁業』においては【満足している】の割合が80.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『小豆圏域』においては【満足している】の割合が89.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『20年以上』においては【満足している】の割合が74.7%と最も高くなっている。

【空気のきれいさ】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』86.2%、『女性』84.3%と、いずれも8割を超えている。

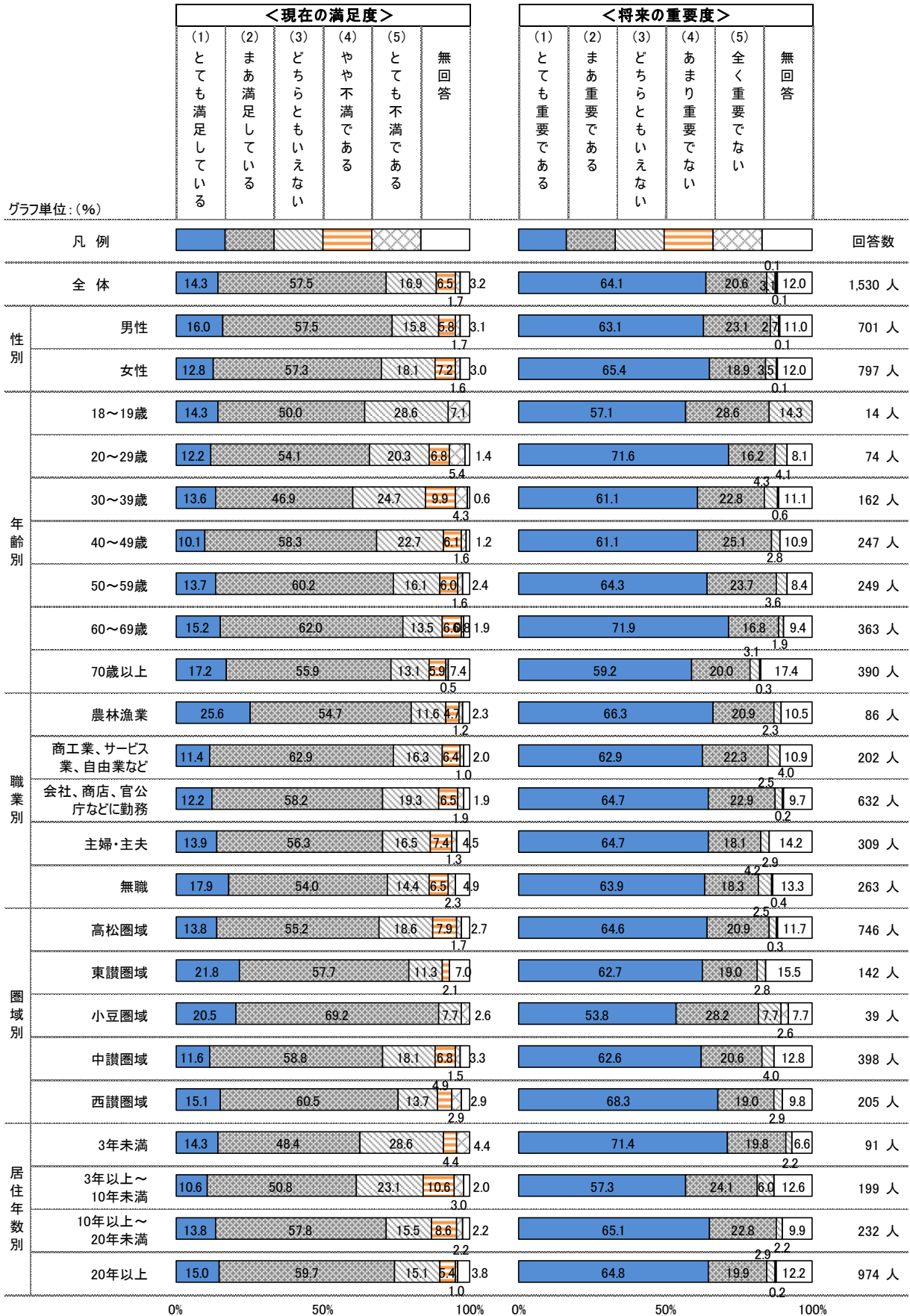
年齢別にみると、【重要である】の割合は、『70歳以上』を除くすべての年齢で8割を超え、『60～69歳』において88.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において87.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『西讃圏域』において87.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』において91.2%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-3 【空気のきれいさ】



【水のきれいさ（川、ため池、海など）】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』41.8%、『女性』40.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』26.9%、『女性』27.9%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『40歳以上』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『39歳以下』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『20～29歳』においては【不満である】の割合が44.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『主婦・主夫』においては【満足している】の割合が43.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『小豆圏域』においては【満足している】の割合が51.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『10年以上』では【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『10年未満』では【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『3年以上～10年未満』においては【不満である】の割合が38.1%と最も高くなっている。

【水のきれいさ（川、ため池、海など）】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』86.6%、『女性』84.9%と、いずれも8割を超えている。

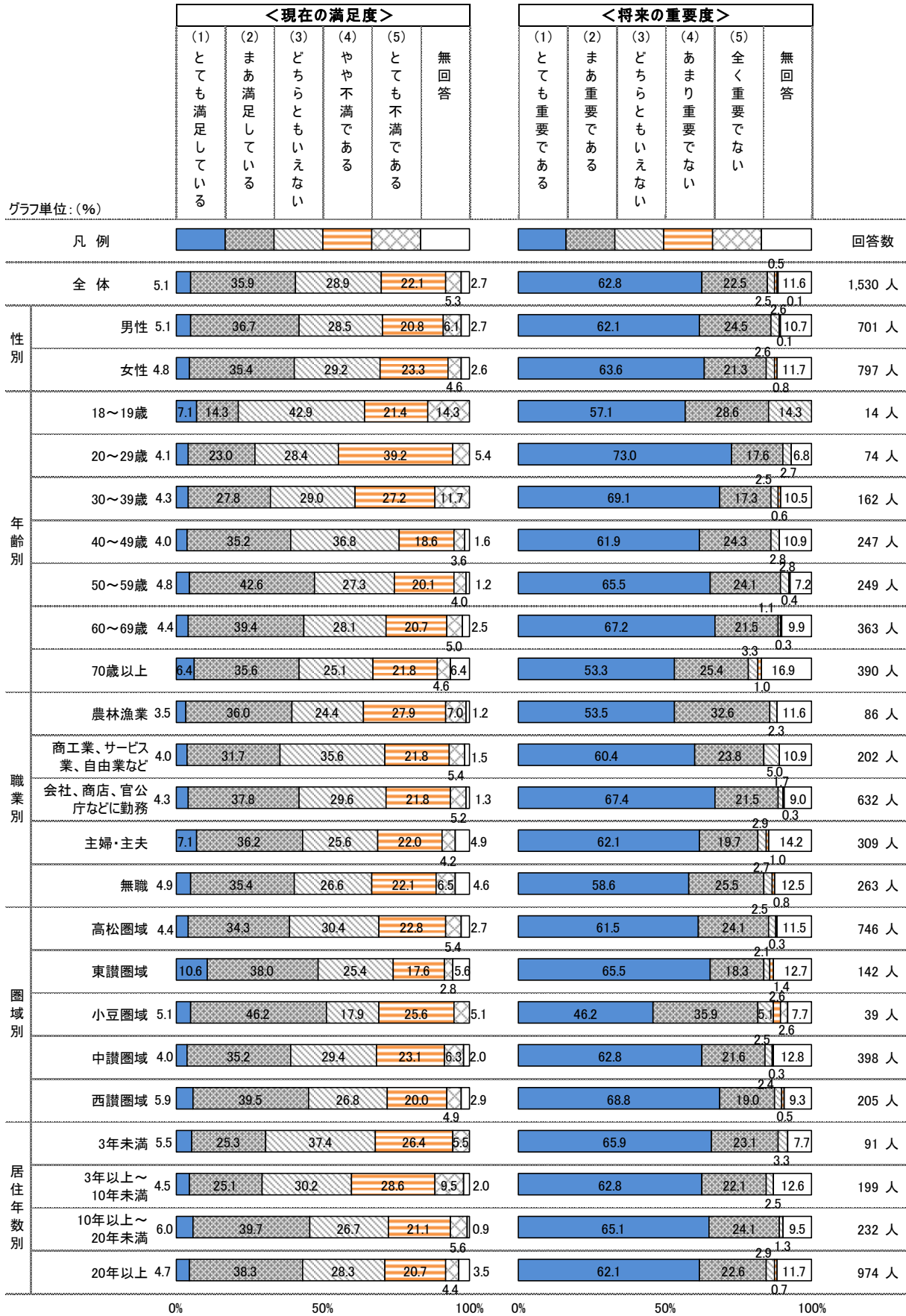
年齢別にみると、【重要である】の割合は、『70歳以上』を除くすべての年齢で8割を超え、『20～29歳』において90.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において88.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『西讃圏域』において87.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『10年以上～20年未満』において89.2%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-4 【水のきれいさ(川、ため池、海など)】



【まちの静けさ】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』59.6%、『女性』61.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.4%、『女性』11.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『60～69歳』においては【満足している】の割合が64.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『農林漁業』においては【満足している】の割合が76.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『小豆圏域』においては【満足している】の割合が71.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『20年以上』においては【満足している】の割合が62.9%と最も高くなっている。

【まちの静けさ】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』73.2%、『女性』73.7%と、いずれも7割を超えている。

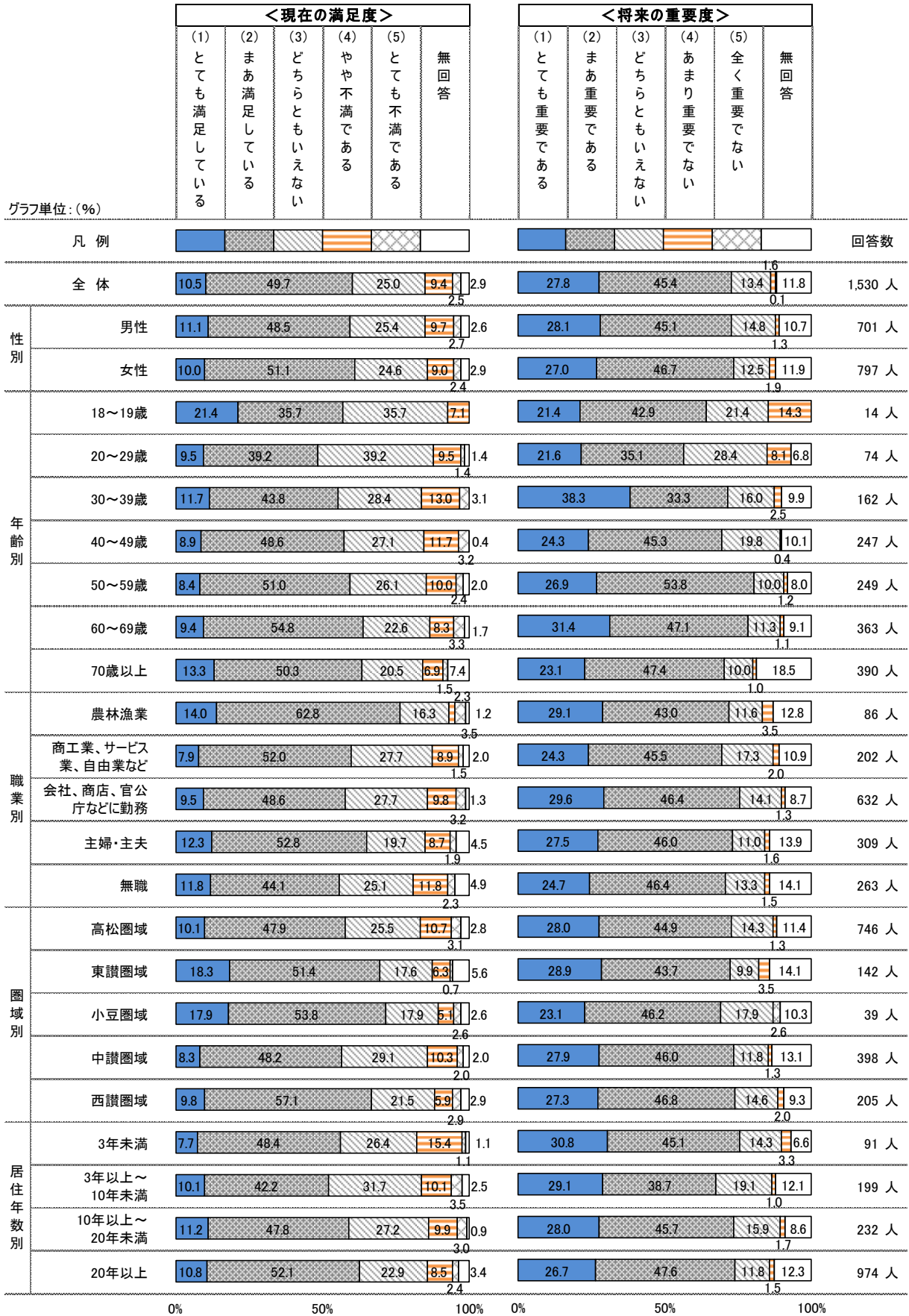
年齢別にみると、【重要である】の割合は『18～19歳』及び『20～29歳』を除くすべての年齢で7割を超え、『50～59歳』において80.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において76.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』を除くすべての圏域で7割を超え、『西讃圏域』において74.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で7割を超え、『3年未満』において75.9%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-5 【まちの静けさ】



【身近な生き物の豊かさ（野鳥、昆虫、魚など）】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』46.1%、『女性』51.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.7%、『女性』13.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『18～19歳』においては【満足している】の割合が57.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『農林漁業』においては【満足している】の割合が59.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『小豆圏域』においては【満足している】の割合が64.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『10年以上～20年未満』においては【満足している】の割合が55.6%と最も高くなっている。

【身近な生き物の豊かさ（野鳥、昆虫、魚など）】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』74.0%、『女性』73.7%と、いずれも7割を超えている。

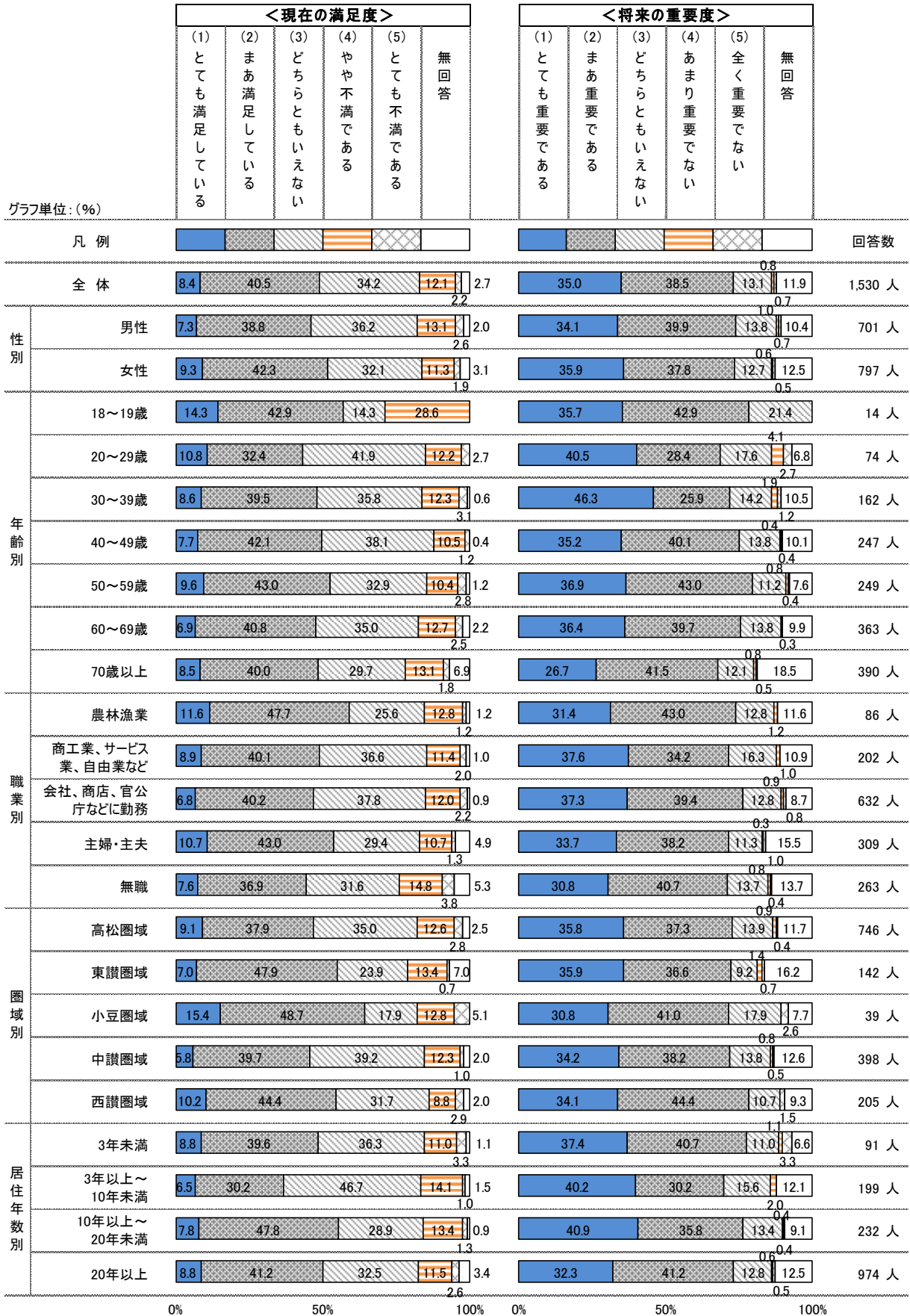
年齢別にみると、【重要である】の割合は、『20～29歳』及び『70歳以上』を除くすべての年齢で7割を超え、『50～59歳』において79.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において76.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『西讃圏域』において78.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において78.1%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-6 【身近な生き物の豊かさ(野鳥、昆虫、魚など)】



【みどりの豊かさ（森林、公園など）】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』64.1%、『女性』67.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』10.7%、『女性』11.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『60～69歳』においては【満足している】の割合が68.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『主婦・主夫』においては【満足している】の割合が73.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『西讃圏域』においては【満足している】の割合が75.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『20年以上』においては【満足している】の割合が68.0%と最も高くなっている。

【みどりの豊かさ（森林、公園など）】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』81.7%、『女性』81.4%と、いずれも8割を超えている。

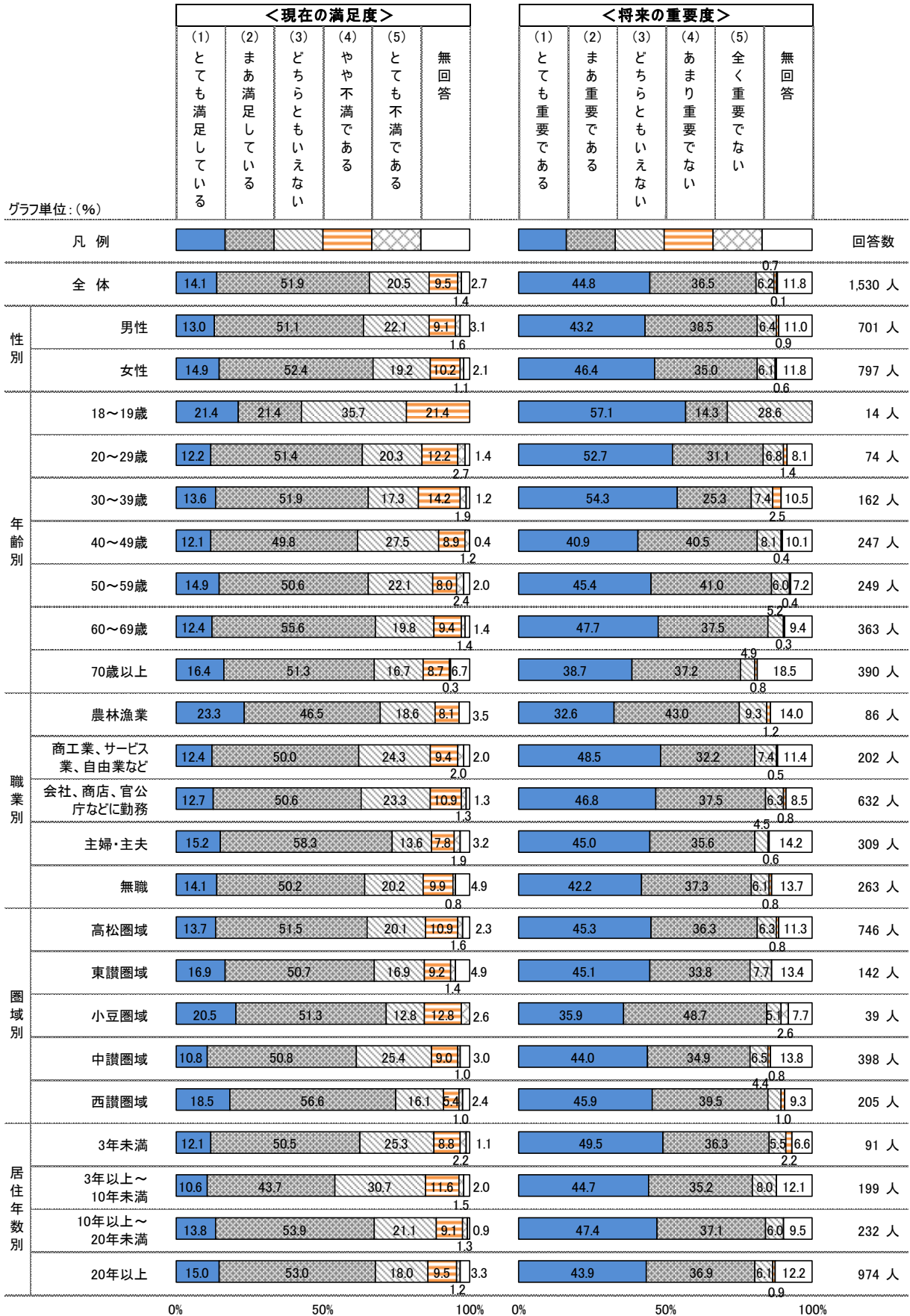
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『50～59歳』において86.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において84.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『西讃圏域』において85.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において85.8%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-7 【みどりの豊かさ(森林、公園など)】



【景観の美しさ（まちなみ、田園風景、瀬戸内海など）】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』64.2%、『女性』69.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.9%、『女性』8.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『70歳以上』においては【満足している】の割合が69.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『主婦・主夫』においては【満足している】の割合が73.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『小豆圏域』においては【満足している】の割合が79.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『10年以上～20年未満』においては【満足している】の割合が72.4%と最も高くなっている。

【景観の美しさ（まちなみ、田園風景、瀬戸内海など）】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』79.1%、『女性』80.7%と、いずれも7割を超えている。

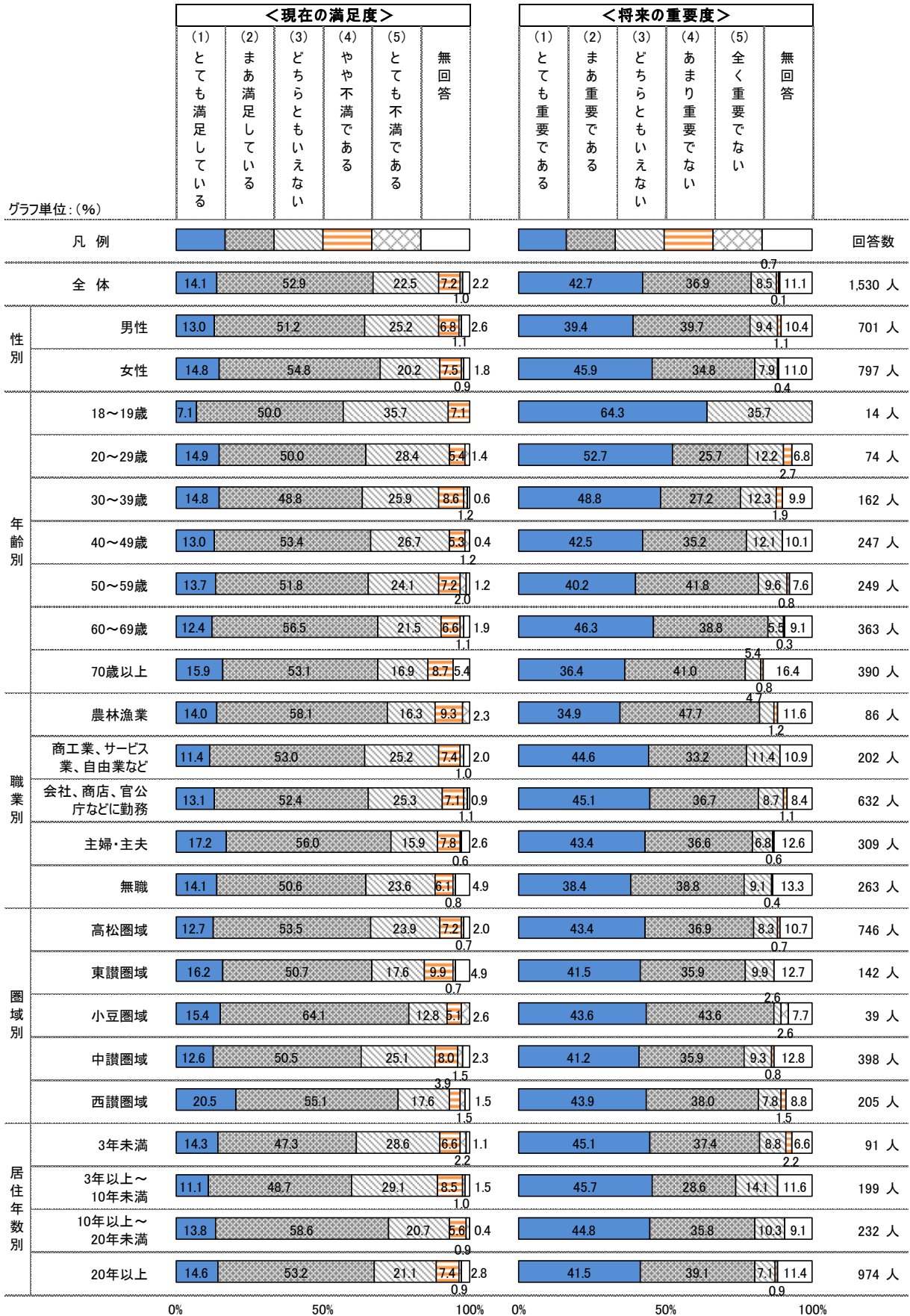
年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』を除くすべての年齢で7割を超え、『60～69歳』において85.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『農林漁業』において82.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において87.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において82.5%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-8 【景観の美しさ(まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)】



【夏や冬のすごしやすさ】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』46.0%、『女性』45.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』16.8%、『女性』21.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『70歳以上』においては【満足している】の割合が52.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『農林漁業』においては【満足している】の割合が54.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『小豆圏域』においては【満足している】の割合が53.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『3年未満』においては【満足している】の割合が47.3%と最も高くなっている。

【夏や冬のすごしやすさ】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』69.9%、『女性』76.1%と、いずれも6割を超えている。

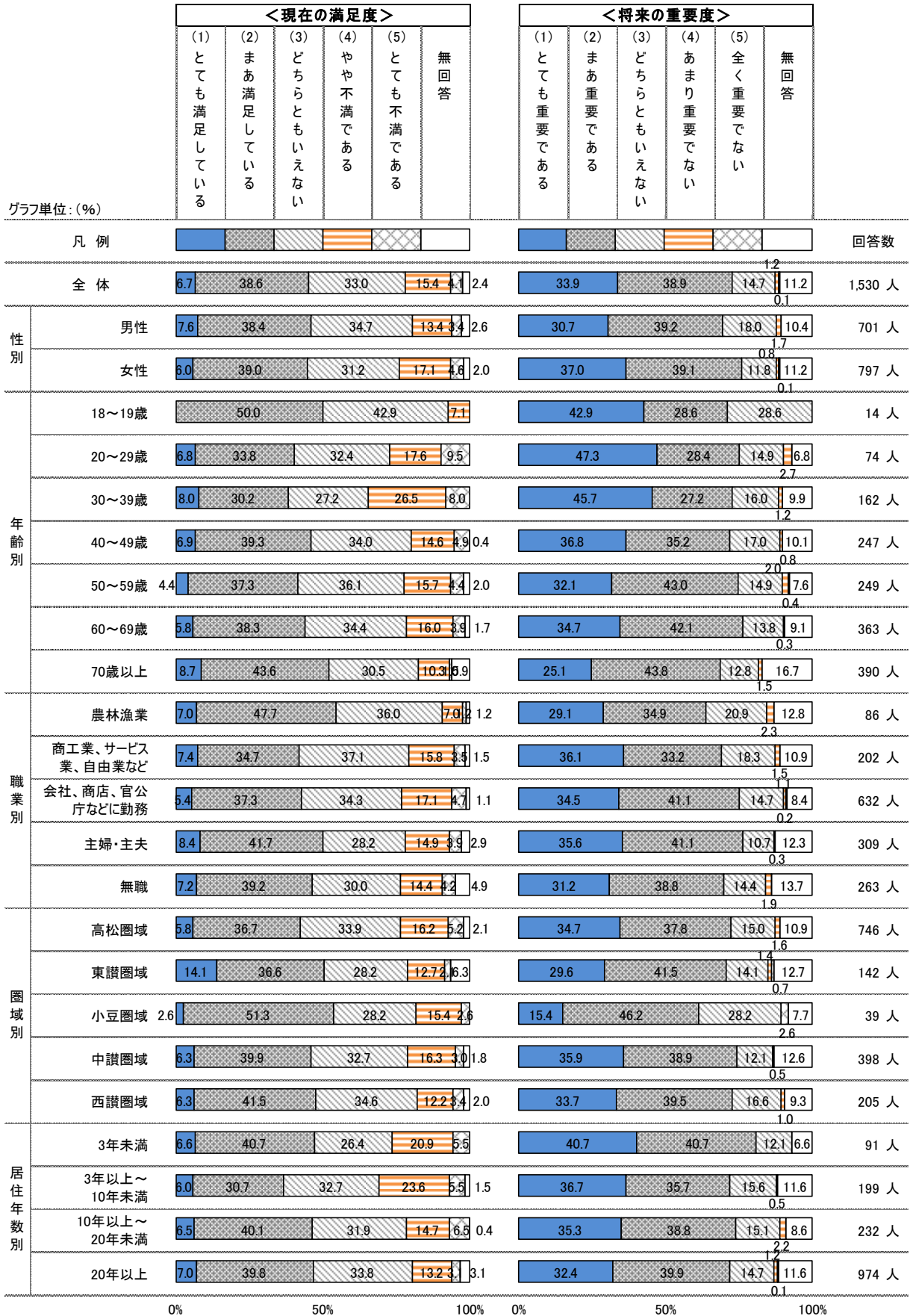
年齢別にみると、【重要である】の割合は、『70歳以上』を除くすべての年齢で7割を超え、『60～69歳』において76.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『農林漁業』及び『商工業、サービス業、自由業など』を除くすべての職業で7割を超え、『主婦・主夫』において76.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』を除くすべての圏域で7割を超え、『中讃圏域』において74.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において81.4%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-9 【夏や冬のすごしやすさ】



【下水道・浄化槽の汚水処理対策】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』54.0%、『女性』51.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.3%、『女性』15.0%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『70歳以上』においては【満足している】の割合が55.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『主婦・主夫』においては【満足している】の割合が55.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『東讃圏域』においては【満足している】の割合が59.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『20年以上』においては【満足している】の割合が54.2%と最も高くなっている。

【下水道・浄化槽の汚水処理対策】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』80.6%、『女性』81.2%と、いずれも8割を超えている。

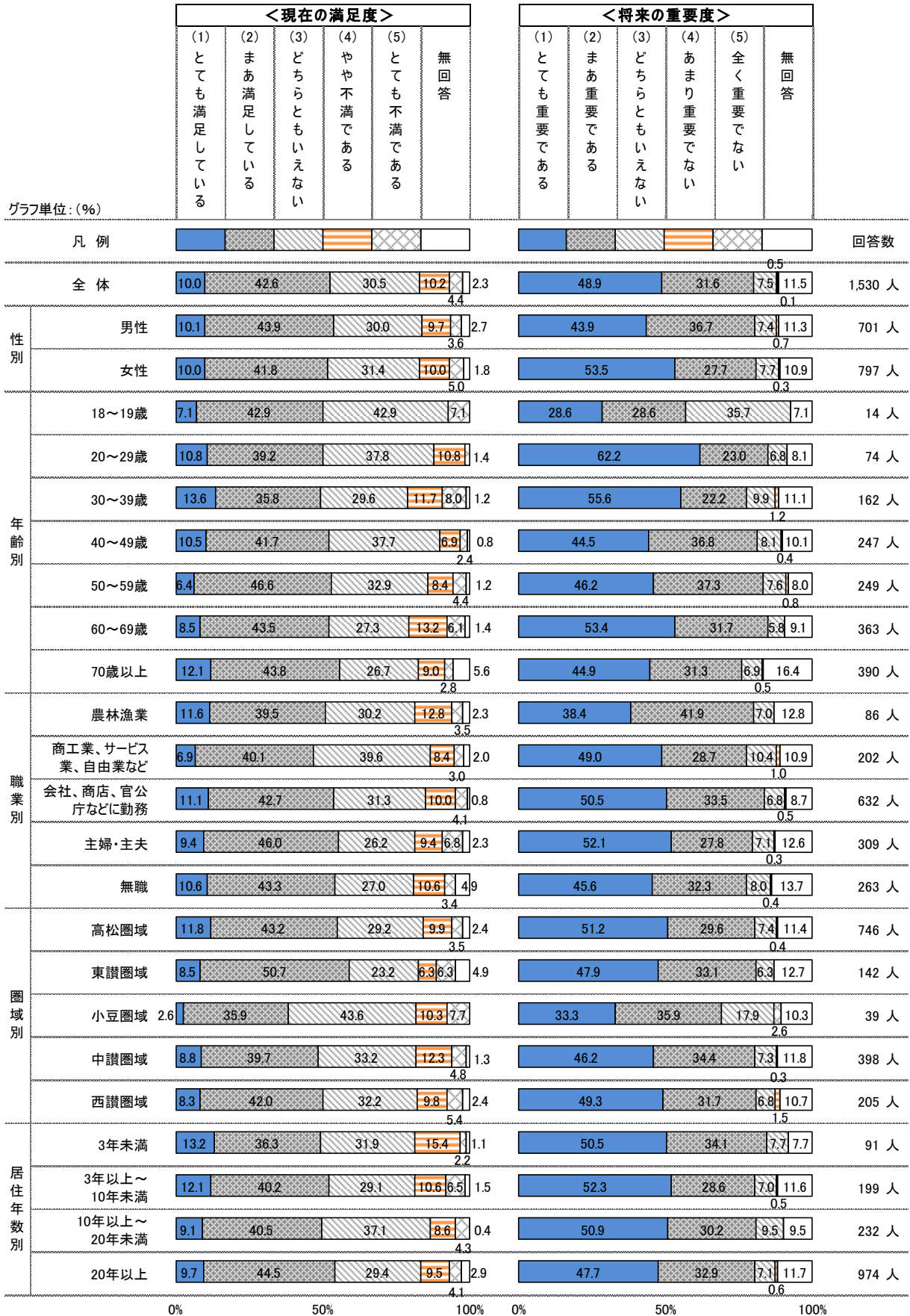
年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』を除くすべての年齢で7割を超え、『20～29歳』において85.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において84.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』を除くすべての圏域で7割を超え、『東讃圏域』『西讃圏域』において81.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』において84.6%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-10 【下水道・浄化槽の汚水処理対策】



【交通や経済活動に伴う騒音・振動対策】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』40.3%、『女性』40.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』20.3%、『女性』19.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『20～29歳』においては【満足している】の割合が44.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『主婦・主夫』においては【満足している】の割合が42.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『東讃圏域』においては【満足している】の割合が50.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『3年未満』においては【満足している】の割合が48.4%と最も高くなっている。

【交通や経済活動に伴う騒音・振動対策】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』74.3%、『女性』72.6%と、いずれも7割を超えている。

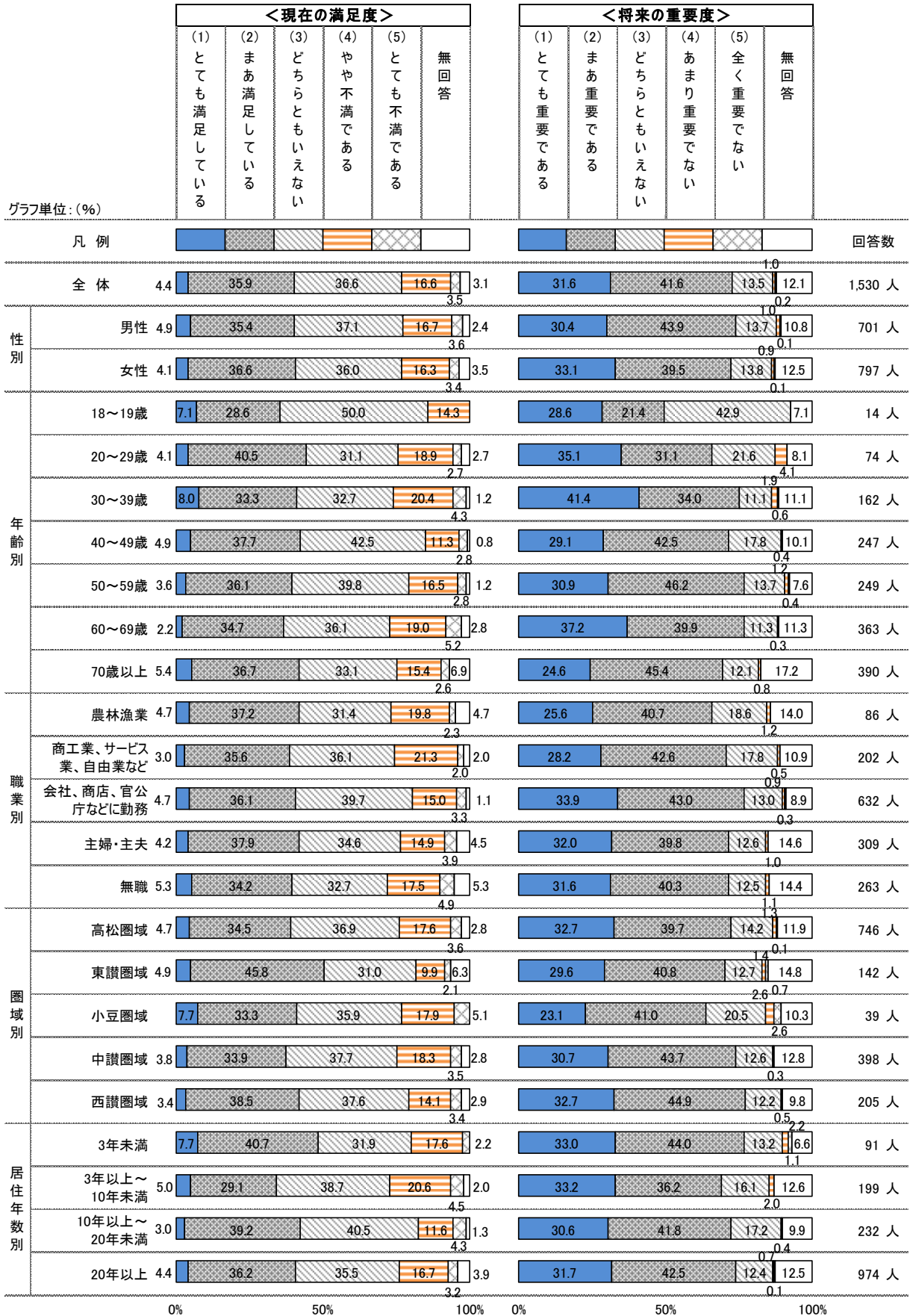
年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』及び『20～29歳』を除くすべての年齢で7割を超え、『50～59歳』及び『60～69歳』において77.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『農林漁業』を除くすべての職業で7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において76.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』を除くすべての圏域で7割を超え、『西讃圏域』において77.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で7割を超え、『3年未満』において77.0%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-11 【交通や経済活動に伴う騒音・振動対策】



【野生生物の保護対策】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』26.5%、『女性』23.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.6%、『女性』12.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『40～49歳』においては【満足している】の割合が31.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『会社、商店、官公庁などに勤務』においては【満足している】の割合が26.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『東讃圏域』においては【満足している】の割合が26.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『3年未満』においては【満足している】の割合が28.6%と最も高くなっている。

【野生生物の保護対策】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』57.9%、『女性』63.0%と、いずれも5割を超えている。

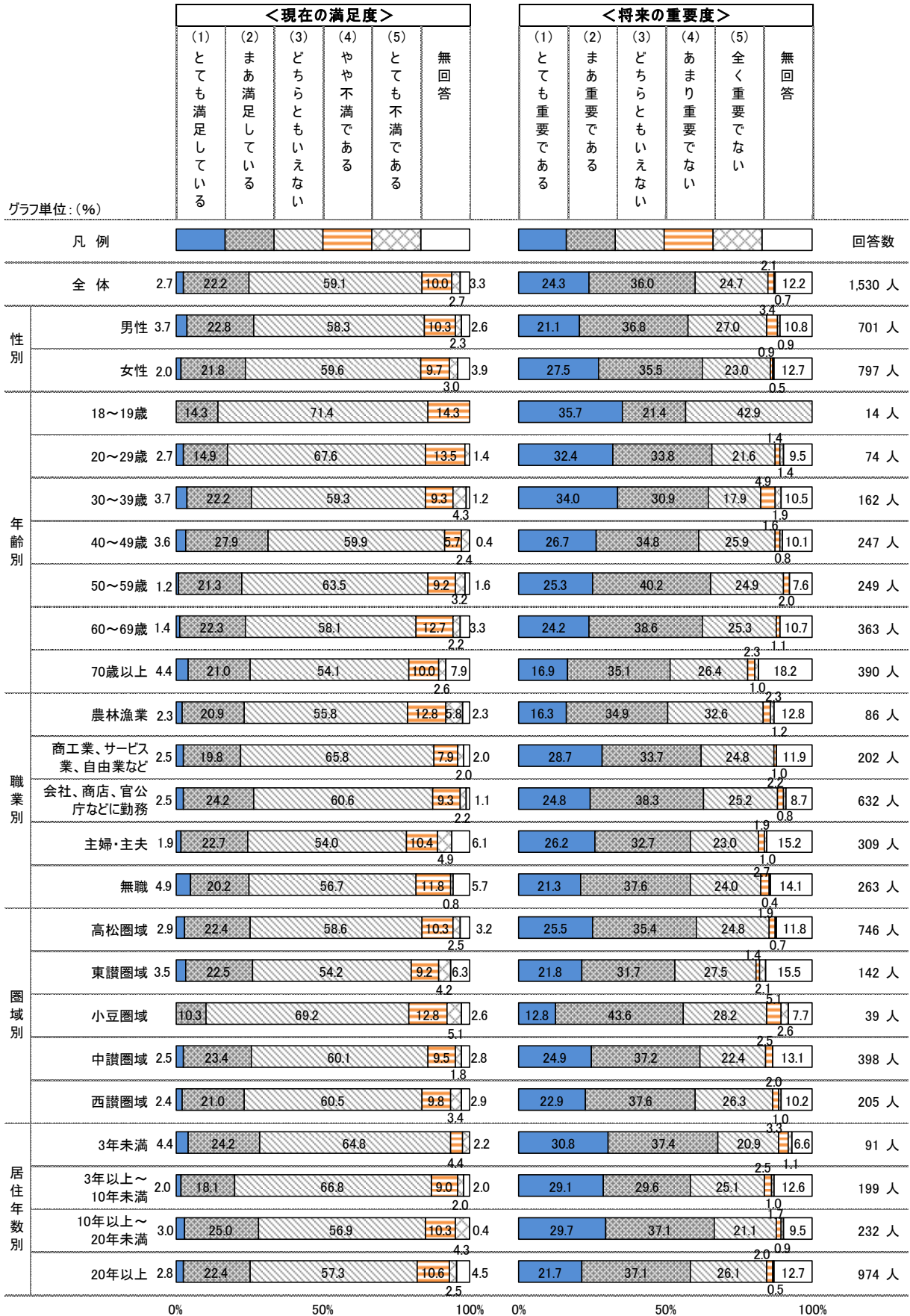
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『20～29歳』において66.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において63.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において62.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『3年未満』において68.2%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-12 【野生生物の保護対策】



【自然公園（瀬戸内海国立公園など）の保全と整備】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』47.6%、『女性』51.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』9.2%、『女性』6.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『70歳以上』においては【満足している】の割合が53.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『農林漁業』においては【満足している】の割合が61.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『小豆圏域』においては【満足している】の割合が53.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『20年以上』においては【満足している】の割合が51.7%と最も高くなっている。

【自然公園（瀬戸内海国立公園など）の保全と整備】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』69.5%、『女性』72.4%と、いずれも6割を超えている。

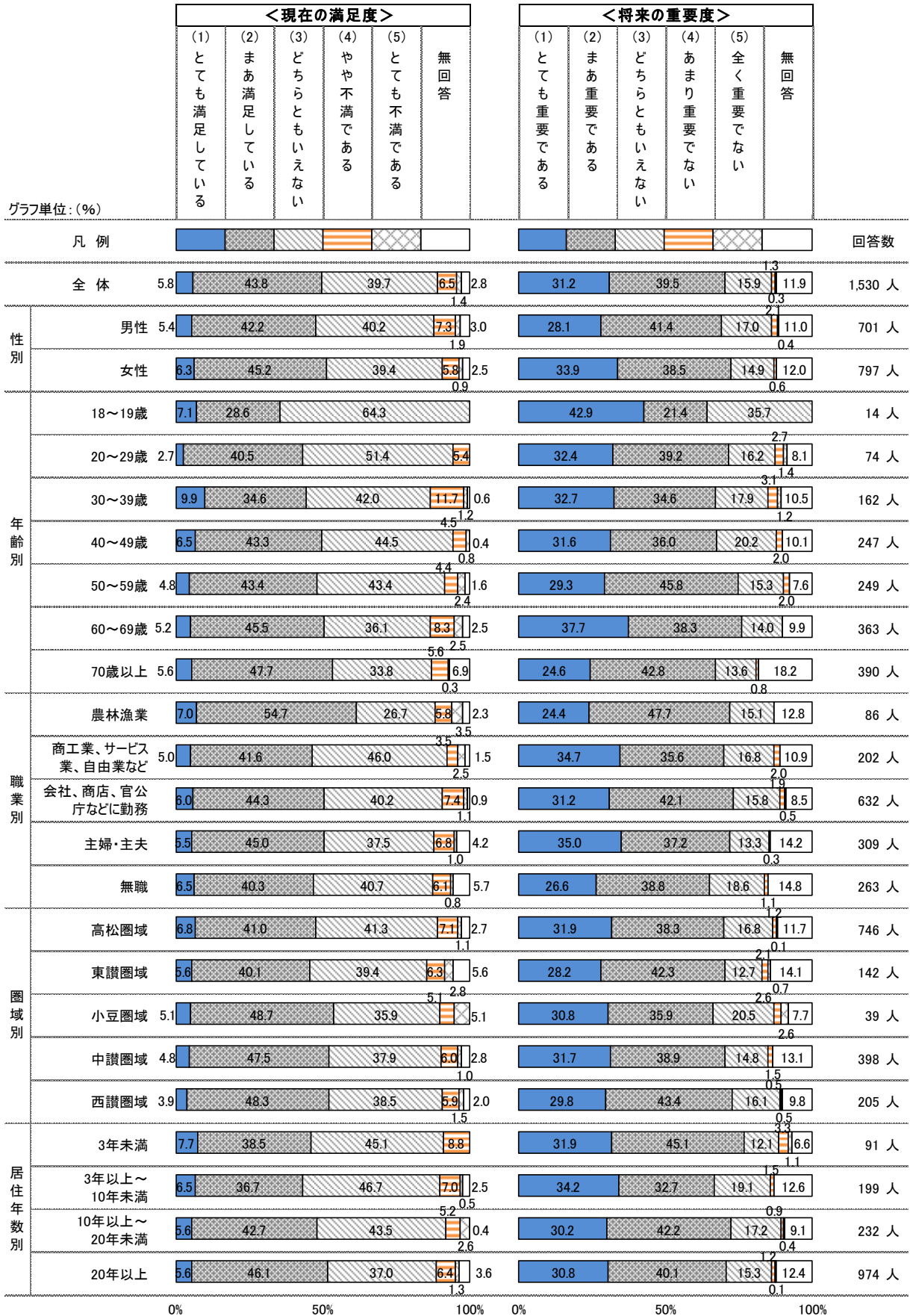
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『60～69歳』において76.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において73.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『西讃圏域』において73.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において77.0%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-13 【自然公園(瀬戸内海国立公園など)の保全と整備】



【身近に自然とふれあえる場の整備対策】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』34.1%、『女性』38.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』16.0%、『女性』14.0%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『20～29歳』においては【満足している】の割合が43.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『会社、商店、官公庁などに勤務』においては【満足している】の割合が38.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『西讃圏域』においては【満足している】の割合が39.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『3年未満』においては【満足している】の割合が39.6%と最も高くなっている。

【身近に自然とふれあえる場の整備対策】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』63.9%、『女性』70.8%と、いずれも6割を超えている。

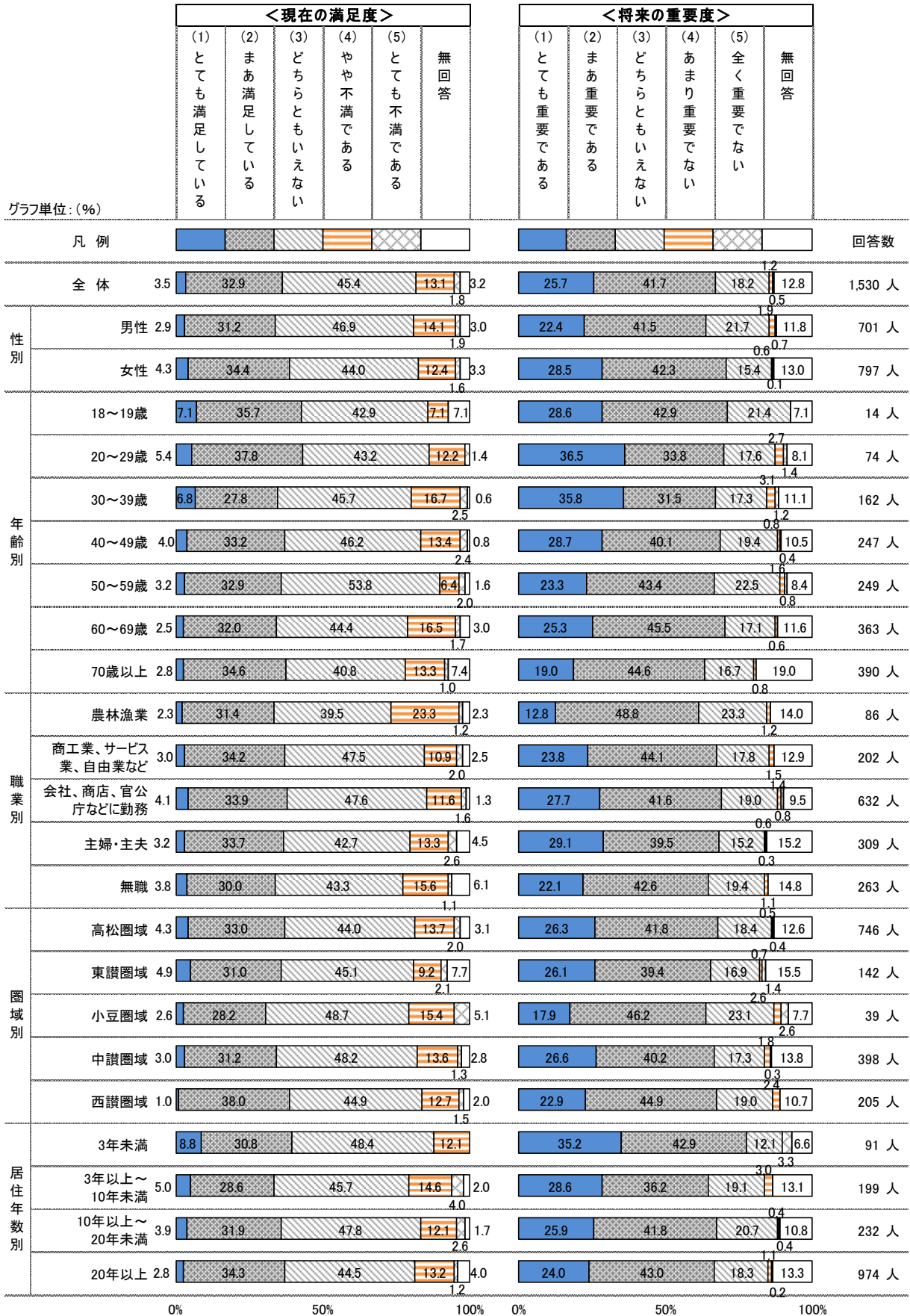
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において71.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において69.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『高松圏域』において68.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において78.1%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-14 【身近に自然とふれあえる場の整備対策】



【廃棄物の不法投棄対策】の＜現在の満足度＞について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』20.2%、『女性』18.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』42.3%、『女性』36.8%となっており、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『60～69歳』においては【不満である】の割合が45.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『農林漁業』においては【不満である】の割合が50.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『小豆圏域』においては【不満である】の割合が53.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『10年以上～20年未満』においては【不満である】の割合が42.7%と最も高くなっている。

【廃棄物の不法投棄対策】の＜将来の重要度＞について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』81.5%、『女性』80.9%と、いずれも8割を超えている。

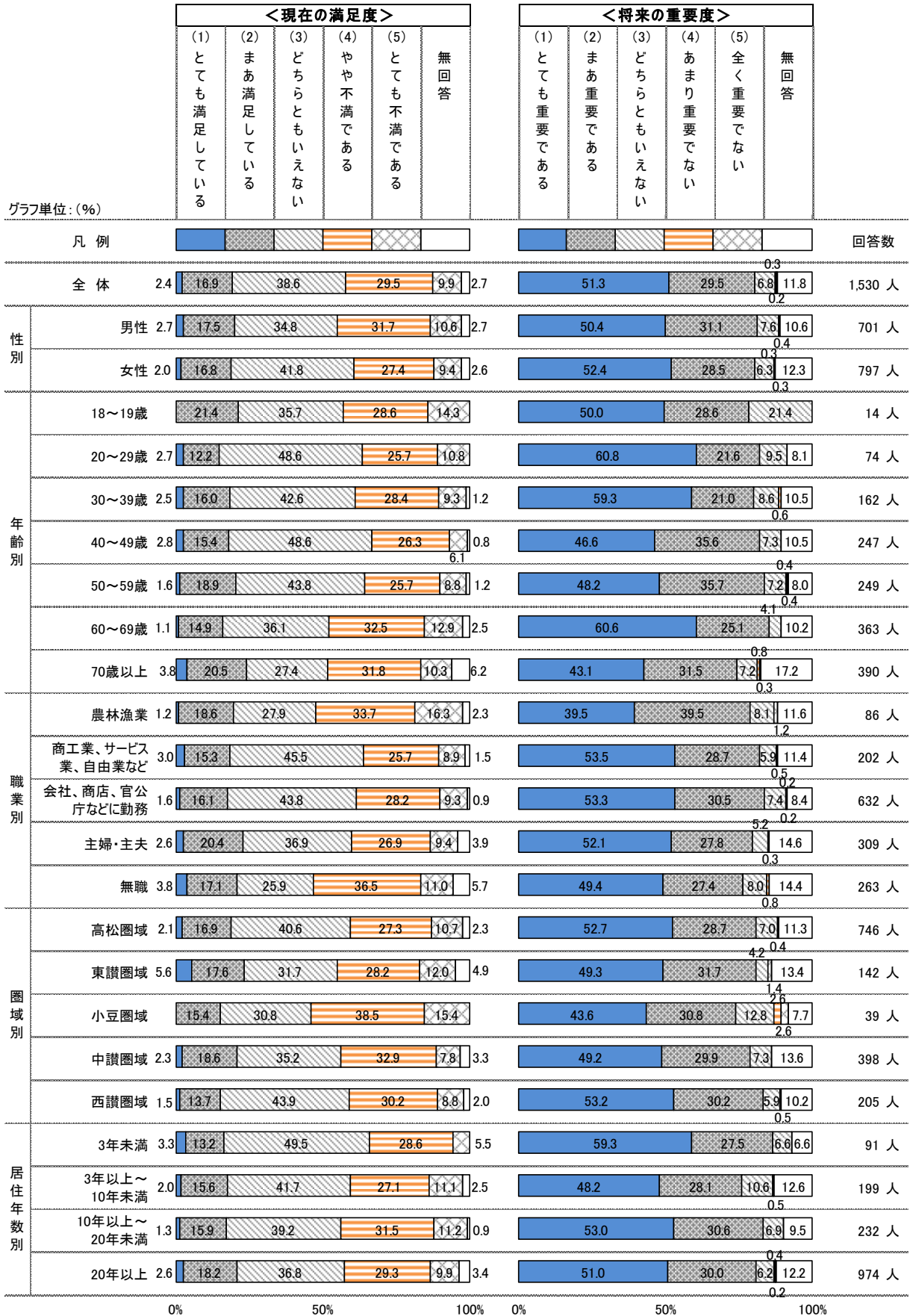
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『60～69歳』において85.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において83.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『西讃圏域』において83.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において86.8%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-15 【廃棄物の不法投棄対策】



【ゴミの分別、リサイクル対策】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』50.2%、『女性』53.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.2%、『女性』14.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『18～19歳』においては【満足している】の割合が64.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『主婦・主夫』においては【満足している】の割合が62.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『中讃圏域』においては【満足している】の割合が58.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『20年以上』においては【満足している】の割合が56.0%と最も高くなっている。

【ゴミの分別、リサイクル対策】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』78.9%、『女性』81.8%と、いずれも7割を超えている。

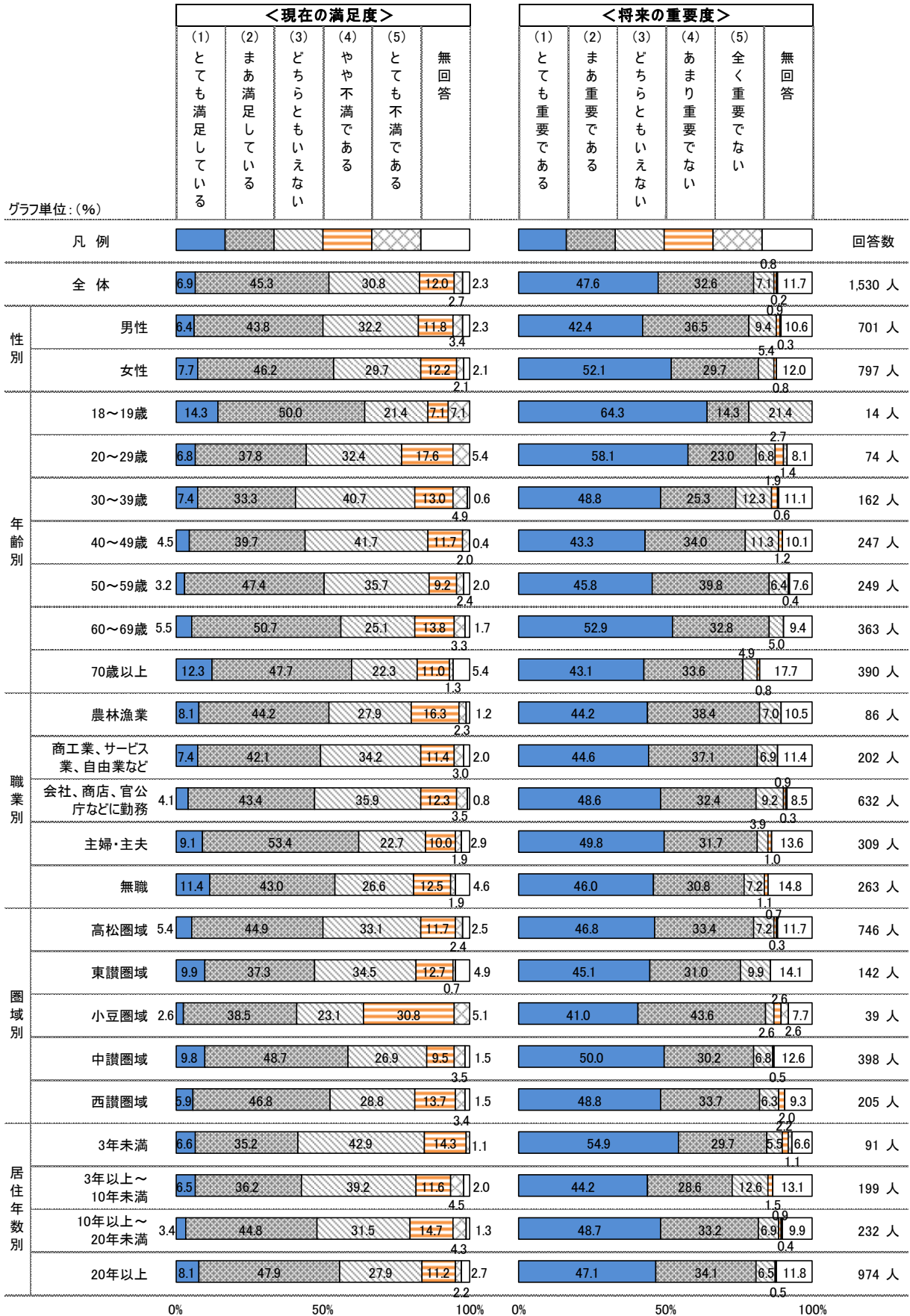
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『60～69歳』において85.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『農林漁業』において82.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において84.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において84.6%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-16 【ゴミの分別、リサイクル対策】



【地球温暖化対策（再生可能エネルギーの導入など）】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』22.4%、『女性』22.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』24.2%、『女性』20.5%となっており、『男性』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、『女性』においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『40～49歳』、『50～59歳』、『70歳以上』において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の年齢においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』を除くすべての職業で【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』、『西讃圏域』において【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『東讃圏域』、『小豆圏域』においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』を除くすべての居住年数で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

【地球温暖化対策（再生可能エネルギーの導入など）】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』72.3%、『女性』76.9%と、いずれも7割を超えている。

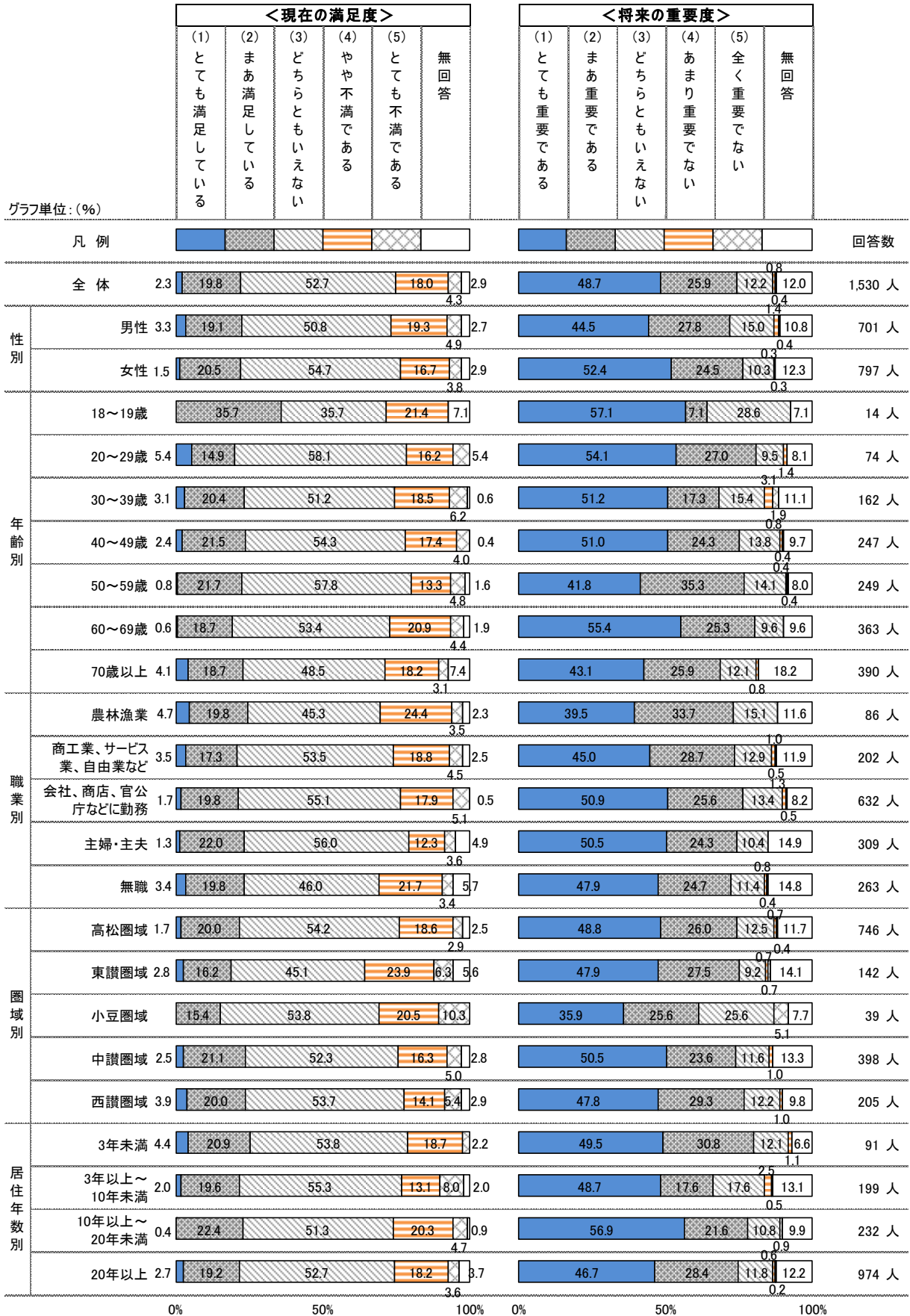
年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』、『30～39歳』、『70歳以上』を除くすべての年齢で7割を超え、『20～29歳』において81.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において76.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』を除くすべての圏域で7割を超え、『西讃圏域』において77.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で7割を超え、『3年未満』において80.3%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-17 【地球温暖化対策(再生可能エネルギーの導入など)】



【環境に関する情報提供の取り組み】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』21.1%、『女性』20.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.7%、『女性』15.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『60～69歳』を除くすべての年齢で【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『70歳以上』において【満足している】の割合が26.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『無職』において【満足している】の割合が23.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、その他の居住年数においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

【環境に関する情報提供の取り組み】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』63.3%、『女性』66.7%と、いずれも6割を超えている。

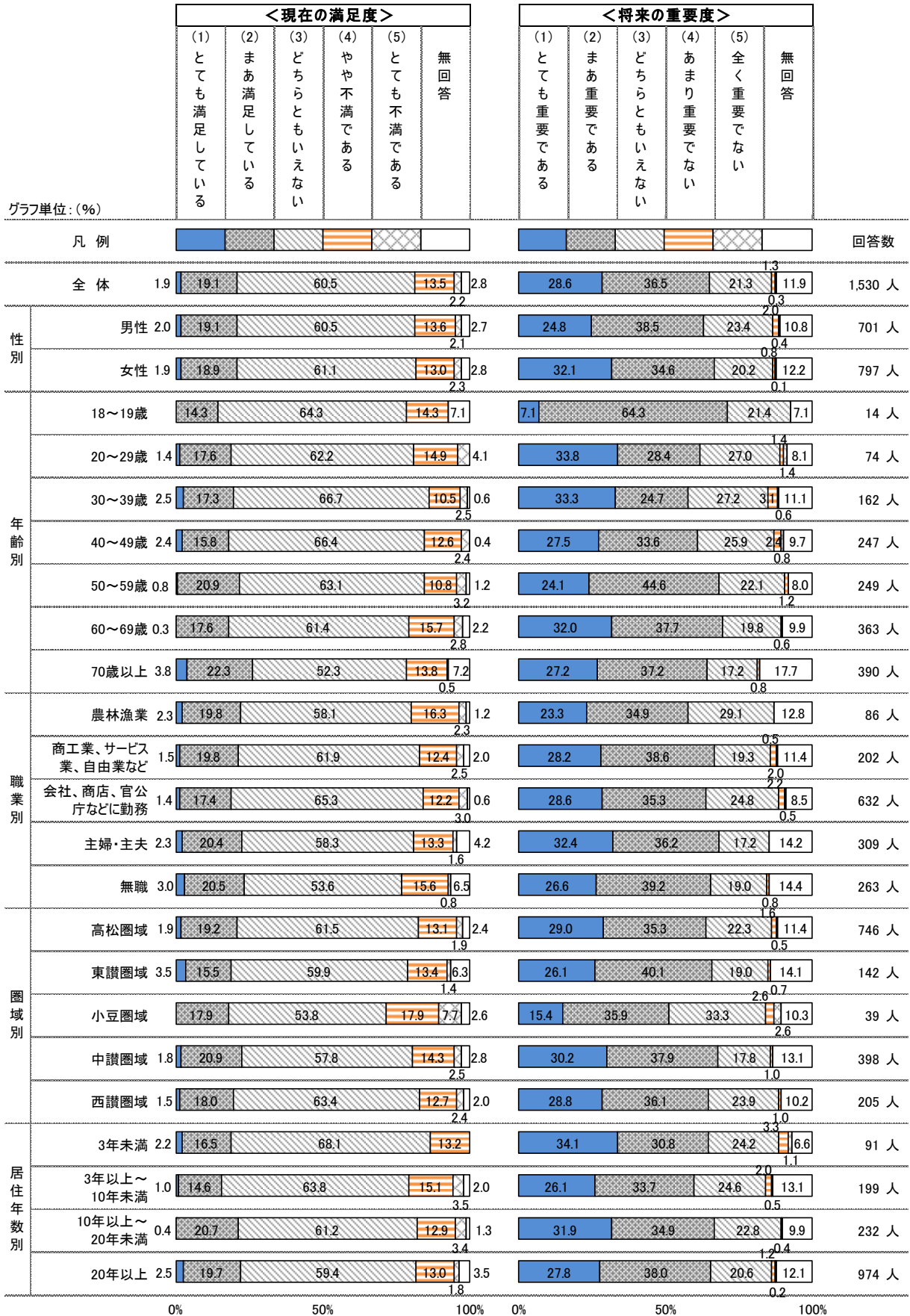
年齢別にみると、【重要である】の割合は、『30～39歳』を除くすべての年齢で6割を超え、『18～19歳』において71.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『農林漁業』を除くすべての職業で6割を超え、『主婦・主夫』において68.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』を除くすべての圏域で6割を超え、『中讃圏域』において68.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『3年以上～10年未満』を除くすべての居住年数で6割を超え、『10年以上～20年未満』において66.8%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-18 【環境に関する情報提供の取り組み】



【環境教育・環境学習機会の提供】の<現在の満足度>について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.1%、『女性』20.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.9%、『女性』13.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『18～19歳』及び『60～69歳』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、その他の年齢においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、その他の職業においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、その他の年齢においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

【環境教育・環境学習機会の提供】の<将来の重要度>について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』62.8%、『女性』65.9%と、いずれも6割を超えている。

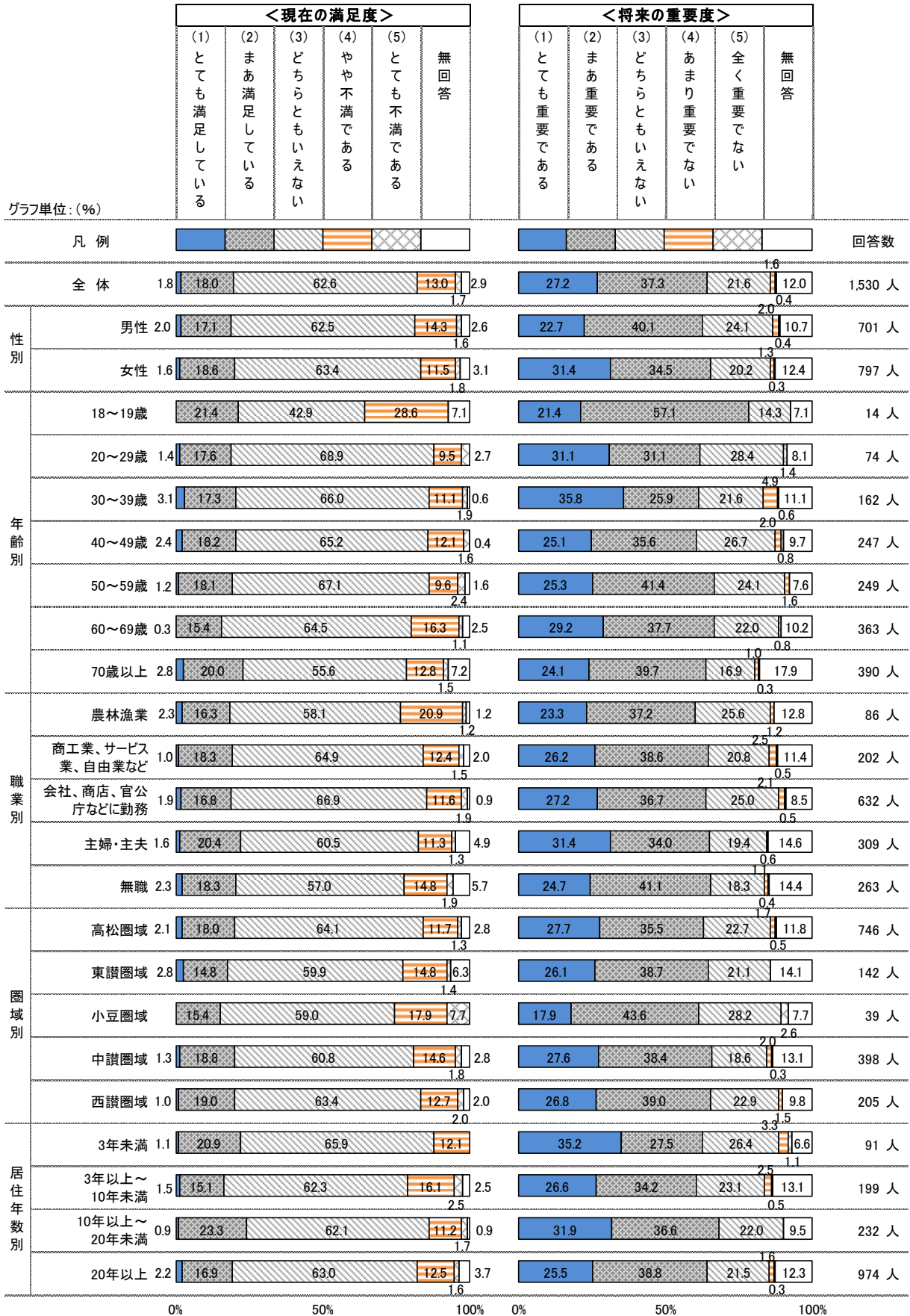
年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において78.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『無職』において65.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において66.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』において68.5%と最も高くなっている。

図表 2-(1)-19 【環境教育・環境学習機会の提供】



(2)環境に優しい行動への取り組み

問11 あなたは日常生活の中で、どの程度、環境に優しい行動をしていますか。それぞれ1～4のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】

(単位:%)

項 目		＜取り組み状況＞				
		① いつも している	② ときどき している	③ あまり して いない	④ 全く して いない	無 回 答
水質汚濁の防止	1 食器の汚れを拭き取ってから洗ったり、料理の残り油を排水口に流さないようにしている	43.6 (42.2)	33.0 (34.0)	17.8 (17.8)	4.4 (4.8)	1.2 (1.2)
	2 洗剤の使用量は適量としている	63.0 (61.5)	23.3 (24.3)	10.9 (11.3)	1.5 (1.7)	1.2 (1.2)
資源の有効利用・廃棄物の適正処理	1 買い物するときはマイバッグを持参したり、詰替商品や簡易包装の商品を購入するなど、ゴミを減らしている	28.0 (27.2)	37.3 (37.2)	23.7 (23.8)	10.1 (10.9)	0.9 (0.9)
	2 食べ物を大事にして、食べ残しなど、本来食べられるものは捨てない	53.5 (53.3)	34.5 (35.0)	9.4 (9.2)	1.3 (1.3)	1.3 (1.3)
	3 リサイクルショップやフリーマーケットを活用するなど、再利用に努めている	11.9 (12.4)	29.0 (28.8)	36.5 (35.8)	21.1 (21.5)	1.4 (1.4)
	4 市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している	85.4 (83.6)	11.0 (12.4)	1.9 (2.4)	0.7 (0.8)	1.0 (0.9)
	5 ゴミのポイ捨て(不法投棄)をしたり、家で燃やしたり(野外焼却や簡易な焼却炉での焼却)しない	63.7 (63.9)	15.6 (15.5)	7.1 (7.3)	11.8 (11.5)	1.8 (1.8)
地球温暖化の防止	1 電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている	59.5 (58.5)	30.1 (30.6)	7.6 (8.0)	1.5 (1.7)	1.3 (1.3)
	2 (家族の運転を含め)運転の際には、不必要なアイドリングや急発進を控えるなどエコドライブに努めている	64.2 (63.2)	23.9 (24.4)	7.3 (7.7)	2.1 (2.2)	2.5 (2.6)
	3 外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している	12.3 (13.2)	24.1 (23.6)	38.0 (36.7)	24.1 (24.9)	1.6 (1.6)
環境保全活動	1 地域や学校での環境美化や緑化運動に参加している	12.4 (12.1)	25.2 (24.7)	30.6 (30.4)	30.3 (31.3)	1.4 (1.4)
	2 環境に関する講座への参加や正しい知識を得よう努めている	6.4 (6.7)	22.4 (21.7)	41.2 (40.8)	28.6 (29.4)	1.4 (1.4)
	3 身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている	5.2 (5.1)	26.9 (26.3)	41.6 (41.5)	25.2 (25.9)	1.2 (1.2)

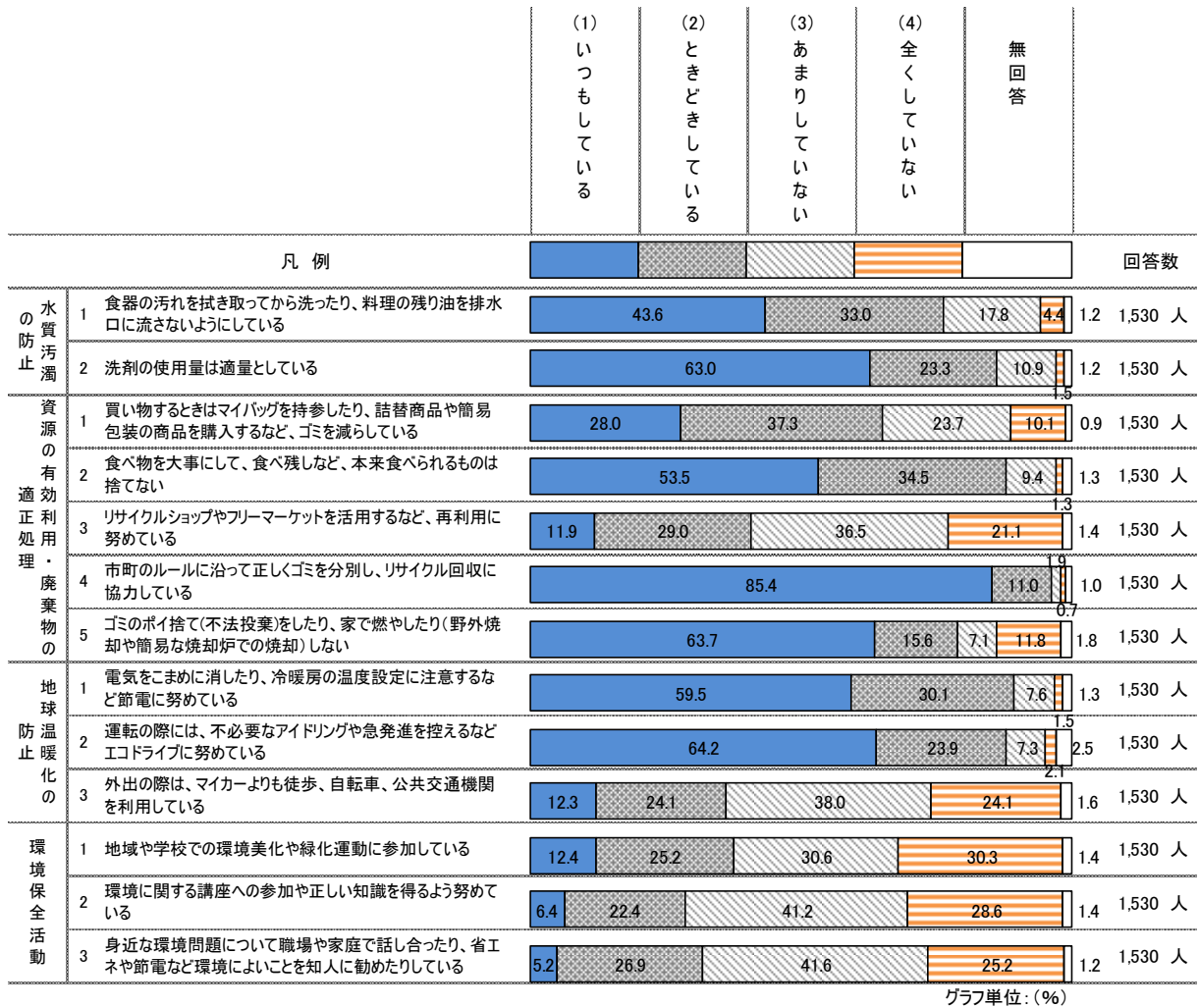
環境に優しい行動への取り組みについて、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、「市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している」96.4%が最も高く、次いで「電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている」89.6%、「(家族の運転を含め)運転の際には、不必要なアイドリングや急発進を控えるなどエコドライブに努めている」88.1%、「食べ物を大事にして、食べ残しなど、本来食べられるものは捨てない」88.0%、「洗剤の使用量は適量としている」86.3%などとなっている。

また、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、「環境に関する講座への参加や正しい知識を得るよう努めている」69.8%が最も高く、次いで「身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている」66.8%、「外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している」62.1%、「地域や学校での環境美化や緑化活動に参加している」60.9%、「リサイクルショップやフリーマーケットを活用するなど、再利用に努めている」57.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【している】の割合は、「市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している」96.0%が最も高く、次いで「電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている」89.1%、「食べ物を大事にして、食べ残しなど、本来食べられるものは捨てない」88.3%、「(家族の運転を含め)運転の際には、不必要なアイドリングや急発進を控えるなどエコドライブに努めている」87.6%、「洗剤の使用量は適量としている」85.8%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【していない】の割合は、「環境に関する講座への参加や正しい知識を得るよう努めている」70.2%が最も高く、次いで「身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている」67.4%、「地域や学校での環境美化や緑化活動に参加している」61.7%、「外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している」61.6%、「リサイクルショップやフリーマーケットを活用するなど、再利用に努めている」57.3%などとなっている。

図表 2-(2)-1 【環境に優しい行動への取り組み】



【食器の汚れを拭き取ってから洗ったり、料理の残り油を排水口に流さないようにしている】の<取り組み状況>について、

性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』66.6%、『女性』85.4%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』31.8%、『女性』13.9%となっており、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

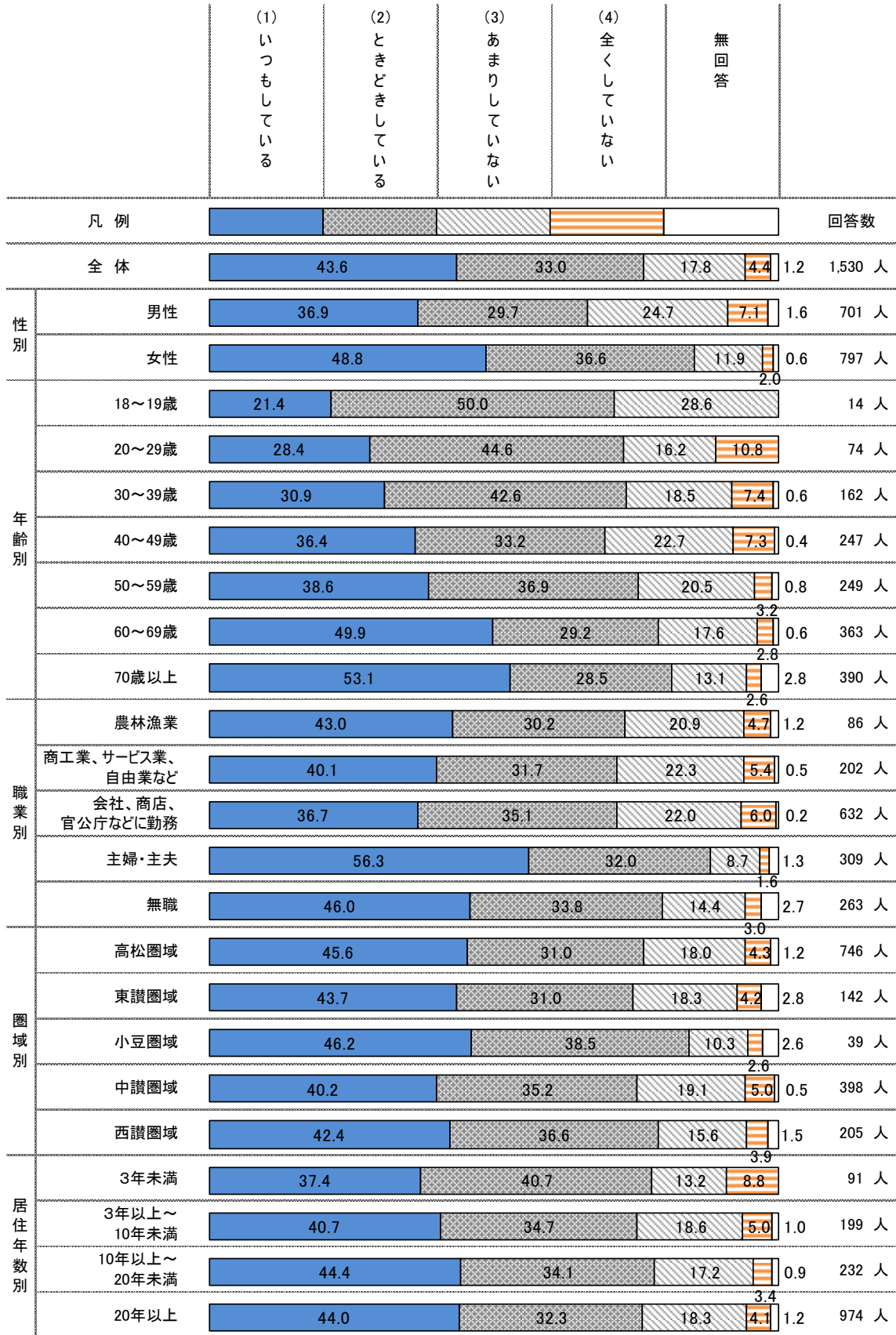
年齢別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『70歳以上』においては【している】の割合が81.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『主婦・主夫』においては【している】の割合が88.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『小豆圏域』においては【している】の割合が84.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『10年以上～20年未満』においては【している】の割合が78.5%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-2 【食器の汚れを拭き取ってから洗ったり、料理の残り油を排水口に流さないようにしている】



グラフ単位：(%)

【洗剤の使用量は適量としている】の<取り組み状況>について、

性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』83.4%、『女性』89.0%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』14.8%、『女性』10.5%となっており、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

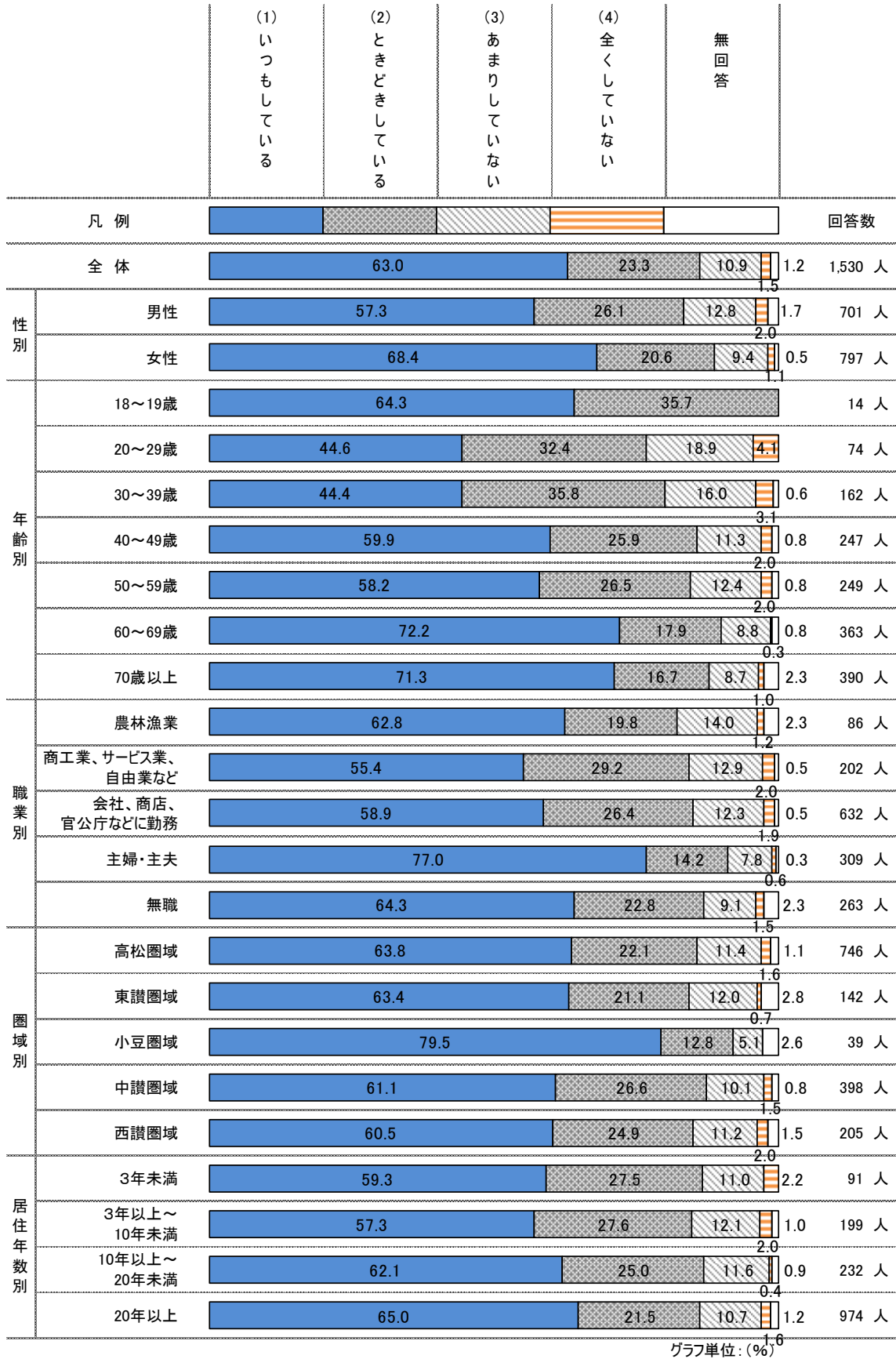
年齢別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『18～19歳』においては【している】の割合が100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『主婦・主夫』においては【している】の割合が91.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『小豆圏域』においては【している】の割合が92.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『10年以上～20年未満』においては【している】の割合が87.1%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-3 【洗剤の使用量は適量としている】



【買い物するときはマイバッグを持参したり、詰替商品や簡易包装の商品を購入するなど、ゴミを減らしている】の<取り組み状況>について、

性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』54.8%、『女性』74.4%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』43.8%、『女性』25.2%となっており、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

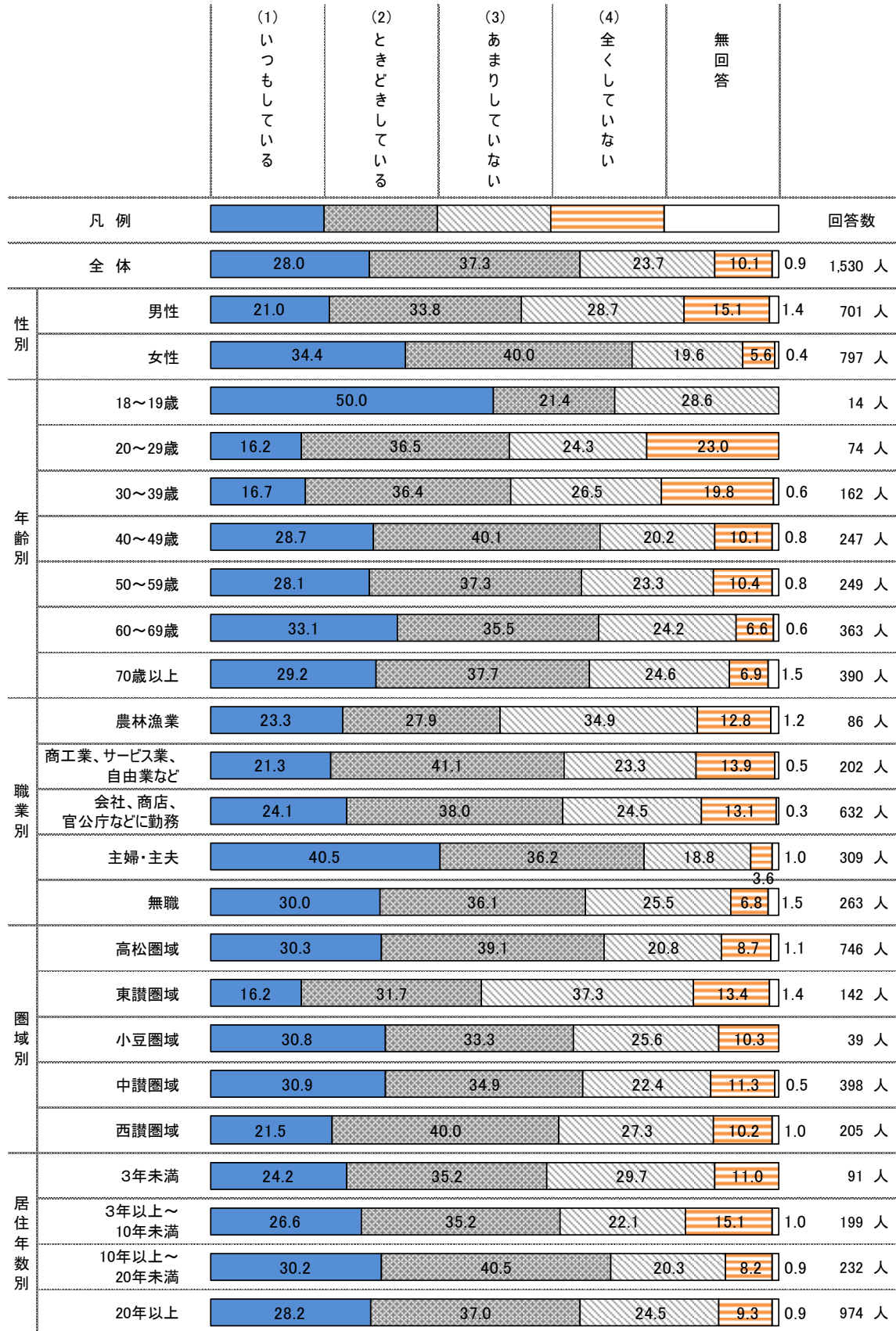
年齢別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『18～19歳』においては【している】の割合が71.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『主婦・主夫』においては【している】の割合が76.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』を除くすべての圏域において【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『高松圏域』においては【している】の割合が69.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『10年以上～20年未満』においては【している】の割合が70.7%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-4 【買い物するときはマイバッグを持参したり、詰替商品や簡易包装の商品を購入するなど、ゴミを減らしている】



グラフ単位: (%)

【食べ物を大事にして、食べ残しなど、本来食べられるものは捨てない】の<取り組み状況>について、

性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』85.8%、『女性』90.0%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』12.6%、『女性』9.2%となっており、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

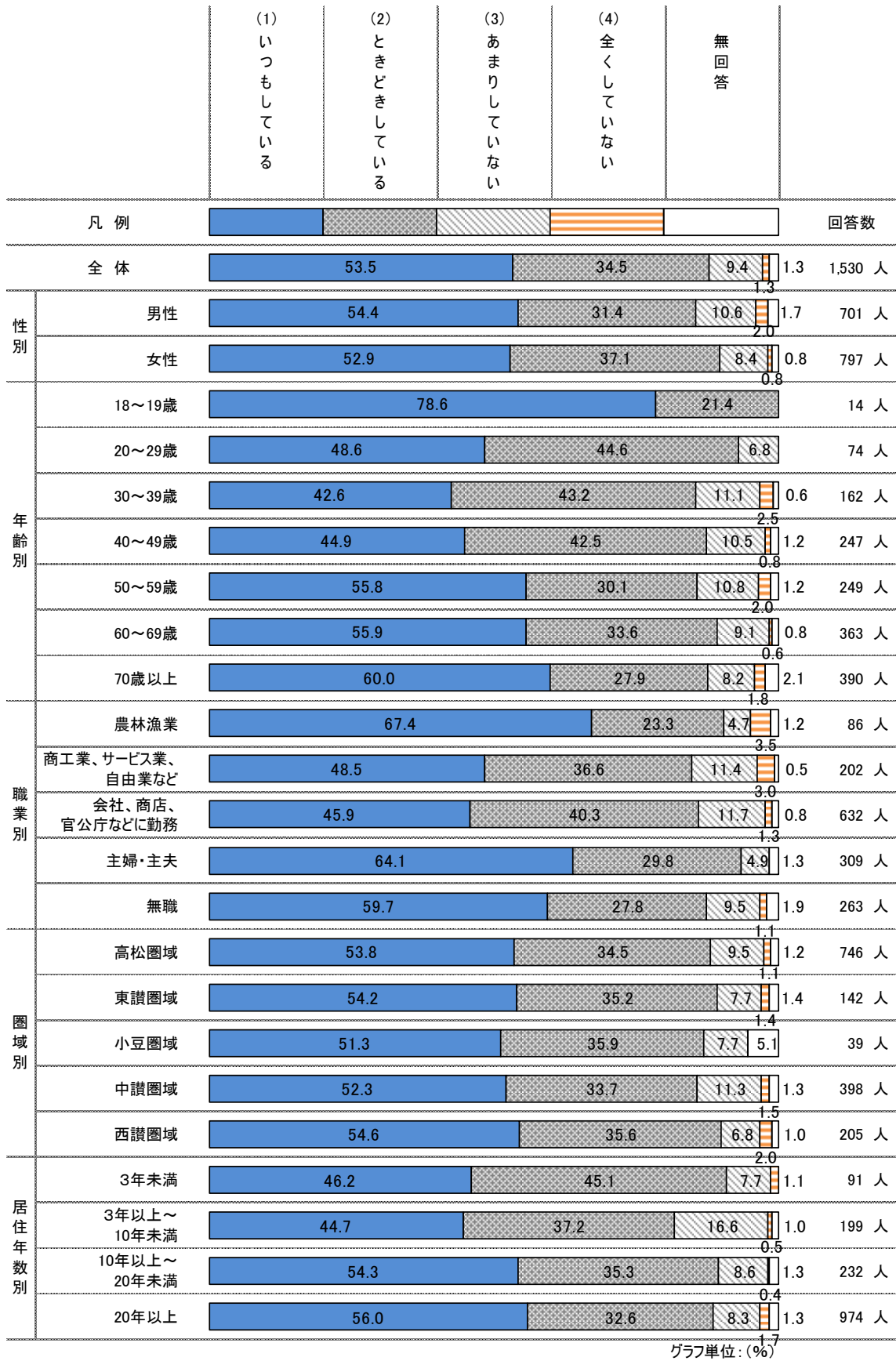
年齢別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『18～19歳』においては【している】の割合が100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『主婦・主夫』においては【している】の割合が93.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『西讃圏域』においては【している】の割合が90.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『3年未満』においては【している】の割合が91.3%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-5 【食べ物を大事にして、食べ残しなど、本来食べられるものは捨てない】



【リサイクルショップやフリーマーケットを活用するなど、再利用に努めている】の<取り組み状況>について、

性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』38.0%、『女性』44.1%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』60.4%、『女性』55.0%となっており、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回っている。

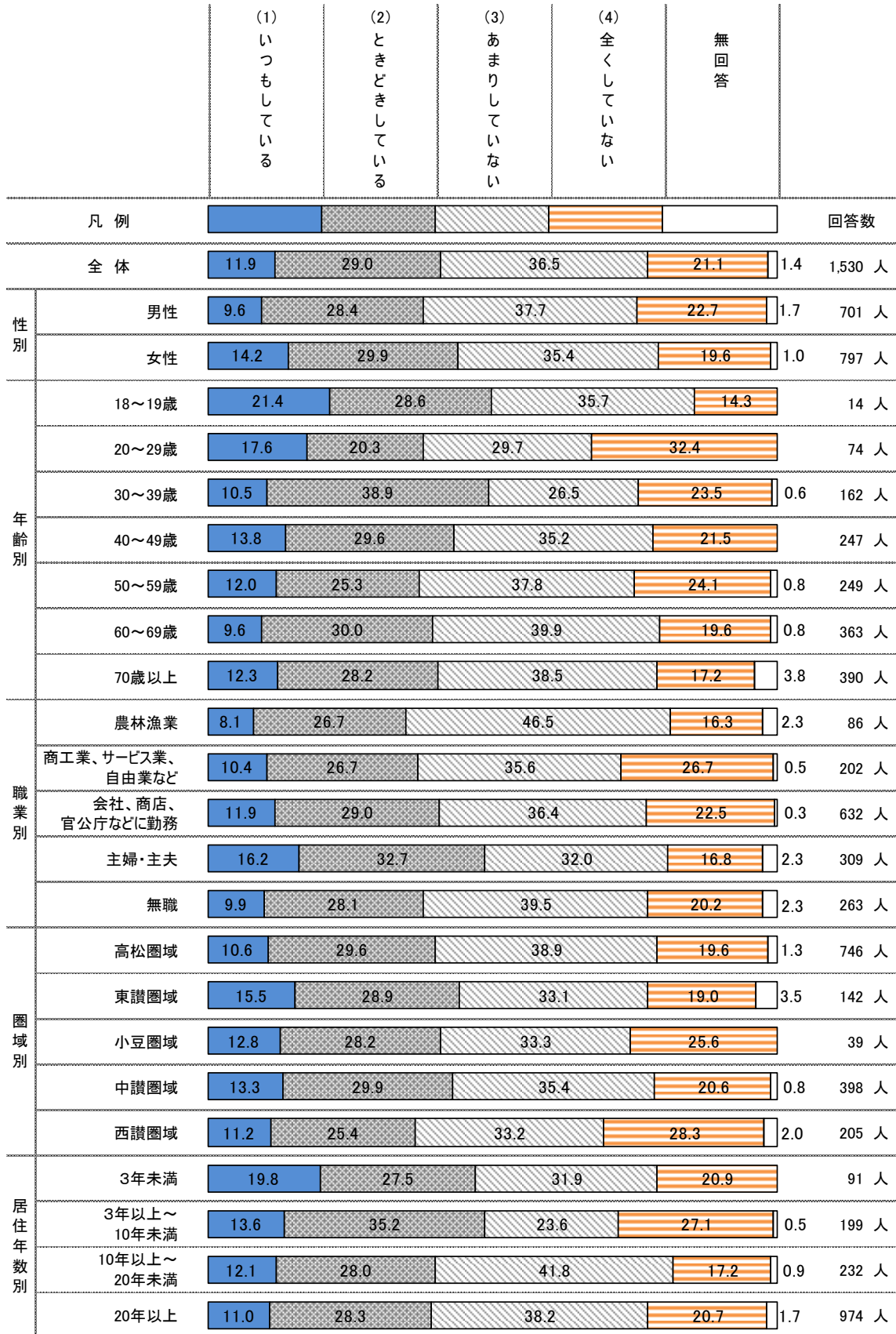
年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢において【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『20～29歳』においては【していない】の割合が62.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』を除くすべての職業において【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『農林漁業』においては【していない】の割合が62.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『西讃圏域』においては【していない】の割合が61.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『10年以上～20年未満』においては【していない】の割合が59.0%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-6 【リサイクルショップやフリーマーケットを活用するなど、再利用に努めている】



グラフ単位：(%)

【市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している】の＜取り組み状況＞について、

性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』95.2%、『女性』97.7%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』3.5%、『女性』1.9%となっており、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

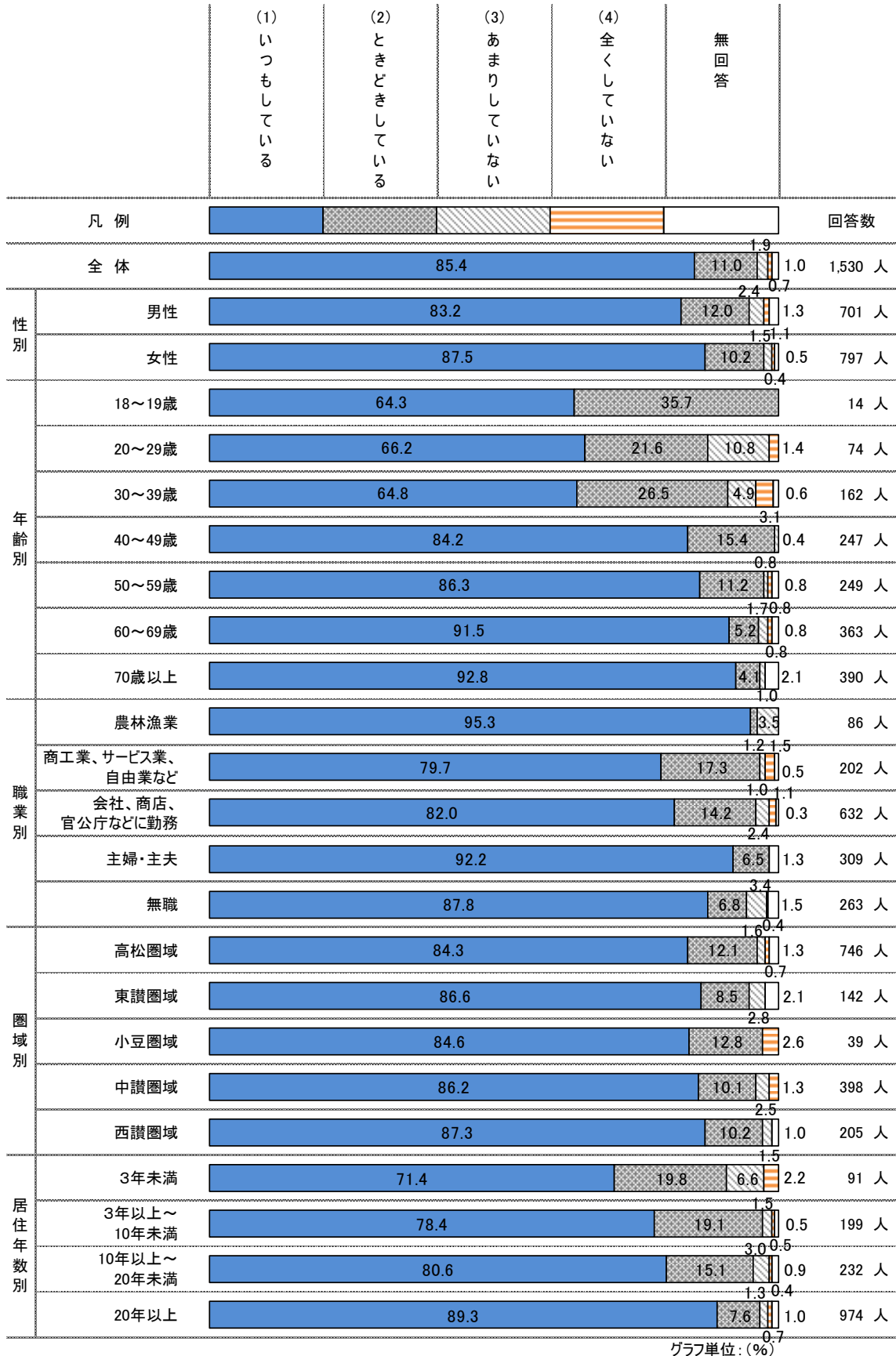
年齢別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『18～19歳』においては【している】の割合が100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『主婦・主夫』においては【している】の割合が98.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『西讃圏域』においては【している】の割合が97.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『3年以上～10年未満』においては【している】の割合が97.5%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-7 【市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している】



【ゴミのポイ捨て(不法投棄)をしたり、家で燃やしたり(野外焼却や簡易な焼却炉での焼却)しない】の<取り組み状況>について、

性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』77.1%、『女性』81.2%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』21.0%、『女性』17.4%となっており、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

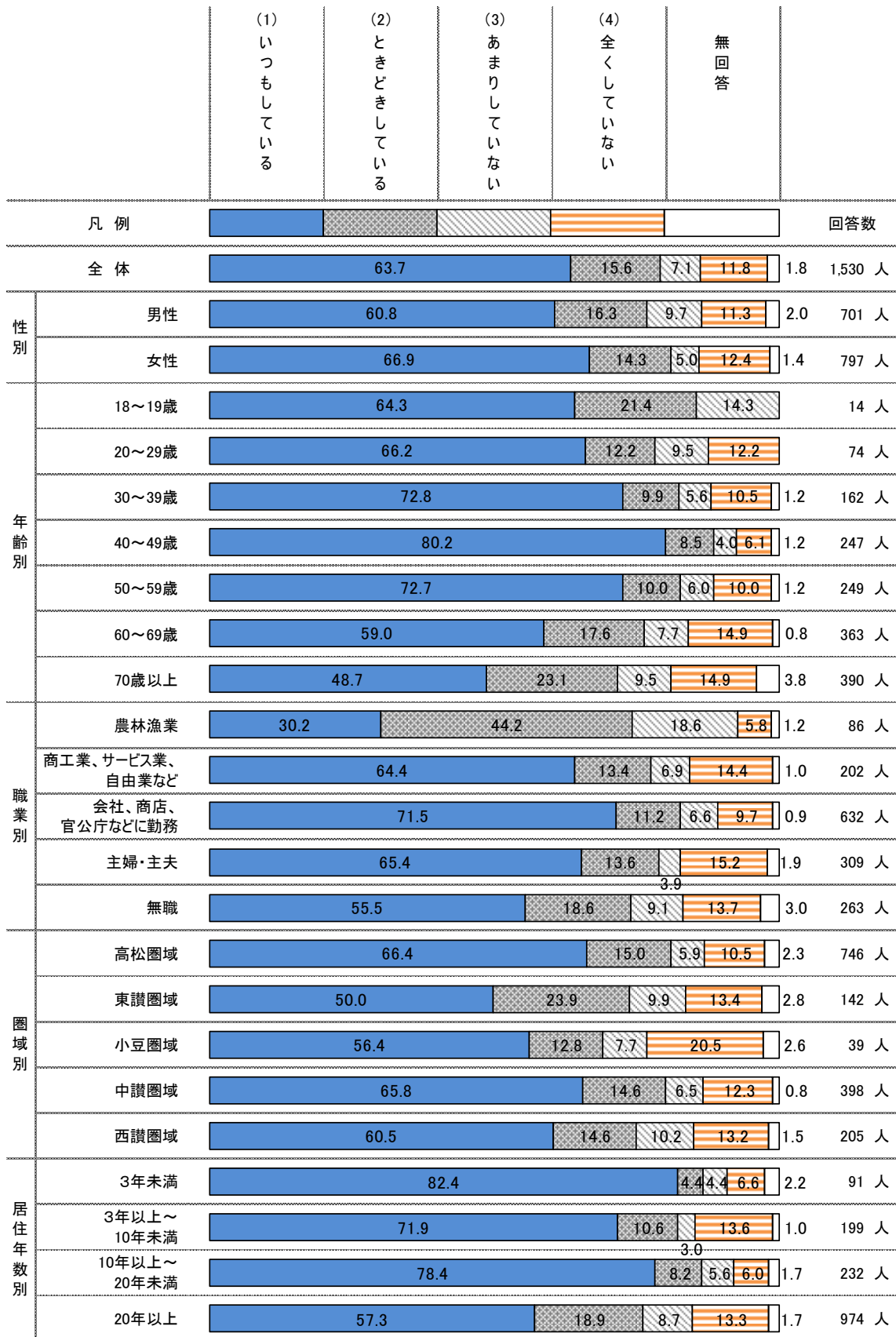
年齢別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『40～49歳』においては【している】の割合が88.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『会社、商店、官公庁などに勤務』においては【している】の割合が82.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『高松圏域』においては【している】の割合が81.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『3年未満』においては【している】の割合が86.8%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-8 【ゴミのポイ捨て(不法投棄)をしたり、家で燃やしたり(野外焼却や簡易な焼却炉での焼却)しない】



グラフ単位: (%)

【電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている】の<取り組み状況>について、

性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』87.4%、『女性』91.7%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』10.7%、『女性』7.6%となっており、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

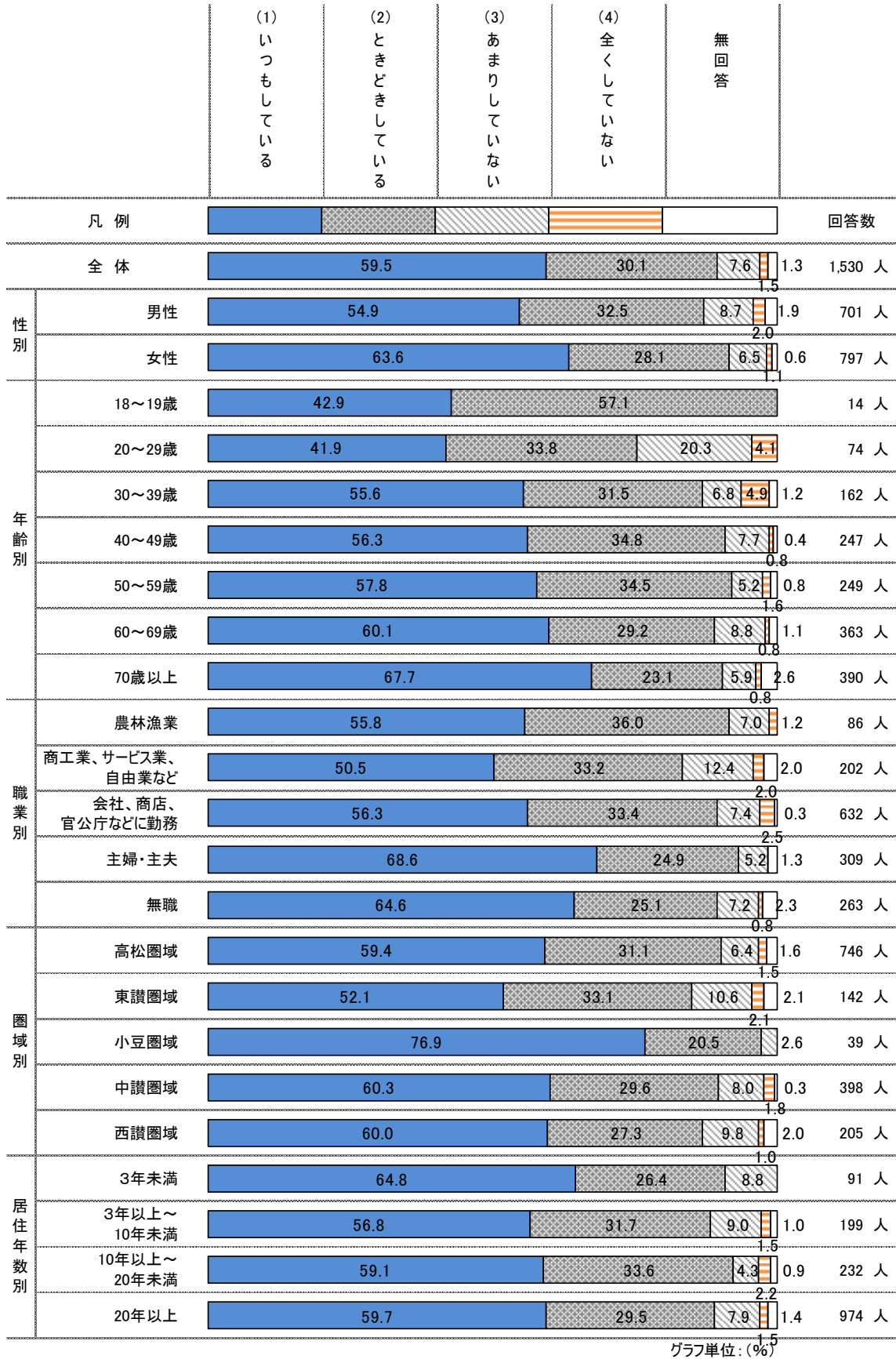
年齢別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『18～19歳』においては【している】の割合が100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『主婦・主夫』においては【している】の割合が93.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『小豆圏域』においては【している】の割合が97.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『10年以上～20年未満』においては【している】の割合が92.7%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-9 【電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている】



【(家族の運転を含め) 運転の際には、不必要なアイドリングや急発進を抑えるなどエコドライブに努めている】の<取り組み状況>について、

性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』88.5%、『女性』88.0%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』9.4%、『女性』9.3%となっており、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回っている。

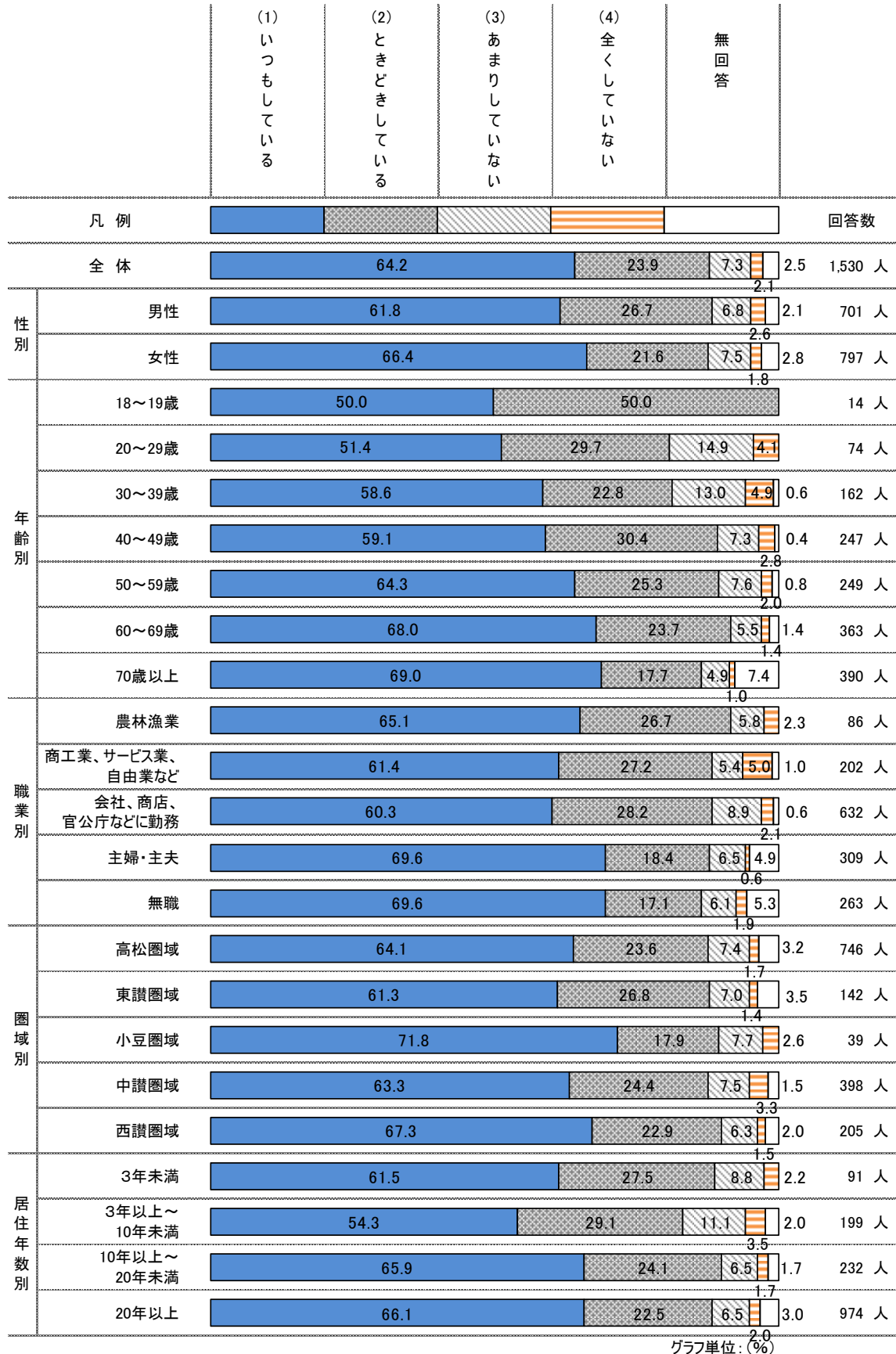
年齢別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『18～19歳』においては【している】の割合が100.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『農林漁業』においては【している】の割合が91.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『西讃圏域』においては【している】の割合が90.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【している】の割合が【していない】の割合を上回り、『10年以上～20年未満』においては【している】の割合が90.0%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-10 【(家族の運転を含め)運転の際には、不必要なアイドリングや急発進を抑えるなどエコドライブに努めている】



【外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している】の<取り組み状況>について、

性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』35.7%、『女性』36.9%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』62.6%、『女性』61.9%となっており、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回っている。

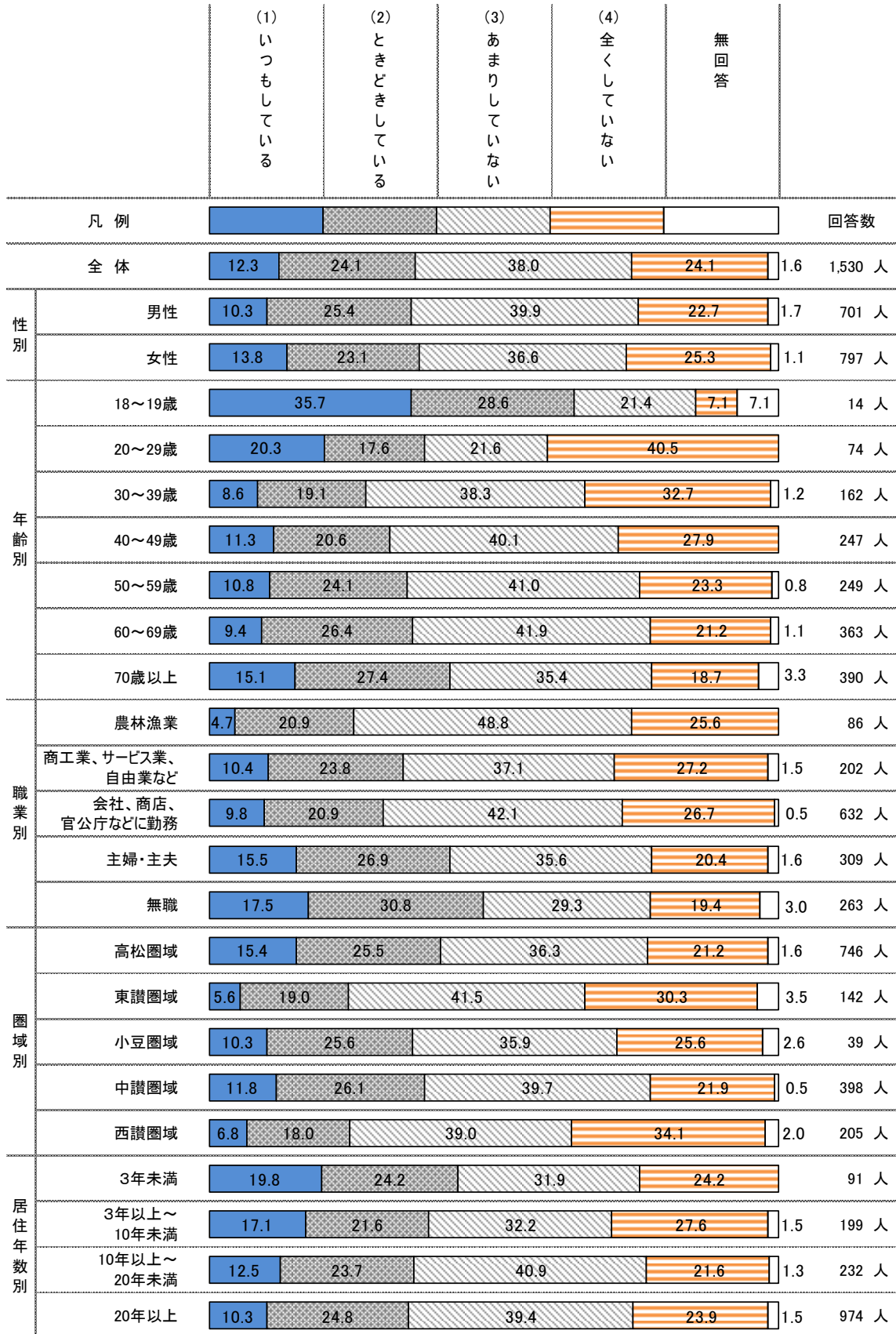
年齢別にみると、『18～19 歳』を除くすべての年齢において【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『30～39 歳』においては【していない】の割合が71.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『農林漁業』においては【していない】の割合が74.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『西讃圏域』においては【していない】の割合が73.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『20 年以上』においては【していない】の割合が63.3%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-11 【外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している】



グラフ単位：(%)

【地域や学校での環境美化や緑化運動に参加している】の<取り組み状況>について、性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』37.7%、『女性』38.0%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』60.7%、『女性』61.0%となっており、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回っている。

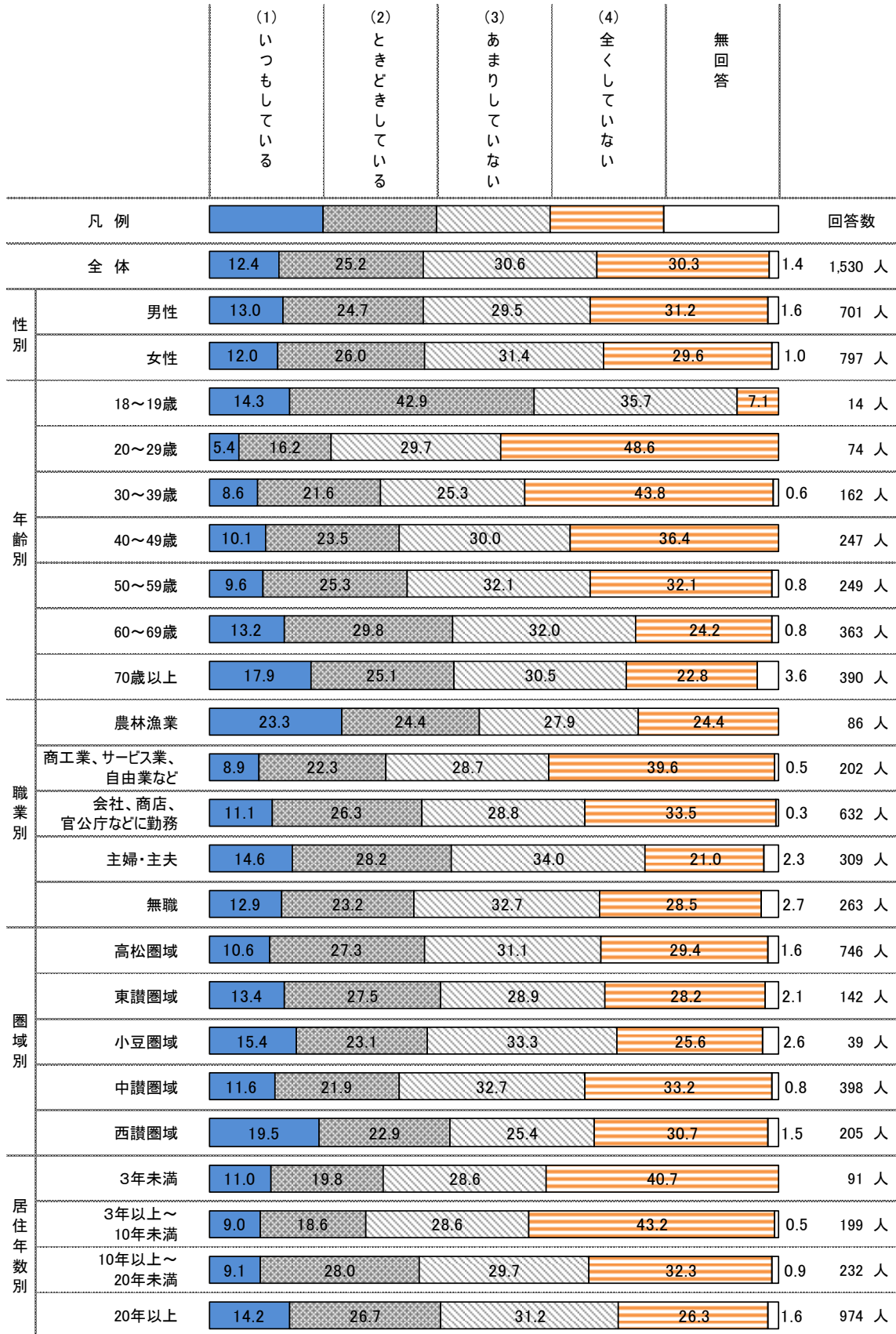
年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢において【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『20～29歳』においては【していない】の割合が78.3%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『商工業、サービス業、自由業など』においては【していない】の割合が68.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『中讃圏域』においては【していない】の割合が65.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『3年以上～10年未満』においては【していない】の割合が71.8%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-12 【地域や学校での環境美化や緑化運動に参加している】



グラフ単位：(%)

【環境に関する講座への参加や正しい知識を得るよう努めている】の<取り組み状況>について、性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』29.4%、『女性』28.3%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』68.9%、『女性』70.7%となっており、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回っている。

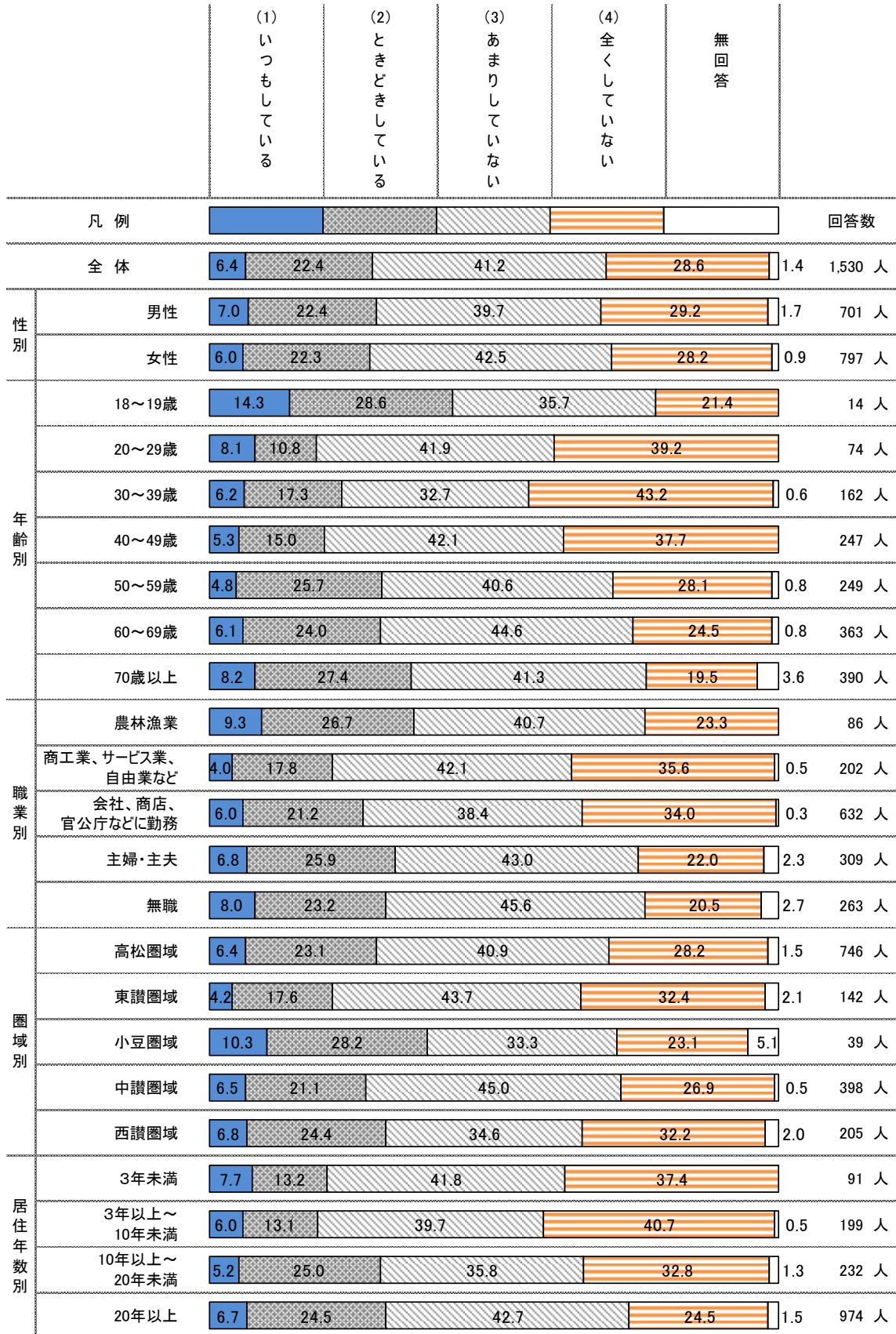
年齢別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『20～29歳』においては【していない】の割合が81.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『商工業、サービス業、自由業など』においては【していない】の割合が77.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『東讃圏域』においては【していない】の割合が76.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『3年以上～10年未満』においては【していない】の割合が80.4%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-13 【環境に関する講座への参加や正しい知識を得よう努めている】



グラフ単位：(%)

【身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている】の<取り組み状況>について、

性別にみると、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、『男性』30.1%、『女性』33.8%で、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、『男性』68.4%、『女性』65.6%となっており、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回っている。

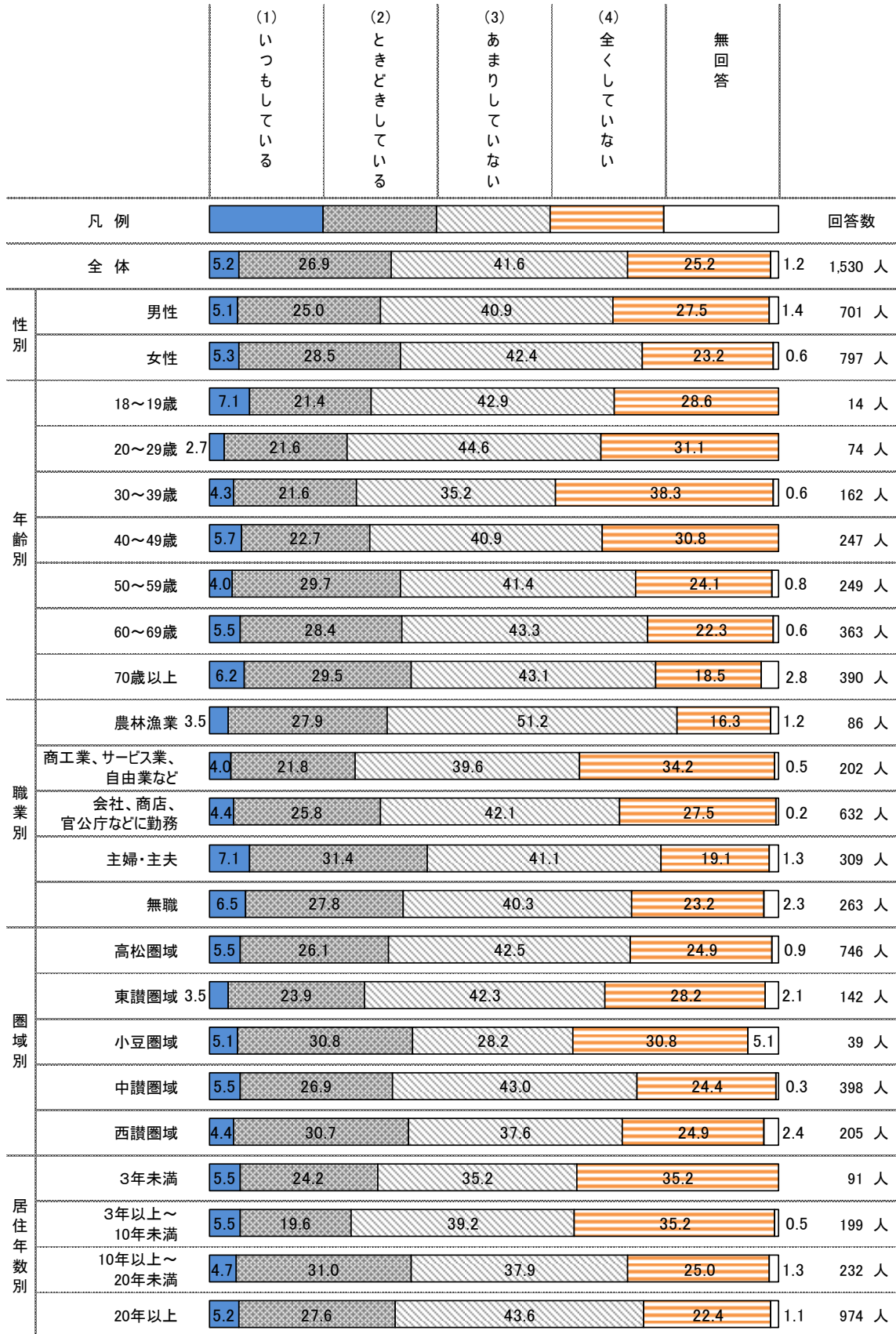
年齢別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『20～29歳』においては【していない】の割合が75.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『商工業、サービス業、自由業など』においては【していない】の割合が73.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『東讃圏域』においては【していない】の割合が70.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【していない】の割合が【している】の割合を上回り、『3年以上～10年未満』においては【していない】の割合が74.4%と最も高くなっている。

図表 2-(2)-14 【身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている】



グラフ単位：(%)

(3)地球温暖化防止のための取り組みについて

問12 地球温暖化防止のための取り組みについて、実施に賛成し、効果が高いと思われるものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1 再生可能エネルギー設備の導入促進	58.8% (59.5%)
2 省エネ・節電行動の一層の促進	51.2% (50.8%)
3 電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進	50.2% (50.6%)
4 CO2(二酸化炭素)吸収源対策としての植栽や間伐など森林整備の推進	49.5% (49.7%)
5 地球温暖化に関するわかりやすい情報の提供	37.2% (36.5%)
6 地球温暖化防止に関する環境学習の充実	21.6% (21.6%)
7 その他	1.1% (1.1%)
(無回答)	1.7% (1.7%)

地球温暖化防止のための取り組みについて、「再生可能エネルギー設備の導入促進」58.8%が最も高く、次いで「省エネ・節電行動の一層の促進」51.2%、「電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進」50.2%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「再生可能エネルギー設備の導入促進」59.5%が最も高く、次いで「省エネ・節電行動の一層の促進」50.8%、「電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進」50.6%などとなっている。

図表 2-(3)-1 地球温暖化防止のための取り組みについて

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) 再生可能エネルギー設備の導入促進	58.8	900 人
(2) 省エネ・節電行動の一層の促進	51.2	783 人
(3) 電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進	50.2	768 人
(4) CO2(二酸化炭素)吸収源対策としての植栽や間伐など森林整備の推進	49.5	757 人
(5) 地球温暖化に関するわかりやすい情報の提供	37.2	569 人
(6) 地球温暖化防止に関する環境学習の充実	21.6	330 人
(7) その他	1.1	17 人
無回答	1.7	26 人

グラフ単位:(%)

地球温暖化防止のための取り組みについて、

性別にみると、『男性』では「再生可能エネルギー設備の導入促進」62.5%が最も高く、『女性』では「省エネ・節電行動の一層の促進」56.0%が最も高くなっている。これに『男性』では「電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進」54.4%、『女性』では「再生可能エネルギー設備の導入促進」55.7%で続いている。

年齢別にみると、『70歳以上』では「省エネ・節電行動の一層の促進」60.3%が最も高く、そのほかの年齢では「再生可能エネルギー設備の導入促進」が5～7割台で最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』では「省エネ・節電行動の一層の促進」57.0%が最も高く、そのほかの職業では「再生可能エネルギー設備の導入促進」が5～6割台で最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』、『西讃圏域』では「省エネ・節電行動の一層の促進」が5割台で最も高く、そのほかの圏域では「再生可能エネルギー設備の導入促進」が5～6割台で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「再生可能エネルギー設備の導入促進」、「電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進」が同率の60.4%で最も高く、そのほかの居住年数では「再生可能エネルギー設備の導入促進」が5～6割台で最も高くなっている。

図表 2-(3)-2 【地球温暖化防止のための取り組みについて】

【表の見方】 単位＝比率(%)	全体 (人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答	
		の再生可能エネルギー設備の導入促進	の省エネ・節電行動の一層の促進	電気自動車や省エネルギー設備などの導入促進	CO2削減策として森林整備の推進や吸収源対策など	地球温暖化に関する情報の提供やわか	地球温暖化防止に関する	その他		
全体	1,530	58.8	51.2	50.2	49.5	37.2	21.6	1.1	1.7	
性別	男性	701	62.5	46.1	54.4	50.9	34.7	18.0	1.6	2.4
	女性	797	55.7	56.0	46.5	48.8	39.3	24.6	0.6	1.0
年齢別	18～19歳	14	71.4	64.3	64.3	50.0	14.3	21.4	-	-
	20～29歳	74	66.2	45.9	45.9	62.2	33.8	25.7	1.4	-
	30～39歳	162	60.5	44.4	58.6	55.6	21.6	24.7	1.9	2.5
	40～49歳	247	63.6	38.9	58.3	49.8	32.0	21.5	1.6	0.8
	50～59歳	249	57.4	47.8	54.2	50.2	32.5	21.3	1.2	0.4
	60～69歳	363	56.5	56.2	44.4	54.0	40.8	23.4	0.8	1.1
	70歳以上	390	56.4	60.3	44.9	40.8	47.7	17.7	0.5	3.6
職業別	農林漁業	86	62.8	55.8	51.2	44.2	44.2	16.3	1.2	1.2
	商工業、サービス業、自由業など	202	56.9	50.0	50.5	55.9	34.2	21.8	1.0	1.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	60.8	47.0	54.9	52.4	30.7	22.2	1.4	0.9
	主婦・主夫	309	54.7	57.0	41.4	45.6	42.7	25.9	0.6	1.9
	無職	263	60.1	55.1	49.0	46.0	46.0	16.7	0.8	2.7
圏域別	高松圏域	746	61.4	48.8	52.5	52.5	35.8	23.1	0.5	1.2
	東讃圏域	142	61.3	56.3	47.9	38.7	41.5	19.0	0.7	1.4
	小豆圏域	39	53.8	56.4	38.5	53.8	51.3	12.8	-	2.6
	中讃圏域	398	55.3	50.0	46.5	51.3	37.4	21.6	1.5	2.3
	西讃圏域	205	55.6	57.6	52.7	41.5	36.1	19.5	2.9	2.4
	居住年数別	3年未満	91	60.4	37.4	60.4	54.9	24.2	31.9	1.1
3年以上～10年未満	199	62.3	42.7	57.8	49.2	31.2	20.1	1.5	2.0	
10年以上～20年未満	232	59.1	47.8	54.7	52.6	35.8	22.4	1.3	0.4	
20年以上	974	58.1	55.1	46.6	48.8	39.8	20.6	0.9	2.1	

(4) 森林整備と都市緑化のための取り組みについて

問13 森林整備と都市緑化のための取り組みについて、実施に賛成し、効果が高いと思われるものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】 ※回答数の多い順に並び替え

1	間伐など森林を守り育てる森林整備の推進	62.7% (62.6%)
2	手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進	60.8% (59.5%)
3	森林整備の担い手の育成・確保	40.6% (40.7%)
4	都市公園や森林公園などの適切な整備・管理	27.6% (27.6%)
5	公共施設などにおける県産木材の利用促進	19.1% (19.3%)
6	保安林（水源かん養機能などが指定されている森林）などの適切な管理・保全	18.2% (18.3%)
7	ボランティア・企業などの参加による県民総参加の森づくりの推進	16.5% (16.7%)
8	建物の屋上や壁面に植物を植えるなど緑化の推進	14.4% (15.5%)
9	県産木材で作った製品などの積極的なPRと情報の提供	11.6% (11.7%)
10	その他	0.4% (0.4%)
	(無回答)	2.5% (2.6%)

森林整備と都市緑化のための取り組みについて、「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」62.7%が最も高く、次いで「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」60.8%、「森林整備の担い手の育成・確保」40.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」62.6%が最も高く、次いで「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」59.5%、「森林整備の担い手の育成・確保」40.7%などとなっている。

図表 2-(4)-1 森林整備と都市緑化のための取り組みについて

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) 間伐など森林を守り育てる森林整備の推進	62.7	960 人
(2) 手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進	60.8	931 人
(3) 森林整備の担い手の育成・確保	40.6	621 人
(4) 都市公園や森林公園などの適切な整備・管理	27.6	423 人
(5) 公共施設などにおける県産木材の利用促進	19.1	292 人
(6) 保安林(水源かん養機能などが指定されている森林)などの適切な管理・保全	18.2	278 人
(7) ボランティア・企業などの参加による県民総参加の森づくりの推進	16.5	252 人
(8) 建物の屋上や壁面に植物を植えるなど緑化の推進	14.4	220 人
(9) 県産木材で作った製品などの積極的なPRと情報の提供	11.6	178 人
(10) その他	0.4	6 人
無回答	2.5	39 人

グラフ単位:(%)

森林整備と都市緑化のための取り組みについて、

性別にみると、男女とも「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が最も高く、『男性』64.3%、『女性』61.0%で、これに「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が『男性』61.9%、『女性』60.4%で続いている。

年齢別にみると、『50～59歳』、『60～69歳』では「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が6割台で最も高く、そのほかの年齢では「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が5～6割台で最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」、「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が同率の64.0%で高く、『商工業、サービス業、自由業など』では「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が6割台で最も高く、そのほかの職業では「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が6割台で最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』では「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が6割台で最も高く、そのほかの圏域では「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が6割台で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」が64.7%で最も高く、そのほかの居住年数では「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」が5～6割台で最も高くなっている。

図表 2-(4)-2 【森林整備と都市緑化のための取り組みについて】

【表の見方】 単位=比率(%)	全体 (人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	無回答	
		林整備の推進	間伐など森林を守り育てる森林や広葉樹林などの資源活用などの推進	手入れが行き届いていない竹	森林整備の担い手の育成・確保	都市公園や森林公園などの適切な整備・管理	公共施設などにおける県産木材の利用促進	保安林(水源かん養機能などが指定されている森林)などの適切な管理・保全	ボランティア・企業などの参加による県民総参加の森づくりの推進	建物の屋上や壁面に植物を植えるなど緑化の推進	県産木材で作った製品などの積極的なPRと情報の提供		その他
全体	1,530	62.7	60.8	40.6	27.6	19.1	18.2	16.5	14.4	11.6	0.4	2.5	
性別	男性	701	64.3	61.9	42.2	29.2	17.5	20.7	13.7	12.1	11.7	0.4	2.9
	女性	797	61.0	60.4	39.5	26.9	20.6	15.9	19.2	16.2	11.2	0.3	2.1
年齢別	18～19歳	14	57.1	50.0	50.0	28.6	21.4	14.3	21.4	28.6	7.1	-	7.1
	20～29歳	74	60.8	50.0	39.2	25.7	20.3	23.0	25.7	25.7	14.9	-	-
	30～39歳	162	60.5	48.1	38.9	30.9	17.3	17.3	16.0	26.5	12.3	-	2.5
	40～49歳	247	59.1	57.5	44.5	29.6	17.0	17.0	14.2	19.0	8.5	0.8	1.2
	50～59歳	249	59.4	60.2	44.6	29.3	16.5	21.7	17.3	12.4	10.0	-	0.8
	60～69歳	363	63.9	68.6	38.6	26.7	18.2	17.1	19.3	10.5	12.7	0.6	2.5
	70歳以上	390	66.7	64.6	38.7	26.4	23.6	17.2	13.6	8.2	12.1	0.3	4.9
職業別	農林漁業	86	64.0	64.0	33.7	24.4	25.6	25.6	14.0	9.3	17.4	-	1.2
	商工業、サービス業、自由業など	202	60.4	61.9	43.1	22.8	21.3	19.8	18.3	16.3	9.4	-	4.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	61.2	59.3	41.9	30.5	15.8	18.7	15.2	17.7	10.8	0.5	1.6
	主婦・主夫	309	64.1	63.1	40.8	24.9	19.7	12.3	19.4	12.9	11.0	0.3	2.3
	無職	263	65.4	62.4	39.5	30.8	22.4	20.2	16.3	7.6	13.3	0.4	3.4
圏域別	高松圏域	746	64.1	58.8	40.1	30.4	19.3	18.5	17.4	15.7	11.3	0.3	1.5
	東讃圏域	142	62.7	66.2	36.6	23.9	17.6	17.6	16.2	10.6	13.4	-	4.9
	小豆圏域	39	53.8	64.1	41.0	25.6	15.4	25.6	15.4	15.4	-	-	7.7
	中讃圏域	398	61.3	59.3	41.5	26.4	18.8	16.1	17.3	14.6	12.6	0.5	3.5
	西讃圏域	205	62.4	66.8	43.4	22.9	20.5	20.0	11.7	11.7	12.2	1.0	2.0
居住年数別	3年未満	91	60.4	57.1	37.4	30.8	17.6	19.8	18.7	22.0	8.8	-	-
	3年以上～10年未満	199	57.8	52.8	39.7	33.7	18.1	17.6	18.1	20.1	10.6	0.5	3.0
	10年以上～20年未満	232	61.2	54.7	43.1	25.9	18.1	18.5	17.2	19.8	13.4	1.3	1.3
	20年以上	974	64.0	64.7	40.9	27.0	19.7	18.1	16.0	11.0	11.4	0.1	2.9

(5)ごみの軽量化・リサイクルの推進のための取り組みについて

問14 ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて、実施に賛成し、効果が高いと思われるものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1	ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み	60.3% (60.0%)
2	スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化	40.7% (41.2%)
3	学校や地域における環境学習の充実	36.0% (36.5%)
4	不法投棄の監視・通報体制の充実	32.5% (32.2%)
5	市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し（可燃ごみから資源ごみへの変更など）	32.1% (31.2%)
6	広報の充実など県民全体への意識啓発や情報提供の強化	27.9% (27.4%)
7	デポジット制度の導入など生産者による積極的資源回収の仕組みづくり	21.3% (22.1%)
8	地域による環境美化（クリーン作戦など）	18.3% (18.5%)
9	その他	1.3% (1.3%)
	(無回答)	1.9% (1.9%)

ごみの軽量化・リサイクルの推進のための取り組みについて、「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」60.3%が最も高く、次いで「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」40.7%、「学校や地域における環境学習の充実」36.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」60.0%が最も高く、次いで「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」41.2%、「学校や地域における環境学習の充実」36.5%などとなっている。

図表 2-(5)-1 ごみの軽量化・リサイクルの推進のための取り組みについて

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み	60.3	923 人
(2) スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化	40.7	622 人
(3) 学校や地域における環境学習の充実	36.0	551 人
(4) 不法投棄の監視・通報体制の充実	32.5	497 人
(5) 市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し(可燃ごみから資源ごみへの変更など)	32.1	491 人
(6) 広報の充実など県民全体への意識啓発や情報提供の強化	27.9	427 人
(7) デポジット制度の導入など生産者による積極的資源回収の仕組みづくり	21.3	326 人
(8) 地域による環境美化(クリーン作戦など)	18.3	280 人
(9) その他	1.3	20 人
無回答	1.9	29 人

グラフ単位:(%)

ごみの軽量化・リサイクルの推進のための取り組みについて、

性別にみると、男女とも「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が最も高く、『男性』59.5%、『女性』61.6%で、これに『男性』では「学校や地域における環境学習の充実」36.5%、『女性』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」46.0%で続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』では「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」、「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が同率の 50.0%で高く、そのほかの年齢では「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が 5～6 割台と最も高く、これに『20～29 歳』、『60 歳以上』では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が、そのほかの年齢では「学校や地域における環境学習の充実」が続いている。

職業別にみると、「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が 5～6 割台と最も高く、これに『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「学校や地域における環境学習の充実」が、そのほかの職業では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が続いている。

圏域別にみると、「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が 5～6 割台と最も高く、これに「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が 3～4 割台で続いている。

居住年数別にみると、「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」が5～6割台と最も高く、これに『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「学校や地域における環境学習の充実」が、そのほかの居住年数別では「スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化」が続いている。

図表 2-(5)-2 【ごみの軽量化・リサイクルの推進のための取り組みについて】

【表の見方】 単位=比率(%)		(1) ごみの削減などを重点化した取 り組み	(2) スーパーでの買い物袋持参の 協力呼びかけや包装の簡素化	(3) 学校や地域における環境学習 の充実	(4) 不法投棄の監視・通報体制の 充実	(5) 市町でのごみの分別方法や処理 方法の見直し(可燃ごみから資 源ごみへの変更など)	(6) 広報の充実など県民全体への 意識啓発や情報提供の強化	(7) 産者による積極的資源回収の 仕組みづくり	(8) 地域による環境美化(クリー ン作戦など)	(9) その他	無回 答	
全体	1,530	60.3	40.7	36.0	32.5	32.1	27.9	21.3	18.3	1.3	1.9	
性別	男性	701	59.5	34.1	36.5	35.4	31.5	30.8	20.5	18.8	1.3	2.6
	女性	797	61.6	46.0	35.5	29.5	32.9	25.5	22.0	17.9	1.4	1.1
年齢別	18～19歳	14	50.0	50.0	42.9	28.6	21.4	28.6	28.6	14.3	-	-
	20～29歳	74	54.1	45.9	36.5	27.0	25.7	21.6	33.8	27.0	1.4	-
	30～39歳	162	57.4	42.0	51.2	35.2	24.7	20.4	21.6	15.4	0.6	1.9
	40～49歳	247	64.0	36.0	40.1	34.8	28.7	23.5	25.9	10.9	2.8	1.2
	50～59歳	249	58.2	32.9	38.6	33.7	31.3	29.7	24.1	13.7	1.6	-
	60～69歳	363	59.8	42.1	32.5	32.5	38.0	28.9	17.6	22.0	1.4	1.4
	70歳以上	390	63.6	44.4	28.2	29.2	34.6	33.1	17.2	22.3	0.5	4.1
職業別	農林漁業	86	62.8	40.7	29.1	33.7	41.9	37.2	17.4	14.0	2.3	1.2
	商工業、サービス業、 自由業など 会社、商店、官公庁 などに勤務	202	61.9	37.1	40.6	35.6	34.2	19.3	21.3	19.3	1.5	2.5
	主婦・主夫	632	60.1	37.7	39.4	33.1	30.9	28.3	22.2	16.1	1.7	0.8
	無職	309	57.9	49.2	35.3	27.5	31.1	25.6	21.0	20.4	1.0	1.6
圏域別	無職	263	63.9	39.5	28.1	32.7	32.3	33.8	21.3	22.1	0.4	3.4
	高松圏域	746	61.9	39.5	36.2	34.6	31.6	28.3	21.6	19.3	0.8	1.6
	東讃圏域	142	62.7	38.7	30.3	28.9	32.4	29.6	21.8	21.1	2.1	1.4
	小豆圏域	39	51.3	48.7	41.0	35.9	28.2	20.5	25.6	12.8	2.6	2.6
	中讃圏域	398	60.3	40.7	38.7	31.4	29.4	26.9	21.1	15.1	1.5	2.5
西讃圏域	205	54.6	44.4	33.2	28.8	39.5	28.8	19.5	20.0	2.0	2.0	
居住年数別	3年未満	91	63.7	40.7	41.8	28.6	26.4	24.2	31.9	16.5	1.1	-
	3年以上～10年未満	199	57.3	42.7	43.2	36.7	23.1	23.1	24.1	13.1	3.5	1.5
	10年以上～20年未満	232	59.9	42.2	38.8	31.9	30.2	25.0	23.7	17.7	0.9	0.9
	20年以上	974	61.2	39.5	33.3	31.7	35.2	30.1	19.2	19.8	1.0	2.3

(6)生物多様性の保全の取り組みについて

問15 生物多様性の保全の取り組みについて、実施に賛成し、効果が高いと思われるものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1	身近な自然（里地・里山・里海）の保全	69.4% (68.6%)
2	農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理	67.3% (66.7%)
3	絶滅のおそれのある野生動植物の保護	46.7% (48.5%)
4	アライグマやヌートリアなど生態系や人間生活に影響を与える外来生物の防除	44.8% (44.5%)
5	自然観察会など生物多様性について理解を深めるための普及啓発活動	17.5% (17.1%)
6	生物多様性に関する活動を行っている団体などへの支援	16.5% (16.6%)
7	その他	0.5% (0.5%)
	(無回答)	2.4% (2.4%)

生物多様性の保全の取り組みについて、「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」69.4%が最も高く、次いで「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」67.3%、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」46.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」68.6%が最も高く、次いで「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」66.7%、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」48.5%などとなっている。

図表 2-(6)-1 生物多様性の保全の取り組みについて

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) 身近な自然(里地・里山・里海)の保全	69.4	1,062 人
(2) 農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理	67.3	1,029 人
(3) 絶滅のおそれのある野生動植物の保護	46.7	715 人
(4) アライグマやヌートリアなど生態系や人間生活に影響を与える外来生物の防除	44.8	686 人
(5) 自然観察会など生物多様性について理解を深めるための普及啓発活動	17.5	268 人
(6) 生物多様性に関する活動を行っている団体などへの支援	16.5	252 人
(7) その他	0.5	8 人
無回答	2.4	36 人

グラフ単位:(%)

生物多様性の保全の取り組みについて、

性別にみると、『男性』では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」、「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が同率の69.3%で高く、『女性』では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」69.6%が最も高くなっている。

年齢別にみると、『20～29歳』では「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」70.3%が最も高く、『70歳以上』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」76.7%が最も高く、そのほかの年齢では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が6～7割台で最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が6～7割台で最も高く、そのほかの職業では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が6～8割台で最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が7割台で最も高く、そのほかの圏域では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が6～7割台で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」が71.1%で最も高く、そのほかの居住年数では「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」が6～7割台で最も高くなっている。

図表 2-(6)-2 【生物多様性の保全の取り組みについて】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)			
		全体 (人)	海身 近自然 (里地・ 里山・ 里)	農 業 被 害 を 発 生 さ せ る 野 生 鳥 獣 の 適 切 な 管 理	絶 滅 の お そ れ の あ る 野 生 動 植 物	外 来 生 物 の 防 除 に 影 響 を 与 え る 生	ア ラ イ グ マ や ヌ ー ト リ ア な ど の 生	発 見 し た 自 然 観 察 会 な ど の 普 通 に つ	て 生 物 多 様 性 に 関 する 支 援 を 行 っ	そ の 他	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)											
全体		1,530	69.4	67.3	46.7	44.8	17.5	16.5	0.5	2.4	
性別	男性	701	69.3	69.3	48.1	47.4	18.1	12.4	0.7	2.1	
	女性	797	69.6	65.2	45.3	42.9	17.1	20.5	0.4	2.4	
年齢別	18～19歳	14	64.3	42.9	50.0	42.9	14.3	14.3	-	7.1	
	20～29歳	74	60.8	67.6	70.3	37.8	13.5	21.6	-	-	
	30～39歳	162	71.0	57.4	61.7	41.4	14.8	12.3	0.6	2.5	
	40～49歳	247	70.4	57.5	51.4	42.1	19.0	18.6	1.2	0.4	
	50～59歳	249	70.3	61.8	49.8	47.4	18.5	13.7	0.4	0.4	
	60～69歳	363	74.1	72.2	38.0	43.3	19.3	17.4	0.8	1.9	
	70歳以上	390	65.1	76.7	38.5	49.7	16.4	17.7	-	5.4	
職業別	農林漁業	86	70.9	87.2	31.4	57.0	12.8	9.3	1.2	2.3	
	商工業、サービス業、 自由業など	202	66.3	61.4	54.5	40.6	20.3	21.8	1.0	2.5	
	会社、商店、官公庁 などに勤務	632	70.9	63.8	50.8	45.7	17.4	14.6	0.8	0.9	
	主婦・主夫	309	70.6	70.9	37.9	43.4	16.2	19.4	-	3.6	
	無職	263	67.7	69.6	45.2	45.2	19.4	17.1	-	3.0	
圏域別	高松圏域	746	71.6	64.9	50.0	44.5	18.5	17.3	0.5	1.6	
	東讃圏域	142	57.0	76.8	44.4	47.2	15.5	19.0	-	2.8	
	小豆圏域	39	74.4	76.9	38.5	53.8	10.3	10.3	-	2.6	
	中讃圏域	398	67.6	64.8	46.0	40.2	18.8	17.1	0.5	3.5	
	西讃圏域	205	72.7	72.2	39.5	51.7	14.1	11.7	1.0	2.4	
居住年数別	3年未満	91	70.3	59.3	56.0	42.9	17.6	17.6	-	-	
	3年以上～10年未満	199	67.8	57.3	53.8	42.2	16.6	19.1	0.5	2.5	
	10年以上～20年未満	232	71.1	62.5	49.6	44.8	16.8	16.4	0.9	0.9	
	20年以上	974	69.3	71.1	43.4	45.9	18.0	16.1	0.5	2.8	

(7)瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて

問16 瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて、実施に賛成し、効果が高いと思われるものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1 水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）	66.8% (67.0%)
2 沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出	48.8% (48.7%)
3 自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）	48.4% (48.3%)
4 瀬戸内海に面した府県などとの連携の強化	31.2% (30.9%)
5 持続可能な水産資源の維持・管理の推進	25.3% (25.6%)
6 水質などの監視測定や調査研究	22.9% (23.2%)
7 健全な物質（栄養塩など）の循環機能の維持・回復	11.0% (11.2%)
8 環境学習の推進	8.5% (8.3%)
9 情報提供、広報の充実	5.5% (5.3%)
10 その他	0.6% (0.5%)
（無回答）	2.7% (2.8%)

瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて、「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」66.8%が最も高く、次いで「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」48.8%、「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」48.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」67.0%が最も高く、次いで「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」48.7%、「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」48.3%などとなっている。

図表 2-(7)-1 瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) 水質の保全・管理(産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など)	66.8	1,022 人
(2) 沿岸域の環境(藻場・干潟・自然海浜など)の保全・再生・創出	48.8	746 人
(3) 自然景観・文化的景観の保全(自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など)	48.4	740 人
(4) 瀬戸内海に面した府県などとの連携の強化	31.2	478 人
(5) 持続可能な水産資源の維持・管理の推進	25.3	387 人
(6) 水質などの監視測定や調査研究	22.9	351 人
(7) 健全な物質(栄養塩など)の循環機能の維持・回復	11.0	169 人
(8) 環境学習の推進	8.5	130 人
(9) 情報提供、広報の充実	5.5	84 人
(10) その他	0.6	9 人
無回答	2.7	42 人

グラフ単位:(%)

瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて、

性別にみると、男女とも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が最も高く、『男性』65.8%、『女性』67.6%で、これに『男性』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」54.5%、『女性』では「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」50.7%が続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』では「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」、「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」が同率の 57.1%で高く、そのほかの年齢では「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が 6～7 割台と最も高く、これに『60 歳以上』では「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」が、そのほかの年齢では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が続いている。

職業別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が 6～7 割台と最も高く、これに『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が、そのほかの職業では「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が6割台で最も高く、これに『高松圏域』では「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」が、『東讃圏域』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」、自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」が同率で、そのほかの圏域では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」が6割台で最も高く、これに、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」が、そのほかの居住年数では「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」が続いている。

図表 2-(7)-2 【瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて】

【表の見方】 単位=比率(%)	全体 (人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	無回答	
		化学物質の規制、下水道の整備、産業排水の対策など	水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）	沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出	自然公園、緑地、史跡の保全	自然公園、緑地、史跡の保全	瀬戸内海に面した府県などとの連携の強化	持続可能な水産資源の維持・管理の推進	水質などの監視測定や調査研究	健全な物質（栄養塩など）の循環機能の維持・回復	環境学習の推進		情報提供、広報の充実
全体	1,530	66.8	48.8	48.4	31.2	25.3	22.9	11.0	8.5	5.5	0.6	2.7	
性別	男性	701	65.8	54.5	45.9	32.2	28.7	21.4	11.3	6.4	5.0	0.7	2.4
	女性	797	67.6	44.4	50.7	30.2	22.3	24.3	10.7	10.3	5.9	0.5	2.8
年齢別	18～19歳	14	57.1	50.0	57.1	21.4	21.4	35.7	14.3	-	7.1	-	7.1
	20～29歳	74	73.0	55.4	50.0	29.7	29.7	18.9	12.2	6.8	1.4	-	-
	30～39歳	162	66.7	47.5	44.4	28.4	25.3	23.5	15.4	8.0	6.8	0.6	3.1
	40～49歳	247	68.0	49.4	45.7	27.5	25.1	27.1	10.9	10.1	4.0	0.4	0.4
	50～59歳	249	66.7	53.0	47.4	31.3	25.7	21.3	11.2	6.8	5.2	0.4	0.4
	60～69歳	363	65.8	51.0	51.8	33.3	23.1	20.4	10.7	9.4	5.8	1.4	2.2
	70歳以上	390	65.9	44.1	48.7	33.1	26.4	23.8	8.7	8.5	6.4	0.3	6.2
職業別	農林漁業	86	72.1	48.8	51.2	34.9	30.2	17.4	8.1	8.1	5.8	1.2	2.3
	商工業、サービス業、自由業など	202	65.3	52.5	49.5	32.7	24.3	21.8	14.4	6.9	5.0	-	2.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	66.8	52.1	47.3	28.8	26.6	23.9	11.1	9.0	4.3	0.5	1.4
	主婦・主夫	309	67.0	42.4	49.2	33.3	20.4	24.9	8.7	9.4	8.4	1.0	3.2
無職	263	66.5	47.5	49.0	32.3	27.8	21.7	11.8	7.6	4.9	0.8	4.2	
圏域別	高松圏域	746	67.8	47.6	48.9	32.6	26.0	23.6	10.7	9.0	5.0	0.5	2.5
	東讃圏域	142	68.3	47.2	47.2	26.1	31.0	20.4	14.1	7.7	4.2	0.7	2.1
	小豆圏域	39	66.7	59.0	43.6	28.2	23.1	17.9	15.4	7.7	10.3	2.6	-
	中讃圏域	398	63.8	48.0	47.2	31.9	23.4	25.1	10.3	9.0	6.5	0.5	3.0
	西讃圏域	205	67.8	53.7	50.2	29.3	22.9	19.0	10.7	6.3	5.4	0.5	3.9
居住年数別	3年未満	91	68.1	49.5	46.2	26.4	26.4	30.8	14.3	13.2	4.4	-	-
	3年以上～10年未満	199	68.8	47.7	37.7	29.1	24.6	23.6	13.1	11.1	6.0	-	3.0
	10年以上～20年未満	232	65.1	46.1	50.9	31.5	28.0	26.3	9.1	8.6	5.2	1.3	1.7
	20年以上	974	66.7	50.1	50.3	31.9	24.6	21.4	10.7	7.5	5.4	0.6	3.0

(8)環境施策に関する要望について

問17 環境施策に関する要望がありましたら、自由にご記入ください。

139件中意見を抜粋

「1. 地球温暖化防止のための取り組みについて」

- ・再生可能エネルギーを用いて環境保全ができるようになればよい。
- ・太陽光発電システムの設置推進補助。固定価格買取期間を延長すること等による再生エネルギーの利用促進。原発廃止の促進。
- ・太陽光パネルに含まれる有害物質の規制強化、買取期間終了後の廃棄物処理問題について早期の対策を。
- ・地球温暖化などによる異常気象が起こっているが、地球規模の世界的な対策がいまひとつ見えてこない。技術水準の高い国が連携して、可能な限りの将来予想を情報提供し、対応する技術開発をしてほしい。県の対応としては、環境科学の教育への支援（大学など）の推進など、人材育成をお願いしたい。

「2. 森林整備と都市緑化のための取り組みについて」

- ・公園のようなものは作らなくて良い。今ある自然・山・森林の管理をしていくと、山→川→海とつながってよくなる気がする。
- ・海や水質保全にとって最も重要なのが、山林の保全・管理。間伐材を再利用し、エネルギーを創出し、化石燃料の消費を抑える、ここに尽きると考える。これからの森林環境税の導入に合わせ、ぜひ間伐材の有効利用法について考えてもらいたい。
- ・緑化対策の一環として公園の整備などを望むとともに、水場の整備により水と触れ合える環境対策を実施する必要がある。
- ・街中に、お年寄りや子供たちが日常的に自然に触れることのできる緑や水のあるエリアを設けてほしい。管理が大変だと思うが、できれば誰もいない公園のようなものではなく、常に手入れをしている安全な場となってほしい。
- ・森林を維持していくための補助金が必要なのでは。山が荒れている。

「3. ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて」

- ・不法投棄や野外焼却を厳重に監視、取締まりしてほしい。不法投棄の罰則を厳しくしてほしい。
- ・池周辺、高速道路下、公園など、全体的にゴミのポイ捨てが多すぎる。整備施策の上で、まずは捨てないという意識付けをする教育が、老若男女に必要であり、この活動を推進すべきである。
- ・車からのゴミのポイ捨て、自転車からのポイ捨て、池の周りで犬の糞の不始末が目につく。啓発していく環境への整備が必要である。
- ・家の近くの田で野焼きをされて迷惑。家庭ゴミも一緒に燃やしていることもよくある。管理してもらいたい。煙や臭気に悩まされている。
- ・簡易包装の推進を、スーパー、小売店、コンビニなどが統一して行う。
- ・少しでもゴミが減るよう香川県独自の条例があっても良いように思う(例:アイスコーヒーの容器も紙製のものにするなど)。香川県の豊かな自然を守ってほしい。

- ・食品の消費期限や、高齢化を鑑みて、パック詰め商品は少量のものを多くしたらよい。
- ・指定ゴミ袋に可燃、不燃の分別をせず、スーパーなどの袋に入れて出す非常識な人がいる。
- ・環境保全やゴミのリサイクルに対する意識が低い。行政で意識を高める努力をすべき。
- ・居住地の直近に残土が捨てられている。砂埃が住居に積もり、健康にも被害が出ている。早急な対策を願う。
- ・レジ袋はすべて有料にし、環境施策にお金を使ってほしい。
- ・公園の清掃、道路の除草など、県や市町で期日、時間を決めて公報で知らせ、関心のある人たちがボランティアで参加できるようにしてはどうか。近年、幹線道路のコンクリートの隙間に雑草が高く大きく成長しているのをよく見かける。安全面に配慮する必要があるが、地域民、関心のある人の協力を得てはどうか。

「4. 生物多様性の保全の取り組みについて」

- ・外来の雑木や古木にからまったツタがはびこり、景観がどんどん悪くなっている箇所が増えている。
- ・田畑が放置されて草に覆われている所が多く、イノシシなどの野生動物の遊び場になっているので草刈りができたら良いと思う。

「5 瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて」

- ・大きな木など、海岸への漂着ゴミが多くなって、きれいな砂浜がひどく汚れているので、早めに除去する対応を望む。
- ・海ゴミ対策を特別に強化すること。海面に浮いているゴミはもちろん、海底のゴミを回収できるようなものを作る。山や川にゴミを捨てないようにし、そのゴミが海まで流れないように工夫をする。
- ・海のプラスチックごみ、どうにかしてほしい。マイクロ化して人体に悪影響を及ぼす。
- ・海、川、山などの自然を守っていくことはとても大切だと思う。保全活動を実施する中で、各地域の自治体や団体の協力は不可欠かと思うが、高齢化・後継者不足が活動の前進を遅らせているのではないか。

「6. 環境学習・環境学習機会の提供について」

- ・学校の授業などで教育することにより、「知らなかった」、「聞いたことがなかった」という人を減らすことが大切だと思う。あまり問題について興味を示さない人の意識と行動を変えることが重要になってくると思う。
- ・何でも小さい時から刷り込まれていないとできないし、興味もない。学校などで授業を行ってもらえたらよい。自分の故郷を美しく次世代に渡そうという気持ちを義務教育中に育むことが必要。
- ・自分も環境の一部であり、生活を少し意識することによって環境に良い影響を与えるのだということを、身近な事として考える機会を多くの人が持てるような工夫があると良いのではないかと思う。また、生産者の責任も行政からしっかりアピールしてほしい。
- ・食品廃棄の問題や地球温暖化、マイクロプラスチックなどテレビで取り上げられ、その真実に驚かされている。環境破壊の恐ろしさをもっと伝える努力と勉強が必要かと思う。

3. 食習慣・生活習慣について

(1) 健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況について

問18 あなたの健康や食生活についてよりよくすることをふだんから意識していますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

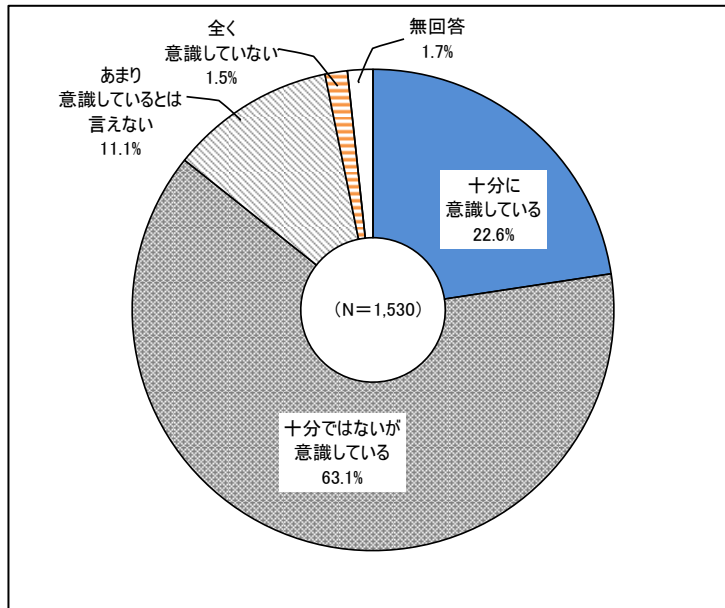
【回答者数=1,530】

1 十分に意識している	22.6% (22.7%)
2 十分ではないが意識している	63.1% (62.3%)
3 あまり意識しているとは言えない	11.1% (11.8%)
4 全く意識していない	1.5% (1.6%)
(無回答)	1.7% (1.7%)

健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況について、「十分ではないが意識している」63.1%が最も高く、次いで「十分に意識している」22.6%、「あまり意識しているとは言えない」11.1%、「全く意識していない」1.5%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「十分ではないが意識している」62.3%が最も高く、次いで「十分に意識している」22.7%、「あまり意識しているとは言えない」11.8%、「全く意識していない」1.6%となっている。

図表 3-(1)-1 健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況について



健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況について、

性別にみると、「十分に意識している」と「十分ではないが意識している」を合わせた【意識している】の割合は、『男性』81.6%、『女性』89.3%と、いずれも8割を超えている。

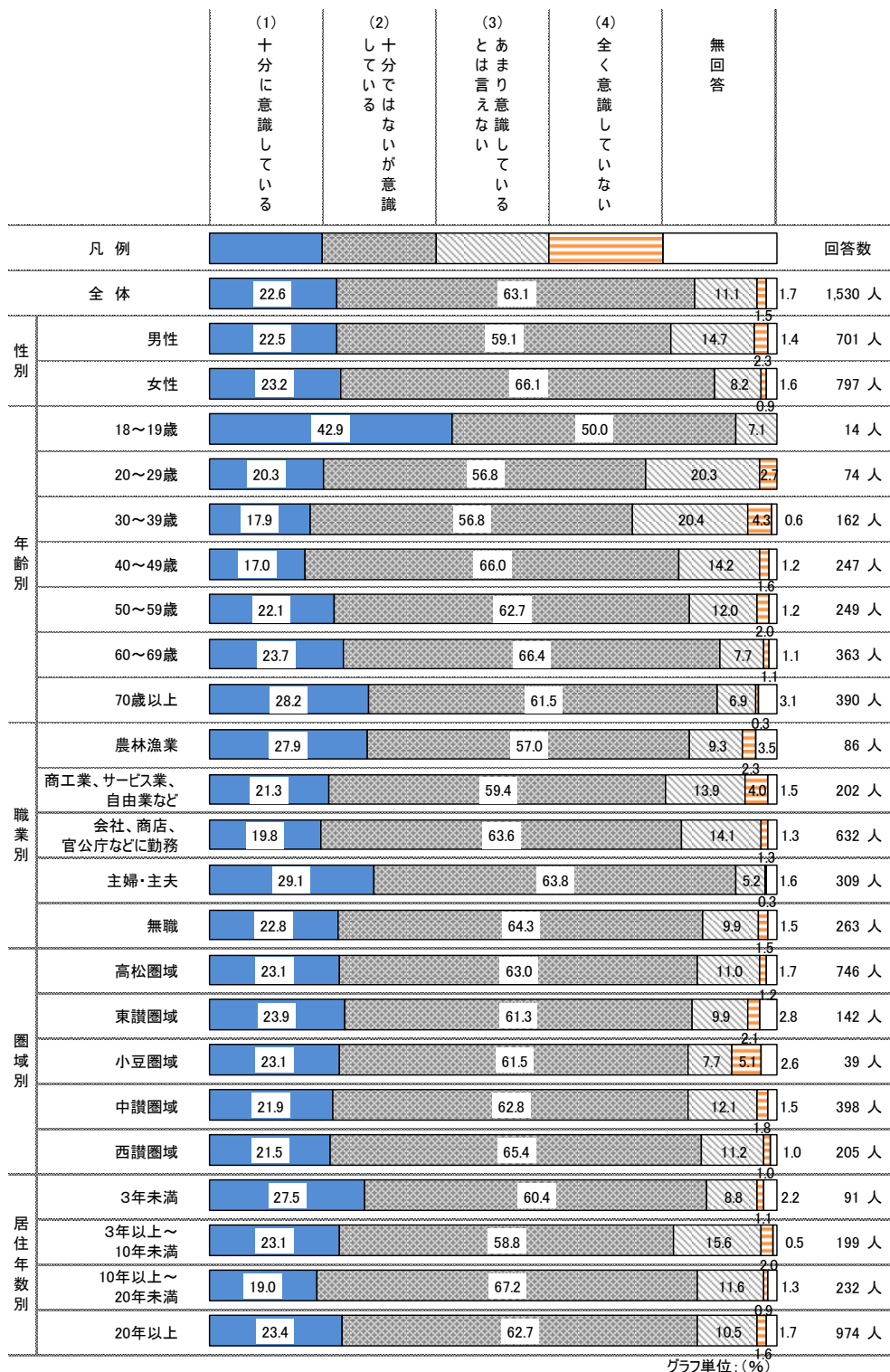
年齢別にみると、【意識している】の割合は、『20～29歳』、『30～39歳』を除くすべての年齢別で8割を超え、『18～19歳』では92.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【意識している】の割合は、いずれも8割を超え、『主婦・主夫』では92.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【意識している】の割合は、いずれも8割を超え、『西讃圏域』では86.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【意識している】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』では87.9%と最も高くなっている。

図表 3-(1)-2 【健康や食生活をよりよくすることをふだんから意識している人の状況について】



(2) 1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度について

問19 1日に1回以上、家族と一緒に食事をすることがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】

1	ほとんど毎日	71.8% (71.2%)
2	2日に1回	5.3% (5.4%)
3	週に1～2回	5.9% (6.1%)
4	ほとんどない	5.0% (4.8%)
5	1人暮らし	10.5% (11.1%)
	(無回答)	1.6% (1.5%)

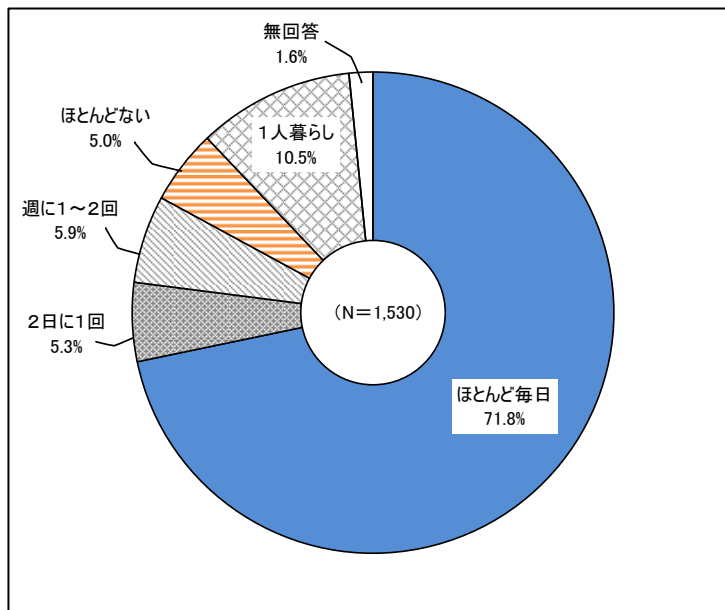
1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度について、「ほとんど毎日」71.8%が最も高く、次いで「週に1～2回」5.9%などとなっている。

「1人暮らし」と答えた人は、10.5%である。

ウェイトバック集計した値をみると、「ほとんど毎日」71.2%が最も高く、次いで「週に1～2回」6.1%などとなっている。

「1人暮らし」と答えた人は、11.1%である。

図表 3-(2)-1 1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度について



1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度について、

性別にみると、男女とも「ほとんど毎日」が最も高く、『男性』66.8%、『女性』76.7%で、これに「週に1～2回」が、『男性』8.0%、『女性』4.0%が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『男性』が10.0%、『女性』が10.7%である。

年齢別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が6～7割台と最も高く、これに『18～19歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「週に1～2回」が、『20～29歳』では「2日に1回」、「週に1～2回」が、『50～59歳』では「2日に1回」が、『60～69歳』、『70歳以上』では「ほとんどない」が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『18～19歳』が21.4%、『20～29歳』が18.9%、『30～39歳』が6.8%、『40～49歳』が6.9%、『50～59歳』が9.2%、『60～69歳』が9.6%、『70歳以上』が13.6%である。

職業別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が6～8割台と最も高く、これに『農林漁業』では「2日に1回」、「週に1～2回」、「ほとんどない」が、『商工業、サービス業、自由業など』では「ほとんどない」が、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「週に1～2回」が、『主婦・主夫』では「2日に1回」が、『無職』では「ほとんどない」が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『農林漁業』が4.7%、『商工業、サービス業、自由業など』が6.9%、『会社、商店、官公庁などに勤務』が10.0%、『主婦・主夫』が5.8%、『無職』が21.3%である。

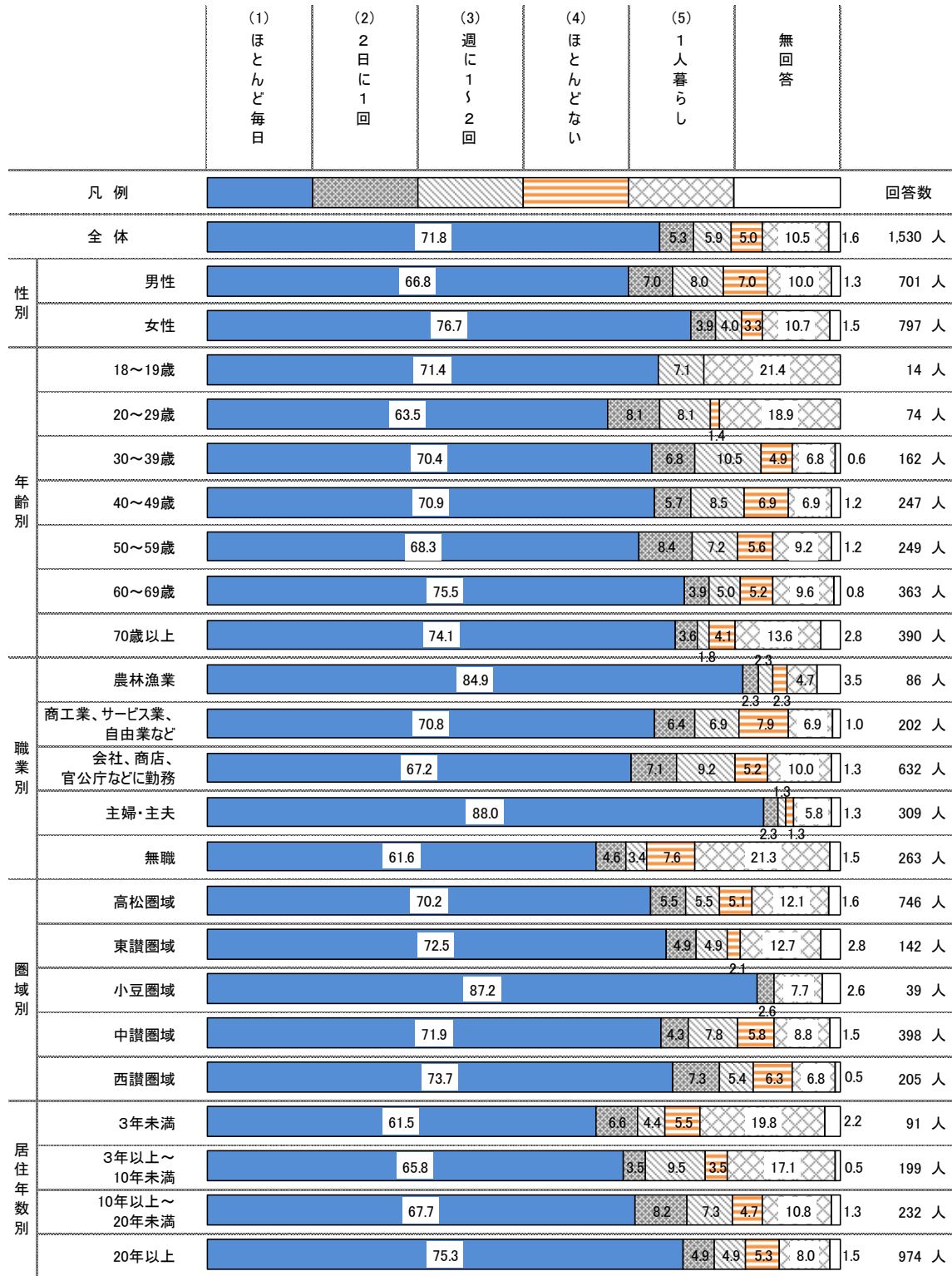
圏域別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が7～8割台で最も高く、これに『高松圏域』、『東讃圏域』では「2日に1回」、「週に1～2回」が、『小豆圏域』、『西讃圏域』では「2日に1回」が、『中讃圏域』では「週に1～2回」が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『高松圏域』が12.1%、『東讃圏域』が12.7%、『小豆圏域』が7.7%、『中讃圏域』が8.8%、『西讃圏域』が6.8%である。

居住年数別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が6～7割台で最も高く、これに『3年未満』、『10年以上20年未満』では「2日に1回」が、『3年以上10年未満』では「週に1～2日」が、『20年以上』では「ほとんどない」が続いている。

「1人暮らし」と答えた人は、『3年未満』が19.8%、『3年以上10年未満』が17.1%、『10年以上20年未満』が10.8%、『20年以上』が8.0%である。

図表 3-(2)-2 【1日に1回以上、家族と一緒に食事をする頻度について】



グラフ単位：(%)

(3) 1日に1回以上、誰かと一緒に食事をする頻度について

問20 1日に1回以上、誰か(友人・知人など家族以外も含む)と一緒に食事をすることがありますか。
次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

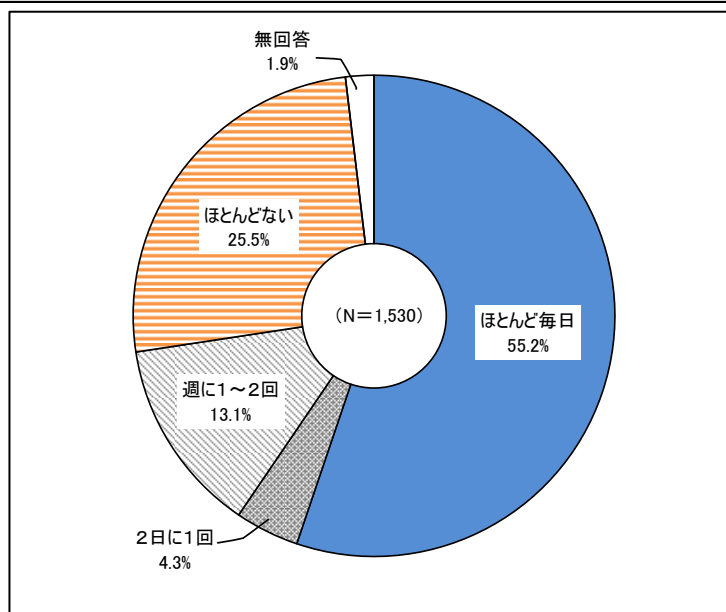
【回答者数=1,530】

1	ほとんど毎日	55.2% (56.1%)
2	2日に1回	4.3% (4.3%)
3	週に1～2回	13.1% (13.1%)
4	ほとんどない	25.5% (24.7%)
	(無回答)	1.9% (1.8%)

1日に1回以上、誰かと一緒に食事をする頻度について、「ほとんど毎日」55.2%が最も高く、次いで「ほとんどない」25.5%、「週に1～2回」13.1%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ほとんど毎日」56.1%が最も高く、次いで「ほとんどない」24.7%、「週に1～2回」13.1%などとなっている。

図表 3-(3)-1 1日に1回以上、誰かと一緒に食事をする頻度について



1日に1回以上、誰かと一緒に食事をする頻度について、

性別にみると、男女とも「ほとんど毎日」が最も高く、『男性』47.9%、『女性』62.1%で、これに「ほとんどない」が『男性』31.7%、『女性』19.6%が続いている。

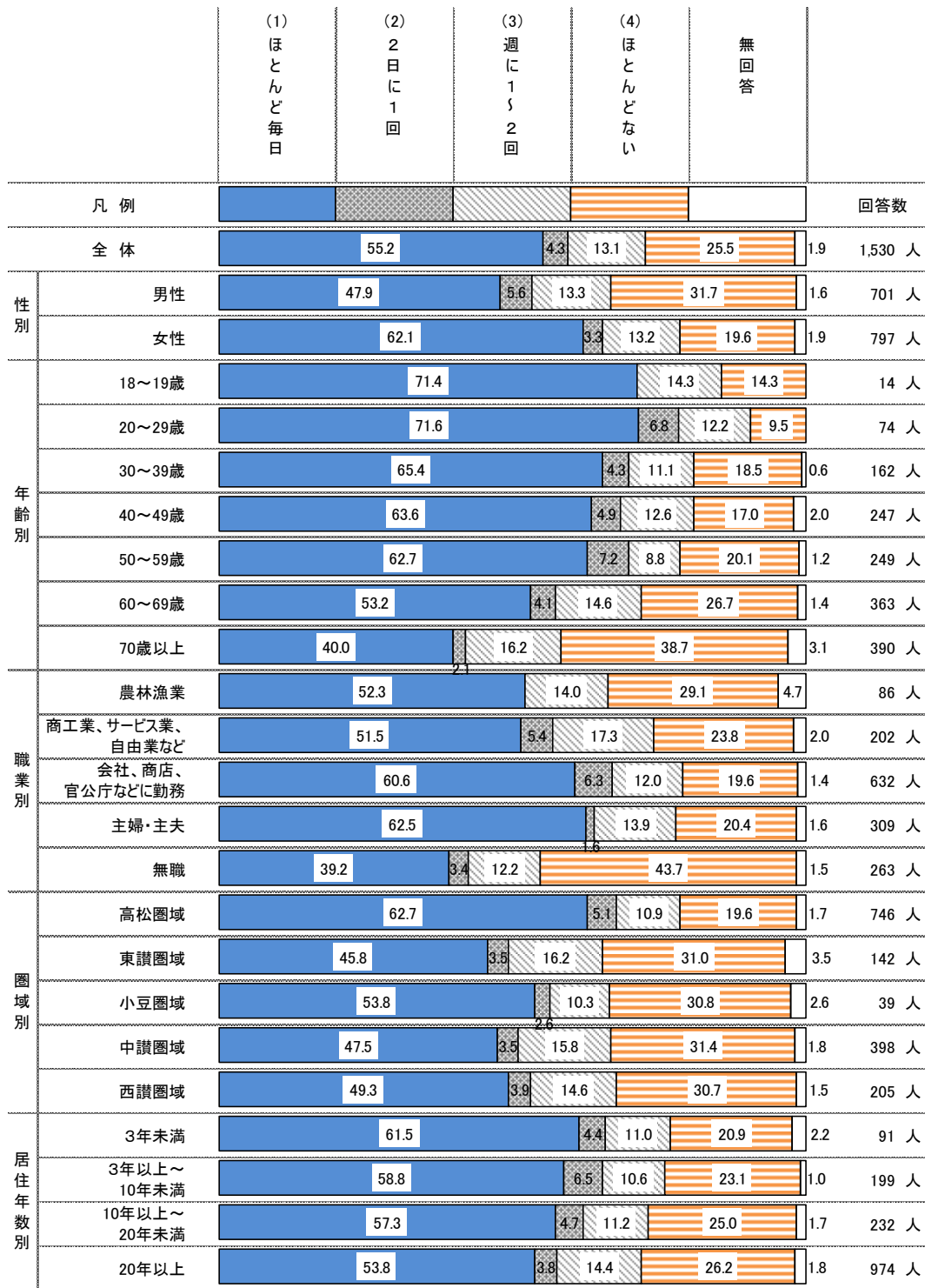
年齢別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が4～7割台と最も高く、これに『18～19歳』では「週に1～2回」、「ほとんどない」が、『20～29歳』では「週に1～2回」が、そのほかの年齢では「ほとんどない」が続いている。

職業別にみると、『無職』を除くすべての職業では「ほとんど毎日」が5～6割台と最も高く、『無職』では「ほとんどない」が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が4～6割台と最も高く、これに「ほとんどない」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「ほとんど毎日」が5～6割台と最も高く、これに「ほとんどない」が続いている。

図表 3-(3)-2 【1日に1回以上、誰かと一緒に食事をする頻度について】



グラフ単位：(%)

(4) 食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしている人の状況について

問21 食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

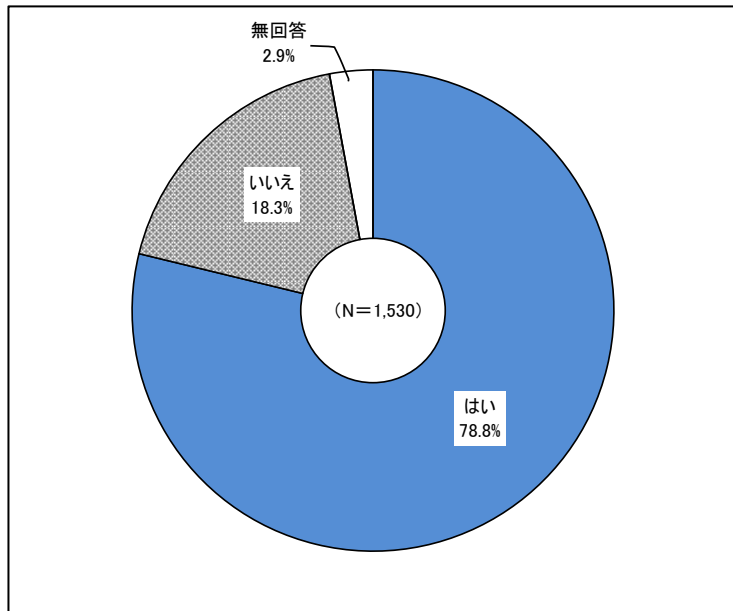
【回答者数=1,530】

1 はい	78.8% (78.3%)
2 いいえ	18.3% (18.9%)
(無回答)	2.9% (2.8%)

食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしている人の状況について、「はい」78.8%、「いいえ」18.3%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「はい」78.3%、「いいえ」18.9%となっている。

図表 3-(4)-1 食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしている人の状況について



食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしている人の状況について、

性別にみると、男女とも「はい」が最も高く、『男性』72.5%、『女性』84.6%となっている。

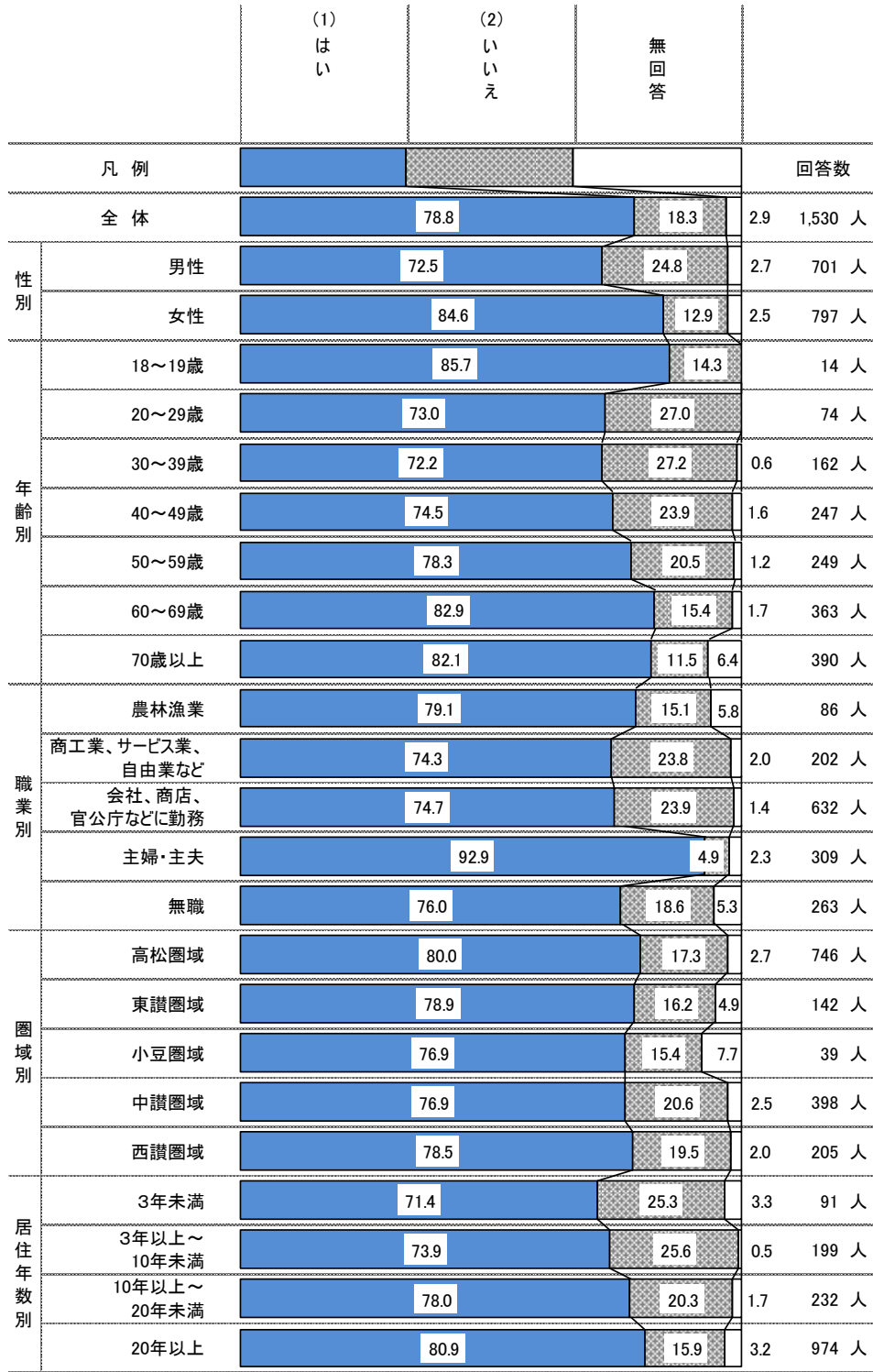
年齢別にみると、いずれも「はい」が7～8割台と最も高く、特に『18～19歳』では「はい」85.7%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「はい」が7～9割台と最も高く、特に『主婦・主夫』では「はい」92.9%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「はい」が7～8割台と最も高く、特に『高松圏域』では「はい」80.0%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「はい」が7～8割台と最も高く、特に『20年以上』では「はい」80.9%が最も高くなっている。

図表 3-(4)-2 【食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしている人の状況について】



グラフ単位：(%)

(5)うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況について

問22 うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

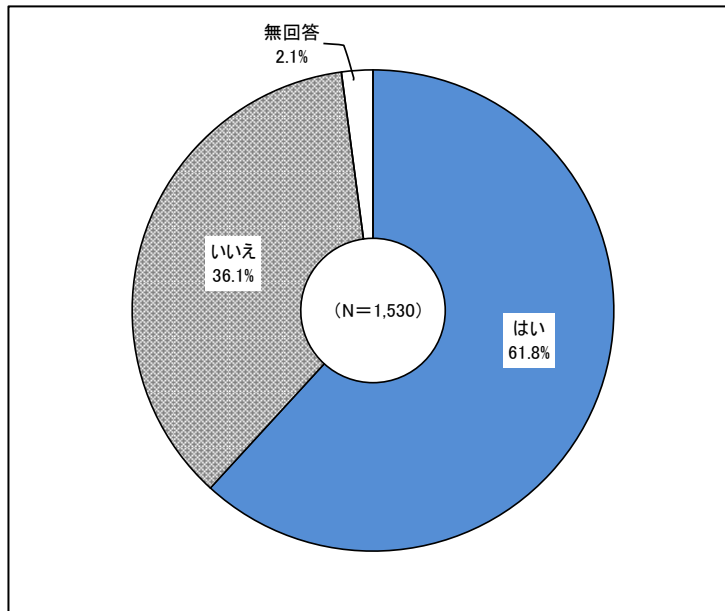
【回答者数=1,530】

1 はい	61.8% (59.6%)
2 いいえ	36.1% (38.3%)
(無回答)	2.1% (2.0%)

うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況について、「はい」61.8%、「いいえ」36.1%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「はい」59.6%、「いいえ」38.3%となっている。

図表 3-(5)-1 うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況について



うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況について、

性別にみると、男女とも「はい」が最も高く、『男性』57.5%、『女性』65.6%となっている。

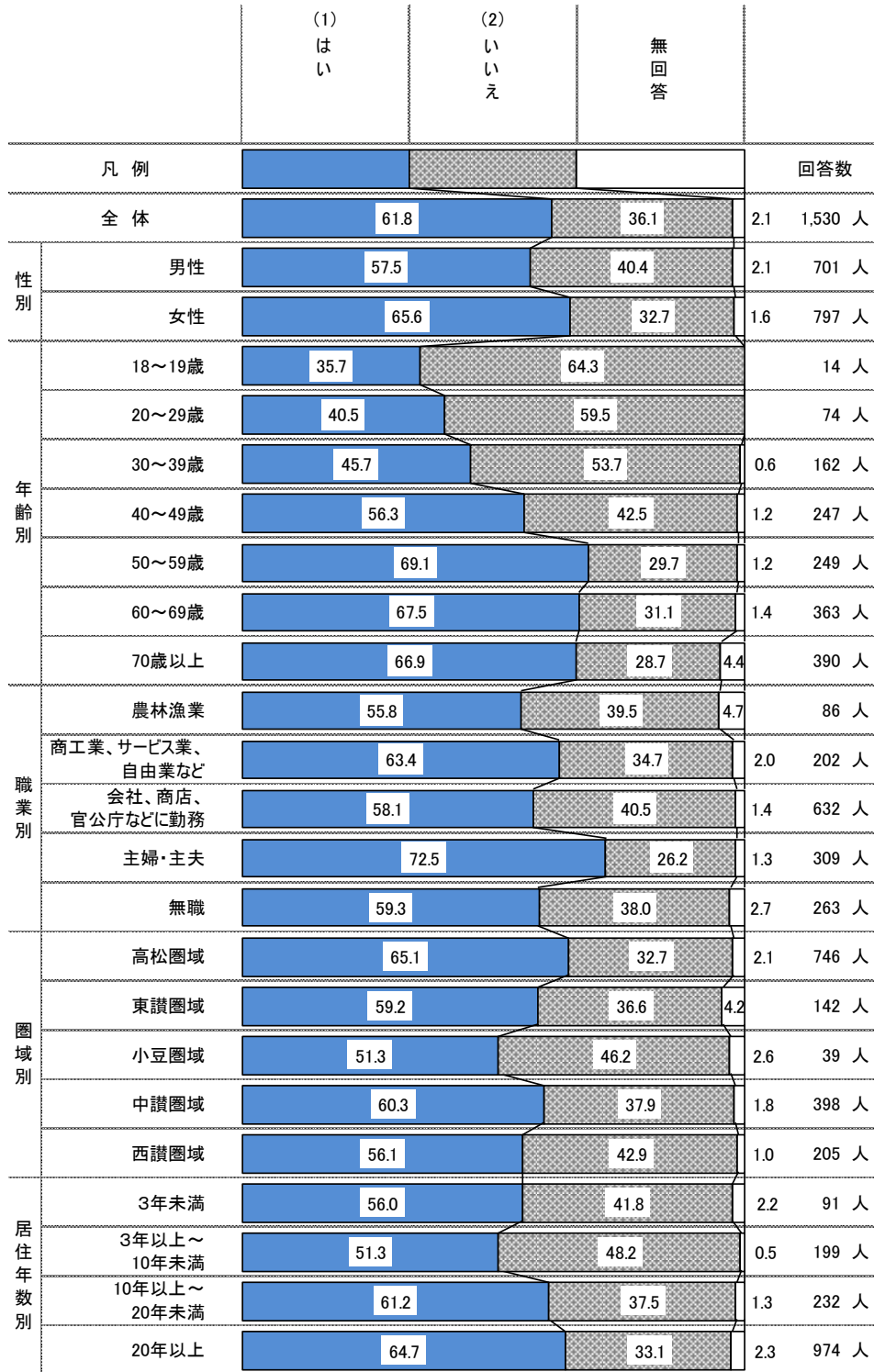
年齢別にみると、『39歳以下』では「いいえ」が5～6割台と最も高く、『40歳以上』では「はい」が5～6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「はい」が5～7割台と最も高く、特に『主婦・主夫』では「はい」72.5%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「はい」が5～6割台と最も高く、特に『高松圏域』では「はい」65.1%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「はい」が5～6割台と最も高く、特に『20年以上』では「はい」64.7%が最も高くなっている。

図表 3-(5)-2 【うどんを食べるときは副食をいっしょにとるようにしている人の状況】



グラフ単位：(%)

(6)朝食の喫食状況について

問23 朝食をどの程度食べますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

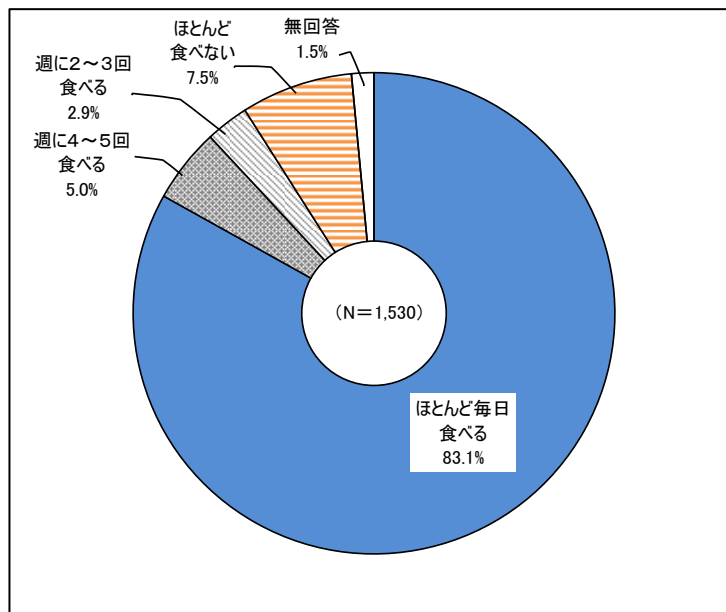
【回答者数=1,530】

1	ほとんど毎日食べる	83.1% (81.5%)
2	週に4～5回食べる	5.0% (5.5%)
3	週に2～3回食べる	2.9% (3.4%)
4	ほとんど食べない	7.5% (8.2%)
	(無回答)	1.5% (1.5%)

朝食の喫食状況について、「ほとんど毎日食べる」83.1%が最も高く、次いで「ほとんど食べない」7.5%、「週に4～5回食べる」5.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ほとんど毎日食べる」81.5%が最も高く、次いで「ほとんど食べない」8.2%、「週に4～5回食べる」5.5%などとなっている。

図表 3-(6)-1 朝食の喫食状況について



朝食の喫食状況について、

性別にみると、男女とも「ほとんど毎日食べる」が最も高く、『男性』80.5%、『女性』85.6%で、これに「ほとんど食べない」が『男性』9.0%、『女性』6.1%で続いている。

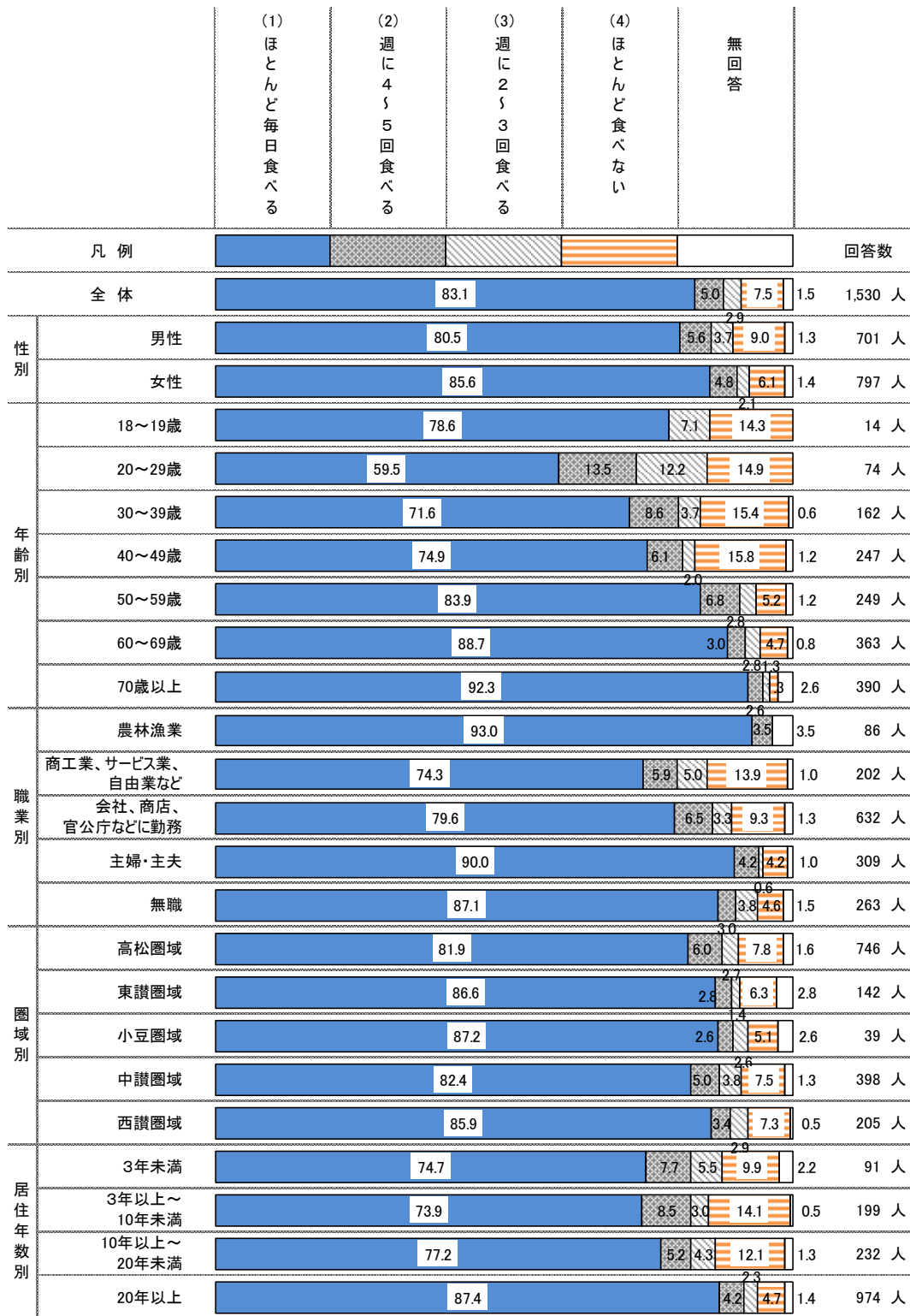
年齢別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が5～9割台と最も高く、特に『70歳以上』92.3%が最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が7～9割台と最も高く、特に『農林漁業』93.0%が最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が8割台と最も高く、特に『小豆圏域』では「ほとんど毎日食べる」87.2%が最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ほとんど毎日食べる」が7～8割台と最も高く、特に『20年以上』では「ほとんど毎日食べる」87.4%が最も高くなっている。

図表 3-(6)-2 【朝食の喫食状況について】



グラフ単位：(%)

(7)身長、体重について

問24 差し支えなければ、あなたの身長・体重をご記入ください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,364】

1 身長 平均161.8cm(161.9cm)

【回答者数=1,344】

2 体重 平均 60.1kg(59.9kg)

身長について、平均 161.8cm となっている。体重について、平均 60.1kg となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、身長について、平均 161.9cm となっている。体重について、平均 59.9kg となっている。

身長について、

性別にみると、『男性』では平均 168.2cm、『女性』では平均 155.9cm となっている。

年齢別にみると、『18～19 歳』が平均 167.0cm と最大で、『70 歳以上』が平均 158.1cm と最小となっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』が平均 164.4cm と最大で、『主婦・主夫』が平均 155.6cm と最小となっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』が平均 162.8cm と最大で、『西讃圏域』が平均 161.1cm と最小となっている。

居住年数別にみると、『3 年以上～10 年未満』が平均 164.4cm と最大で、『20 年以上』が平均 161.1cm と最小となっている。

体重について、

性別にみると、『男性』では平均 66.7kg、『女性』では平均 53.8kg となっている。

年齢別にみると、『40～49 歳』が平均 62.6kg と最大で、『70 歳以上』が平均 57.2kg と最小となっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』及び『会社、商店、官公庁などに勤務』が平均 62.3kg と最大で、『主婦・主夫』が平均 53.4kg と最小となっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』が平均 62.6kg と最大で、『西讃圏域』が平均 58.9kg と最小となっている。

居住年数別にみると、『3 年以上～10 年未満』が平均 60.9kg と最大で、『10 年以上～20 年未満』及び『20 年以上』が平均 60.0kg と最小となっている。

図表 3-(7) 【身長、体重について】

		身長		体重	
		回答数	平均(cm)	回答数	平均(kg)
全体		1,364	161.8	1,344	60.1
	(ウエイトバック集計結果)	1,352	161.9	1,326	59.9
性別	男性	651	168.2	649	66.7
	女性	686	155.9	668	53.8
年齢別	18～19歳	11	167.0	9	59.1
	20～29歳	58	162.9	54	58.7
	30～39歳	138	163.5	132	59.1
	40～49歳	213	165.2	211	62.6
	50～59歳	216	164.4	214	62.5
	60～69歳	333	161.4	328	61.0
	70歳以上	368	158.1	369	57.2
職業別	農林漁業	77	161.7	77	60.6
	商工業、サービス業、自由業など	174	163.7	172	62.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	559	164.4	547	62.3
	主婦・主夫	282	155.6	278	53.4
	無職	243	162.4	241	61.5
圏域別	高松圏域	658	161.7	652	60.2
	東讃圏域	130	161.7	127	59.9
	小豆圏域	34	162.8	34	62.6
	中讃圏域	354	162.3	345	60.4
	西讃圏域	188	161.1	186	58.9
居住年数別	3年未満	76	164.3	74	60.2
	3年以上～10年未満	170	164.4	164	60.9
	10年以上～20年未満	203	162.7	200	60.0
	20年以上	887	161.1	878	60.0

※属性及び項目の各回答数合計と全体の回答数の差は無回答

(8)「食品ロス」の認知度について

問25 我が国では、食料の多くを海外からの輸入に頼っている一方で、平成27年度推計（農林水産省・環境省）で年間約646万トンにのぼる「食品ロス」が発生しています。「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

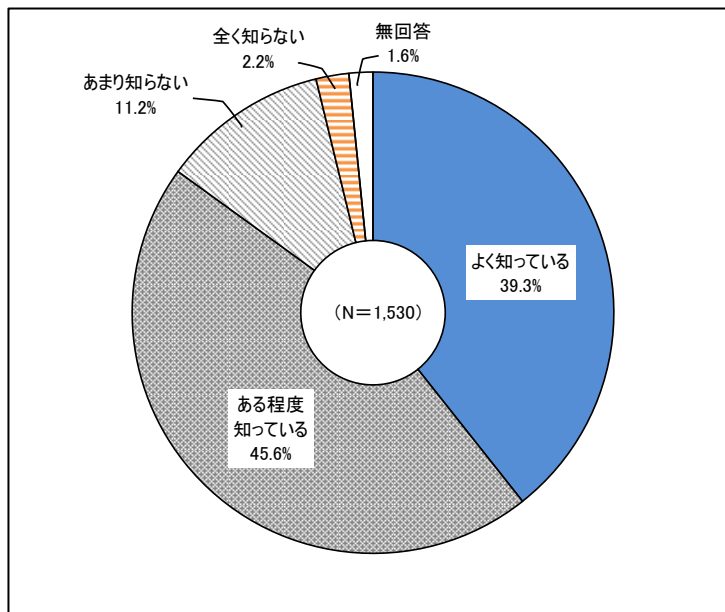
【回答者数=1,530】

1 よく知っている	39.3% (38.5%)
2 ある程度知っている	45.6% (44.8%)
3 あまり知らない	11.2% (12.4%)
4 全く知らない	2.2% (2.7%)
(無回答)	1.6% (1.6%)

「食品ロス」の認知度について、「ある程度知っている」45.6%が最も高く、次いで「よく知っている」39.3%、「あまり知らない」11.2%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ある程度知っている」44.8%が最も高く、次いで「よく知っている」38.5%、「あまり知らない」12.4%などとなっている。

図表 3-(8)-1 「食品ロス」の認知度について



「食品ロス」の認知度について、

性別にみると、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた【知っている】の割合は、『男性』85.7%、『女性』84.2%と、いずれも8割を超えている。

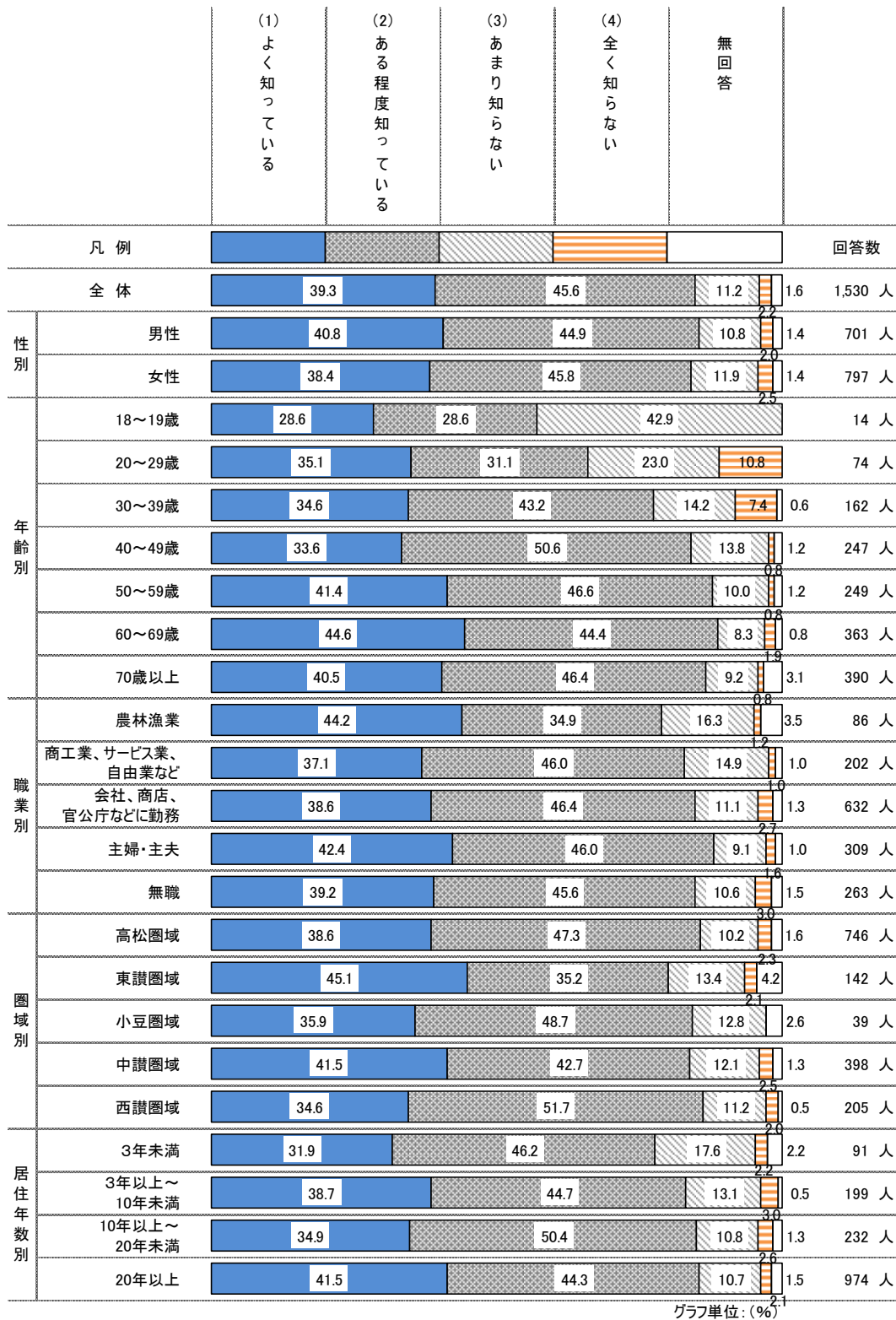
年齢別にみると、【知っている】の割合は、『18～19歳』『20～29歳』を除くすべての年齢で7割を超え、『60～69歳』では89.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【知っている】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』では88.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【知っている】の割合は、いずれも8割を超え、『西讃圏域』では86.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【知っている】の割合は、いずれも7割を超え、『20年以上』では85.8%と最も高くなっている。

図表 3-(8)-2 【「食品ロス」の認知度について】



(9)「食品ロス」を減らすために取り組んでいることについて

問26 「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1 残さず食べる	68.2% (68.7%)
2 「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	58.9% (58.3%)
3 冷凍保存を活用する	58.8% (57.6%)
4 料理を作り過ぎない	51.3% (50.1%)
5 小分け商品、少量パック商品、バラ売りなど、食べきれる量を購入する	38.0% (37.7%)
6 日ごろから冷蔵庫などの食材の種類・量・期限表示を確認する	36.8% (36.2%)
7 飲食店などで注文し過ぎない	29.9% (30.8%)
8 残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）	26.3% (26.2%)
9 その他	1.0% (0.9%)
10 特にない	1.5% (1.5%)
(無回答)	0.2% (0.2%)

「食品ロス」を減らすために取り組んでいることについて、「残さず食べる」68.2%が最も高く、次いで「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」58.9%、「冷凍保存を活用する」58.8%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「残さず食べる」68.7%が最も高く、次いで「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」58.3%、「冷凍保存を活用する」57.6%などとなっている。

図表 3-(9)-1 「食品ロス」を減らすために取り組んでいることについて

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) 残さず食べる	68.2	1,043 人
(2) 「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	58.9	901 人
(3) 冷凍保存をする	58.8	899 人
(4) 料理を作り過ぎない	51.3	785 人
(5) 小分け商品、少量パック商品、バラ売りなど、食べきれぬ量を購入する	38.0	581 人
(6) 日ごろから冷蔵庫などの食材の種類・量・期限表示を確認する	36.8	563 人
(7) 飲食店などで注文し過ぎない	29.9	457 人
(8) 残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)	26.3	402 人
(9) その他	1.0	15 人
(10) 特になし	1.5	23 人
無回答	0.2	3 人

グラフ単位:(%)

「食品ロス」を減らすために取り組んでいることについて、

性別にみると、男女とも「残さず食べる」が最も高く、『男性』71.3%、『女性』65.2%で、これに『男性』では「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」55.1%、『女性』では「冷凍保存をする」64.6%が続いている。

年齢別にみると、『70歳以上』では「冷凍保存をする」64.6%が最も高く、そのほかの年齢では「残さず食べる」が6～8割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』では「冷凍保存をする」67.6%が最も高く、そのほかの職業では「残さず食べる」が6～7割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」66.7%が最も高く、そのほかの圏域では「残さず食べる」が6割台と最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「残さず食べる」が6～7割台で最も高く、これに『3年未満』『20年以上』では「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が、そのほかの居住年数では「冷凍保存をする」が続いている。

図表 3-(9)-2 【「食品ロス」を減らすために取り組んでいることについて】

【表の見方】 単位=比率(%)	全体 (人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	無回答	
		残さず食べる	判断する 「賞味期限」を過ぎても すぐに捨てるのではなく 自分で食べられるか	冷凍保存をする	料理を作り過ぎない	小分け商品、少量パック 品、バラ売りなど、食べ きれぬ量を購入する	食料の種類・量・期限の 表示を確認する	日ごろから冷蔵庫などの 食材の種類・量・期限の 表示を確認する	飲食店などで注文し過ぎ ない	残った料理を別の料理に 替える(リメイク)する	その他		特にな い
全体	1,530	68.2	58.9	58.8	51.3	38.0	36.8	29.9	26.3	1.0	1.5	0.2	
性別	男性	701	71.3	55.1	52.8	46.6	31.1	29.5	29.1	18.0	0.7	2.1	0.1
	女性	797	65.2	62.2	64.6	55.2	43.8	43.3	30.6	33.6	1.3	1.0	0.3
年齢別	18～19歳	14	85.7	64.3	42.9	28.6	42.9	42.9	42.9	21.4	-	-	-
	20～29歳	74	78.4	51.4	47.3	41.9	35.1	29.7	44.6	21.6	-	2.7	1.4
	30～39歳	162	74.1	56.8	54.9	32.7	34.0	32.1	40.7	28.4	0.6	1.9	-
	40～49歳	247	70.9	53.4	50.2	46.6	32.4	34.4	30.4	27.5	2.0	0.8	-
	50～59歳	249	67.5	60.6	57.0	48.2	35.3	33.3	28.1	24.5	1.6	2.4	-
	60～69歳	363	70.8	62.0	65.3	56.7	41.0	42.7	30.0	25.1	0.6	1.1	0.6
	70歳以上	390	59.2	60.3	64.6	61.0	41.8	38.2	22.8	27.9	0.8	1.5	-
職業別	農林漁業	86	70.9	66.3	52.3	57.0	40.7	27.9	16.3	17.4	-	-	-
	商工業、サービス業、 自由業など	202	65.3	57.4	57.4	47.0	33.7	33.2	31.7	28.7	2.5	1.5	0.5
	会社、商店、官公庁 などに勤務	632	71.0	56.8	54.7	45.9	34.3	32.6	33.4	23.9	0.9	1.6	0.2
	主婦・主夫	309	63.4	63.8	67.6	58.6	46.0	49.8	30.4	32.7	1.3	1.0	-
無職	263	68.4	57.0	63.5	57.0	39.2	37.3	24.7	25.9	-	2.3	0.4	
圏域別	高松圏域	746	69.8	58.6	58.4	50.1	39.3	37.5	33.8	26.3	0.5	1.2	0.1
	東讃圏域	142	63.4	60.6	62.0	52.8	34.5	32.4	21.8	26.1	0.7	1.4	0.7
	小豆圏域	39	53.8	66.7	53.8	51.3	33.3	25.6	7.7	30.8	2.6	5.1	-
	中讃圏域	398	68.6	59.0	59.0	54.3	36.9	37.2	27.9	25.1	1.8	1.8	0.3
	西讃圏域	205	67.3	57.1	58.0	48.8	38.5	38.5	29.3	27.8	1.0	1.5	-
居住年数別	3年未満	91	70.3	61.5	58.2	44.0	41.8	39.6	39.6	31.9	1.1	1.1	1.1
	3年以上～10年未満	199	70.9	52.8	54.8	40.2	40.7	34.2	36.7	25.1	2.5	2.0	-
	10年以上～20年未満	232	69.4	57.8	61.2	52.2	31.9	36.2	25.9	28.0	0.9	1.3	-
	20年以上	974	66.9	60.1	59.5	54.0	38.4	37.3	28.5	25.6	0.7	1.5	0.2

(10)食育について重要と思う方策について

問27 食育について、あなたが重要と思う方策はどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1	家庭における食育の推進	64.9% (64.2%)
2	学校・保育所などにおける食育の推進	55.8% (56.2%)
3	地産地消の推進	53.2% (52.2%)
4	食の安全・安心の推進	49.8% (49.5%)
5	ライフステージ（若年世代、働き盛り世代、高齢者など）に応じた食育の推進	37.3% (36.7%)
6	かがわの食文化の継承	22.0% (22.0%)
7	食と農水産への理解の促進（農林漁業体験や生産者などとの交流を通じた食への理解）	14.4% (14.4%)
8	食育推進のための県民運動（地域のネットワークや各種広報媒体による普及啓発など）	9.6% (9.4%)
9	食に関するボランティアや関係団体などとの連携・協働による食育の推進	7.1% (7.0%)
10	その他	0.8% (0.8%)
11	わからない（「食育」自体についてよく知らない）	4.1% (4.2%)
12	興味がない	1.8% (1.9%)
	（無回答）	0.7% (0.7%)

食育について重要と思う方策について、「家庭における食育の推進」64.9%が最も高く、次いで「学校・保育所などにおける食育の推進」55.8%、「地産地消の推進」53.2%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「家庭における食育の推進」64.2%が最も高く、次いで「学校・保育所などにおける食育の推進」56.2%、「地産地消の推進」52.2%などとなっている。

図表 3-(10)-1 食育について重要と思う方策について

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) 家庭における食育の推進	64.9	993 人
(2) 学校・保育所などにおける食育の推進	55.8	853 人
(3) 地産地消の推進	53.2	814 人
(4) 食の安全・安心の推進	49.8	762 人
(5) ライフステージ(若年世代、働き盛り世代、高齢者など)に応じた食育の推進	37.3	570 人
(6) かがわの食文化の継承	22.0	337 人
(7) 食と農水産への理解の促進(農林漁業体験や生産者などとの交流を通じた食への理解)	14.4	221 人
(8) 食育推進のための県民活動(地域のネットワークや各種広報媒体による普及啓発など)	9.6	147 人
(9) 食に関するボランティアや関係団体との連携・協働による食育の推進	7.1	108 人
(10) その他	0.8	13 人
(11) わからない	4.1	63 人
(12) 興味がない	1.8	28 人
無回答	0.7	11 人

グラフ単位:(%)

食育について重要と思う方策について、

性別にみると、男女とも「家庭における食育の推進」が最も高く、『男性』60.6%、『女性』69.4%で、これに『男性』では「学校・保育所などにおける食育の推進」55.8%、『女性』では「地産地消の推進」58.6%が続いている。

年齢別にみると、『39歳以下』では「学校・保育所などにおける食育の推進」が6～7割台で最も高く、『40歳以上』では「家庭における食育の推進」が6割台で最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「家庭における食育の推進」が5～7割台と最も高く、これに『会社、商店、官公庁などに勤務』では「学校・保育所などにおける食育の推進」が、そのほかの職業では「地産地消の推進」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』は、「家庭における食育の推進」、「学校・保育所などにおける食育の推進」が、そのほかの圏域では「家庭における食育の推進」が6割台と最も高く、これに『東讃圏域』では「地産地消の推進」が、『小豆圏域』では「食の安全・安心の推進」が、そのほかの圏域では「学校・保育所などにおける食育の推進」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「家庭における食育の推進」が6割台と最も高く、これに『20年以上』では「地産地消の推進」が、そのほかの居住年数では「学校・保育所などにおける食育の推進」が続いている。

図表 3-(10)-2 【食育について重要と思う方策について】

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)			
		全体 (人)	家庭 における 食育の 推進	学校・ 保育所 などに おけ る食育 の推進	地産 地消の 推進	食の 安全・ 安心の 推進	代、 ライフ ステ ージ (若 年世 代、 働き 盛り 世代、 高齢 者 など) に 応じ た食 育の 推進	かが わの 食文 化の 継承	解)と の交 流を 通じ た食 への 理 解)	食と 農水 産へ の理 解の 促進 など (農 林漁 業体 験や 生産 者な ど)	広 報媒 体に よる 言及 や各 種 の推 進の ため の民 活 動	食に 関す るボ ラン ティ ア や関 係団 体と の連 携・ 協 働に よる 食育 の推 進	そ の 他	わ か ら な い	興 味 が な い	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)																
全体		1,530	64.9	55.8	53.2	49.8	37.3	22.0	14.4	9.6	7.1	0.8	4.1	1.8	0.7	
性別	男性	701	60.6	55.8	46.9	47.2	35.5	18.5	13.4	9.1	6.0	1.3	5.4	2.4	0.4	
	女性	797	69.4	56.0	58.6	52.3	39.0	24.3	15.3	9.9	8.2	0.5	3.0	1.1	0.9	
年齢別	18～19歳	14	35.7	71.4	42.9	35.7	28.6	14.3	14.3	7.1	7.1	-	7.1	-	-	
	20～29歳	74	63.5	64.9	44.6	51.4	39.2	25.7	12.2	6.8	5.4	-	-	1.4	-	
	30～39歳	162	66.0	68.5	44.4	43.8	30.2	19.1	15.4	9.9	8.6	-	1.9	3.1	-	
	40～49歳	247	68.4	64.0	50.2	45.3	34.0	17.0	13.0	6.1	5.7	0.4	1.2	2.0	0.4	
	50～59歳	249	65.9	56.2	52.6	43.4	37.8	18.9	12.9	8.8	3.6	0.8	3.2	1.2	-	
	60～69歳	363	67.8	59.0	59.0	54.8	42.4	24.5	15.2	10.5	9.1	1.4	2.2	1.1	0.6	
	70歳以上	390	61.8	40.0	55.4	55.1	37.4	24.1	15.6	11.8	8.2	1.3	10.0	2.1	1.8	
職業別	農林漁業	86	65.1	53.5	55.8	52.3	40.7	24.4	19.8	8.1	5.8	-	2.3	2.3	-	
	商工業、サービス業、 自由業など	202	60.4	52.5	54.0	51.5	38.6	20.8	9.9	11.9	7.4	1.5	5.9	1.5	-	
	会社、商店、官公庁 などに勤務	632	66.9	62.0	50.0	46.0	35.9	19.3	13.8	7.6	4.4	0.5	2.4	2.1	0.3	
	主婦・主夫	309	70.6	52.4	59.5	55.3	40.5	27.5	17.8	10.4	12.0	0.6	4.2	0.6	1.6	
	無職	263	59.3	48.7	52.5	51.7	35.4	20.2	13.7	11.8	8.0	1.9	7.2	1.9	0.8	
圏域別	高松圏域	746	67.8	57.9	54.3	50.0	36.2	23.3	15.1	9.4	7.4	0.7	4.0	1.3	0.4	
	東讃圏域	142	60.6	47.2	52.8	43.7	35.2	26.1	11.3	7.7	7.0	2.1	6.3	2.1	0.7	
	小豆圏域	39	51.3	51.3	38.5	41.0	30.8	12.8	5.1	5.1	10.3	-	2.6	7.7	2.6	
	中讃圏域	398	64.8	54.8	51.3	53.5	39.4	20.6	13.6	11.1	5.5	0.8	3.5	2.0	0.8	
	西讃圏域	205	60.0	56.6	56.1	47.8	39.5	19.0	17.6	9.8	8.3	1.0	4.4	2.0	1.5	
居住年数別	3年未満	91	68.1	61.5	49.5	50.5	38.5	17.6	13.2	9.9	5.5	-	2.2	-	1.1	
	3年以上～10年未満	199	65.8	62.8	46.7	47.2	35.7	15.1	14.6	11.1	6.0	-	1.5	3.0	-	
	10年以上～20年未満	232	63.8	58.6	49.1	45.3	34.9	20.7	12.5	7.3	5.2	0.9	5.6	1.7	-	
	20年以上	974	65.2	53.2	55.9	51.6	38.2	23.6	15.0	9.8	8.0	1.1	4.5	1.6	0.9	

4. 高齢者の保健福祉について

(1) 介護保険のあり方について

問28 介護サービスを利用する人が増えたり、1人あたりのサービス利用額が増えたりすると、各市町において、3年ごとに定める介護保険料の額は高くなる仕組みになっています。このことを踏まえたうえで、介護保険のあり方について、あなたの考え方に最も近いものを、次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

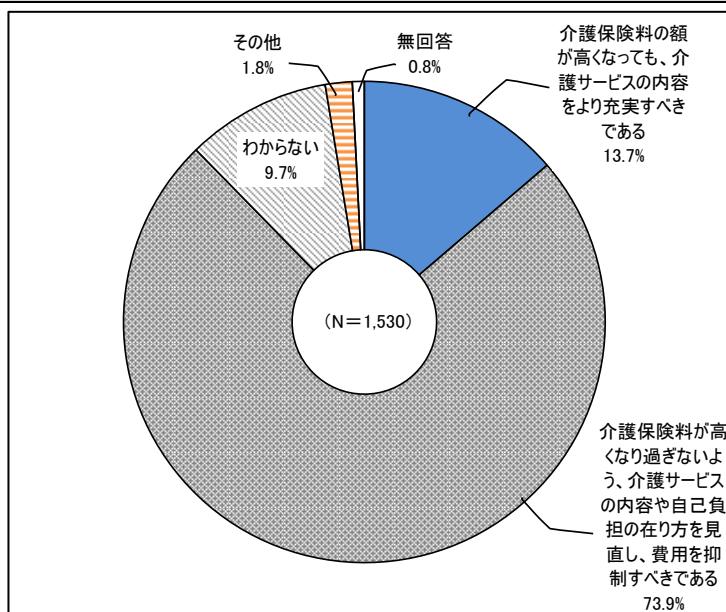
【回答者数=1,530】

1 介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである	13.7% (13.9%)
2 介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである	73.9% (73.3%)
3 わからない	9.7% (10.1%)
4 その他	1.8% (1.9%)
(無回答)	0.8% (0.8%)

介護保険のあり方について、「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」73.9%が最も高く、次いで「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」13.7%、「わからない」9.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」73.3%が最も高く、次いで「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」13.9%、「わからない」10.1%などとなっている。

図表 4-(1)-1 介護保険のあり方について



介護保険のあり方について、

性別にみると、男女とも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が最も高く、『男性』72.9%、『女性』75.0%で、これに「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」が『男性』14.6%、『女性』12.7%で続いている。

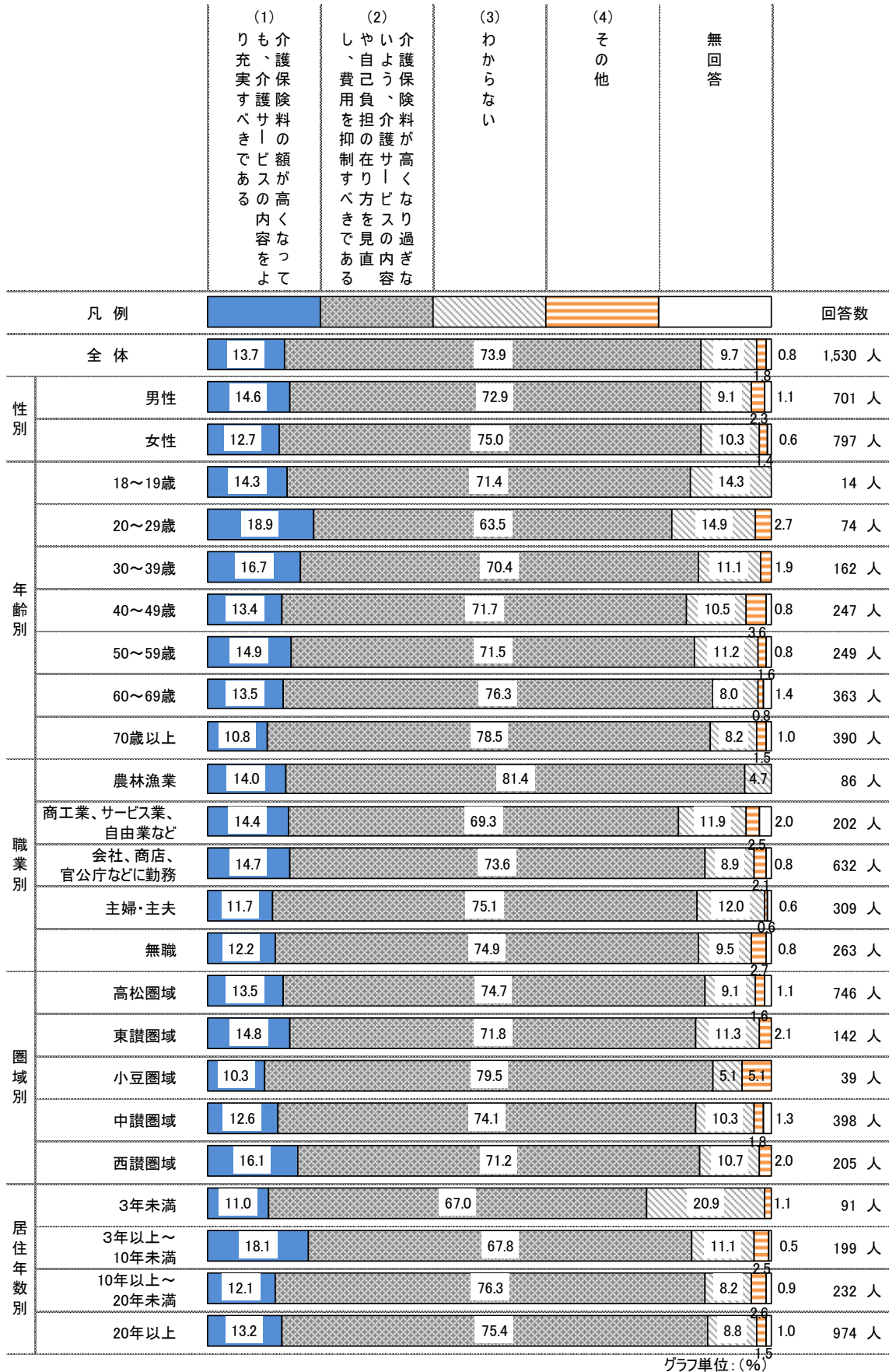
年齢別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が6～7割台と最も高く、これに『18～19歳』では「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」、「わからない」が、そのほかの年齢では「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」が続いている。

職業別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が6～8割台と最も高く、これに『主婦・主夫』では「わからない」が、そのほかの職業では「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が7割台と最も高く、これに「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」が6～7割台と最も高く、これに『3年未満』では「わからない」が、そのほかの居住年数では「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」が続いている。

図表 4-(1)-2 【介護保険のあり方について】



グラフ単位: (%)

(2) 将来の住まいと介護サービスの利用について

問29 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

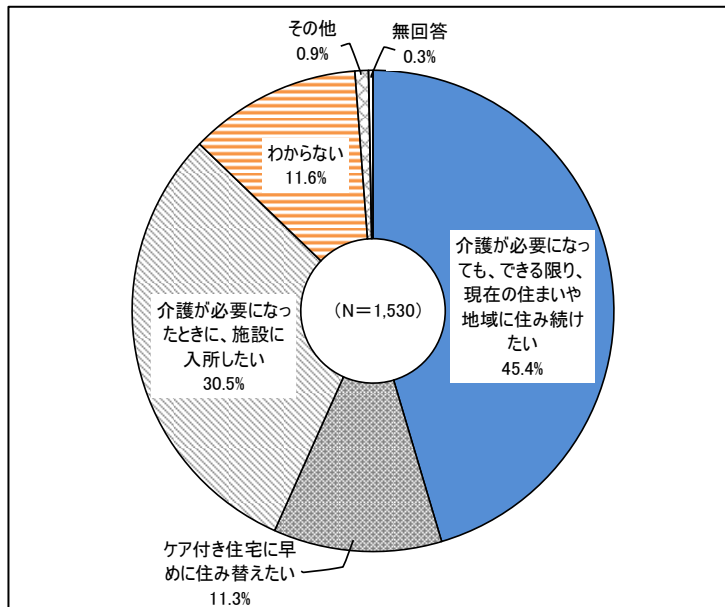
【回答者数=1,530】

1 介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい	45.4% (45.3%)
2 ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい	11.3% (11.6%)
3 介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい	30.5% (30.2%)
4 わからない	11.6% (11.8%)
5 その他	0.9% (0.9%)
（無回答）	0.3% (0.3%)

将来の住まいと介護サービスの利用について、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」45.4%が最も高く、次いで「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」30.5%、「わからない」11.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」45.3%が最も高く、次いで「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」30.2%、「わからない」11.8%などとなっている。

図表 4-(2)-1 将来の住まいと介護サービスの利用について



将来の住まいと介護サービスの利用について、

性別にみると、男女とも「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が最も高く、『男性』48.6%、『女性』42.2%で、これに「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなどに）に入所したい」が『男性』30.0%、『女性』30.9%が続いている。

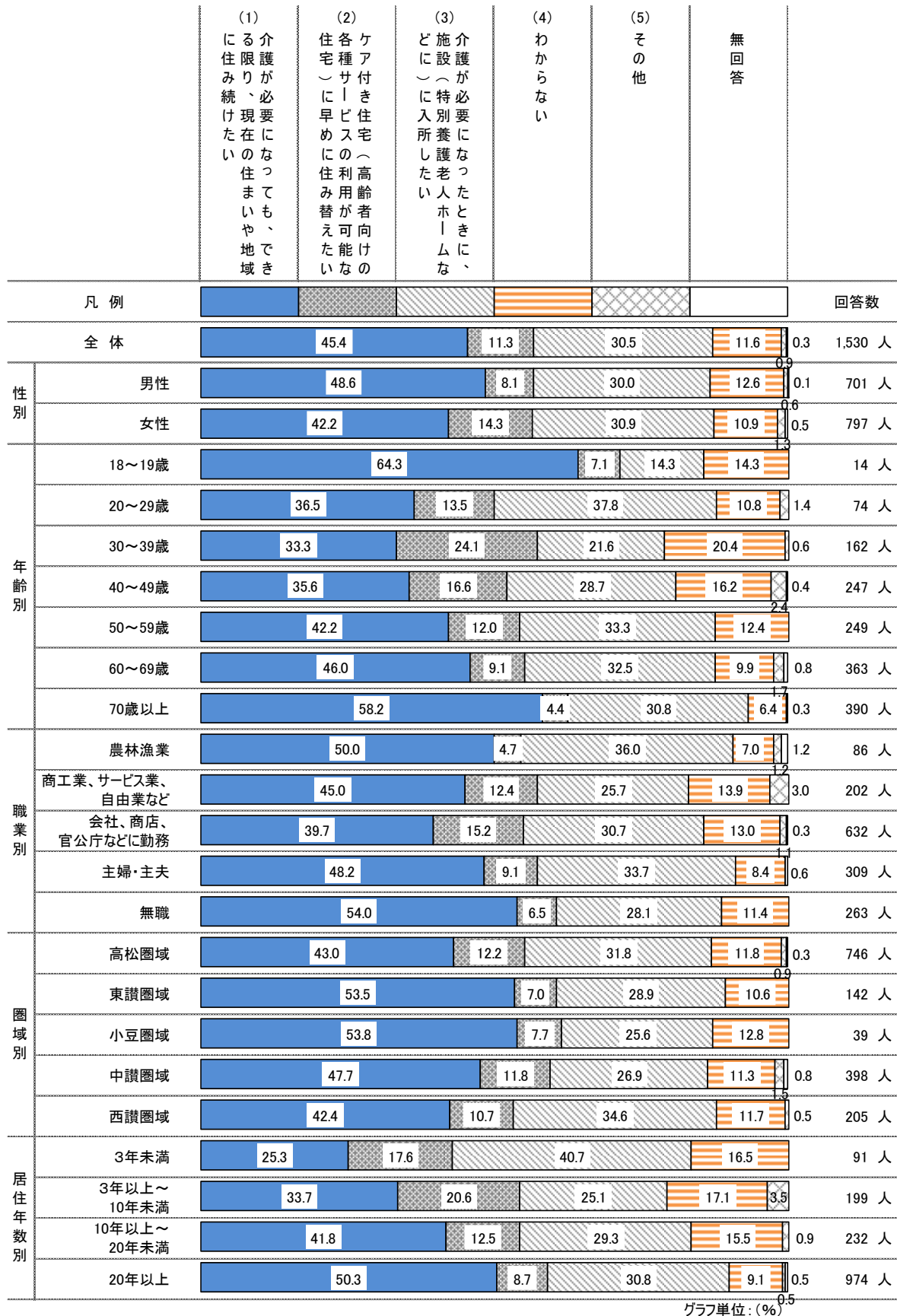
年齢別にみると、『20～29歳』では「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなどに）に入所したい」37.8%が最も高く、そのほかの年齢では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が3～6割台で最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が3～5割台と最も高く、これに「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなどに）に入所したい」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が4～5割台と最も高く、これに「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなどに）に入所したい」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホームなどに）に入所したい」40.7%が最も高く、そのほかの居住年数では「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」が3～5割台で最も高くなっている。

図表 4-(2)-2 【将来の住まいと介護サービスの利用について】



グラフ単位：(%)

(3)施設入所を希望する理由について

【問29で「3」と答えた方にお聞きします】

付問7 施設入所を希望される理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

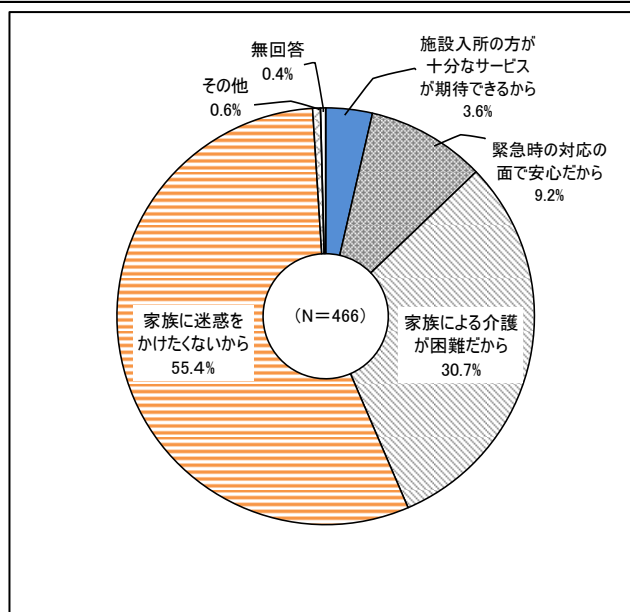
【回答者数=466】

1 施設入所の方が十分なサービスが期待できるから	3.6% (3.7%)
2 緊急時の対応の面で安心だから	9.2% (10.1%)
3 家族による介護が困難だから	30.7% (29.8%)
4 家族に迷惑をかけたくないから	55.4% (55.4%)
5 その他	0.6% (0.6%)
(無回答)	0.4% (0.4%)

施設入所を希望する理由について、「家族に迷惑をかけたくないから」55.4%が最も高く、次いで「家族による介護が困難だから」30.7%、「緊急時の対応の面で安心だから」9.2%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「家族に迷惑をかけたくないから」55.4%が最も高く、次いで「家族による介護が困難だから」29.8%、「緊急時の対応の面で安心だから」10.1%などとなっている。

図表 4-(3)-1 施設入所を希望する理由について



施設入所を希望する理由について、

性別にみると、男女とも「家族に迷惑をかけたくないから」が最も高く、『男性』47.6%、『女性』62.2%で、これに「家族による介護が困難だから」が『男性』35.2%、『女性』26.4%で続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』では「家族による介護が困難だから」、「家族に迷惑をかけたくないから」が同率の50.0%で、『70 歳以上』では「家族による介護が困難だから」51.7%が最も高く、そのほかの年齢では「家族に迷惑をかけたくないから」が5～7割台で最も高くなっている。

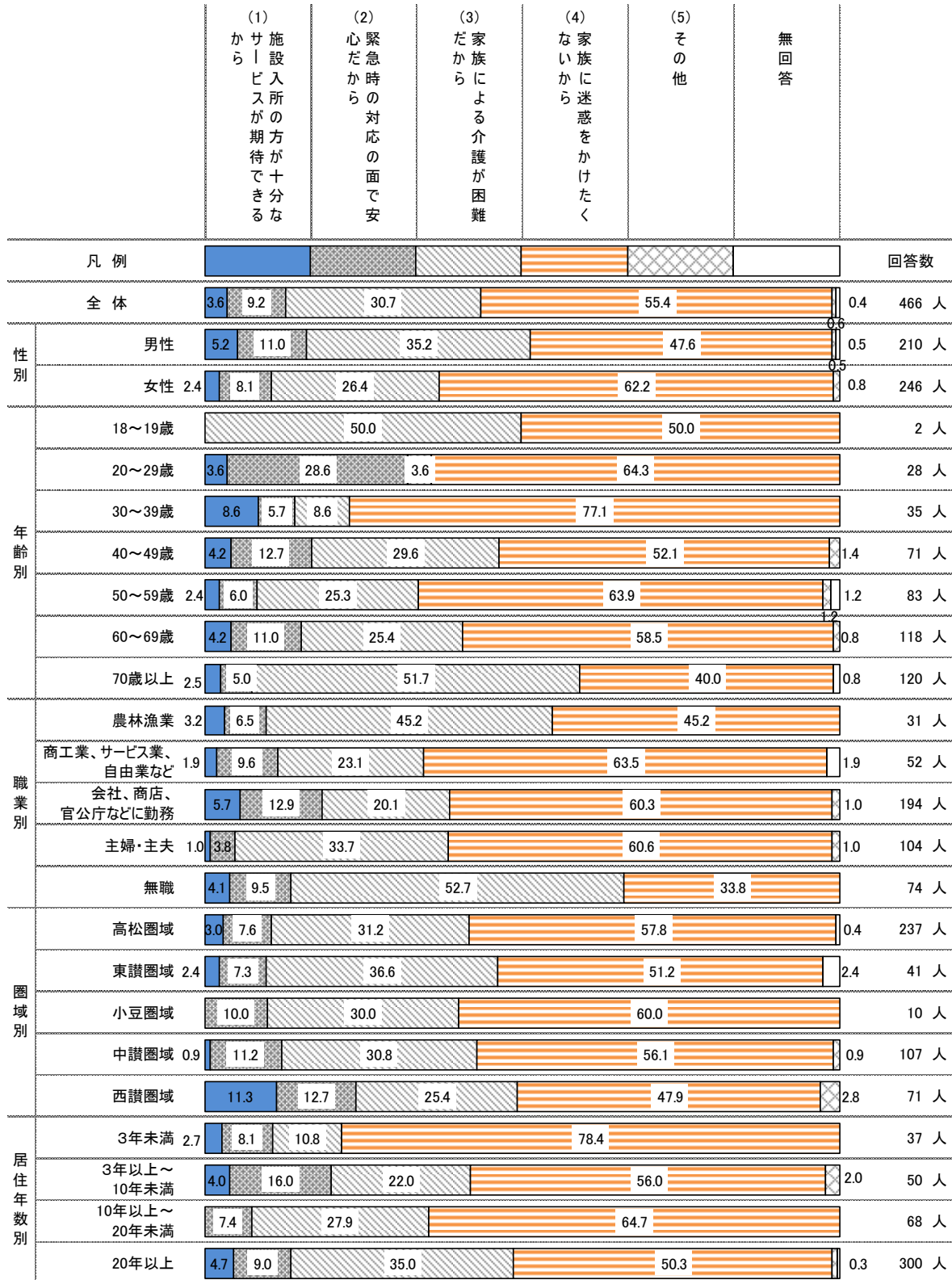
職業別にみると、『農林漁業』では「家族による介護が困難だから」、「家族に迷惑をかけたくないから」が同率の45.2%で高く、『無職』では「家族による介護が困難だから」52.7%が最も高く、そのほかの職業では「家族に迷惑をかけたくないから」が6割台で最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が4～6割台で最も高く、これに「家族による介護が困難だから」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が4～6割台で最も高く、これに「家族による介護が困難だから」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が5～7割台で最も高く、これに「家族による介護が困難だから」が続いている。

図表 4-(3)-2 【施設入所を希望する理由について】



グラフ単位：(%)^{0.7}

(4)一人暮らしの高齢者などへの手助けについて

問30 地域で何らかの日常生活上の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、あなたの考え方に最も近いものはどれですか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

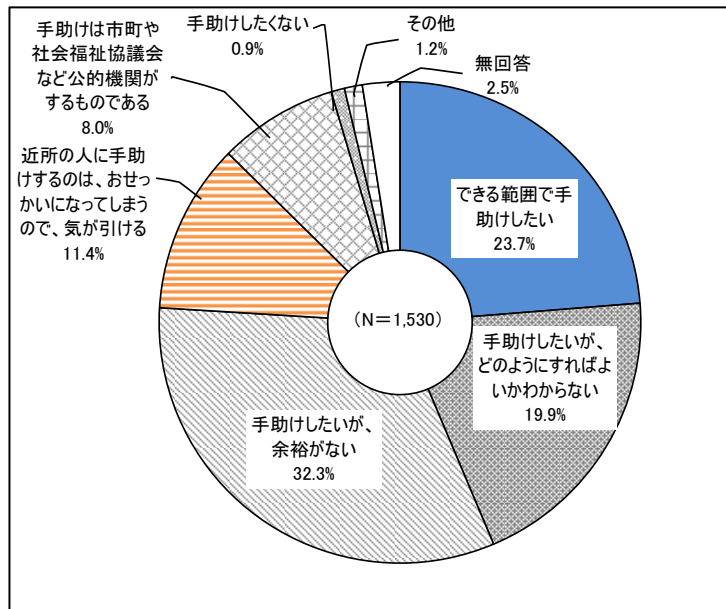
【回答者数=1,530】

1	できる範囲で手助けしたい	23.7% (23.4%)
2	手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない	19.9% (20.3%)
3	手助けしたいが、余裕がない	32.3% (32.7%)
4	近所の人に手助けするのは、おせっかいになってしまうので、気が引ける	11.4% (10.7%)
5	手助けは市町や社会福祉協議会など公的機関がするものである	8.0% (8.3%)
6	手助けしたくない	0.9% (0.9%)
7	その他	1.2% (1.1%)
	(無回答)	2.5% (2.7%)

一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、「手助けしたいが、余裕がない」32.3%が最も高く、次いで「できる範囲で手助けしたい」23.7%、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」19.9%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「手助けしたいが、余裕がない」32.7%が最も高く、次いで「できる範囲で手助けしたい」23.4%、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」20.3%などとなっている。

図表 4-(4)-1 一人暮らしの高齢者などへの手助けについて



一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、

性別にみると、男女とも「手助けしたいが、余裕がない」が最も高く、『男性』33.8%、『女性』31.4%で、これに『男性』では「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」21.5%、『女性』では「できる範囲で手助けしたい」26.1%で続いている。

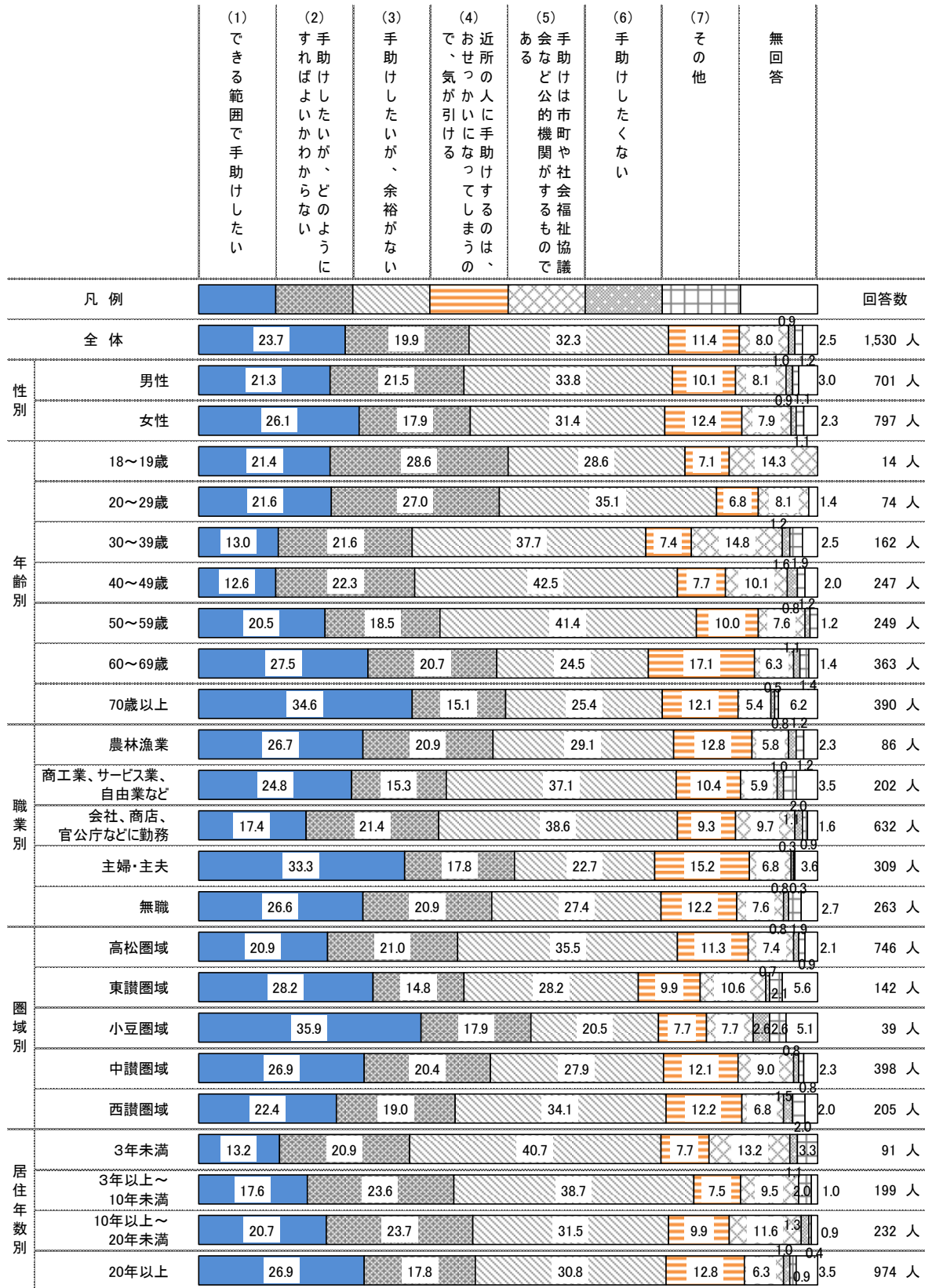
年齢別にみると、『18～19歳』では「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」、「手助けしたいが、余裕がない」が同率で最も高く、『60歳以上』では「できる範囲で手助けしたい」が2～3割台で最も高く、そのほかの年齢では「手助けしたいが、余裕がない」が3～4割台で最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』では「できる範囲で手助けしたい」が33.3%で最も高く、そのほかの職業では「手助けしたいが、余裕がない」が2～3割台で最も高くなっている。

圏域別にみると、『東讃圏域』では「できる範囲で手助けしたい」、「手助けしたいが、余裕がない」が同率で最も高く、『小豆圏域』では「できる範囲で手助けしたい」が35.9%で最も高く、そのほかの圏域では「手助けしたいが、余裕がない」が2～3割台で最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「手助けしたいが、余裕がない」が3～4割台で最も高くなっている。

図表 4-(4)-2 【一人暮らしの高齢者などへの手助けについて】



グラフ単位：(%)

(5) 認知症施策で関心のあることについて

問31 認知症施策で関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1	認知症の予防に向けた取り組み	59.4% (59.6%)
2	家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み	59.4% (58.8%)
3	認知症を治せる薬や治療法の開発	51.2% (51.6%)
4	認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	48.1% (47.4%)
5	家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取り組み	47.6% (47.6%)
6	できるだけ早い段階からの医療・介護などのサポートを利用できる仕組みづくり	46.1% (46.2%)
7	認知症に関する正しい知識と理解の啓発・情報提供	43.9% (43.6%)
8	認知症の人が利用できる介護施設の充実	39.9% (39.0%)
9	認知症の人を地域で見守る体制の充実	28.7% (28.1%)
10	悪質商法や詐欺的な勧誘による被害を防止するための取り組み	27.3% (27.3%)
11	日常生活の中で必要となる財産管理などへの支援の充実	16.3% (16.2%)
12	その他	0.1% (0.1%)
	(無回答)	2.2% (2.3%)

認知症施策で関心のあることについて、「認知症の予防に向けた取り組み」59.4%と「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」59.4%が最も高く、次いで「認知症を治せる薬や治療法の開発」51.2%、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」48.1%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「認知症の予防に向けた取り組み」59.6%が最も高く、次いで「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」58.8%、「認知症を治せる薬や治療法の開発」51.6%などとなっている。

図表 4-(5)-1 認知症施策で関心のあることについて

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) 認知症の予防に向けた取り組み	59.4	909 人
(2) 家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み	59.4	909 人
(3) 認知症を治せる薬や治療法の開発	51.2	784 人
(4) 認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	48.1	736 人
(5) 家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取り組み	47.6	729 人
(6) できるだけ早い段階からの医療・介護などのサポートを利用できる仕組みづくり	46.1	705 人
(7) 認知症に関する正しい知識と理解の啓発・情報提供	43.9	671 人
(8) 認知症の人が利用できる介護施設の充実	39.9	610 人
(9) 認知症の人を地域で見守る体制の充実	28.7	439 人
(10) 悪質商法や詐欺的な勧誘による被害を防止するための取り組み	27.3	418 人
(11) 日常生活の中で必要となる財産管理などへの支援の充実	16.3	250 人
(12) その他	0.1	2 人
無回答	2.2	34 人

グラフ単位：(%)

認知症施策で関心のあることについて、

性別にみると、『男性』では「認知症の予防に向けた取り組み」60.3%が最も高く、『女性』では「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」62.7%が最も高く、これに『男性』では「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」56.3%、『女性』では「認知症の予防に向けた取り組み」58.7%で続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』、『20～29歳』、『70歳以上』では「認知症の予防に向けた取り組み」が5～6割台と最も高く、そのほかの年齢では「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」が6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』、『無職』では「認知症の予防に向けた取り組み」が5～6割台と最も高く、そのほかの職業では「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」が6割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、『中讃圏域』では「認知症の予防に向けた取り組み」が64.6%と最も高く、そのほかの圏域では「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」が5～6割台と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「認知症の予防に向けた取り組み」が59.2%と最も高く、そのほかの居住年数では「家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み」が6割台と最も高くなっている。

図表 4-(5)-2 【認知症施策で関心のあることについて】

【表の見方】 単位=比率(%)	全体(人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	無回答	
		認知症の予防に向けた取り組み	家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み	認知症を治せる薬や治療法の開発	認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	家族の仕事を軽減する取り組み	介護など早期段階からの医療・サービスを利用できる仕組み	認知症に関する正しい知識と理解の啓発・情報提供	認知症の人が利用できる介護施設の充実	認知症の人を地域で見守る体制の充実	悪質商法や詐欺的な勧誘による被害を防止するための取り組み	日常生活の中で必要となる財産管理などへの支援の充実	その他		
全体	1,530	59.4	59.4	51.2	48.1	47.6	46.1	43.9	39.9	28.7	27.3	16.3	0.1	2.2	
性別	男性	701	60.3	56.3	51.4	43.5	43.9	45.1	43.8	38.1	27.0	24.5	17.3	0.1	2.7
	女性	797	58.7	62.7	51.1	52.4	51.1	46.7	44.3	41.9	30.7	29.7	15.6	0.1	1.6
年齢別	18～19歳	14	64.3	42.9	42.9	35.7	57.1	57.1	28.6	28.6	21.4	14.3	21.4	-	-
	20～29歳	74	66.2	64.9	60.8	41.9	50.0	44.6	47.3	29.7	23.0	32.4	14.9	-	1.4
	30～39歳	162	61.1	64.8	53.7	45.7	50.6	48.8	43.8	36.4	27.8	32.1	15.4	-	1.9
	40～49歳	247	58.7	64.0	47.4	48.6	57.5	42.1	41.7	36.8	26.3	25.5	16.6	0.4	1.2
	50～59歳	249	60.2	65.1	49.4	46.6	52.2	48.2	45.8	37.8	25.3	31.3	19.7	0.4	-
	60～69歳	363	61.2	65.3	52.3	51.8	48.8	44.9	46.0	44.4	33.3	26.7	16.3	-	1.1
	70歳以上	390	55.6	45.9	51.0	48.5	35.6	46.4	42.6	43.6	30.8	23.8	14.6	-	5.6
職業別	農林漁業	86	62.8	50.0	52.3	44.2	44.2	47.7	46.5	43.0	32.6	18.6	17.4	-	1.2
	商工業、サービス業、自由業など	202	59.4	62.9	45.5	48.5	52.0	41.1	39.6	42.1	28.7	33.7	17.3	0.5	2.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	60.0	63.3	53.6	44.6	53.5	46.5	45.1	35.3	26.9	25.9	17.1	0.2	1.3
	主婦・主夫	309	58.9	61.8	50.8	57.6	44.3	46.9	44.3	43.4	32.7	32.0	13.9	-	2.3
無職	263	58.2	49.4	49.8	47.5	35.4	46.0	44.1	45.6	28.9	22.8	16.0	-	4.2	
圏域別	高松圏域	746	59.4	59.9	52.5	49.5	48.4	47.9	44.1	39.1	30.0	29.6	17.3	-	1.9
	東讃圏域	142	52.1	56.3	55.6	48.6	48.6	50.7	44.4	34.5	26.1	23.9	14.1	-	2.8
	小豆圏域	39	46.2	56.4	56.4	35.9	43.6	43.6	35.9	46.2	20.5	23.1	10.3	-	5.1
	中讃圏域	398	64.6	58.8	48.0	48.0	47.2	44.0	44.7	43.0	28.9	27.1	17.8	0.3	2.3
	西讃圏域	205	57.1	61.5	48.8	45.4	45.9	41.0	42.4	39.0	26.8	22.4	12.7	0.5	2.4
居住年数別	3年未満	91	62.6	63.7	54.9	44.0	51.6	48.4	44.0	38.5	33.0	29.7	13.2	-	-
	3年以上～10年未満	199	62.3	67.8	51.3	43.2	56.3	43.7	44.7	37.7	28.6	30.2	20.1	-	0.5
	10年以上～20年未満	232	56.9	61.2	48.3	44.0	53.4	46.6	45.3	33.2	28.9	25.4	16.4	0.4	1.3
	20年以上	974	59.2	57.4	51.6	50.8	44.3	46.0	43.7	42.5	28.7	27.0	15.9	0.1	2.8

(6) 高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について

問32 今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策はどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】 ※回答数の多い順に並び替え

1 健康づくりや介護予防	59.3% (58.7%)
2 高齢者活躍の場の確保 (活躍の場への誘導)	48.5% (48.8%)
3 住宅や交通などの住環境の充実	44.7% (44.6%)
4 介護サービス施設などの量的充実	43.6% (43.3%)
5 介護サービスの質の向上	41.6% (42.2%)
6 地域医療の充実	40.8% (40.1%)
7 地域で支え合う体制の充実	38.6% (38.7%)
8 認知症高齢者施策の推進	32.5% (32.3%)
9 災害時の援護体制の整備	28.2% (28.7%)
10 交通安全の確保	27.4% (29.1%)
11 高齢者虐待の防止	22.6% (23.2%)
12 犯罪被害の防止	19.9% (20.5%)
13 その他	1.4% (1.8%)
(無回答)	2.0% (2.0%)

高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について、「健康づくりや介護予防」59.3%が最も高く、次いで「高齢者活躍の場の確保 (活躍の場への誘導)」48.5%、「住宅や交通などの住環境の充実」44.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「健康づくりや介護予防」58.7%が最も高く、次いで「高齢者活躍の場の確保 (活躍の場への誘導)」48.8%、「住宅や交通などの住環境の充実」44.6%などとなっている。

図表 4-(6)-1 高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について

		回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) 健康づくりや介護予防	59.3	907 人
(2) 高齢者活躍の場の確保(活躍の場への誘導)	48.5	742 人
(3) 住宅や交通などの住環境の充実	44.7	684 人
(4) 介護サービス施設などの量的充実	43.6	667 人
(5) 介護サービスの質の向上	41.6	637 人
(6) 地域医療の充実	40.8	625 人
(7) 地域で支え合う体制の充実	38.6	591 人
(8) 認知症高齢者施策の推進	32.5	497 人
(9) 災害時の援護体制の整備	28.2	431 人
(10) 交通安全の確保	27.4	419 人
(11) 高齢者虐待の防止	22.6	346 人
(12) 犯罪被害の防止	19.9	305 人
(13) その他	1.4	22 人
無回答	2.0	30 人

グラフ単位:(%)

高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について、

性別にみると、男女とも「健康づくりや介護予防」が最も高く、『男性』58.1%、『女性』60.0%で、これに「高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）」が『男性』47.6%、『女性』49.1%で続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』では「地域で支え合う体制の充実」、「介護サービスの質の向上」64.3%が最も高く、『20～29歳』では「高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）」、「介護サービスの質の向上」51.4%が最も高く、そのほかの年齢では「健康づくりや介護予防」が5～6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「健康づくりや介護予防」が5～6割台と最も高く、これに『農林漁業』、『無職』では「介護サービス施設などの量的充実」が、『主婦・主夫』では「住宅や交通などの住環境の充実」が、そのほかの職業では「高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「健康づくりや介護予防」が5～6割台で最も高く、これに『東讃圏域』では「介護サービス施設などの量的充実」が、『小豆圏域』では「地域医療の充実」が、そのほかの圏域では「高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）」が続いている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』では「高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）」が56.0%で最も高く、そのほかの居住年数では「健康づくりや介護予防」が5～6割台で最も高くなっている。

図表 4-(6)-2 【高齢化が進行していく社会において、重要と思われる方策について】

【表の見方】 単位=比率(%)	全体 (人)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	無回答	
		健康づくりや介護予防	高齢者活躍の場の確保 (活躍の場への誘導)	住宅や交通などの住環境の充実	介護サービス施設などの量的充実	介護サービスの質の向上	地域医療の充実	実地域で支え合う体制の充実	認知症高齢者施策の推進	災害時の援護体制の整備	交通安全の確保	高齢者虐待の防止	犯罪被害の防止	その他		
全体	1,530	59.3	48.5	44.7	43.6	41.6	40.8	38.6	32.5	28.2	27.4	22.6	19.9	1.4	2.0	
性別	男性	701	58.1	47.6	43.2	44.4	38.7	40.1	37.7	30.4	25.7	27.1	21.3	19.8	1.3	2.3
	女性	797	60.0	49.1	46.2	43.2	44.7	41.4	39.6	34.3	30.7	28.2	24.0	20.3	1.6	1.8
年齢別	18～19歳	14	57.1	57.1	35.7	50.0	64.3	28.6	64.3	14.3	50.0	21.4	50.0	28.6	7.1	-
	20～29歳	74	48.6	51.4	50.0	41.9	51.4	36.5	35.1	35.1	32.4	50.0	21.6	29.7	5.4	1.4
	30～39歳	162	60.5	56.2	45.1	40.1	42.0	34.0	34.0	31.5	25.3	42.6	25.9	18.5	3.7	1.9
	40～49歳	247	55.5	54.3	46.6	39.7	39.7	36.4	34.0	25.1	29.6	25.1	22.7	19.8	1.2	1.2
	50～59歳	249	59.0	51.4	46.6	45.8	42.6	41.0	35.7	31.7	27.7	24.5	22.5	19.3	0.8	0.4
	60～69歳	363	61.2	46.8	46.3	46.6	43.5	44.9	41.3	33.6	27.8	20.9	20.4	19.6	0.8	1.9
	70歳以上	390	61.0	40.0	40.3	43.8	38.5	43.6	42.8	36.9	28.2	27.4	22.8	19.7	0.8	3.8
職業別	農林漁業	86	57.0	33.7	33.7	44.2	29.1	39.5	39.5	39.5	22.1	19.8	17.4	15.1	1.2	2.3
	商工業、サービス業、自由業など	202	59.9	49.0	47.0	38.1	46.5	39.1	37.6	31.2	25.2	22.8	25.2	22.3	1.0	2.5
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	57.9	55.5	46.2	43.7	41.5	38.4	35.1	29.9	27.8	30.7	22.6	18.4	1.7	1.3
	主婦・主夫	309	63.1	44.7	46.0	41.7	41.1	42.1	45.0	36.6	32.7	25.6	23.0	23.3	1.9	2.6
無職	263	56.7	40.3	41.8	50.6	44.5	46.8	41.1	32.7	28.5	29.7	22.4	20.5	0.8	2.7	
圏域別	高松圏域	746	59.1	49.9	45.3	42.8	41.6	42.2	38.1	32.0	28.3	26.1	23.9	19.8	1.3	1.9
	東讃圏域	142	54.9	45.1	43.7	45.8	40.1	42.3	40.1	35.2	29.6	26.8	21.1	21.1	1.4	2.1
	小豆圏域	39	53.8	28.2	41.0	46.2	43.6	48.7	25.6	30.8	41.0	15.4	12.8	17.9	5.1	5.1
	中讃圏域	398	61.3	48.7	46.0	46.0	43.2	36.2	39.7	31.4	26.4	31.2	22.6	22.6	1.0	1.8
	西讃圏域	205	60.0	49.3	41.5	40.0	39.5	42.4	40.0	34.6	27.8	27.3	21.0	14.6	2.0	2.0
居住年数別	3年未満	91	64.8	52.7	44.0	39.6	44.0	27.5	39.6	38.5	28.6	39.6	23.1	27.5	5.5	-
	3年以上～10年未満	199	63.3	58.8	48.2	47.2	43.7	37.2	36.2	29.1	26.6	33.2	25.1	19.1	3.0	0.5
	10年以上～20年未満	232	53.9	56.0	48.7	40.1	40.5	33.2	38.4	26.3	25.0	22.4	24.1	19.0	0.4	1.3
	20年以上	974	58.9	44.0	43.2	44.4	41.7	44.7	39.3	34.1	29.5	26.8	21.9	19.9	1.0	2.6

5. 県公式ホームページについて

(1) 県公式ホームページを見たことがあるかについて

問33 県公式ホームページを見たことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

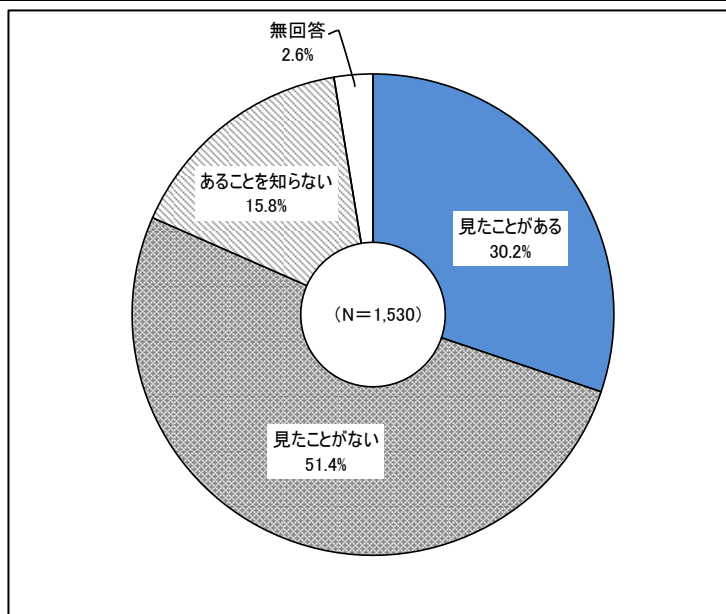
【回答者数=1,530】

1 見たことがある	30.2% (30.6%)
2 見たことがない	51.4% (50.6%)
3 あることを知らない	15.8% (16.2%)
(無回答)	2.6% (2.6%)

県公式ホームページを見たことがあるかについて、「見たことがない」51.4%が最も高く、次いで「見たことがある」30.2%、「あることを知らない」15.8%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「見たことがない」50.6%が最も高く、次いで「見たことがある」30.6%、「あることを知らない」16.2%となっている。

図表 5-(1)-1 県公式ホームページを見たことがあるかについて



県公式ホームページを見たことがあるかについて、

性別にみると、男女とも「見たことがない」が最も高く、『男性』49.5%、『女性』53.3%で、これに「見たことがある」が『男性』34.2%、『女性』27.2%で続いている。

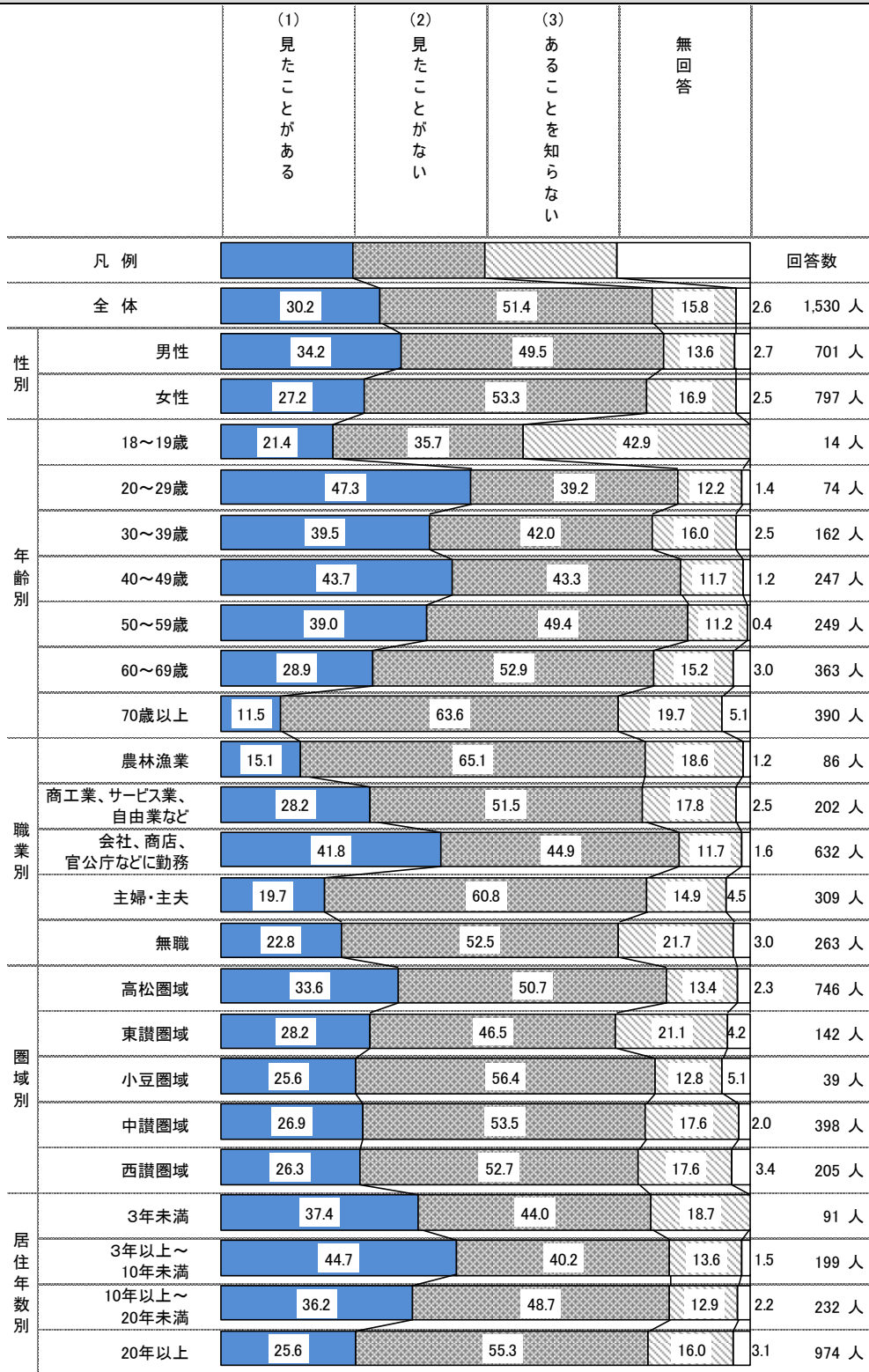
年齢別にみると、『20～29歳』、『40～49歳』では「見たことがある」が4割台と最も高く、『18～19歳』では「あることを知らない」が42.9%と最も高く、そのほかの年齢では「見たことがない」が4～6割台と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「見たことがない」が4～6割台と最も高く、これに『農林漁業』では「あることを知らない」が、そのほかの職業では「見たことがある」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「見たことがない」が4～5割台で最も高く、これに「見たことがある」が続いている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』では「見たことがある」が44.7%と最も高く、そのほかの居住年数では「見たことがない」が4～5割台と最も高くなっている。

図表 5-(1)-2 【県公式ホームページを見たことがあるかについて】



グラフ単位：(%)

(2) 県公式ホームページの印象について

問34 県公式ホームページをご覧になった方（今までに見たことがない方で、この調査の回答のためにご覧になった方も含みます。）にお伺いします。印象について、それぞれ1～3のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=756, 744, 752】

(単位：%)

項 目	印象		
	① 見 や す い わ か り や す い	② ふ つ う	③ 見 づ ら い わ か り に く い
1 トップページのレイアウト (ページ内の文章や写真、図などの配置)	19.0 (18.6)	70.0 (70.2)	11.0 (11.1)
2 トップページのデザイン (色、文字サイズ、写真などページの見栄え)	16.1 (16.3)	72.8 (72.5)	11.0 (11.1)
3 ホームページ全体の構成 (分類)	14.2 (14.0)	68.4 (68.9)	17.4 (17.1)

県公式ホームページの印象について、【1. トップページのレイアウト】では、「ふつう」70.0%が最も高く、次いで「見やすい、わかりやすい」19.0%、「見づらい、わかりにくい」11.0%となっている。

【2. トップページのデザイン】では、「ふつう」72.8%が最も高く、次いで「見やすい、わかりやすい」16.1%、「見づらい、わかりにくい」11.0%となっている。

【3. ホームページ全体の構成】では、「ふつう」68.4%が最も高く、次いで「見づらい、わかりにくい」17.4%、「見やすい、わかりやすい」14.2%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【1. トップページのレイアウト】では、「ふつう」70.2%が最も高く、次いで「見やすい、わかりやすい」18.6%、「見づらい、わかりにくい」11.1%となっている。

【2. トップページのデザイン】では、「ふつう」72.5%が最も高く、次いで「見やすい、わかりやすい」16.3%、「見づらい、わかりにくい」11.1%となっている。

【3. ホームページ全体の構成】では、「ふつう」68.9%が最も高く、次いで「見づらい、わかりにくい」17.1%、「見やすい、わかりやすい」14.0%となっている。

県公式ホームページの【1. トップページのレイアウト】の印象について、

性別にみると、男女とも「ふつう」が最も高く、『男性』70.7%、『女性』69.3%で、これに「見やすい、わかりやすい」が『男性』16.0%、『女性』22.0%で続いている。

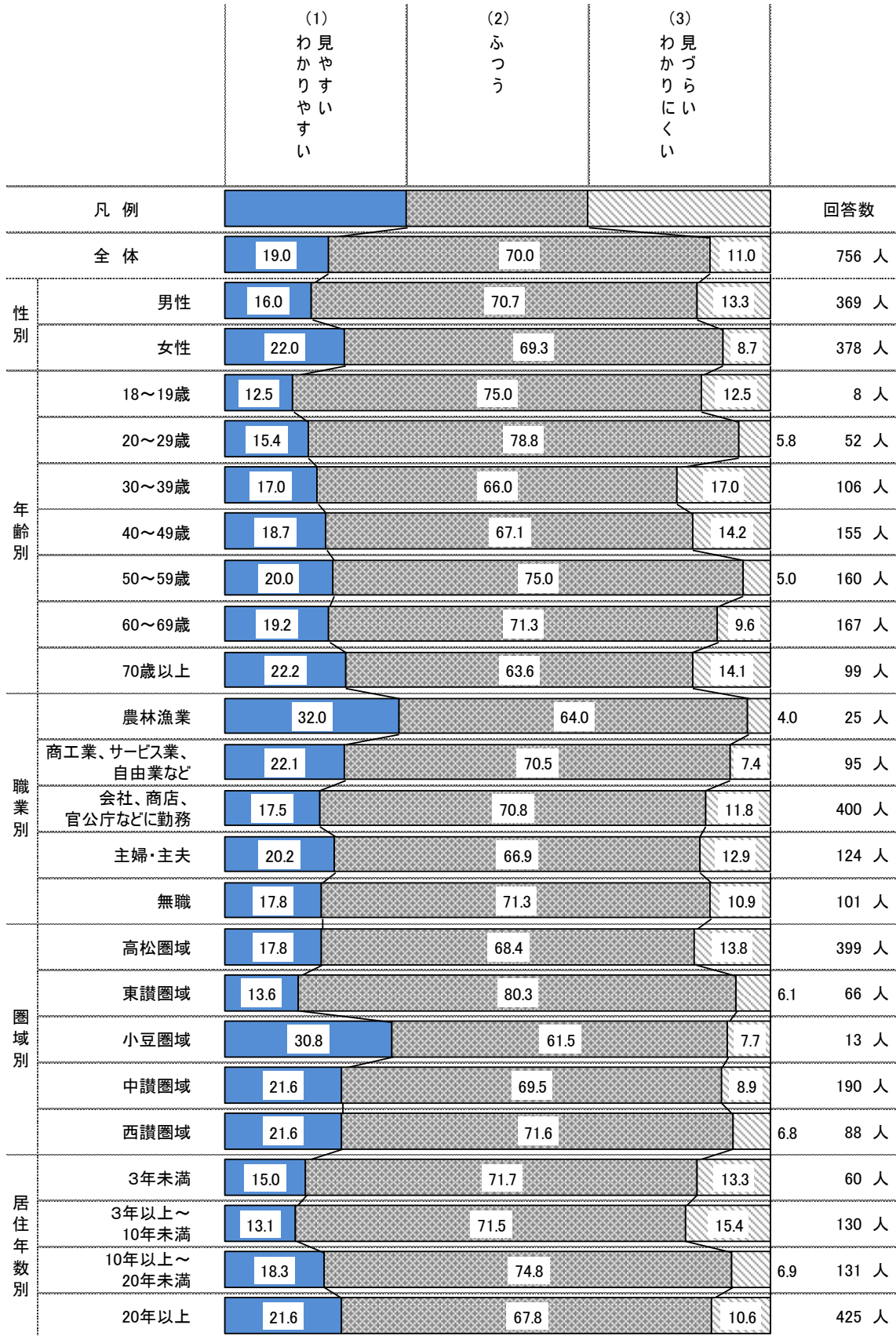
年齢別にみると、いずれも「ふつう」が6～7割台と最も高く、これに『70歳以上』では「見やすい、わかりやすい」22.2%が比較的高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ふつう」が6～7割台と最も高く、これに『農林漁業』では「見やすい、わかりやすい」32.0%が比較的高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ふつう」が6～8割台と最も高く、これに『小豆圏域』では「見やすい、わかりやすい」30.8%が比較的高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ふつう」が6～7割台と最も高く、これに『20年以上』では「見やすい、わかりやすい」21.6%が比較的高くなっている。

図表 5-(2)-1 【県公式ホームページの1.トップページのレイアウトの印象について】



グラフ単位：(%)

県公式ホームページの【2. トップページのデザイン】の印象について、

性別にみると、男女とも「ふつう」が最も高く、『男性』72.1%、『女性』73.5%で、これに「見やすい、わかりやすい」が『男性』14.8%、『女性』17.6%で続いている。

年齢別にみると、いずれも「ふつう」が6～7割台と最も高く、これに『70歳以上』では「見やすい、わかりやすい」23.9%が比較的高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ふつう」が6～7割台と最も高く、これに『無職』では「見やすい、わかりやすい」20.6%が比較的高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ふつう」が5～8割台と最も高く、これに『小豆圏域』では「見やすい、わかりやすい」25.0%が比較的高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ふつう」が7割台と最も高く、これに『20年以上』では「見やすい、わかりやすい」18.2%が比較的高くなっている。

図表 5-(2)-2 【県公式ホームページの2.トップページのデザインの印象について】



グラフ単位：(%)

県公式ホームページの【3. ホームページ全体の構成】の印象について、

性別にみると、男女とも「ふつう」が最も高く、『男性』67.8%、『女性』69.2%で、これに『男性』では「見づらい、わかりにくい」20.2%、『女性』では「見やすい、わかりやすい」16.4%で続いている。

年齢別にみると、いずれも「ふつう」が6割台～10割と最も高く、これに『40～49歳』では「見づらい、わかりにくい」22.6%が比較的高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ふつう」が6～7割台と最も高く、これに『会社、商店、官公庁などに勤務』では「見づらい、わかりにくい」19.2%が比較的高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「ふつう」が6～7割台と最も高く、これに『高松圏域』では「見づらい、わかりにくい」20.9%が比較的高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「ふつう」が6～7割台と最も高く、これに『3年以上～10年未満』では「見づらい、わかりにくい」23.8%が比較的高くなっている。

図表 5-(2)-3 【県公式ホームページの3.ホームページ全体の構成について】



グラフ単位: (%)

(3)改善方法について

【問34の1～3のうち、1つでも「3」と答えた方にお聞きします】

付問8 どのように改善すればよいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=163】※回答数の多い順に並び替え

- 1 トップページのレイアウトは、文字を減らすなど簡潔な構成とする 53.4%(55.5%)
- 2 ホームページ全体の構成(分類)は、分野別だけではなく、所属別も加える 31.3%(29.2%)
- 3 トップページのデザインは、写真、イラストを多く使用する 27.6%(28.7%)
- 4 その他 17.8%(18.8%)
- (無回答) 5.5%(5.3%)

改善方法について、「トップページのレイアウトは、文字を減らすなど簡潔な構成とする」53.4%が最も高く、次いで「ホームページ全体の構成(分類)は、分野別だけではなく、所属別も加える」31.3%、「トップページのデザインは、写真、イラストを多く使用する」27.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「トップページのレイアウトは、文字を減らすなど簡潔な構成とする」55.5%が最も高く、次いで「ホームページ全体の構成(分類)は、分野別だけではなく、所属別も加える」29.2%、「トップページのデザインは、写真、イラストを多く使用する」28.7%などとなっている。

図表 5-(3)-1 改善方法について

		回答数
全体	100.0	163人
(1) トップページのレイアウトは、文字を減らすなど簡潔な構成とする	53.4	87人
(2) ホームページ全体の構成(分類)は、分野別だけではなく、所属別も加える	31.3	51人
(3) トップページのデザインは、写真、イラストを多く使用する	27.6	45人
(4) その他	17.8	29人
無回答	5.5	9人

グラフ単位:(%)

改善方法について、

性別にみると、男女とも「トップページのレイアウトは、文字を減らすなど簡潔な構成とする」が最も高く、『男性』52.2%、『女性』57.4%で、これに『男性』では「ホームページ全体の構成(分類)は、分野別だけではなく、所属別も加える」29.3%、『女性』では「トップページのデザインは、写真、イラストを多く使用する」33.8%で続いている。

年齢別にみると、『18～19歳』を除くすべての年齢で「トップページのレイアウトは、文字を減らすなど簡潔な構成とする」が最も高くなっている。

職業別にみると、『無職』では「トップページのレイアウトは、文字を減らすなど簡潔な構成とする」、「ホームページ全体の構成（分類）は、分野別だけではなく、所属別も加える」が同率の36.4%で、そのほかの職業では「トップページのレイアウトは、文字を減らすなど簡潔な構成とする」が4～6割台と最も高くなっている。

圏域別にみると、いずれも「トップページのレイアウトは、文字を減らすなど簡潔な構成とする」が5～6割台で最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「トップページのレイアウトは、文字を減らすなど簡潔な構成とする」が5割台で最も高くなっている。

図表 5-(3)-2 【改善方法について】

【表の見方】 単位＝比率(%)	全体 (人)	(1)	(2)	(3)	(4)	無 回 答	
		簡 潔 な 構 成 と す る	ト ッ プ ペ ー ジ の レ イ ア ウ ト は 、 文 字 を 減 ら す な ど	ホ ー ム ペ ー ジ 全 体 の 構 成 は 、 分 野 別 も 加 え る	ト ッ プ ペ ー ジ の レ イ ア ウ ト は 、 文 字 を 減 ら す な ど		
全体	163	53.4	31.3	27.6	17.8	5.5	
性別	男性	92	52.2	29.3	23.9	21.7	3.3
	女性	68	57.4	32.4	33.8	13.2	7.4
年齢別	18～19歳	1	-	-	100.0	100.0	-
	20～29歳	10	80.0	10.0	20.0	20.0	-
	30～39歳	28	67.9	35.7	46.4	25.0	-
	40～49歳	40	62.5	30.0	17.5	22.5	2.5
	50～59歳	29	51.7	41.4	27.6	10.3	3.4
	60～69歳	29	37.9	37.9	20.7	20.7	3.4
	70歳以上	23	39.1	13.0	34.8	4.3	21.7
職業別	農林漁業	4	50.0	-	25.0	25.0	-
	商工業、サービス業、 自由業など	14	42.9	35.7	14.3	35.7	7.1
	会社、商店、官公庁 などに勤務	94	61.7	27.7	27.7	20.2	1.1
	主婦・主夫	25	52.0	36.0	44.0	8.0	12.0
	無職	22	36.4	36.4	22.7	9.1	13.6
圏域別	高松圏域	102	52.0	32.4	27.5	17.6	3.9
	東讃圏域	8	62.5	12.5	37.5	-	12.5
	小豆圏域	2	50.0	-	-	50.0	-
	中讃圏域	34	52.9	32.4	29.4	20.6	11.8
	西讃圏域	17	58.8	35.3	23.5	17.6	-
居住年数別	3年未満	15	53.3	26.7	46.7	46.7	-
	3年以上～10年未満	35	54.3	40.0	14.3	31.4	2.9
	10年以上～20年未満	20	50.0	30.0	30.0	5.0	10.0
	20年以上	89	56.2	27.0	30.3	11.2	5.6

(4) 県公式ホームページで知りたい情報は探しやすいかについて

問35 県公式ホームページをご覧になった方（今までに見たことがない方で、この調査の回答のためにご覧になった方も含みます。）にお伺いします。県公式ホームページで知りたい情報は探しやすいですか。次の中から1つだけ選んでください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

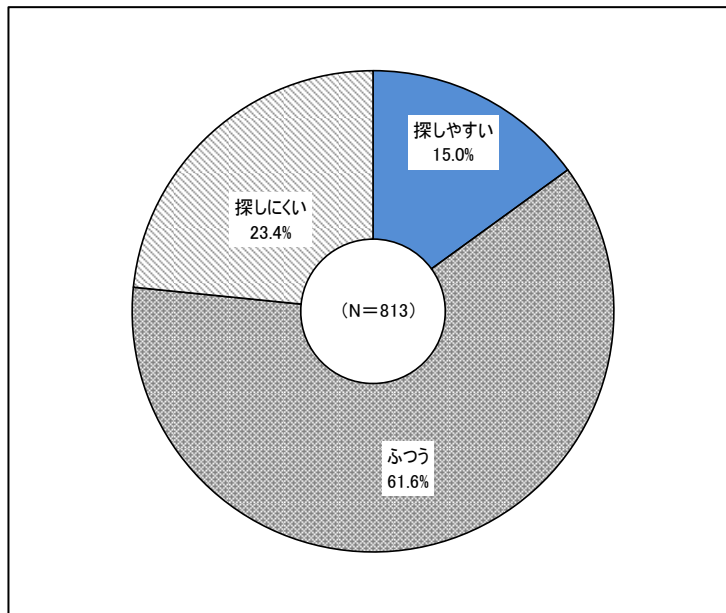
【回答者数=813】

1 探しやすい	15.0% (14.0%)
2 ふつう	61.6% (62.1%)
3 探しにくい	23.4% (23.9%)

県公式ホームページで知りたい情報は探しやすいかについて、「ふつう」61.6%が最も高く、次いで「探しにくい」23.4%、「探しやすい」15.0%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ふつう」62.1%が最も高く、次いで「探しにくい」23.9%、「探しやすい」14.0%となっている。

図表 5-(4)-1 県公式ホームページで知りたい情報は探しやすいかについて



県公式ホームページで知りたい情報は探しやすいかについて、

性別にみると、男女とも「ふつう」が最も高く、『男性』60.6%、『女性』63.1%で、これに「探しにくい」が『男性』27.1%、『女性』19.6%が続いている。

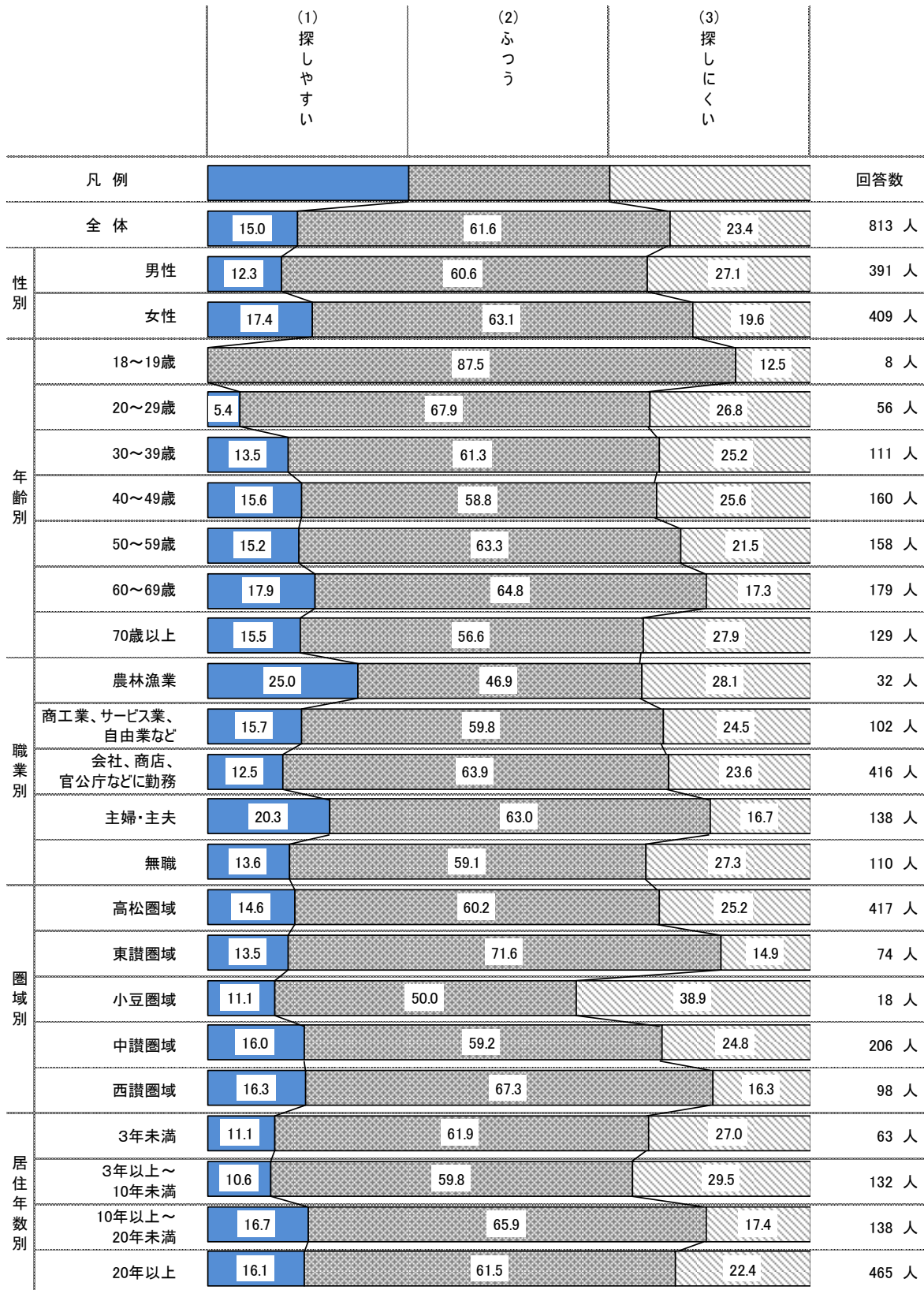
年齢別にみると、いずれも「ふつう」が5～8割台と最も高く、これに『60～69歳』では「探しやすい」が、そのほかの年齢別では「探しにくい」が続いている。

職業別にみると、いずれも「ふつう」が4～6割台と最も高く、これに『主婦・主夫』では「探しやすい」が、そのほかの職業別では「探しにくい」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「ふつう」が5～7割台と最も高く、これに『西讃圏域』では「探しやすい」、「探しにくい」が同率で、そのほかの圏域では「探しにくい」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「ふつう」が5～6割台と最も高く、これに「探しにくい」が続いている。

図表 5-(4)-2 【県公式ホームページで知りたい情報は探しやすいかについて】



グラフ単位：(%)

(5) 探しやすいするための改善方法について

【問35で「3」と答えた方にお聞きします】

付問9 探しやすいするためには、どのように改善すればよいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=190】※回答数の多い順に並び替え

1	ホームページ全体の構成（分類）をわかりやすく簡潔にする	53.7% (54.3%)
2	各ページを整理統合し、検索しやすくする	47.4% (46.6%)
3	各ページに、関連情報の掲載ページのタイトルを表示する	20.0% (21.6%)
4	その他	7.4% (6.7%)
	(無回答)	5.3% (5.4%)

探しやすいするための改善方法について、「ホームページ全体の構成（分類）をわかりやすく簡潔にする」53.7%が最も高く、次いで「各ページを整理統合し、検索しやすくする」47.4%、「各ページに、関連情報の掲載ページのタイトルを表示する」20.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ホームページ全体の構成（分類）をわかりやすく簡潔にする」54.3%が最も高く、次いで「各ページを整理統合し、検索しやすくする」46.6%、「各ページに、関連情報の掲載ページのタイトルを表示する」21.6%などとなっている。

図表 5-(5)-1 探しやすいするための改善方法について

		回答数
全体	100.0	190 人
(1) ホームページ全体の構成（分類）をわかりやすく簡潔にする	53.7	102 人
(2) 各ページを整理統合し、検索しやすくする	47.4	90 人
(3) 各ページに、関連情報の掲載ページのタイトルを表示する	20.0	38 人
(4) その他	7.4	14 人
無回答	5.3	10 人

グラフ単位：(%)

探しやすいするための改善方法について、

性別にみると、男女とも「ホームページ全体の構成（分類）をわかりやすく簡潔にする」が最も高く、『男性』、『女性』ともに同率の 53.8%で、これに「各ページを整理統合し、検索しやすくする」が『男性』45.3%、『女性』51.3%で続いている。

年齢別にみると、『20～29 歳』、『60 歳以上』では「ホームページ全体の構成（分類）をわかりやすく簡潔にする」が4～6割台で最も高く、『18～19 歳』では「ホームページ全体の構成（分類）をわかりやすく簡潔にする」、「各ページを整理統合し、検索しやすくする」、「各ページに、関連情報の掲載ページのタイトルを表示する」が同率で、そのほかの年齢では「各ページを整理統合し、検索しやすくする」が5～6割台で最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「各ページを整理統合し、検索しやすくする」が4～6割台で最も高く、そのほかの職業では「ホームページ全体の構成（分類）をわかりやすく簡潔にする」が5～6割台で最も高くなっている。

圏域別にみると、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「各ページを整理統合し、検索しやすくする」が4割台で最も高く、そのほかの圏域では「ホームページ全体の構成（分類）をわかりやすく簡潔にする」が5～7割台で最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「ホームページ全体の構成（分類）をわかりやすく簡潔にする」、「各ページを整理統合し、検索しやすくする」が同率の58.8%で高く、『20年以上』では「ホームページ全体の構成（分類）をわかりやすく簡潔にする」が5割台で最も高く、そのほかの年齢では「各ページを整理統合し、検索しやすくする」が5～6割台で最も高くなっている。

図表 5-(5)-2 【探しやすくするための改善方法について】

		全体（人）	(1) 簡潔に分類する （ホームページ全体 の構成）	(2) 検索しやすくする （各ページを整理統 合し、）	(3) 表示する （各ページに、関 連情報をの）	(4) その他	無回答
【表の見方】 単位＝比率(%)							
全体		190	53.7	47.4	20.0	7.4	5.3
性別	男性	106	53.8	45.3	17.9	9.4	5.7
	女性	80	53.8	51.3	23.8	3.8	5.0
年齢別	18～19歳	1	100.0	100.0	100.0	-	-
	20～29歳	15	60.0	20.0	26.7	-	6.7
	30～39歳	28	53.6	64.3	32.1	7.1	3.6
	40～49歳	41	56.1	58.5	22.0	9.8	2.4
	50～59歳	34	50.0	55.9	11.8	5.9	5.9
	60～69歳	31	58.1	32.3	19.4	9.7	3.2
	70歳以上	36	47.2	38.9	13.9	5.6	11.1
職業別	農林漁業	9	66.7	44.4	11.1	-	-
	商工業、サービス業、 自由業など	25	44.0	48.0	24.0	12.0	16.0
	会社、商店、官公庁 などに勤務	98	54.1	49.0	20.4	8.2	3.1
	主婦・主夫	23	47.8	65.2	26.1	4.3	8.7
	無職	30	60.0	33.3	16.7	3.3	3.3
圏域別	高松圏域	105	58.1	49.5	18.1	6.7	1.9
	東讃圏域	11	72.7	45.5	27.3	9.1	-
	小豆圏域	7	71.4	42.9	28.6	-	-
	中讃圏域	51	43.1	45.1	19.6	9.8	13.7
	西讃圏域	16	37.5	43.8	25.0	6.3	6.3
居住年数別	3年未満	17	58.8	58.8	23.5	5.9	-
	3年以上～10年未満	39	46.2	51.3	17.9	7.7	10.3
	10年以上～20年未満	24	62.5	66.7	25.0	8.3	-
	20年以上	104	53.8	40.4	19.2	6.7	5.8

(6) 魅力ある県公式ホームページにするために必要だと思うことについて

問36 魅力ある県公式ホームページにするために必要だと思うことは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】※回答数の多い順に並び替え

1 知りたい情報にたどり着きやすい	58.0% (58.6%)
2 見やすいデザインやレイアウトにする	31.4% (33.1%)
3 障害のある方や高齢の方が利用しやすい	23.7% (24.9%)
4 多言語対応している (外国人が見やすい)	10.9% (12.2%)
5 その他	1.8% (2.0%)
(無回答)	30.8% (29.8%)

魅力ある県公式ホームページにするために必要だと思うことについて、「知りたい情報にたどり着きやすい」58.6%が最も高く、次いで「見やすいデザインやレイアウトにする」31.4%、「障害のある方や高齢の方が利用しやすい」23.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「知りたい情報にたどり着きやすい」58.6%が最も高く、次いで「見やすいデザインやレイアウトにする」33.1%、「障害のある方や高齢の方が利用しやすい」24.9%などとなっている。

図表 5-(6)-1 魅力ある県公式ホームページにするために必要だと思うことについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,530 人
(1) 知りたい情報にたどり着きやすい	58.0	888 人
(2) 見やすいデザインやレイアウトにする	31.4	481 人
(3) 障害のある方や高齢の方が利用しやすい	23.7	363 人
(4) 多言語対応している(外国人が見やすい)	10.9	167 人
(5) その他	1.8	28 人
無回答	30.8	471 人

グラフ単位: (%)

魅力ある県公式ホームページにするために必要だと思うことについて、

性別にみると、男女とも「知りたい情報にたどり着きやすい」が最も高く、『男性』59.5%、『女性』57.5%で、これに「見やすいデザインやレイアウトにする」が『男性』31.5%、『女性』32.0%で続いている。

年齢別にみると、『18～19 歳』では「知りたい情報にたどり着きやすい」、「見やすいデザインやレイアウトにする」、「障害のある方や高齢の方が利用しやすい」が同率の 57.1%で高く、そのほかの年齢では「知りたい情報にたどり着きやすい」が 3～8 割台と最も高くなっている。

職業別にみると、いずれも「知りたい情報にたどり着きやすい」が4～7割台と最も高く、これに『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「見やすいデザインやレイアウトにする」が、そのほかの職業では「障害のある方や高齢の方が利用しやすい」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「知りたい情報にたどり着きやすい」が5～6割台と最も高く、これに『小豆圏域』では「障害のある方や高齢の方が利用しやすい」が、そのほかの圏域では「見やすいデザインやレイアウトにする」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「知りたい情報にたどり着きやすい」が5～6割台と最も高く、これに「見やすいデザインやレイアウトにする」が続いている。

図表 5-(6)-2 【魅力ある県公式ホームページにするために必要だと思うことについて】

		全体 (人)	(1) き や り た い 情 報 に た ど り 着 き や す い	(2) ア 見 や す い に す る デ ザ イ ン や レ イ ア ウ ト	(3) が 障 害 の あ る 方 や 高 齢 の 方 が 利 用 し や す い	(4) 国 多 言 語 対 応 し て い る (外 国 人 が 見 や す い)	(5) そ の 他	無 回 答
【表の見方】 単位=比率(%)								
全体		1,530	58.0	31.4	23.7	10.9	1.8	30.8
性別	男性	701	59.5	31.5	19.7	9.7	1.9	30.4
	女性	797	57.5	32.0	27.2	12.0	1.9	30.5
年齢別	18～19歳	14	57.1	57.1	57.1	28.6	7.1	14.3
	20～29歳	74	74.3	50.0	35.1	29.7	2.7	12.2
	30～39歳	162	72.8	46.9	21.6	16.7	3.1	14.8
	40～49歳	247	80.6	41.3	22.3	13.4	3.6	11.3
	50～59歳	249	71.1	37.8	18.9	11.2	2.0	19.7
	60～69歳	363	54.5	23.7	22.9	8.8	1.4	34.4
	70歳以上	390	30.8	19.0	25.9	4.6	0.3	56.2
職業別	農林漁業	86	43.0	20.9	22.1	4.7	-	47.7
	商工業、サービス業、自由業など	202	57.9	28.7	27.7	14.9	2.0	29.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	70.7	39.9	19.9	11.6	2.2	19.3
	主婦・主夫	309	51.8	25.2	25.9	10.4	1.6	38.2
	無職	263	42.2	25.5	27.4	9.1	1.9	42.6
圏域別	高松圏域	746	60.6	34.9	22.9	11.5	2.4	27.7
	東讃圏域	142	55.6	30.3	26.8	7.0	1.4	33.1
	小豆圏域	39	53.8	17.9	25.6	12.8	-	33.3
	中讃圏域	398	57.3	30.2	26.4	12.3	1.3	31.4
	西讃圏域	205	52.7	24.9	19.0	8.3	1.5	38.5
居住年数別	3年未満	91	72.5	52.7	26.4	15.4	-	14.3
	3年以上～10年未満	199	70.9	38.7	23.1	12.1	4.5	19.6
	10年以上～20年未満	232	68.5	34.5	23.7	15.9	2.2	21.1
	20年以上	974	52.1	27.7	23.5	9.1	1.4	36.4

6. 県政の重要度と満足度について

県では、平成 28 年度からの新たな香川づくりの指針として、「新・せとうち田園都市創造計画」※を策定し、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の 3 つの基本方針のもと、さまざまな施策に取り組んでいます。

この計画を着実に推進し、県民の皆さまのニーズ(要望)に対応した県政を進めるためには、皆さまが「県行政に対して何を求めているのか」、「現在の状況にどのくらい満足しているのか」を知り、それを県政に反映させていくことが重要となります。

そこで、この計画で展開することとしている 24 の分野を対象に、皆さまが考える重要度と満足度についてお伺いしますので、以下の質問にお答えください。

「重要度」については、今の生活やこれからの生活を送っていくうえでどのくらい重要かを、また、「満足度」については、現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ 5 段階で評価してください。

※「新・せとうち田園都市創造計画」

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針で、計画期間は平成 28 年度から令和 2 年度の 5 年間です。

この計画では、「せとうち田園都市の新たな創造」を基本目標に掲げ、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の 3 つの基本方針のもと、人口減少の克服や地域活力の向上につながる効果的な施策に重点的に取り組み、人口の社会増を伴う、魅力ある瀬戸内香川の生活圏域づくりをめざしています。

(1) 成長する香川（重要度）

問37 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。

「成長する香川」の実現に向けて展開している1～7の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

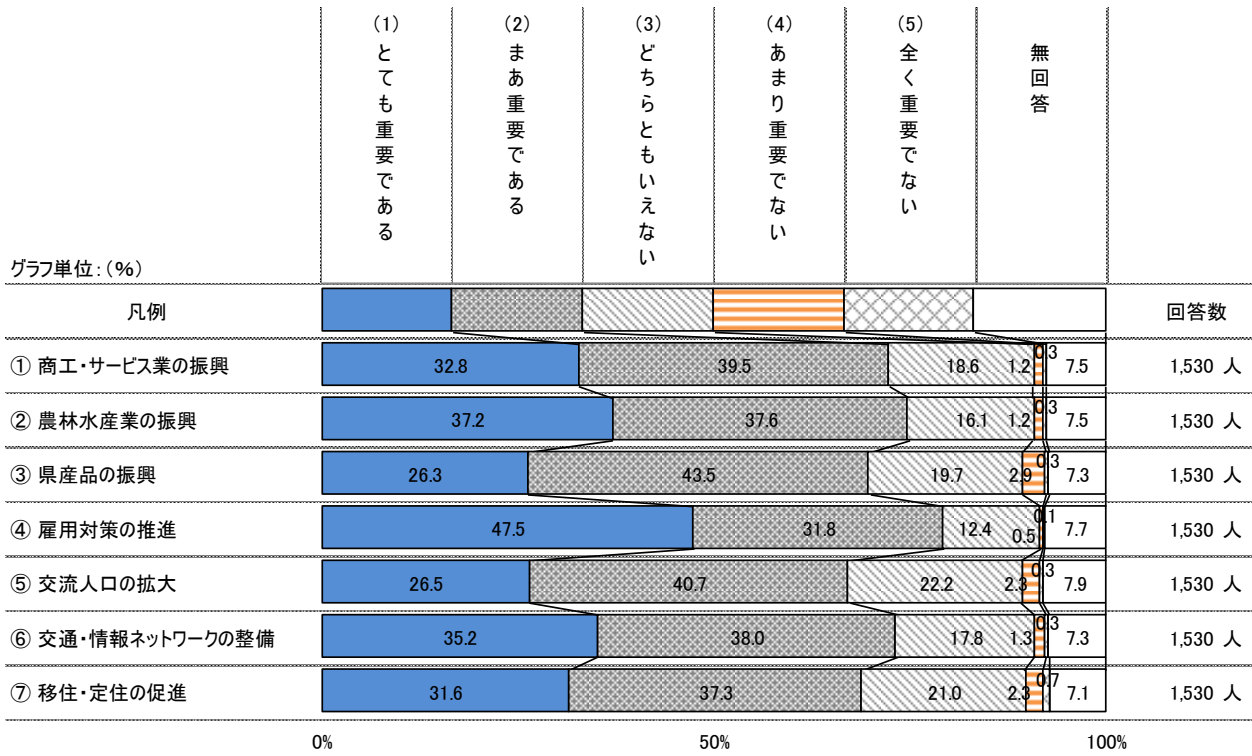
【回答者数=1,530】

分 野	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
1 商工・サービス業の振興	32.8 (32.8)	39.5 (39.4)	18.6 (18.8)	1.2 (1.1)	0.3 (0.3)	7.5 (7.5)
2 農林水産業の振興	37.2 (37.2)	37.6 (37.9)	16.1 (16.0)	1.2 (1.2)	0.3 (0.3)	7.5 (7.5)
3 県産品の振興	26.3 (26.3)	43.5 (43.2)	19.7 (19.8)	2.9 (3.2)	0.3 (0.3)	7.3 (7.2)
4 雇用対策の推進	47.5 (48.1)	31.8 (31.4)	12.4 (12.2)	0.5 (0.5)	0.1 (0.1)	7.7 (7.6)
5 交流人口の拡大	26.5 (26.8)	40.7 (40.1)	22.2 (22.5)	2.3 (2.4)	0.3 (0.3)	7.9 (7.9)
6 交通・情報ネットワークの整備	35.2 (35.8)	38.0 (37.5)	17.8 (17.8)	1.3 (1.4)	0.3 (0.3)	7.3 (7.2)
7 移住・定住の促進	31.6 (31.8)	37.3 (37.0)	21.0 (21.1)	2.3 (2.2)	0.7 (0.8)	7.1 (7.1)

「成長する香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「雇用対策の推進」79.3%が最も高く、次いで「農林水産業の振興」74.8%、「交通・情報ネットワークの整備」73.2%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「雇用対策の推進」79.5%が最も高く、次いで「農林水産業の振興」75.1%、「交通・情報ネットワークの整備」73.3%などとなっている。

図表 6-(1) 成長する香川（重要度）



P328～P334 数表参照

(2) 成長する香川（満足度）

問37 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。

「成長する香川」の実現に向けて展開している1～7の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,530】

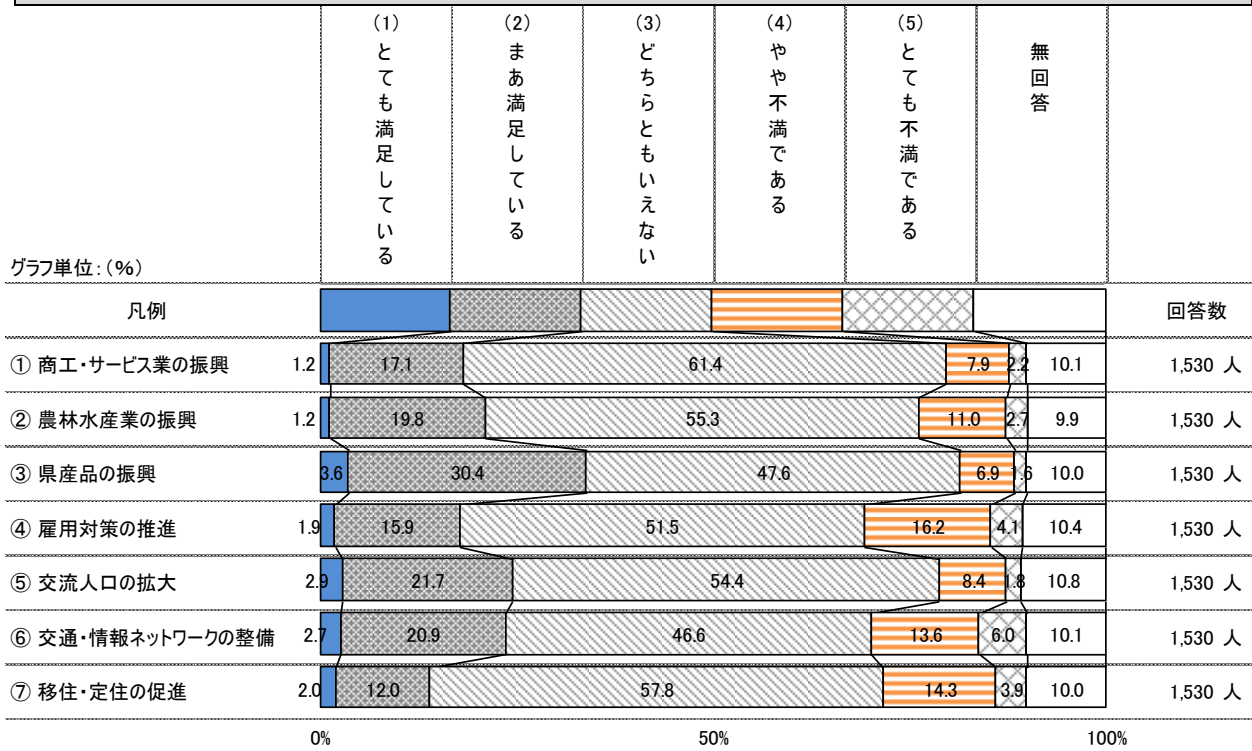
分 野	満足度					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
1 商工・サービス業の振興	1.2 (1.3)	17.1 (17.7)	61.4 (60.9)	7.9 (7.9)	2.2 (2.3)	10.1 (9.9)
2 農林水産業の振興	1.2 (1.2)	19.8 (20.9)	55.3 (54.5)	11.0 (10.9)	2.7 (2.8)	9.9 (9.7)
3 県産品の振興	3.6 (4.1)	30.4 (30.6)	47.6 (47.1)	6.9 (6.9)	1.6 (1.7)	10.0 (9.7)
4 雇用対策の推進	1.9 (2.1)	15.9 (16.2)	51.5 (50.9)	16.2 (16.5)	4.1 (4.2)	10.4 (10.1)
5 交流人口の拡大	2.9 (3.1)	21.7 (21.4)	54.4 (54.7)	8.4 (8.5)	1.8 (1.9)	10.8 (10.5)
6 交通・情報ネットワークの整備	2.7 (3.0)	20.9 (21.2)	46.6 (46.1)	13.6 (13.7)	6.0 (6.2)	10.1 (9.8)
7 移住・定住の促進	2.0 (2.4)	12.0 (12.4)	57.8 (56.6)	14.3 (14.7)	3.9 (4.1)	10.0 (9.7)

「成長する香川」の満足度について、「商工・サービス業の振興」及び「農林水産業の振興」、「県産品の振興」、「交流人口の拡大」、「交通・情報ネットワークの整備」では、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

一方で、「雇用対策の推進」及び「移住・定住の促進」では、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 6-(2) 成長する香川（満足度）



P328～P334 数表参照

(3)信頼・安心の香川（重要度）

問38 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。
 「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開している8～15の分野について、あなたの＜重要度＞を、
 それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

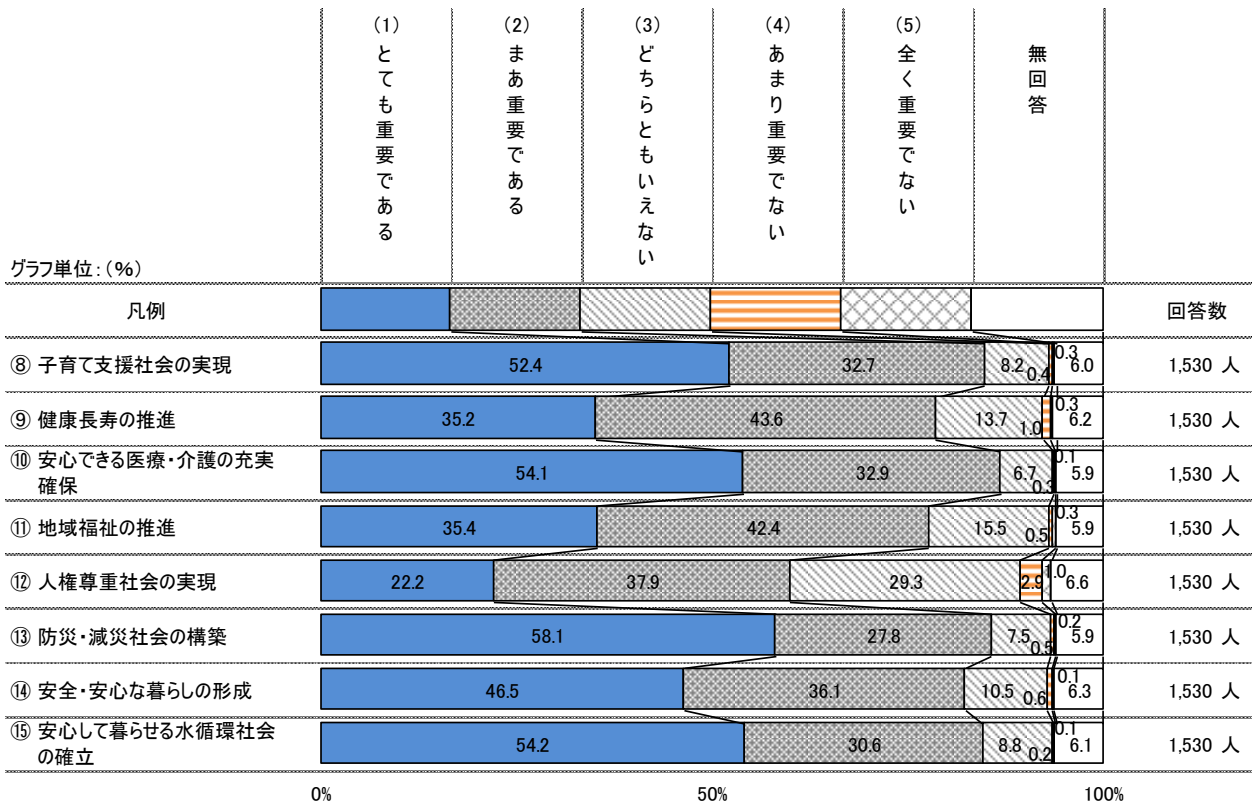
【回答者数=1,530】

分 野	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
8 子育て支援社会の実現	52.4 (53.5)	32.7 (31.9)	8.2 (8.0)	0.4 (0.4)	0.3 (0.3)	6.0 (5.9)
9 健康長寿の推進	35.2 (35.0)	43.6 (43.2)	13.7 (14.2)	1.0 (1.1)	0.3 (0.4)	6.2 (6.1)
10 安心できる医療・介護の充実確保	54.1 (54.5)	32.9 (32.5)	6.7 (6.7)	0.3 (0.3)	0.1 (0.1)	5.9 (5.8)
11 地域福祉の推進	35.4 (36.2)	42.4 (41.7)	15.5 (15.4)	0.5 (0.6)	0.3 (0.3)	5.9 (5.8)
12 人権尊重社会の実現	22.2 (22.7)	37.9 (37.9)	29.3 (28.7)	2.9 (3.0)	1.0 (1.2)	6.6 (6.5)
13 防災・減災社会の構築	58.1 (59.1)	27.8 (27.1)	7.5 (7.3)	0.5 (0.4)	0.2 (0.3)	5.9 (5.8)
14 安全・安心な暮らしの形成	46.5 (47.0)	36.1 (35.7)	10.5 (10.5)	0.6 (0.6)	0.1 (0.0)	6.3 (6.2)
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	54.2 (53.9)	30.6 (30.7)	8.8 (9.2)	0.2 (0.2)	0.1 (0.1)	6.1 (6.0)

「信頼・安心の香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「安心できる医療・介護の充実確保」87.0%が最も高く、次いで「防災・減災社会の構築」85.9%、「子育て支援社会の実現」85.1%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「安心できる医療・介護の充実確保」87.0%が最も高く、次いで「防災・減災社会の構築」86.2%、「子育て支援社会の実現」85.4%などとなっている。

図表 6-(3) 信頼・安心の香川（重要度）



P335～P342 数表参照

(4)信頼・安心の香川（満足度）

問38 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。
「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開している8～15の分野について、あなたの〈満足度〉を、
それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

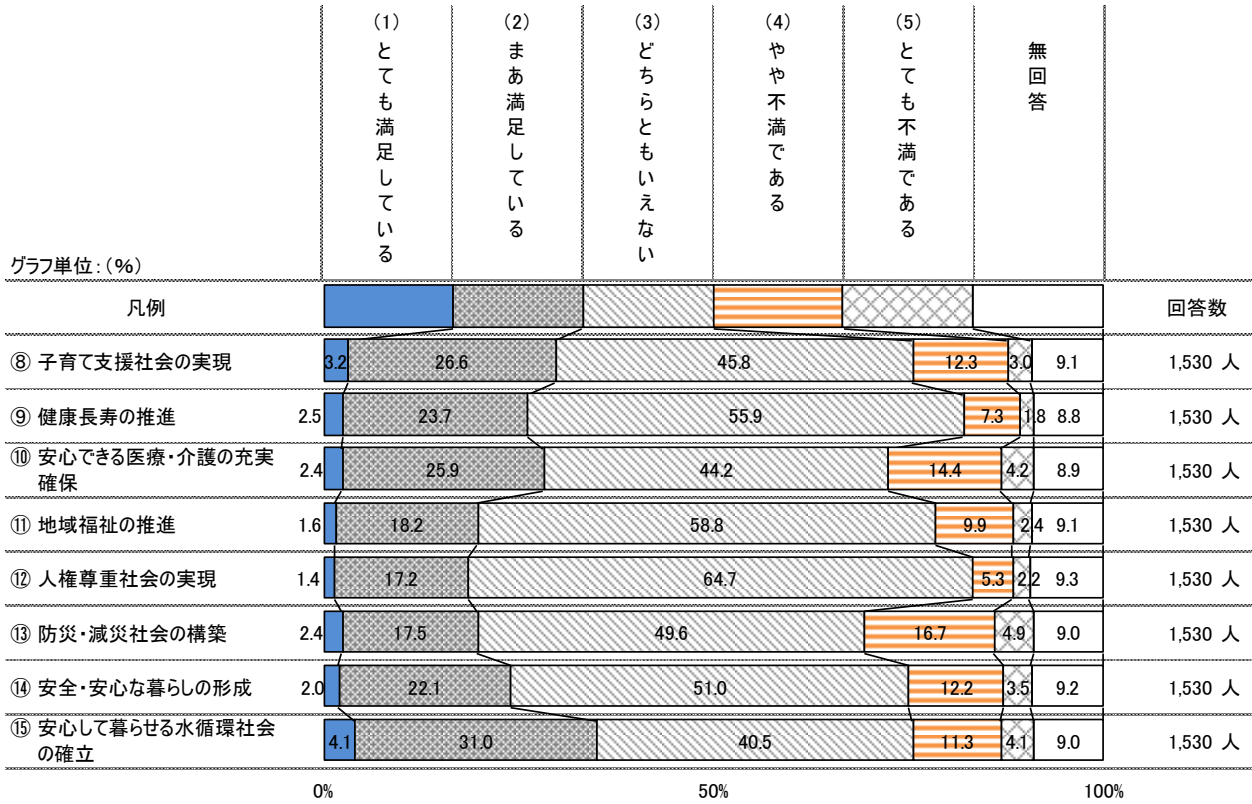
【回答者数=1,530】

分 野	満足度					無回答
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	
8 子育て支援社会の実現	3.2 (3.5)	26.6 (26.4)	45.8 (45.3)	12.3 (13.1)	3.0 (3.0)	9.1 (8.7)
9 健康長寿の推進	2.5 (2.8)	23.7 (23.3)	55.9 (56.3)	7.3 (7.3)	1.8 (1.8)	8.8 (8.5)
10 安心できる医療・介護の充実確保	2.4 (2.5)	25.9 (26.2)	44.2 (43.7)	14.4 (14.6)	4.2 (4.3)	8.9 (8.6)
11 地域福祉の推進	1.6 (1.9)	18.2 (18.7)	58.8 (58.4)	9.9 (9.9)	2.4 (2.4)	9.1 (8.7)
12 人権尊重社会の実現	1.4 (1.6)	17.2 (17.4)	64.7 (64.4)	5.3 (5.4)	2.2 (2.3)	9.3 (8.9)
13 防災・減災社会の構築	2.4 (2.6)	17.5 (18.0)	49.6 (48.6)	16.7 (17.0)	4.9 (5.2)	9.0 (8.6)
14 安全・安心な暮らしの形成	2.0 (2.4)	22.1 (22.4)	51.0 (50.6)	12.2 (12.0)	3.5 (3.7)	9.2 (8.9)
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	4.1 (4.4)	31.0 (30.8)	40.5 (40.8)	11.3 (11.2)	4.1 (4.1)	9.0 (8.7)

「信頼・安心の香川」の満足度について、「防災・減災社会の構築」では、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合を上回っており、その他の分野では、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 6-(4) 信頼・安心の香川（満足度）



P335～P342 数表参照

(5) 笑顔で暮らせる香川（重要度）

問39 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。
 「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開している16～24の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

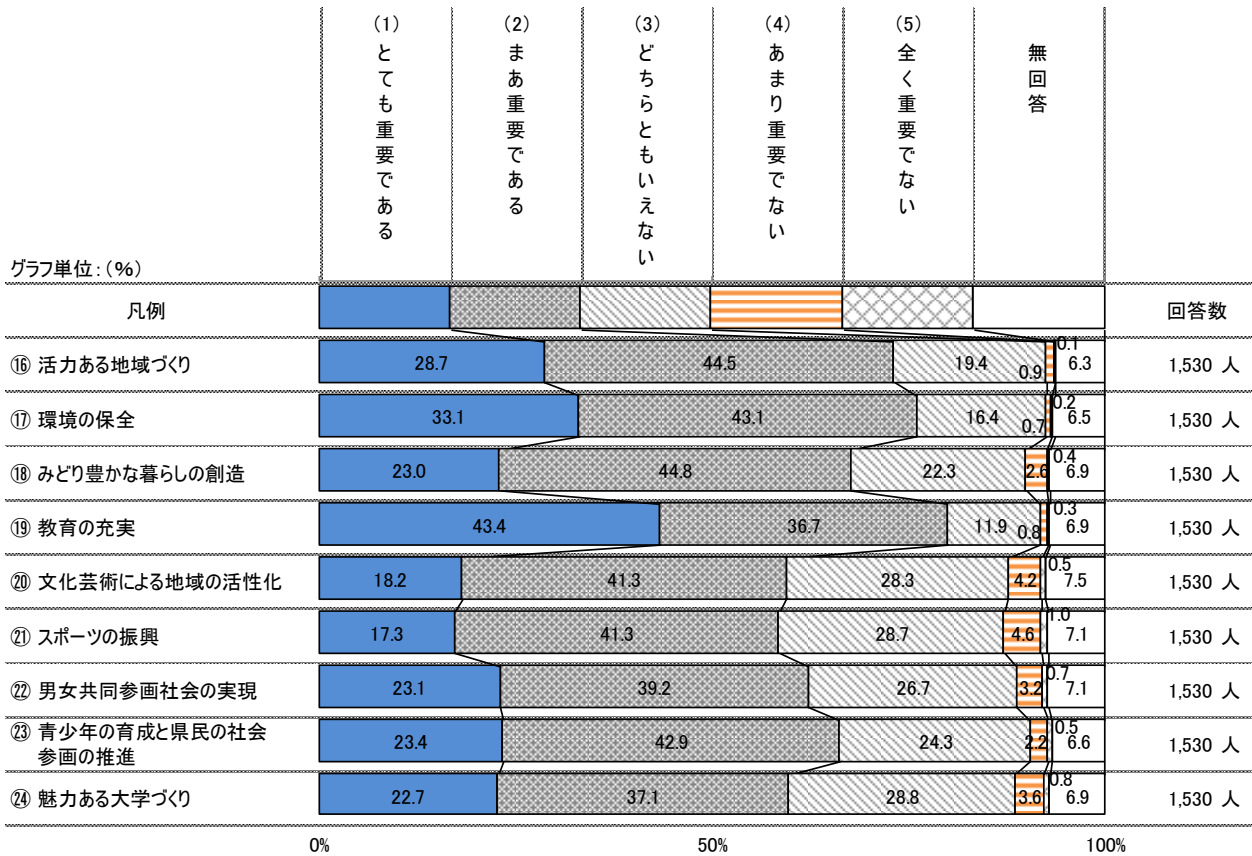
【回答者数=1,530】

分 野	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
16 活力ある地域づくり	28.7 (28.7)	44.5 (44.4)	19.4 (19.5)	0.9 (0.9)	0.1 (0.1)	6.3 (6.3)
17 環境の保全	33.1 (33.8)	43.1 (42.3)	16.4 (16.6)	0.7 (0.7)	0.2 (0.3)	6.5 (6.4)
18 みどり豊かな暮らしの創造	23.0 (23.6)	44.8 (44.2)	22.3 (22.1)	2.6 (2.8)	0.4 (0.4)	6.9 (6.9)
19 教育の充実	43.4 (43.9)	36.7 (36.1)	11.9 (12.0)	0.8 (0.8)	0.3 (0.4)	6.9 (6.7)
20 文化芸術による地域の活性化	18.2 (18.7)	41.3 (41.0)	28.3 (27.8)	4.2 (4.4)	0.5 (0.5)	7.5 (7.5)
21 スポーツの振興	17.3 (17.7)	41.3 (41.0)	28.7 (28.4)	4.6 (4.8)	1.0 (1.2)	7.1 (7.0)
22 男女共同参画社会の実現	23.1 (23.5)	39.2 (39.1)	26.7 (26.4)	3.2 (3.2)	0.7 (0.8)	7.1 (7.0)
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	23.4 (23.1)	42.9 (43.0)	24.3 (24.5)	2.2 (2.4)	0.5 (0.6)	6.6 (6.5)
24 魅力ある大学づくり	22.7 (23.2)	37.1 (37.0)	28.8 (28.5)	3.6 (3.6)	0.8 (0.9)	6.9 (6.7)

「笑顔で暮らせる香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「教育の充実」80.1%が最も高く、次いで「環境の保全」76.2%、「活力ある地域づくり」73.2%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「教育の充実」80.0%が最も高く、次いで「環境の保全」76.1%、「活力ある地域づくり」73.1%などとなっている。

図表 6-(5) 笑顔で暮らせる香川（重要度）



P343～P351 数表参照

(6) 笑顔で暮らせる香川（満足度）

問39 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。
 「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開している16～24の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

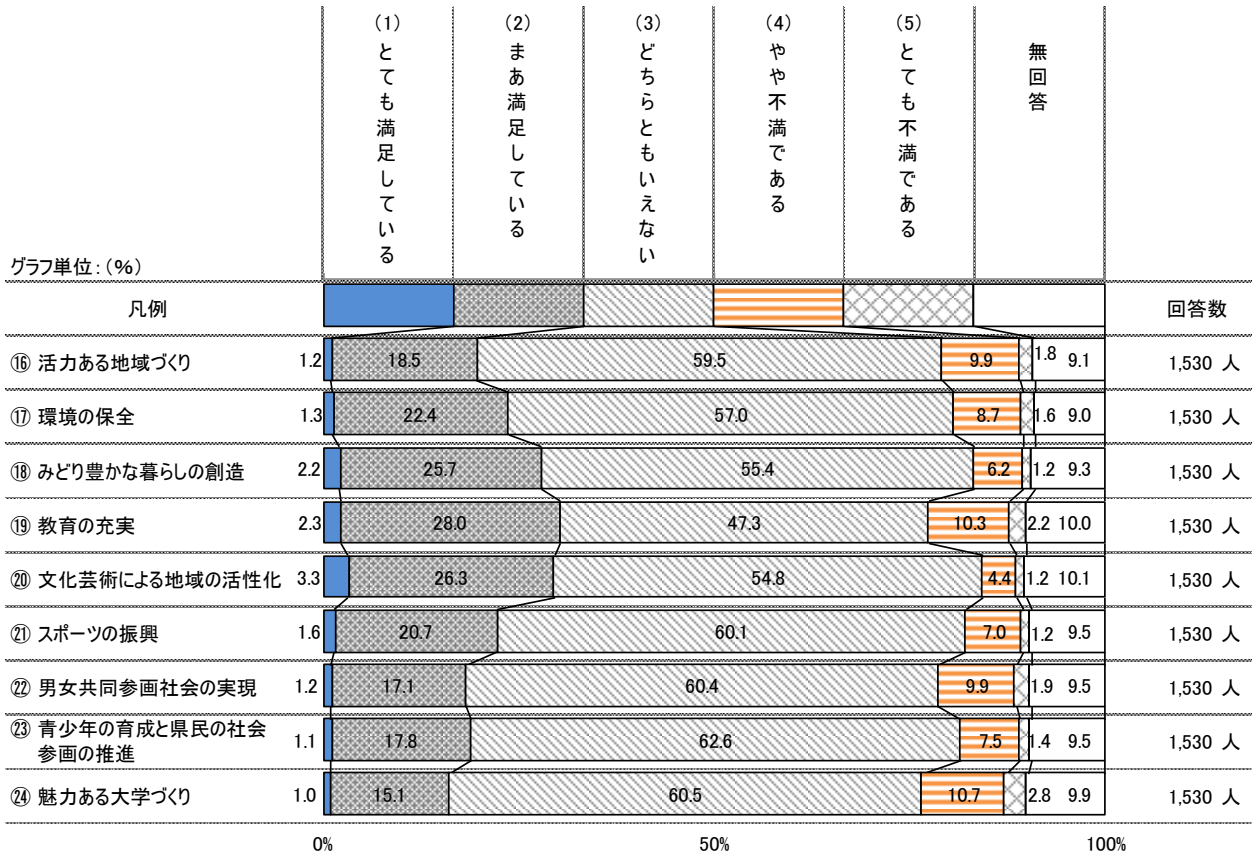
【回答者数=1,530】

分 野	満足度					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
16 活力ある地域づくり	1.2 (1.5)	18.5 (19.1)	59.5 (58.9)	9.9 (9.9)	1.8 (1.9)	9.1 (8.8)
17 環境の保全	1.3 (1.4)	22.4 (23.4)	57.0 (56.2)	8.7 (8.5)	1.6 (1.7)	9.0 (8.7)
18 みどり豊かな暮らしの創造	2.2 (2.3)	25.7 (26.1)	55.4 (55.1)	6.2 (6.1)	1.2 (1.3)	9.3 (9.0)
19 教育の充実	2.3 (2.7)	28.0 (28.4)	47.3 (46.5)	10.3 (10.5)	2.2 (2.3)	10.0 (9.6)
20 文化芸術による地域の活性化	3.3 (4.0)	26.3 (26.7)	54.8 (53.9)	4.4 (4.3)	1.2 (1.2)	10.1 (9.8)
21 スポーツの振興	1.6 (1.8)	20.7 (21.2)	60.1 (59.3)	7.0 (7.2)	1.2 (1.3)	9.5 (9.2)
22 男女共同参画社会の実現	1.2 (1.5)	17.1 (17.5)	60.4 (60.1)	9.9 (9.8)	1.9 (1.9)	9.5 (9.2)
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	1.1 (1.2)	17.8 (18.3)	62.6 (62.8)	7.5 (7.0)	1.4 (1.4)	9.5 (9.3)
24 魅力ある大学づくり	1.0 (1.1)	15.1 (15.6)	60.5 (59.6)	10.7 (10.7)	2.8 (3.5)	9.9 (9.5)

「笑顔で暮らせる香川」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「教育の充実」や「文化芸術による地域の活性化」、「みどり豊かな暮らしの創造」の満足度が高くなっている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 6-(6) 笑顔で暮らせる香川（満足度）



P343～P351 数表参照

商工・サービス業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』75.0%、『女性』71.0%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』及び『70歳以上』を除くすべての年齢で7割を超え、『20～29歳』において79.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において78.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『東讃圏域』68.3%を除くすべての圏域で7割を超え、『小豆圏域』において74.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、『3年未満』69.3%を除くすべての居住年数で7割を超え、『10年以上～20年未満』において78.0%と最も高くなっている。

商工・サービス業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』20.2%、『女性』17.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.6%、『女性』8.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

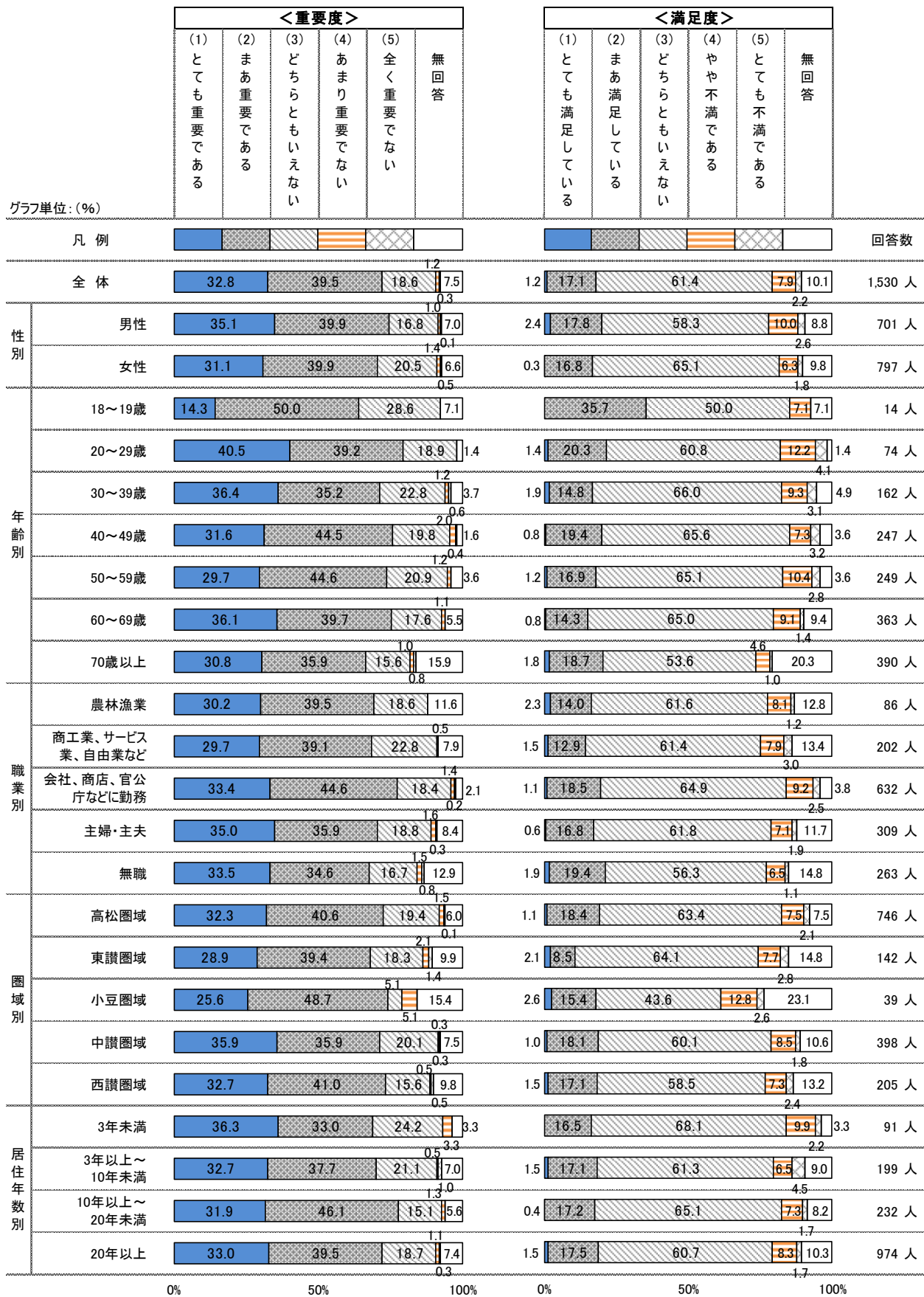
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(1) 【商工・サービス業の振興】



農林水産業の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』75.3%、『女性』75.3%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20～29歳』において82.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『無職』69.2%を除くすべての職業で7割を超え、『農林漁業』において82.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『高松圏域』において76.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』において77.6%と最も高くなっている。

農林水産業の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.6%、『女性』22.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.9%、『女性』11.9%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

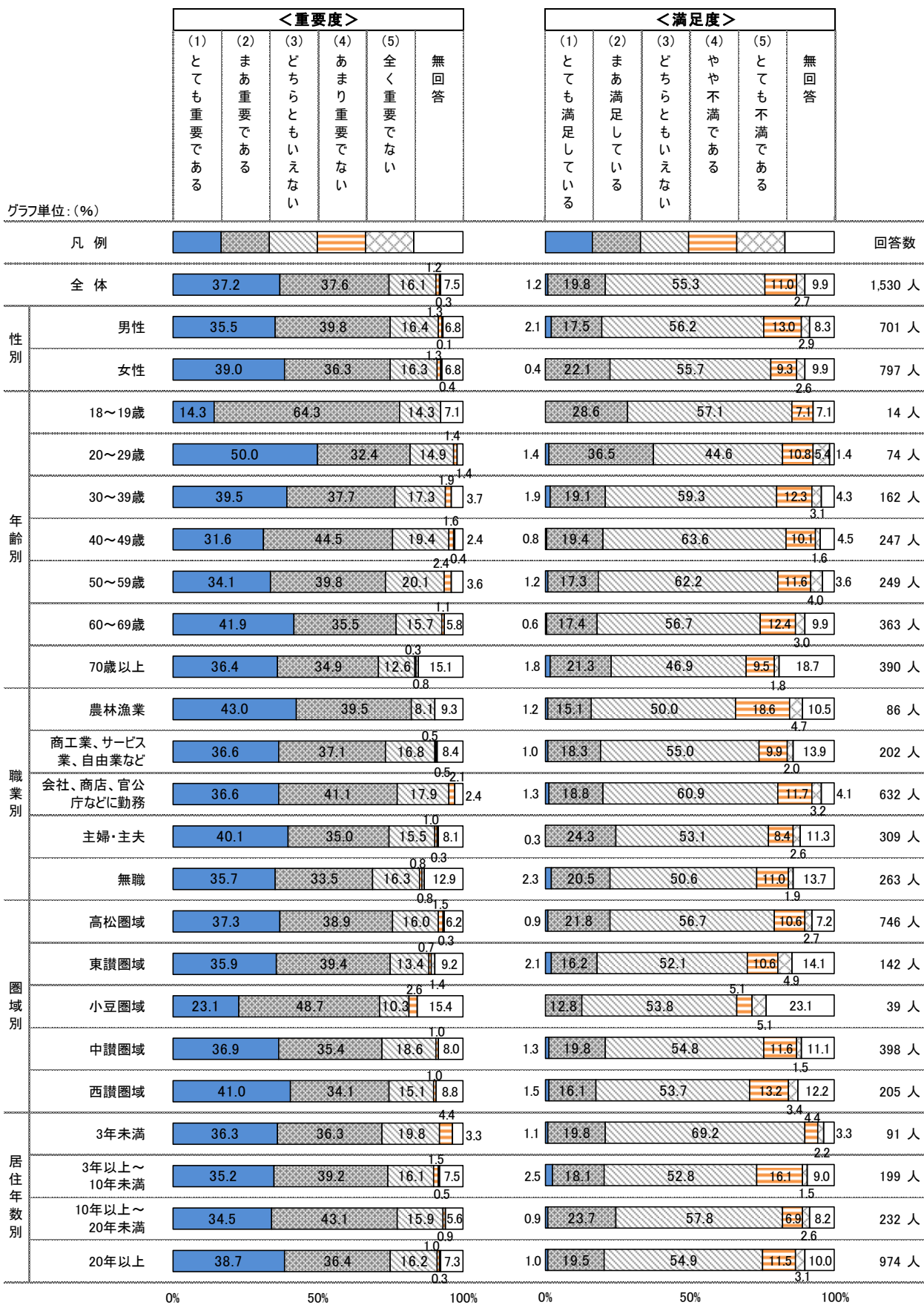
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、その他の職業においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(2) 【農林水産業の振興】



県産品の振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』70.0%、『女性』70.7%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『18～19歳』において78.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『農林漁業』において74.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において74.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』において74.6%と最も高くなっている。

県産品の振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』32.7%、『女性』35.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』10.4%、『女性』6.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

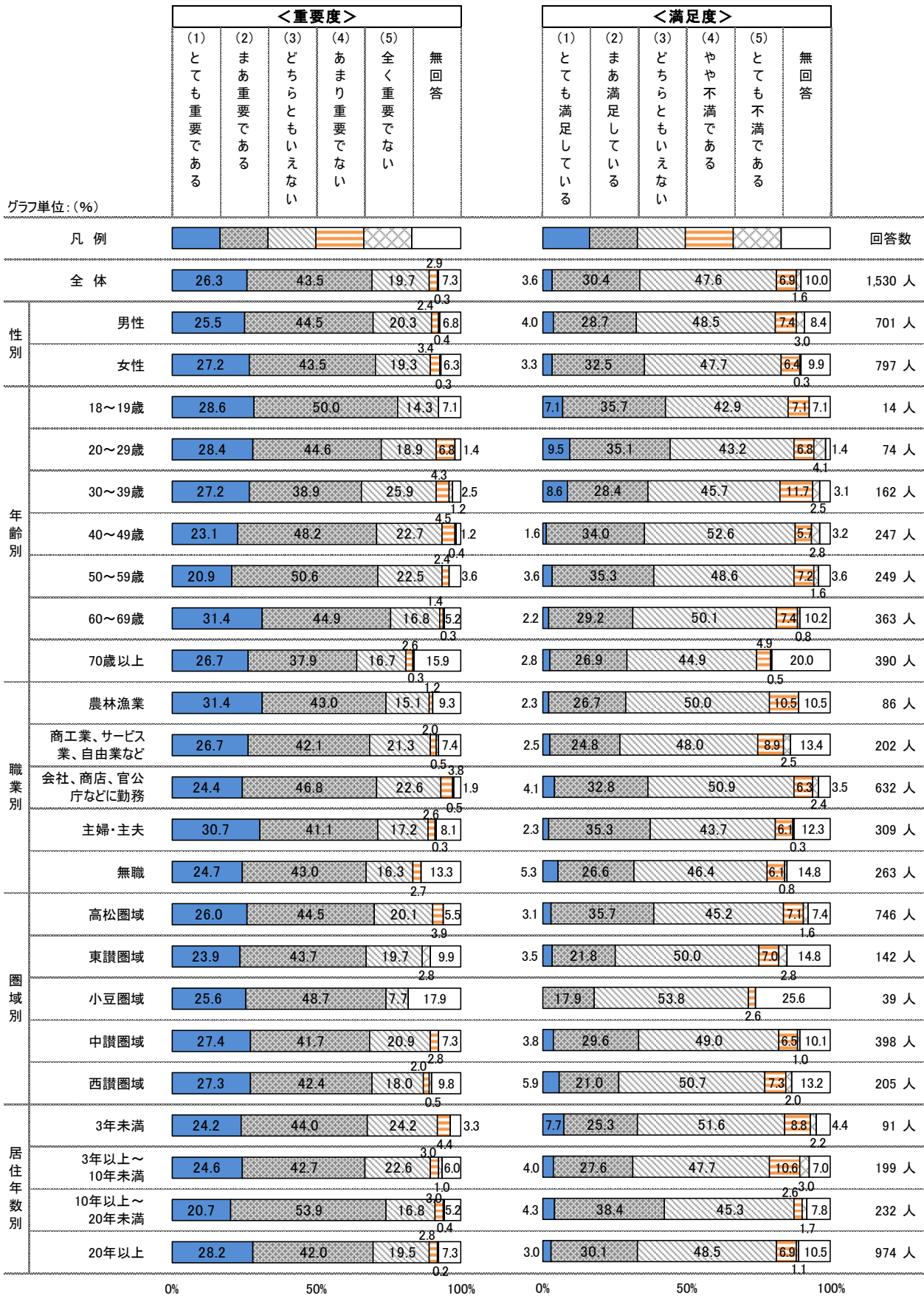
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(3) 【県産品の振興】



雇用対策の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』81.1%、『女性』78.8%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20～29歳』において90.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において85.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『西讃圏域』において82.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』において83.6%と最も高くなっている。

雇用対策の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.2%、『女性』16.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』23.4%、『女性』17.9%となっており、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

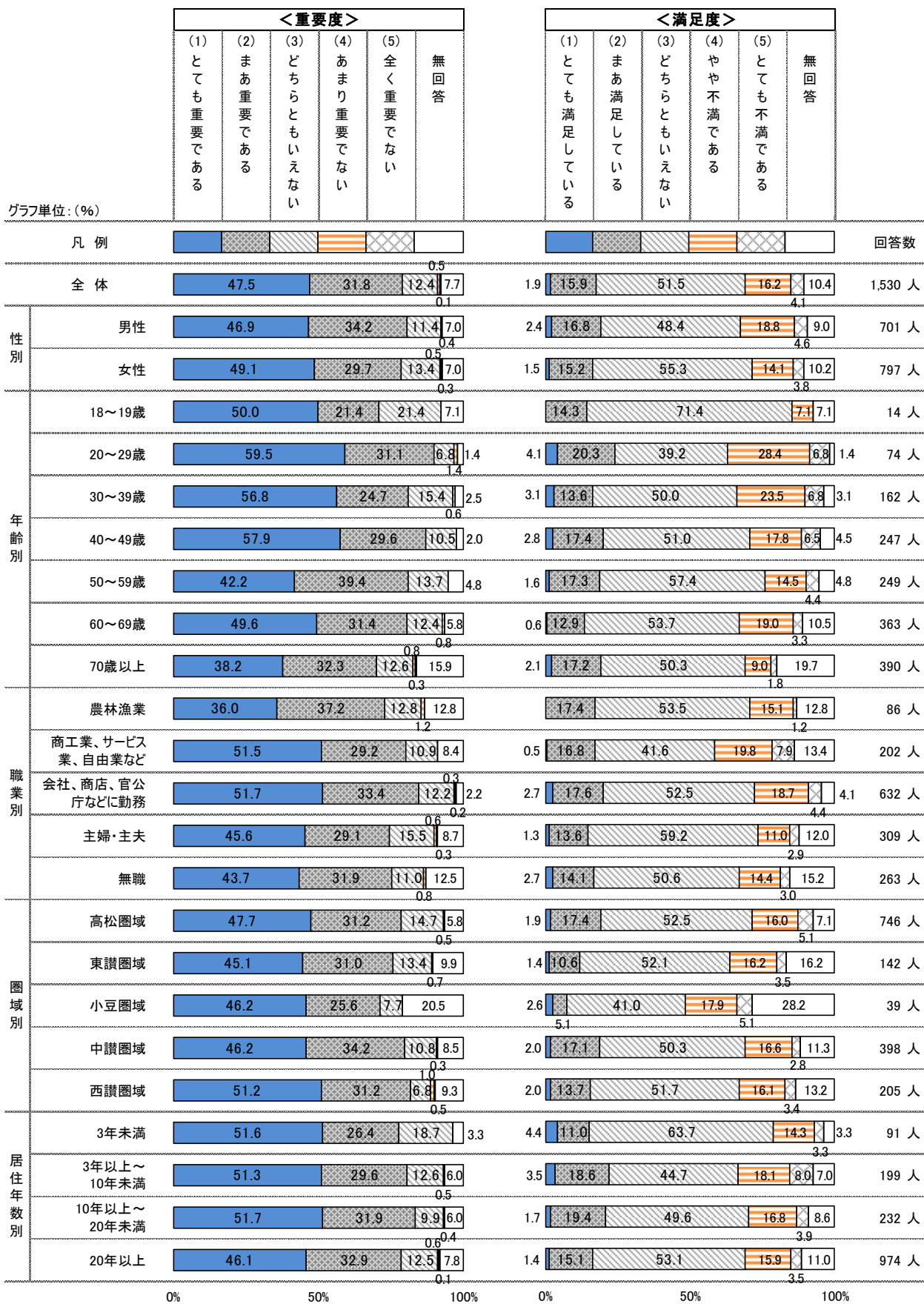
年齢別にみると、『18～19歳』、『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、『50～59歳』において、【満足している】と【不満である】の割合が同率となっており、その他の年齢においては、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主婦』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の職業においては、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』において、【満足している】の割合21.1%が【不満である】の割合20.7%を上回り、その他の居住年数においては、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 7-(4) 【雇用対策の推進】



交流人口の拡大の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』67.8%、『女性』67.7%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』57.2%を除くすべての年齢で6割を超え、『60～69歳』において70.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において70.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において71.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』において71.5%と最も高くなっている。

交流人口の拡大の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』26.7%、『女性』23.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』11.9%、『女性』9.0%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

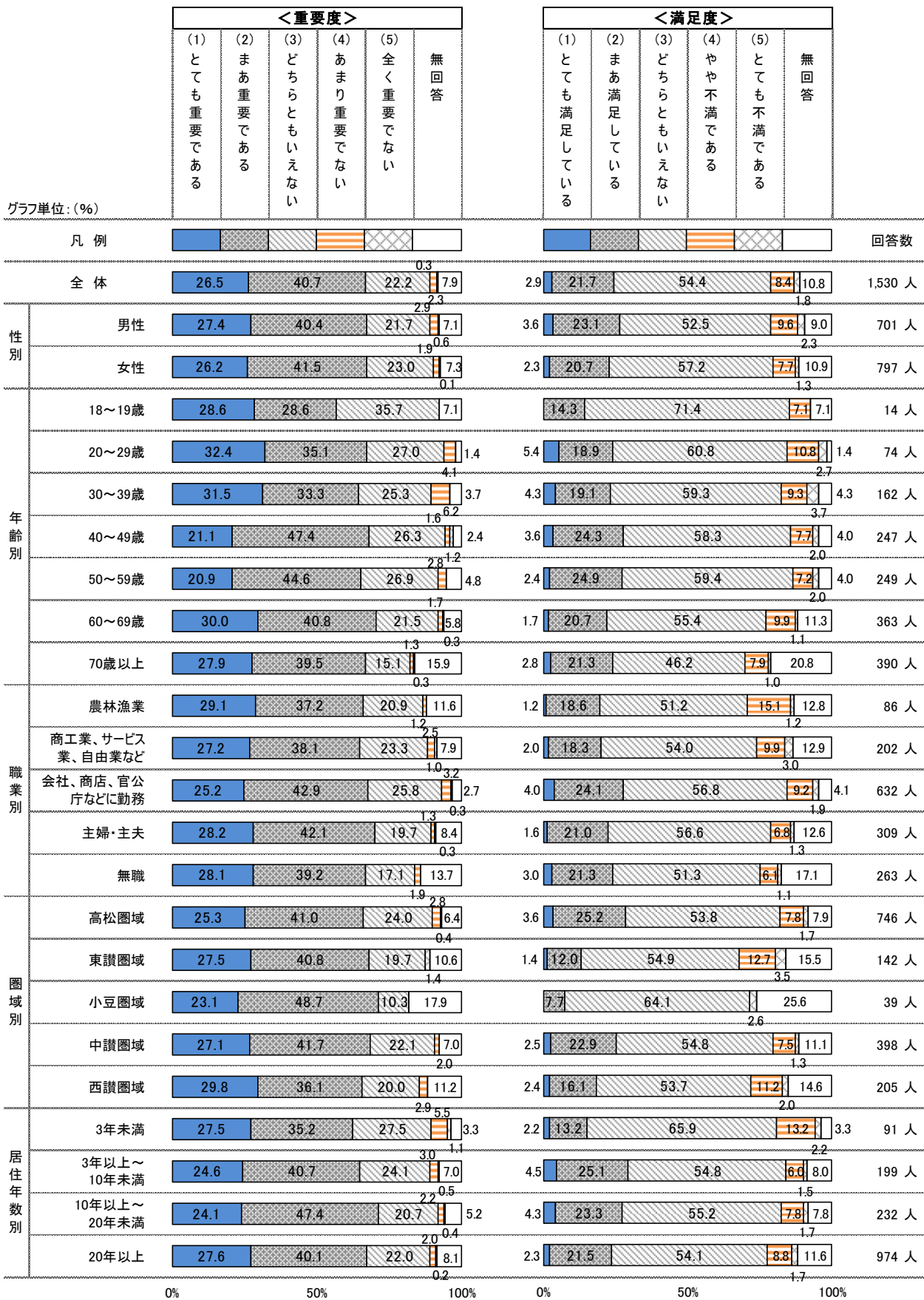
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において、【不満である】の割合16.2%が【満足している】の割合13.4%を上回り、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において、【満足している】と【不満である】の割合15.4%が同率となっており、その他の居住年数においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(5) 【交流人口の拡大】



交通・情報ネットワークの整備の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』74.6%、『女性』73.1%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『70歳以上』68.7%を除くすべての年齢で7割を超え、『20～29歳』において79.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『商工業、サービス業、自由業など』68.8%を除くすべての職業で7割を超え、『農林漁業』において79.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『西讃圏域』69.3%を除くすべての圏域で7割を超え、『高松圏域』において74.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年以上～10年未満』と『20年以上』において73.9%と最も高くなっている。

交通・情報ネットワークの整備の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』25.8%、『女性』22.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』21.8%、『女性』17.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

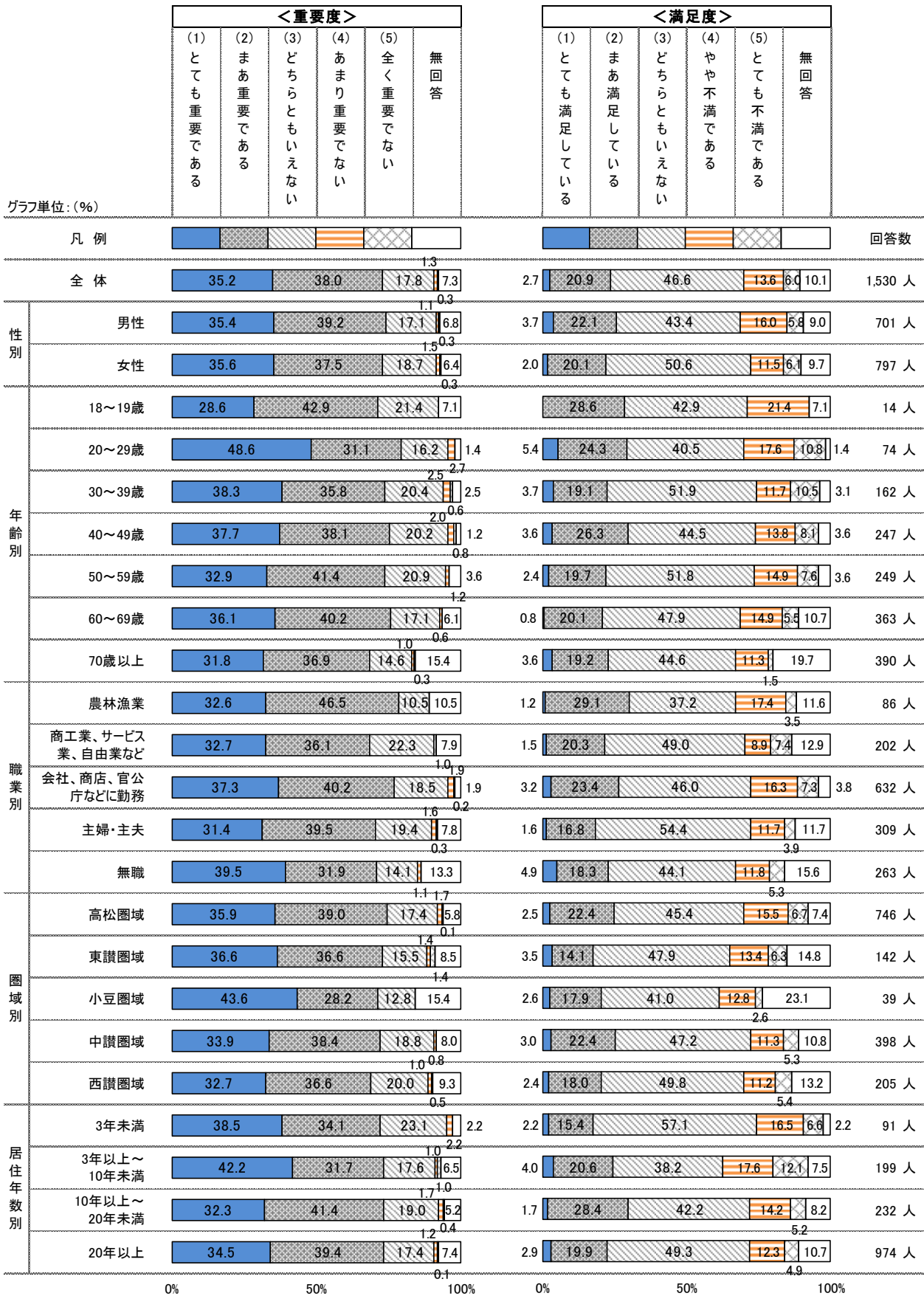
年齢別にみると、『50～59歳』において、【不満である】の割合22.5%が【満足している】の割合22.1%を上回り、その他の年齢においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において、【不満である】の割合19.7%が【満足している】の割合17.6%を上回り、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』と『3年以上～10年未満』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、その他の居住年数においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(6) 【交通・情報ネットワークの整備】



移住・定住の促進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』69.5%、『女性』69.5%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『60～69歳』において72.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において71.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』59.0%を除くすべての圏域で6割を超え、『西讃圏域』において74.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『3年未満』において71.5%と最も高くなっている。

移住・定住の促進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』14.5%、『女性』14.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』19.6%、『女性』16.6%となっており、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

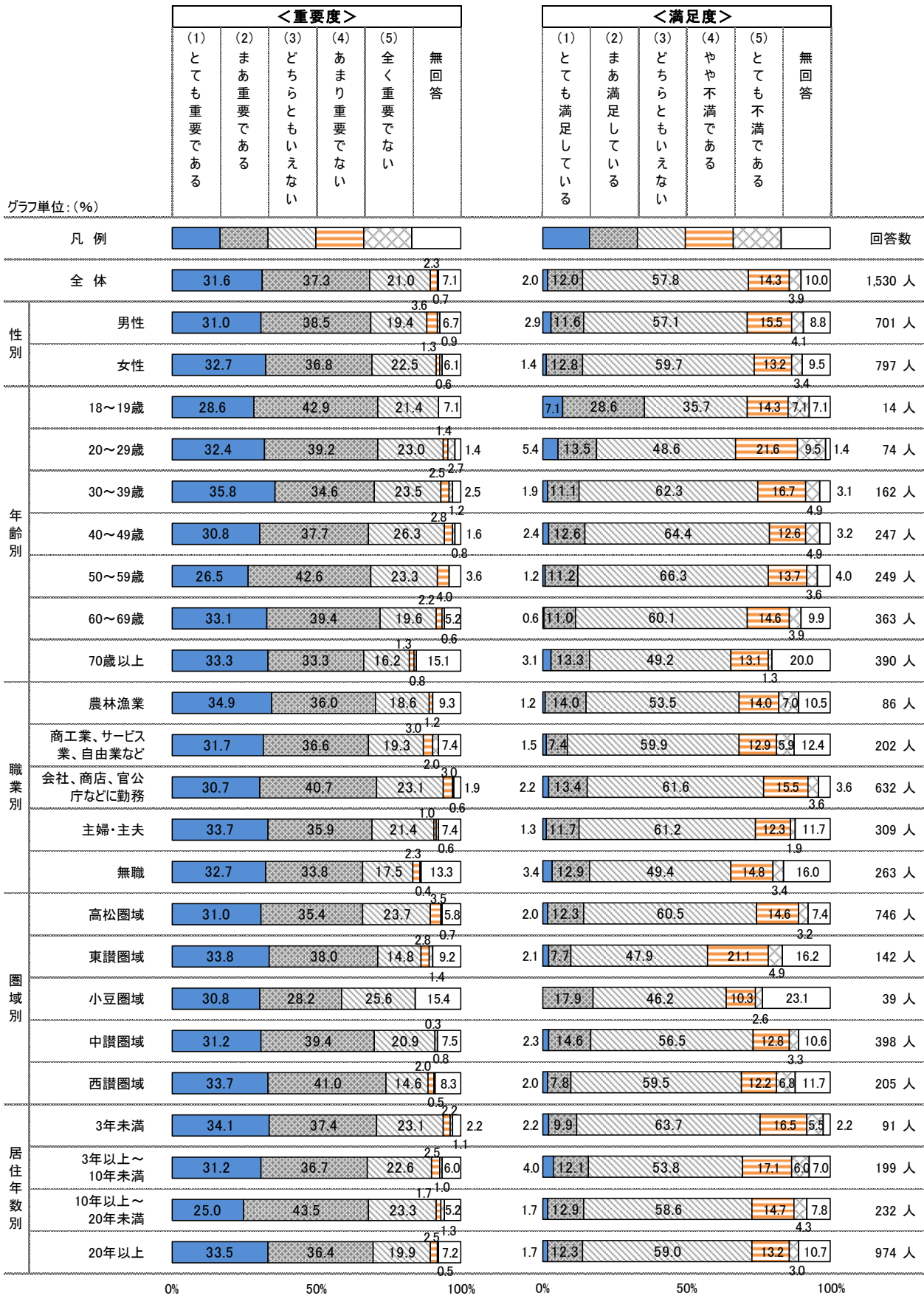
年齢別にみると、『18～19歳』と『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の年齢においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』と『中讃圏域』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回り、その他の圏域においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 7-(7) 【移住・定住の促進】



子育て支援社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』83.9%、『女性』87.1%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』と『70歳以上』を除くすべての年齢で8割を超え、『20～29歳』において94.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『無職』76.0%を除くすべての職業で8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において90.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』69.2%を除くすべての圏域で8割を超え、『高松圏域』において87.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』において93.4%と最も高くなっている。

子育て支援社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』25.4%、『女性』34.1%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』16.7%、『女性』14.3%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

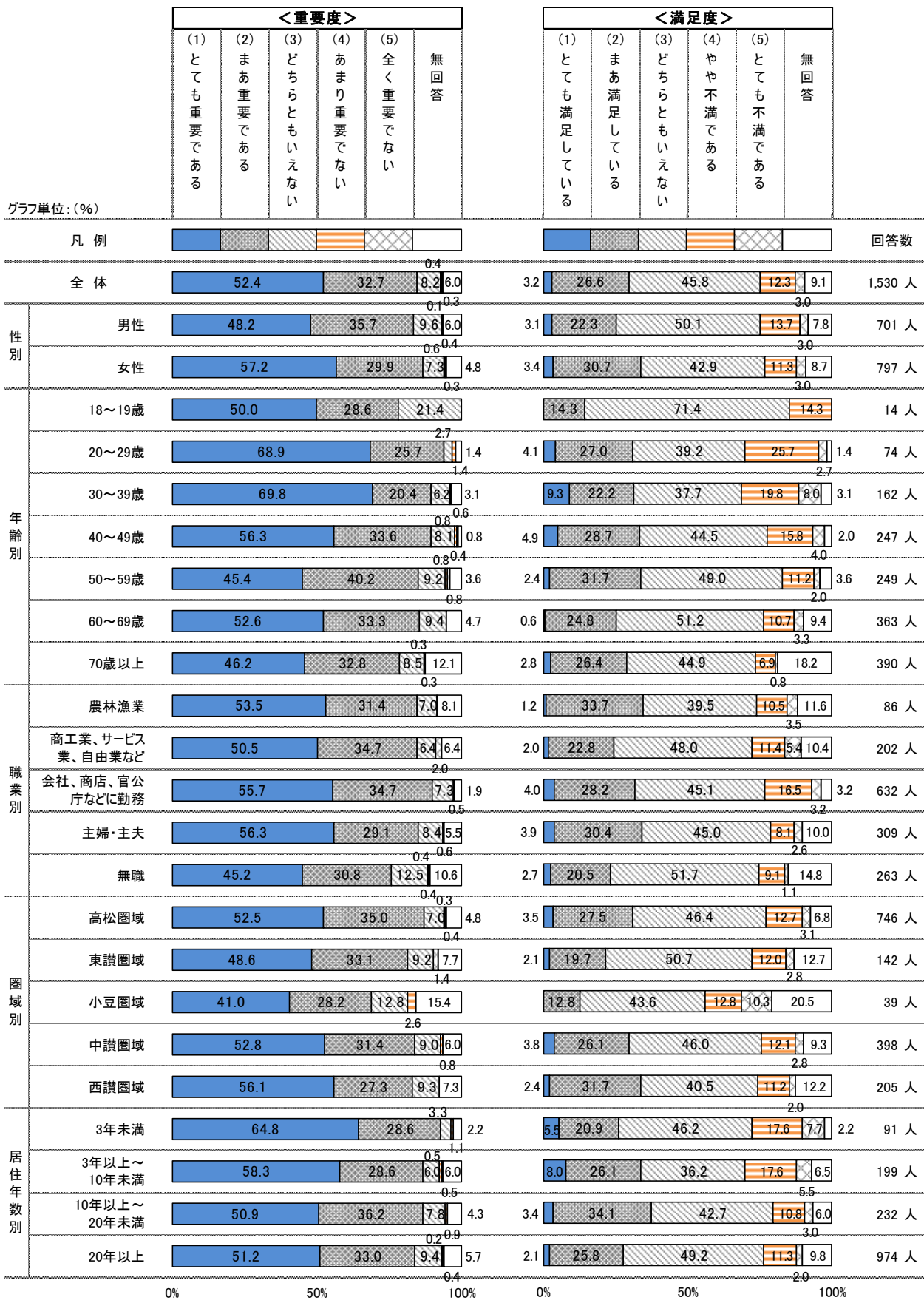
年齢別にみると、『18～19歳』において、【満足している】と【不満である】の割合14.3%が同率となっており、その他の年齢においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合23.1%が【満足している】の割合12.8%を上回り、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(8) 【子育て支援社会の実現】



健康長寿の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』76.1%、『女性』82.1%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『60～69歳』において83.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において82.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『西讃圏域』において80.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において81.4%と最も高くなっている。

健康長寿の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』25.0%、『女性』28.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』9.6%、『女性』8.7%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

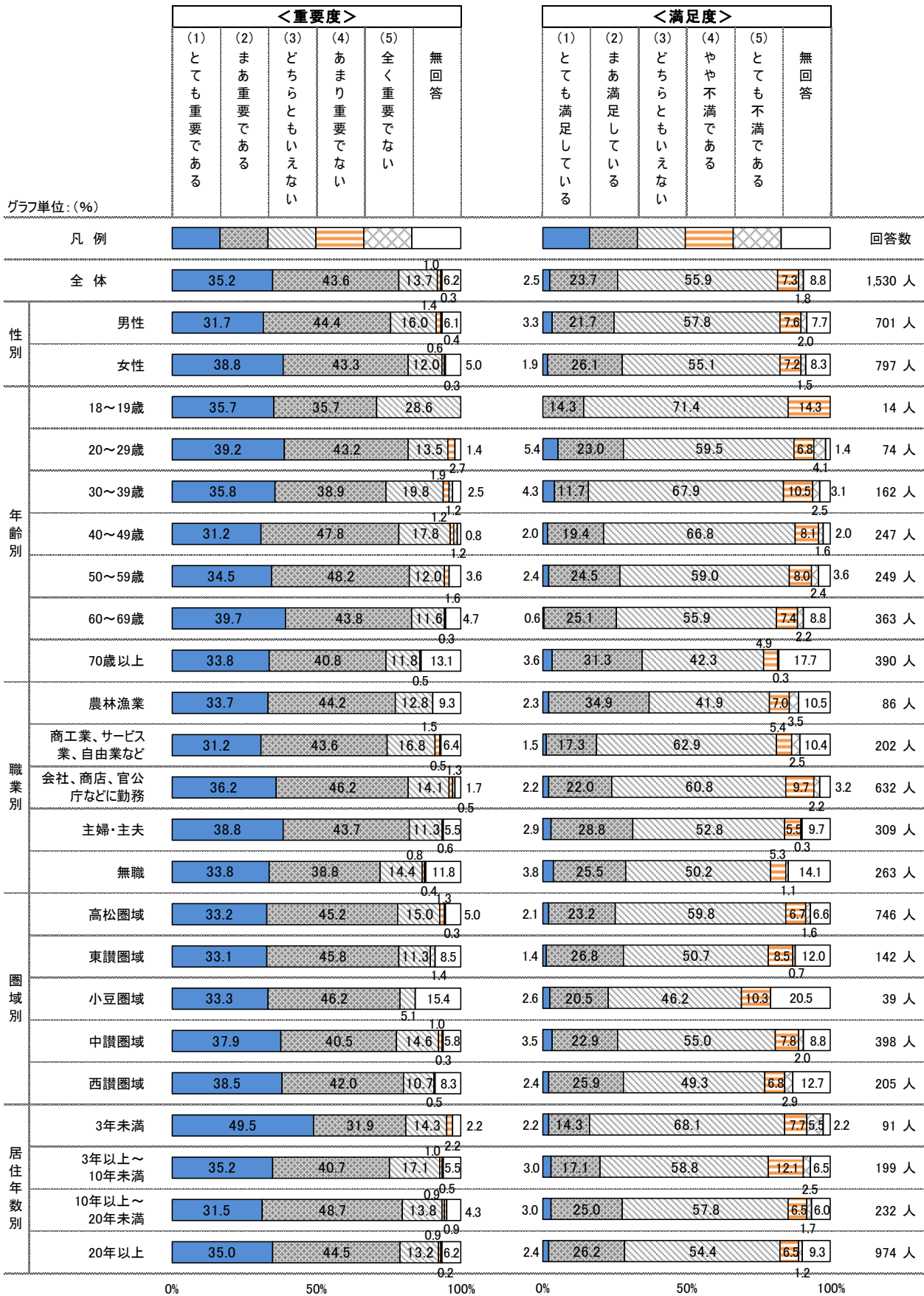
年齢別にみると、『18～19歳』において、【満足している】と【不満である】の割合14.3%が同率となっており、その他の年齢においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(9) 【健康長寿の推進】



安心できる医療・介護の充実確保の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』86.0%、『女性』88.7%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』78.5%を除くすべての年齢で8割を超え、『20～29歳』において95.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において91.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』79.4%を除くすべての圏域で8割を超え、『高松圏域』において89.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『10年以上～20年未満』において89.2%と最も高くなっている。

安心できる医療・介護の充実確保の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』28.9%、『女性』28.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』19.8%、『女性』17.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

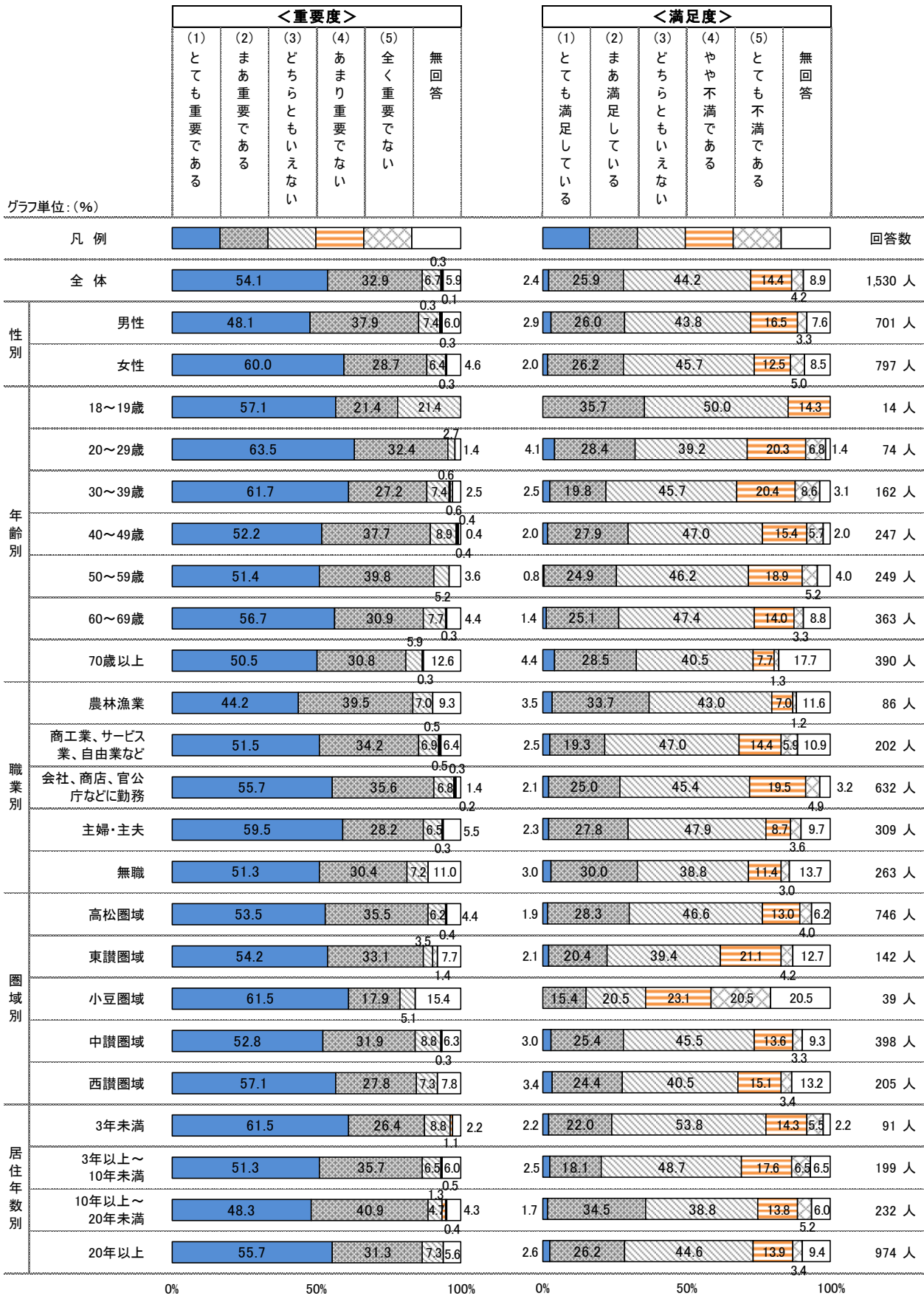
年齢別にみると、『30～39歳』において、【不満である】の割合29.0%が【満足している】の割合22.3%を上回り、その他の年齢においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』と『小豆圏域』において、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回り、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において、【不満である】の割合24.1%が【満足している】の割合20.6%を上回り、その他の居住年数においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(10) 【安心できる医療・介護の充実確保】



地域福祉の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』74.7%、『女性』81.5%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20～29歳』において83.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において80.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『東讃圏域』において80.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『3年未満』において81.4%と最も高くなっている。

地域福祉の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.1%、『女性』21.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.8%、『女性』11.9%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

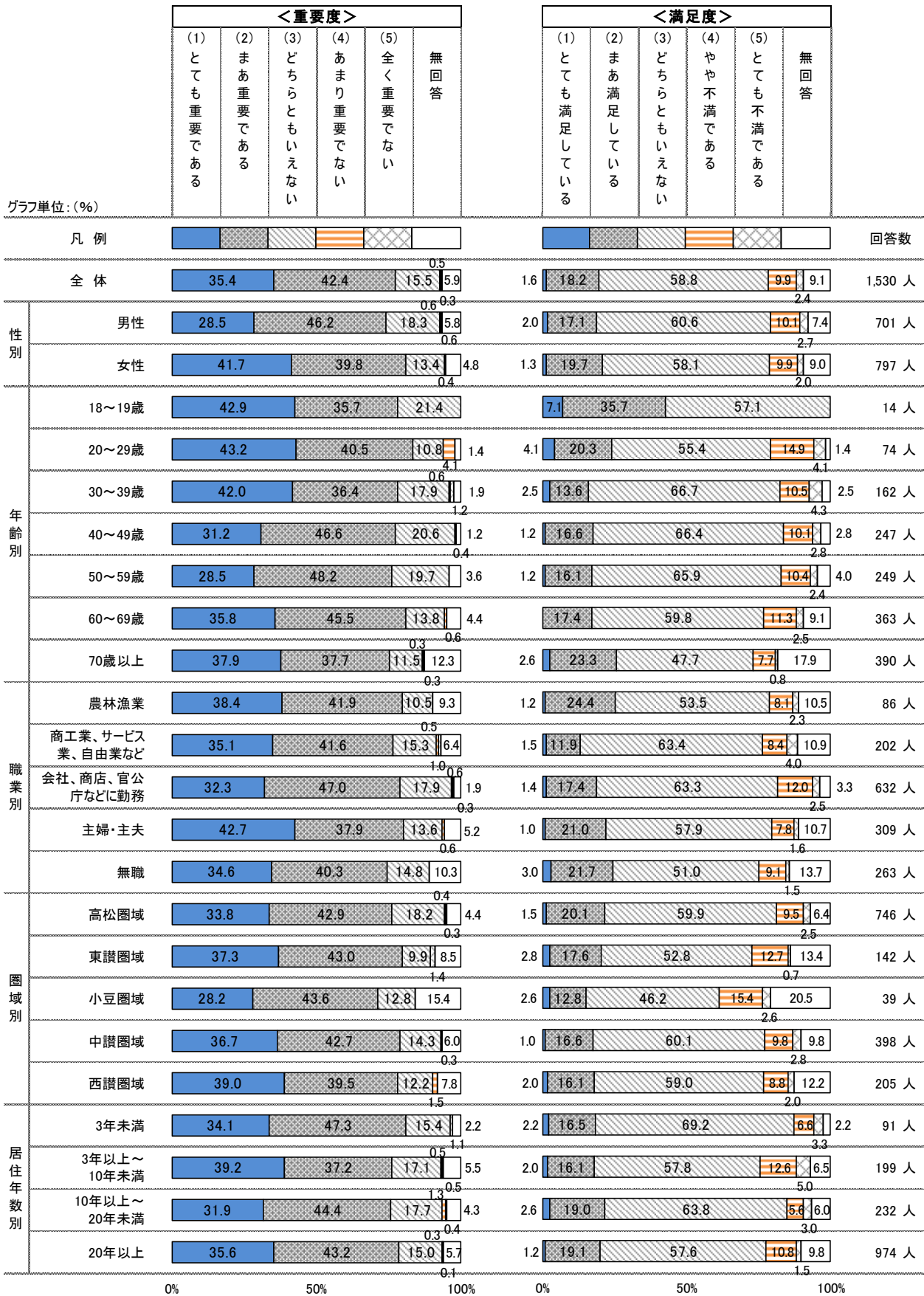
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合18.0%が【満足している】の割合15.4%を上回り、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(11) 【地域福祉の推進】



人権尊重社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』56.5%、『女性』64.1%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において78.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において63.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において63.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『10年以上～20年未満』において65.1%と最も高くなっている。

人権尊重社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』18.5%、『女性』19.3%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.8%、『女性』6.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

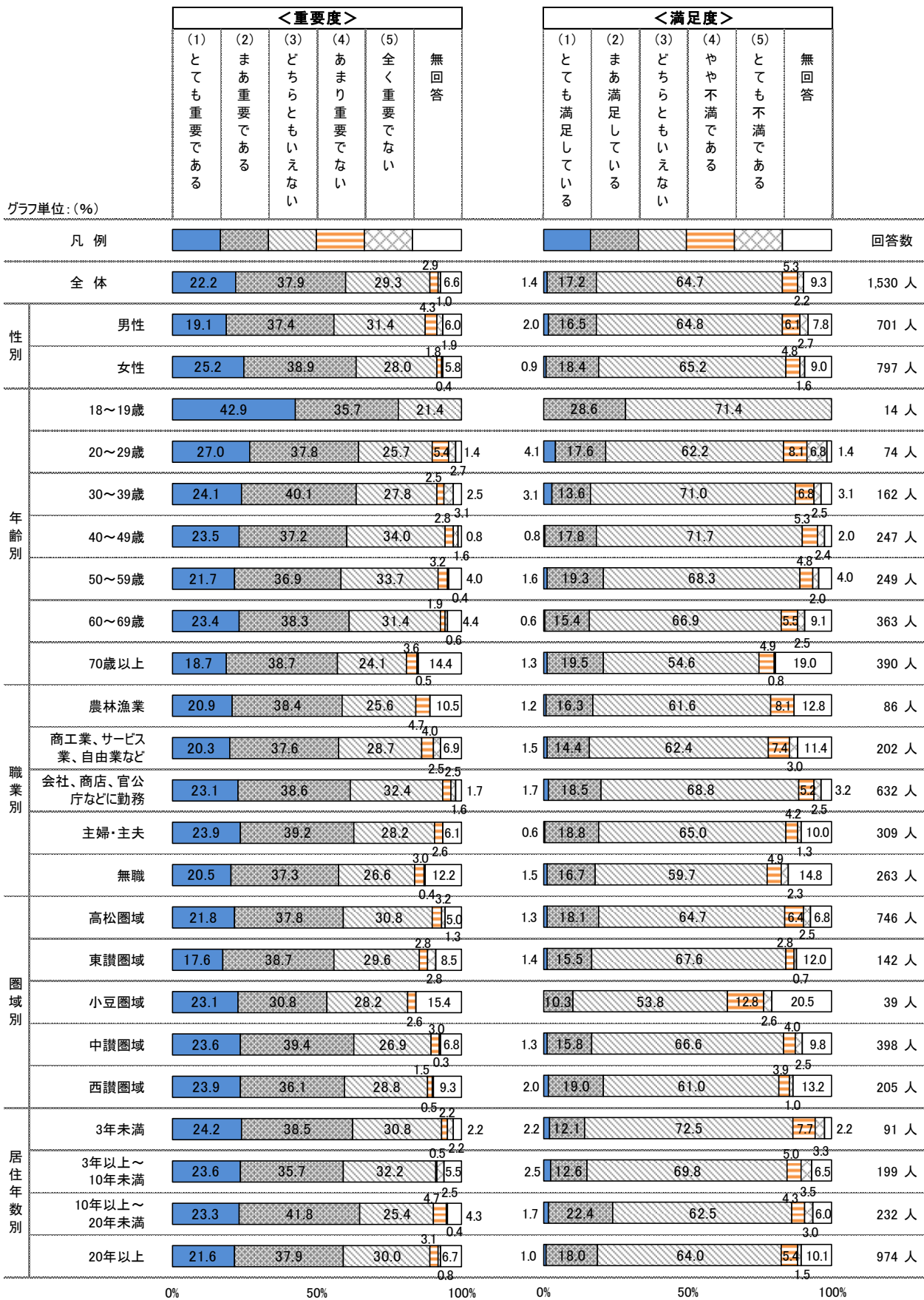
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合15.4%が【満足している】の割合10.3%を上回り、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(12) 【人権尊重社会の実現】



防災・減災社会の構築の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』84.1%、『女性』88.7%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『20～29歳』において94.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において88.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『西讃圏域』において86.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『3年未満』において87.9%と最も高くなっている。

防災・減災社会の構築の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』21.7%、『女性』18.8%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』24.1%、『女性』19.2%となっており、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

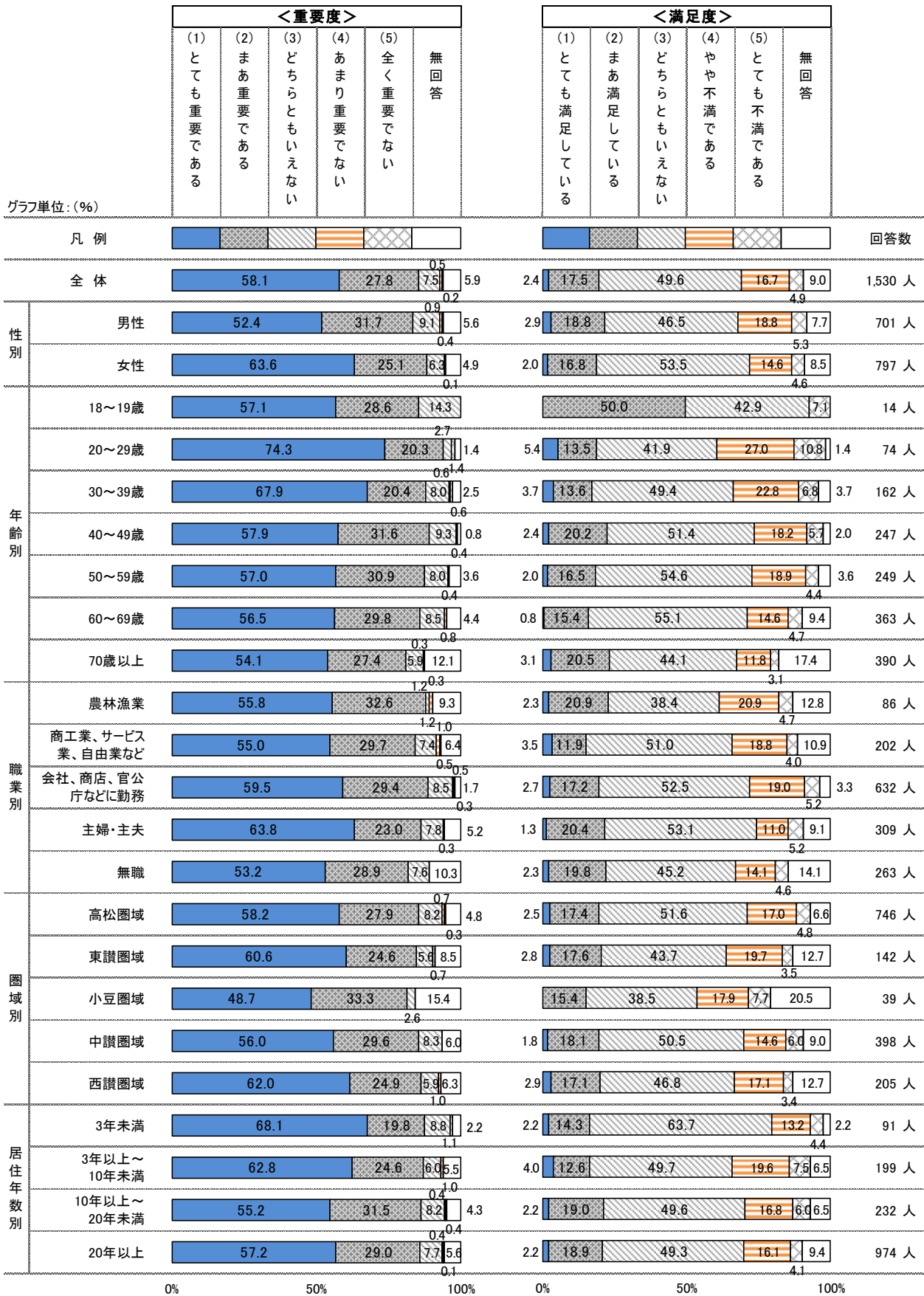
年齢別にみると、『18～19歳』と『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、その他の年齢においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』と『無職』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っており、その他の職業においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において、【満足している】の割合21.1%が【不満である】の割合20.2%を上回っており、その他の居住年数においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

図表 7-(13) 【防災・減災社会の構築】



安全・安心な暮らしの形成の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』81.6%、『女性』84.4%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』及び『70歳以上』を除くすべての年齢で8割を超え、『20～29歳』において91.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『無職』76.0%を除くすべての職業で8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において87.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』79.5%を除くすべての圏域で8割を超え、『高松圏域』において83.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『10年以上～20年未満』において85.8%と最も高くなっている。

安全・安心な暮らしの形成の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』23.7%、『女性』25.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』17.5%、『女性』14.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

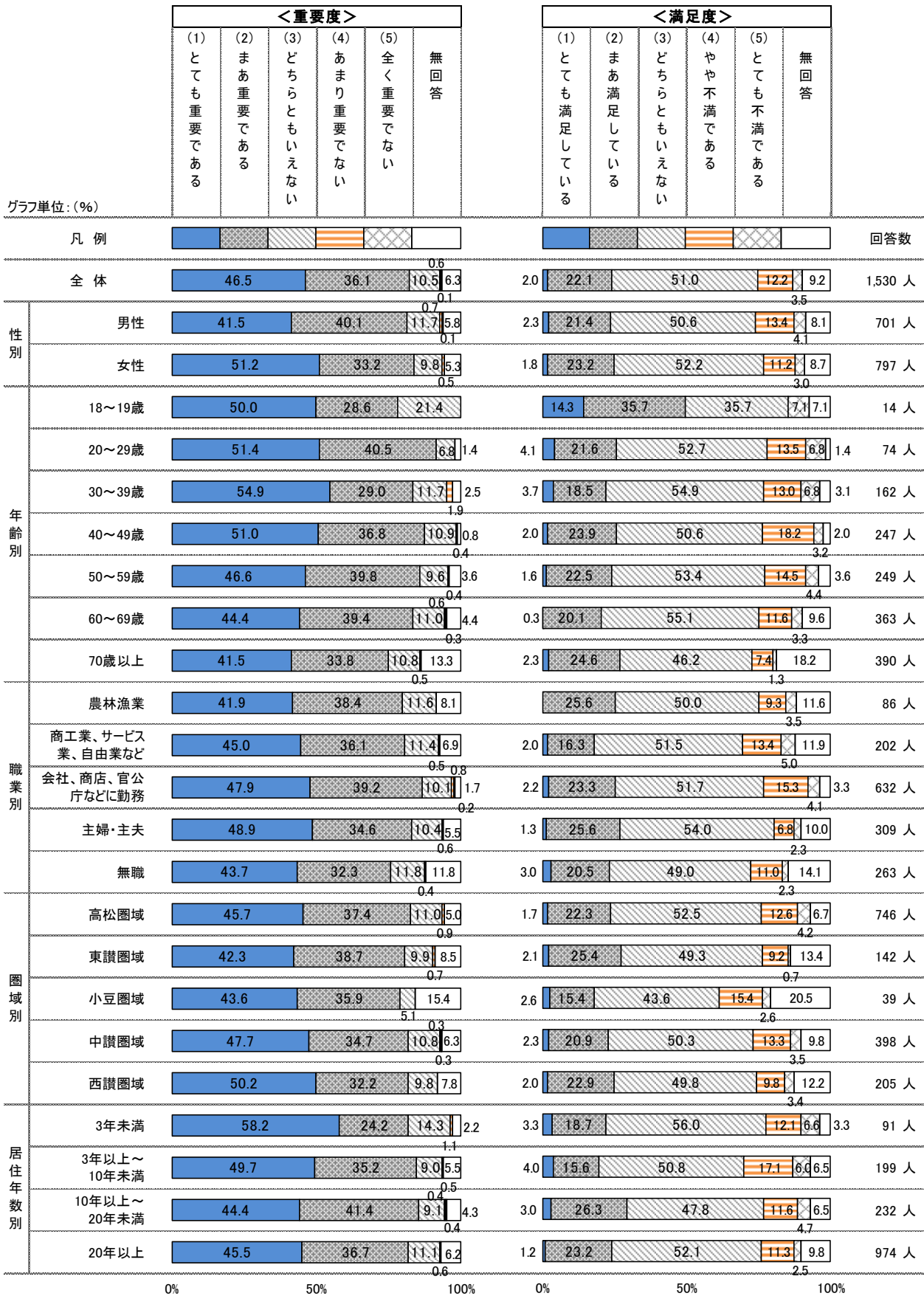
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』において、【不満である】の割合18.4%が【満足している】の割合18.3%を上回り、その他の職業においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【満足している】と【不満である】の割合18.0%が同率となっており、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において、【不満である】の割合23.1%が【満足している】の割合19.6%を上回り、その他の居住年数においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(14) 【安全・安心な暮らしの形成】



安心して暮らせる水循環社会の確立の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』84.9%、『女性』86.0%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『18～19歳』78.6%を除くすべての年齢で8割を超え、『40～49歳』において88.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『無職』78.7%を除くすべての職業で8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において89.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』79.5%を除くすべての圏域で8割を超え、『高松圏域』において86.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『20年以上』において85.8%と最も高くなっている。

安心して暮らせる水循環社会の確立の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』33.8%、『女性』36.7%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』18.8%、『女性』12.4%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

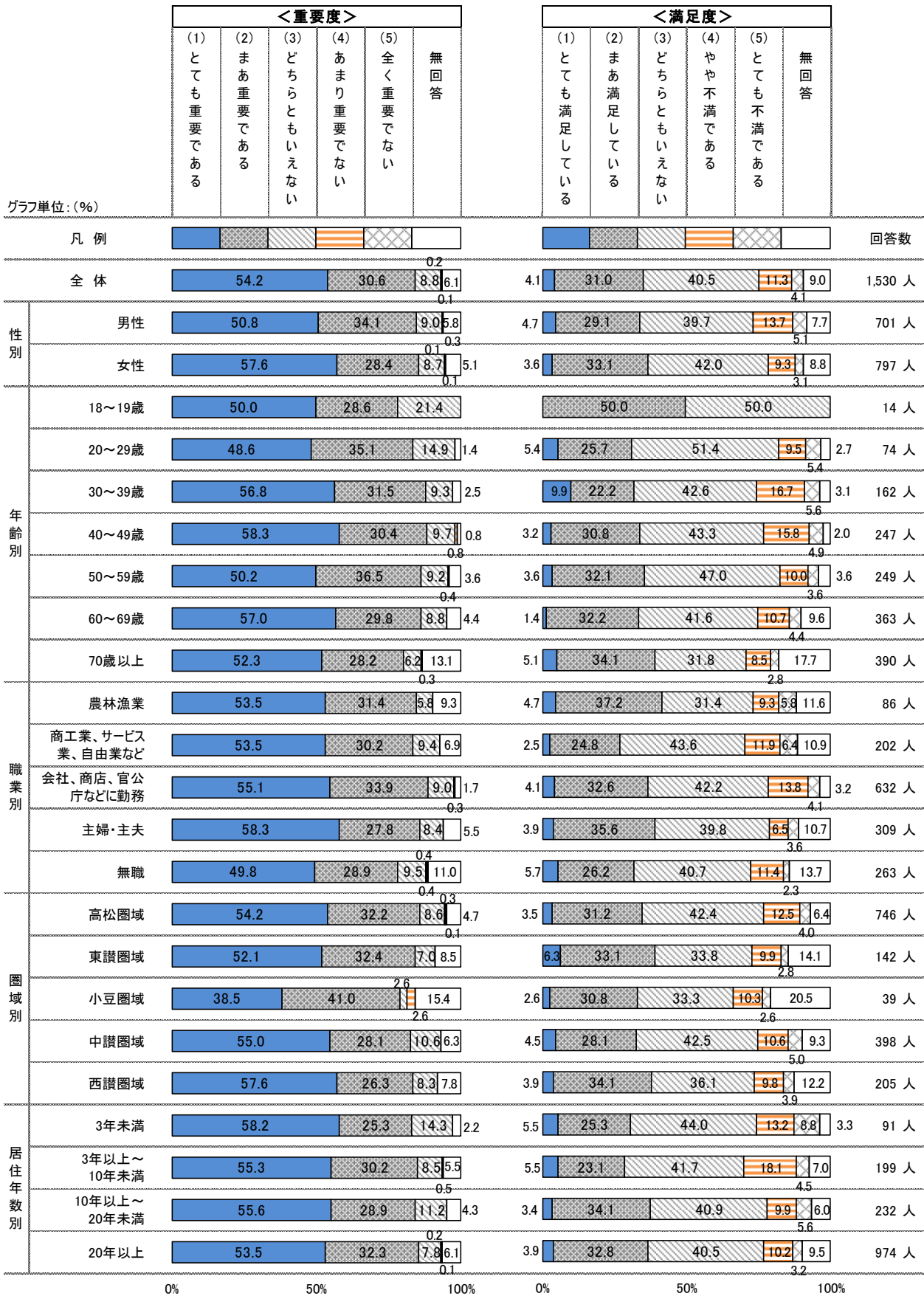
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(15) 【安心して暮らせる水循環社会の確立】



活力ある地域づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』72.9%、『女性』76.0%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20～29歳』において81.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『無職』67.7%を除くすべての職業で7割を超え、『農林漁業』において77.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『小豆圏域』において77.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』において76.7%と最も高くなっている。

活力ある地域づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』19.7%、『女性』20.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』13.7%、『女性』10.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

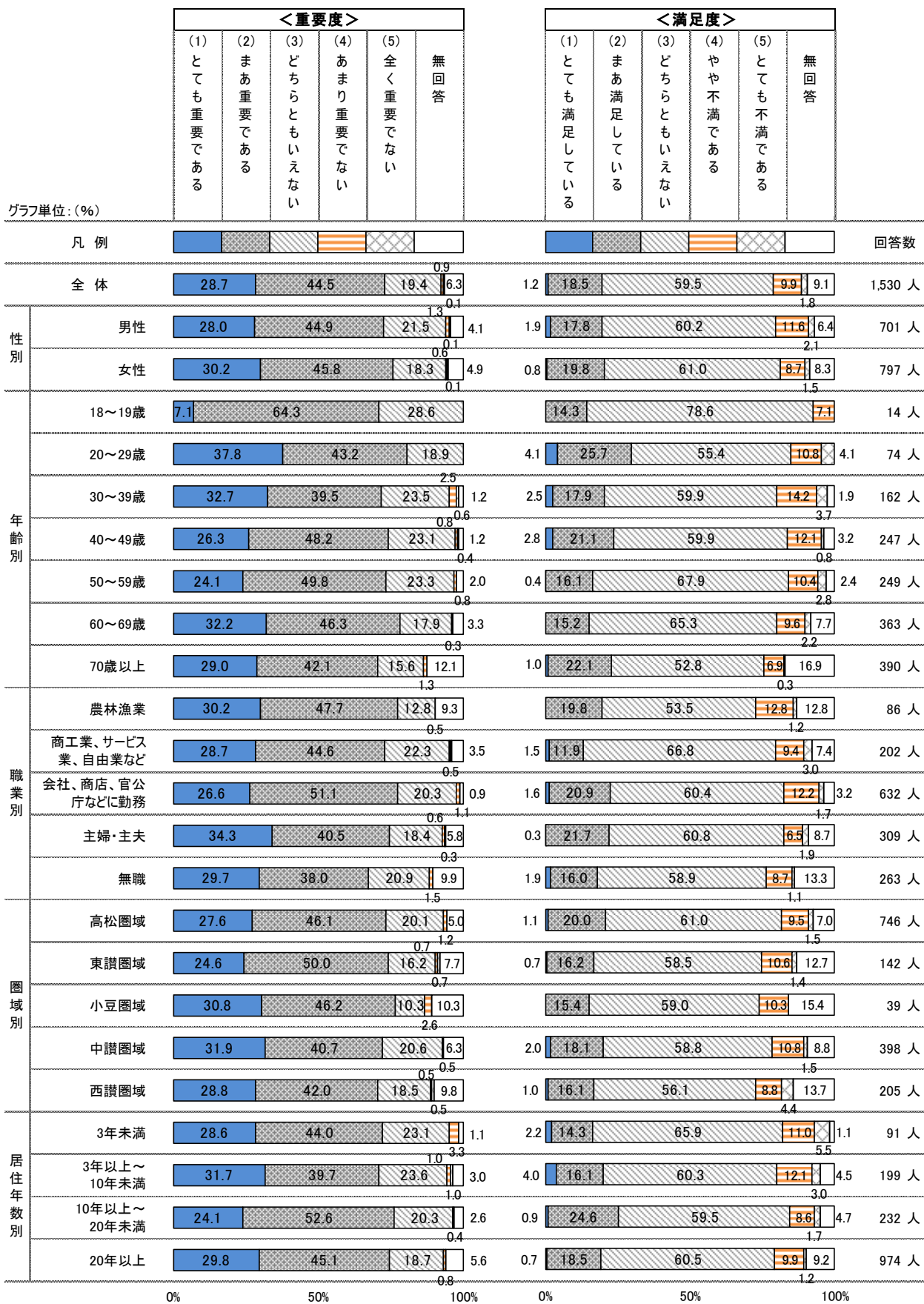
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において、【満足している】と【不満である】の割合16.5%が同率となっており、その他の居住年数においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(16) 【活力ある地域づくり】



環境の保全の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』76.1%、『女性』78.9%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『20～29歳』において83.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『主婦・主夫』において79.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『高松圏域』において77.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも7割を超え、『10年以上～20年未満』において82.3%と最も高くなっている。

環境の保全の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』23.0%、『女性』25.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』11.2%、『女性』9.8%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

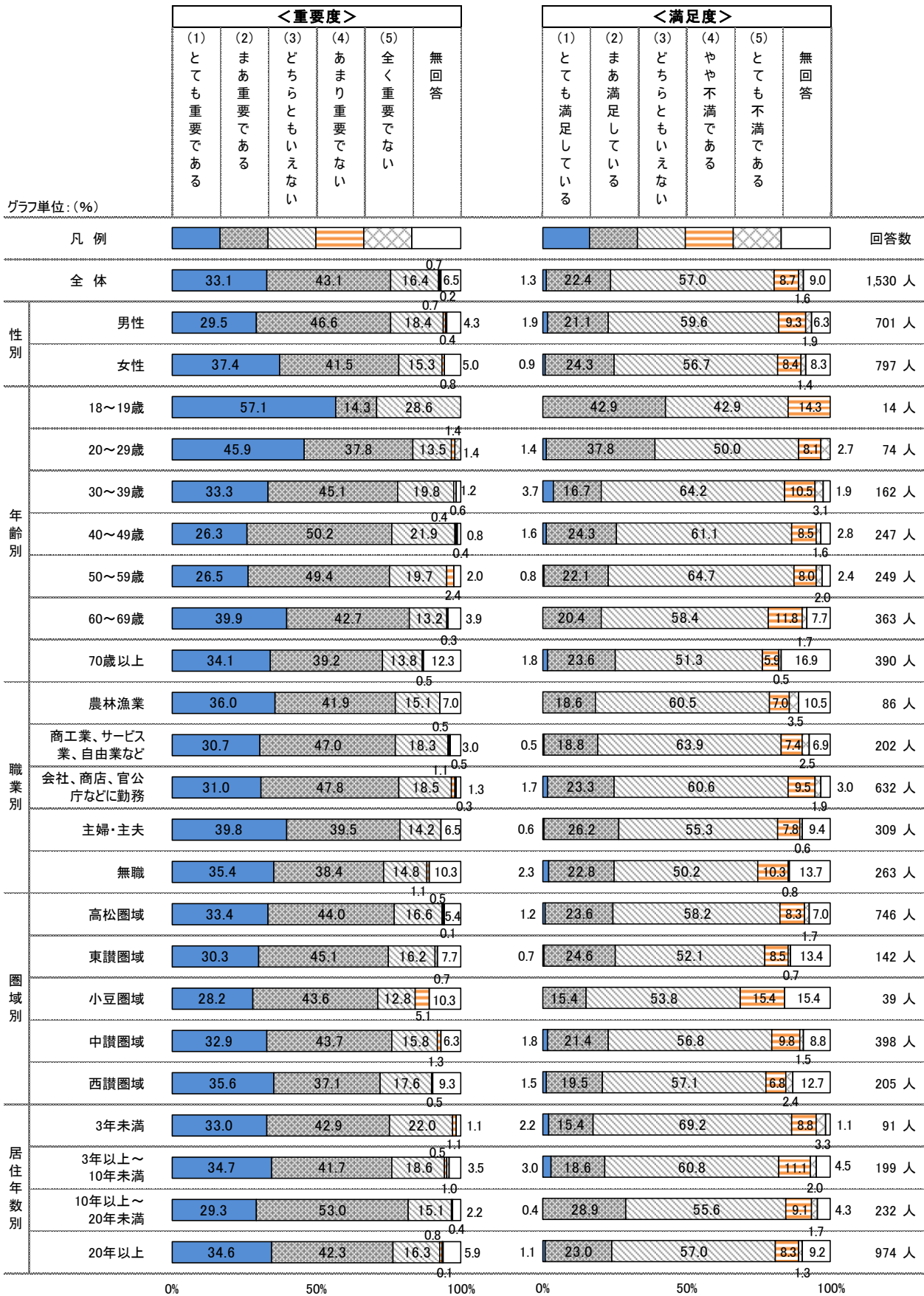
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【満足している】と【不満である】の割合15.4%が同率となっており、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(17) 【環境の保全】



みどり豊かな暮らしの創造の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』64.6%、『女性』72.9%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『60～69歳』において72.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において73.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『小豆圏域』において69.2%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』において75.4%と最も高くなっている。

みどり豊かな暮らしの創造の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』27.3%、『女性』29.5%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』8.6%、『女性』6.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

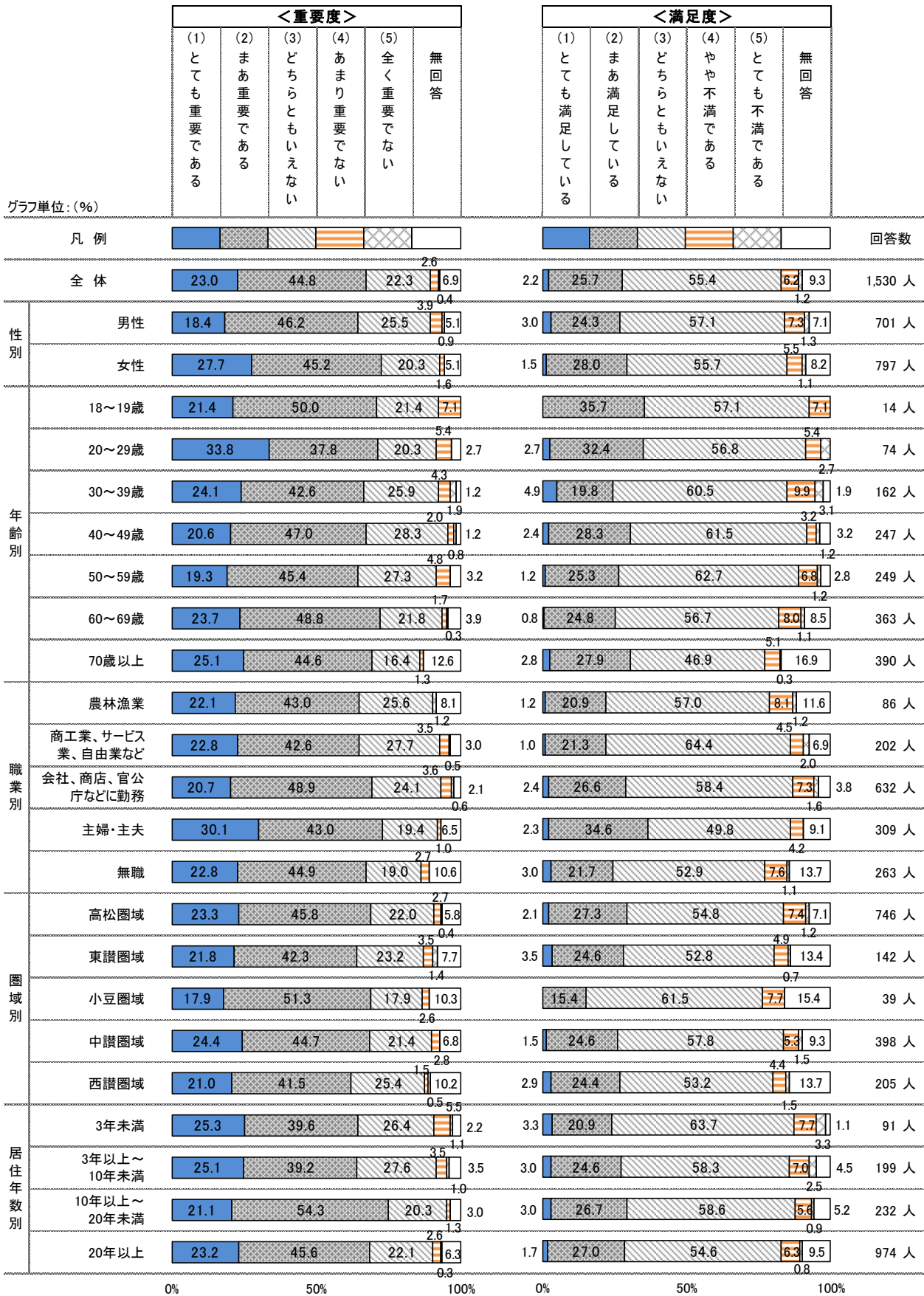
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(18) 【みどり豊かな暮らしの創造】



教育の充実の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』80.9%、『女性』82.3%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『70歳以上』76.4%を除くすべての年齢で8割を超え、『18～19歳』において85.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『商工業、サービス業、自由業など』及び『無職』を除くすべての職業で8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において85.6%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』及び『西讃圏域』を除くすべての圏域で8割を超え、『中讃圏域』において81.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも8割を超え、『10年以上～20年未満』において86.2%と最も高くなっている。

教育の充実の【重要度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』30.1%、『女性』31.6%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』15.0%、『女性』10.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

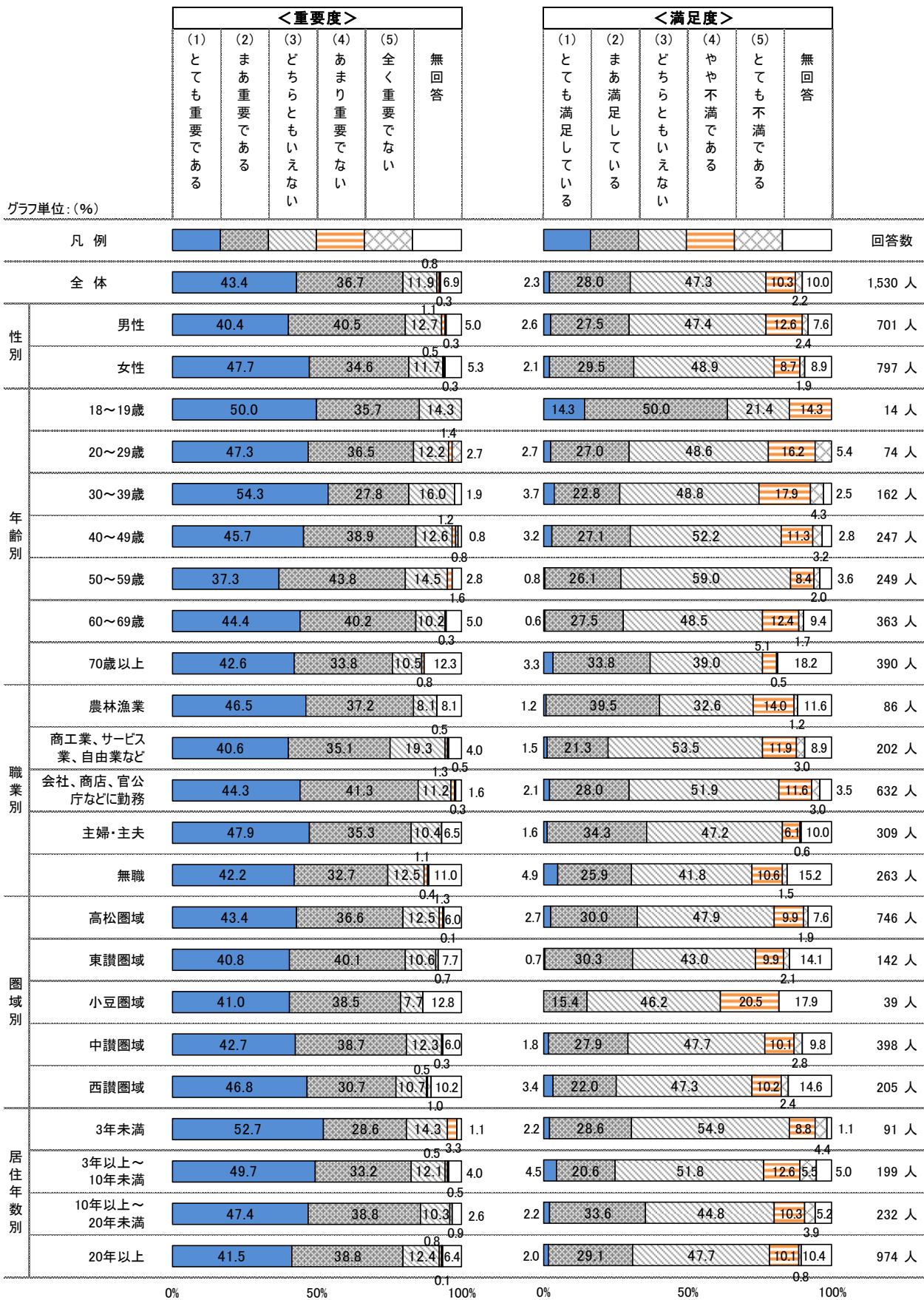
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において、【不満である】の割合20.5%が【満足している】の割合15.4%を上回り、その他の圏域においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(19) 【教育の充実】



文化芸術による地域の活性化の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』55.7%、『女性』64.8%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『20～29歳』において68.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において69.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『高松圏域』及び『小豆圏域』において61.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『10年以上～20年未満』において64.2%と最も高くなっている。

文化芸術による地域の活性化の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』29.9%、『女性』30.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』7.3%、『女性』4.1%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

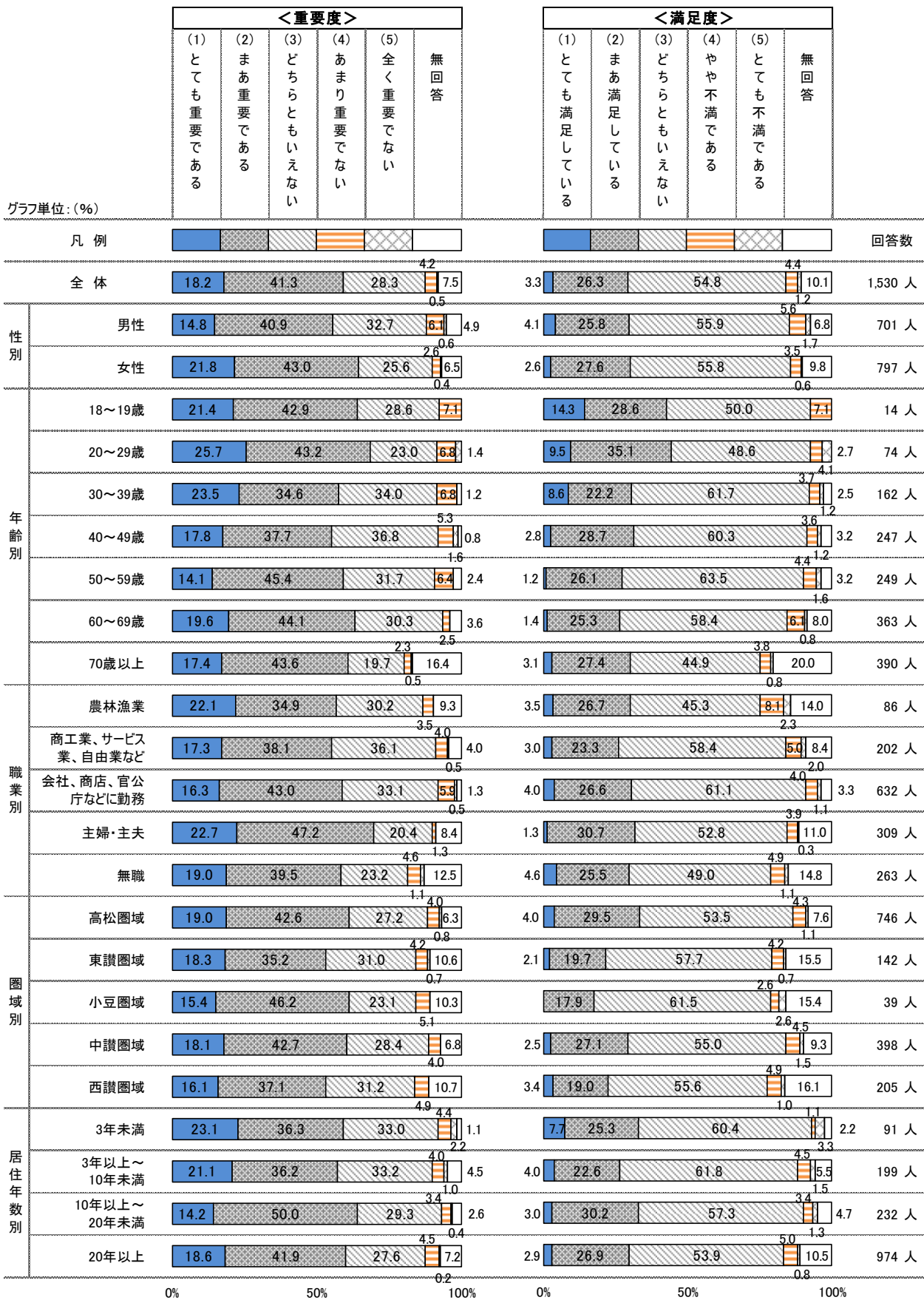
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(20) 【文化芸術による地域の活性化】



スポーツの振興の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』57.9%、『女性』61.2%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において78.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『主婦・主夫』において64.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において61.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『10年以上～20年未満』において66.8%と最も高くなっている。

スポーツの振興の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』22.1%、『女性』23.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.0%、『女性』5.2%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

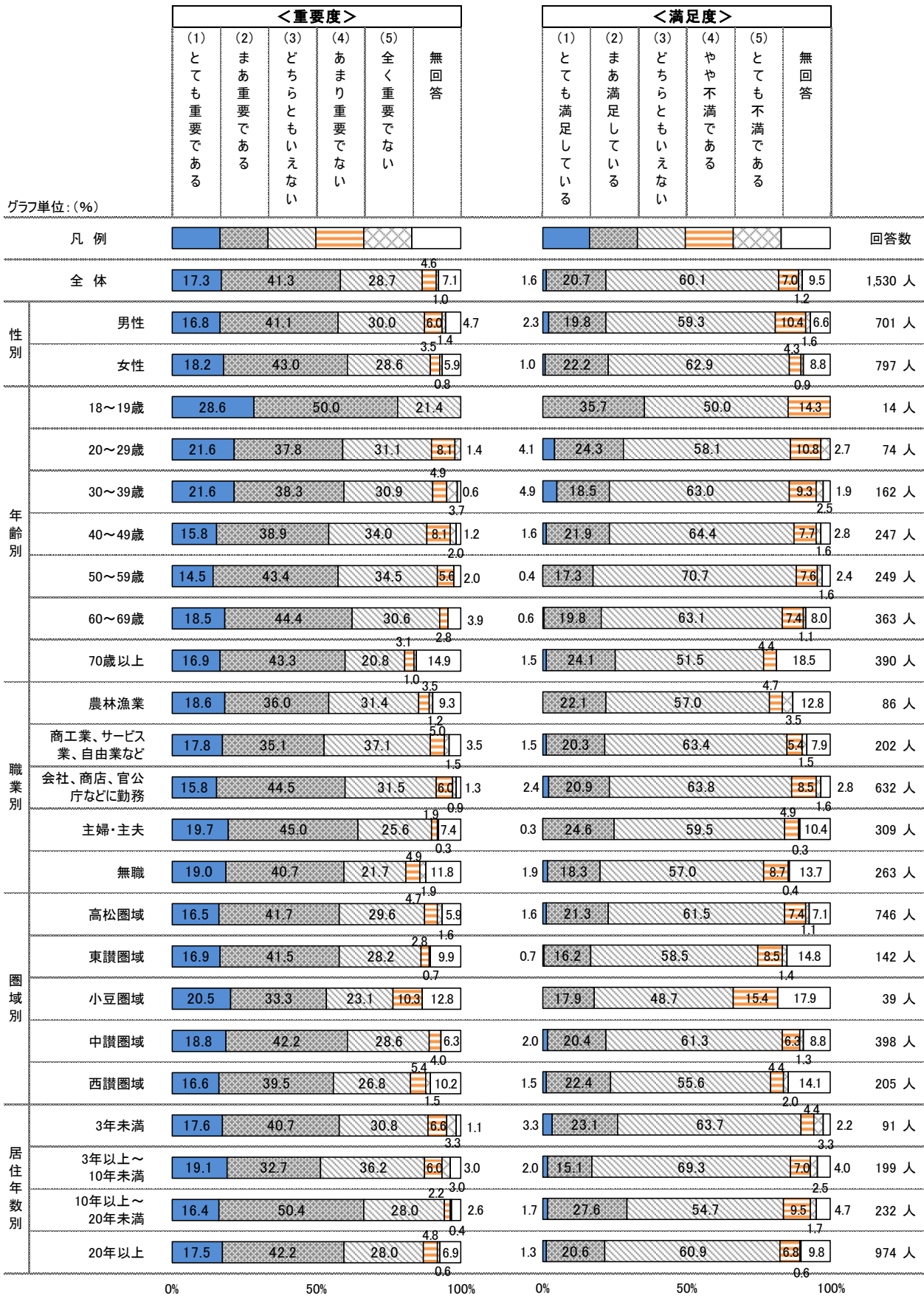
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(21) 【スポーツの振興】



男女共同参画社会の実現の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』60.8%、『女性』65.9%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、『50～59歳』59.8%を除くすべての年齢で6割を超え、『18～19歳』において78.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において65.4%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、『小豆圏域』及び『西讃圏域』を除くすべての圏域で6割を超え、『中讃圏域』において66.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』において71.1%と最も高くなっている。

男女共同参画社会の実現の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』18.4%、『女性』18.9%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』12.5%、『女性』11.5%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

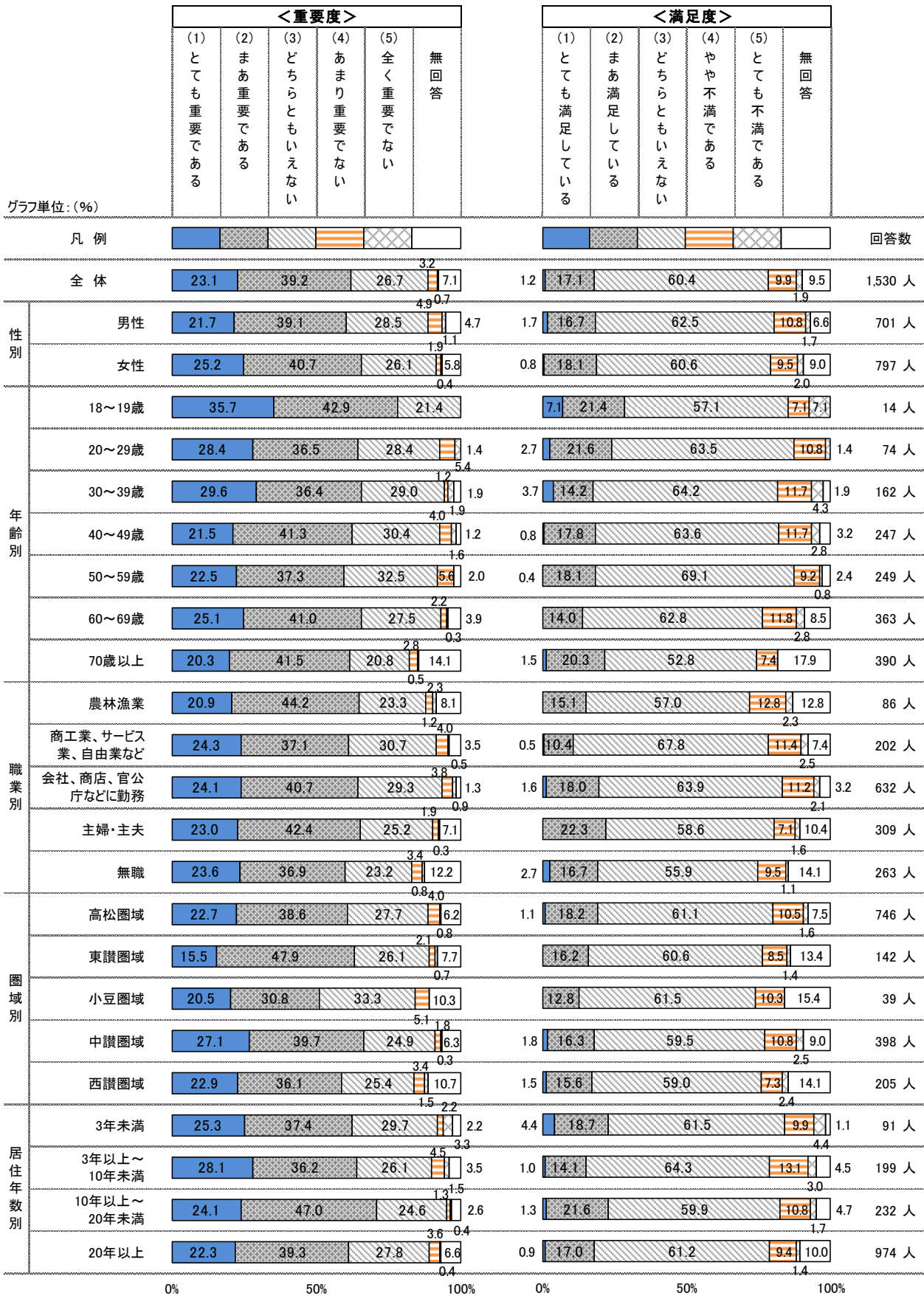
年齢別にみると、『60～69歳』において、【不満である】の割合14.6%が【満足している】の割合14.0%を上回り、その他の年齢においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』において、【満足している】と【不満である】の割合15.1%が同率で、『商工業、サービス業、自由業など』において、【不満である】の割合13.9%が【満足している】の割合10.9%を上回り、その他の職業においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において、【不満である】の割合16.1%が【満足している】の割合15.1%を上回り、その他の居住年数においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(22) 【男女共同参画社会の実現】



青少年の育成と県民の社会参画の推進の【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』64.2%、『女性』70.5%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『70歳以上』において72.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『主婦・主夫』において72.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『中讃圏域』において69.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも6割を超え、『10年以上～20年未満』において69.8%と最も高くなっている。

青少年の育成と県民の社会参画の推進の【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』18.5%、『女性』20.0%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』10.6%、『女性』7.6%となっており、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

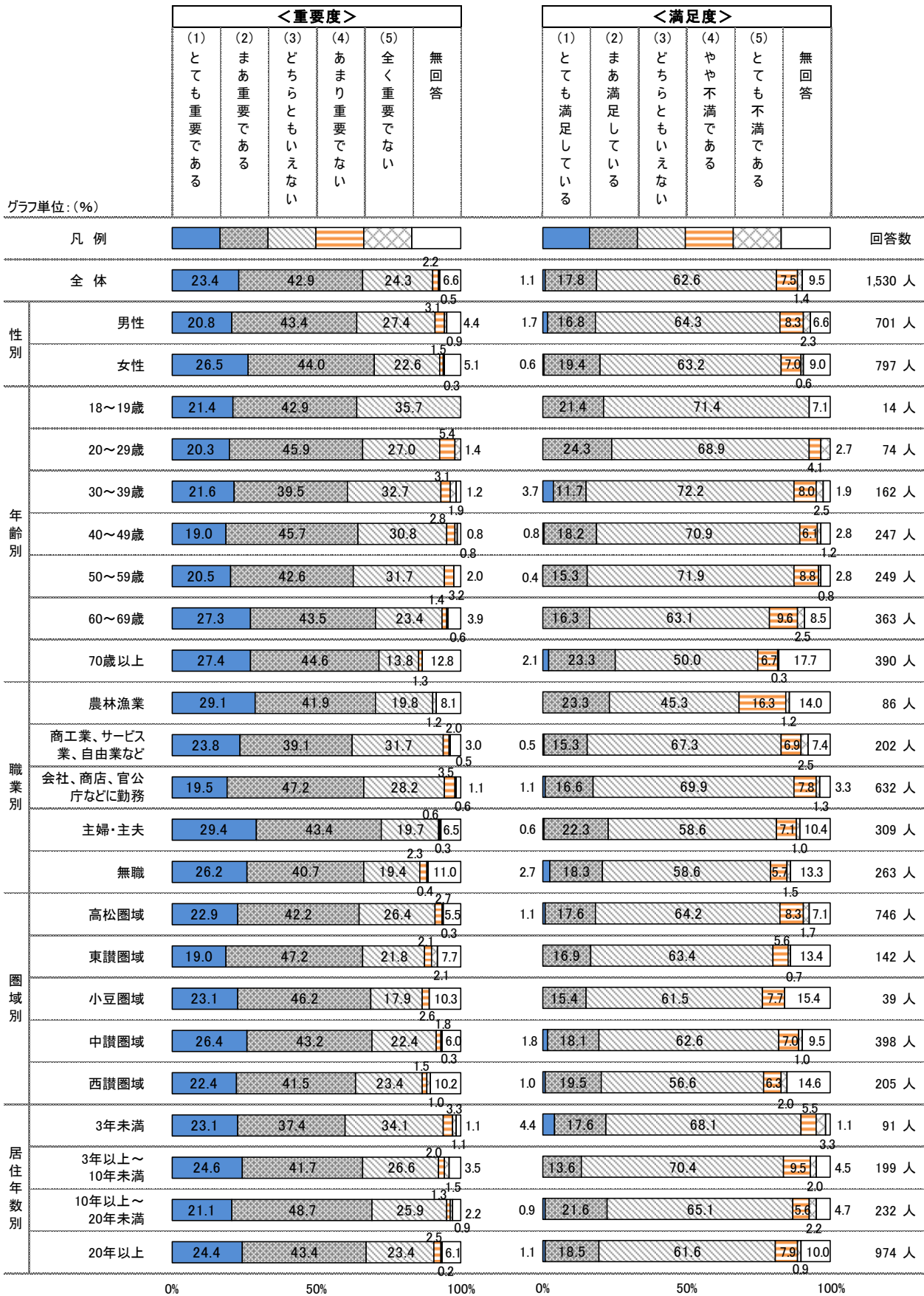
年齢別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

職業別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(23) 【青少年の育成と県民の社会参画の推進】



魅力ある大学づくりの【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、『男性』58.7%、『女性』62.9%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『18～19歳』において71.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】の割合は、『商工業、サービス業、自由業など』55.0%を除くすべての職業で6割を超え、『主婦・主夫』において64.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『中讃圏域』において63.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】の割合は、いずれも5割を超え、『10年以上～20年未満』において69.4%と最も高くなっている。

魅力ある大学づくりの【満足度】について、

性別にみると、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、『男性』16.8%、『女性』16.2%で、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、『男性』17.1%、『女性』10.7%となっており、『男性』において【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

年齢別にみると、『60～69歳』及び『70歳以上』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合の割合を上回り、その他の年齢においては【不満である】の割合が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』及び『無職』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合の割合を上回り、その他の職業においては【不満である】の割合が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『東讃圏域』及び『中讃圏域』において、【満足している】の割合が【不満である】の割合の割合を上回り、その他の職業においては【不満である】の割合が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において、【不満である】の割合18.1%が【満足している】の割合の割合12.6%を上回り、その他の居住年数においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

図表 7-(24) 【魅力ある大学づくり】

